

岐阜県教育文化財団文化財保護センター
調査報告書 第105集

赤 保 木 遺 跡

2007

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

赤保木遺跡

2007

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター



赤保木遺跡全景



8号住居跡土器敷炉

巻頭カラー 2



16号住居跡出土動物意匠文土器



竪穴住居跡出土縄文土器

序

赤保木遺跡は、高山市赤保木町の北西部、見量山山麓に広がる扇状地に位置し、日当たりの良い南東向きの斜面上にあります。遺跡からは高山市の町並み、遠くは槍ヶ岳、乗鞍岳、御岳などの山並みまでが見渡せます。遺跡の中央は、高山市風土記の丘史跡公園として整備され、縄文時代から古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物が復元され、地域住民の生涯学習の場、憩いの場として利用されています。

このたび、中部縦貫自動車道建設に伴い、史跡公園の北側に当たる部分の発掘調査を実施しました。今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡25軒のほか、弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡などが確認され、長い時代に涉って居住域として当地の人々が生活していた様子を窺うことができました。また、土器片を敷き詰めた石畳炉や土偶・ミニチュア土器を伴う焼失住居跡、動物をかたどった突起が付いた土器を始め、信州、北陸、東海、関西などの影響を受けた土器類など、当時の生活の様子や他地域との交流などを解明する上で貴重な資料となりました。本報告書が当地の歴史研究の一助になるとともに埋蔵文化財に対する多くの方々の認識を深めるものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関、関係者各位、高山市教育委員会、赤保木史跡保存会を始め地元地区的皆様に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人岐阜県教育文化財団
文化財保護センター
所長 田口久之

例　　言

- 1 本書は、高山市赤保木町宮ヶ平に所在する赤保木遺跡（岐阜県遺跡番号21203-00491）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、中部縦貫自動車道建設に伴うもので、国土交通省中部地方整備局高山国道事務所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は財團法人岐阜県教育文化財团文化財保護センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成16年度、整理作業は平成16～18年度に泉拓良京都大学大学院文学研究科教授の指導のもと実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆は第1章と第2章第2節を森下茂司、第3章第2・3節を大宮次郎、第4章第3節を平田篤志、第5章第1節を河合洋尚、第6章を長谷川幸志、それ以外は近藤正枝が行った。編集は平田・近藤・河合が行った。
- 6 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削などの業務及び空中写真測量は、株式会社ユニオングループに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 樹種同定、放射性炭素年代測定、土器胎土の材料分析は株式会社パレオ・ラボに委託して行った。結果は第5章に掲載した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
赤塚次郎 石黒立人 伊藤正人 牛丸岳彦 小島俊彰 田中 彰 戸田哲也 長屋幸二
高山市教育委員会
- 10 本文中の方位は、世界測地系の座標北を示している。
- 11 土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄2000『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、財團法人岐阜県教育文化財团文化財保護センターで保管している。

目　　次

序

例言

目次

第1章　調査の概要	1
第1節　調査に至る経緯	1
第2節　発掘調査の経過と方法	2
第2章　遺跡の環境	5
第1節　地理的環境	5
第2節　歴史的環境	6
第3章　遺構	12
第1節　基本層序	12
第2節　遺構概要	13
第3節　竪穴住居跡	28
第4節　その他の遺構	73
第4章　遺物	82
第1節　土器類	82
第2節　土製品類	85
第3節　石器類	86
第5章　自然科学分析	160
第1節　分析の概要	160
第2節　焼失住居跡出土炭化材の樹種同定	161
第3節　放射性炭素年代測定	163
第4節　土器胎土の材料分析	167
第6章　考察	171
第1節　縄文時代の竪穴住居跡と集落の変遷	171
第2節　縄文時代中期後葉における竪穴住居跡の系譜	179
第3節　立石を伴う石窯炉と赤保木遺跡の意義	182
参考文献	
写真図版	
報告書抄録	

卷頭カラー1 赤保木遺跡全景・8号住居跡土器敷炉

卷頭カラー2 16号住居跡出土動物意匠文土器・竪穴住居跡出土縄文土器

挿図目次

第1図 赤保木遺跡の位置	1
第2図 赤保木遺跡試掘確認調査坑位置、発掘調査区・グリッド設定図	4
第3図 赤保木遺跡周辺の地質略図	5
第4図 赤保木遺跡周辺の遺跡	9
第5図 赤保木遺跡周辺の遺跡	11
第6図 基本層序	12
第7図 遺構全体図・削付図	14
第8図 遺構全体図分割図1	15
第9図 遺構全体図分割図2	16
第10図 遺構全体図分割図3	17
第11図 遺構全体図分割図4	18
第12図 遺構全体図分割図5	19
第13図 遺構全体図分割図6	20
第14図 遺構全体図分割図7	21
第15図 遺構全体図分割図8	22
第16図 遺構全体図分割図9	23
第17図 遺構全体図分割図10	24
第18図 遺構全体図分割図11	25
第19図 遺構全体図分割図12	26
第20図 遺構全体図分割図13	27
第21図 S B 1	29
第22図 S B 2	29
第23図 S B 4	31
第24図 S B 3	33
第25図 S B 7	33
第26図 S B 5	33
第27図 S B 6, S B 11	35
第28図 S B 8 (1)	38
第29図 S B 8 (2)	39
第30図 S B 10	39
第31図 S B 13	42
第32図 S B 14	42
第33図 S B 15 (1)	44
第34図 S B 15 (2)	46
第35図 S B 16	46
第36図 S B 17	48
第37図 S B 18	50
第38図 S B 20	50
第39図 S B 19 (1)	51
第40図 S B 19 (2)	52
第41図 S B 21	55
第42図 S B 24 (1)	57
第43図 S B 24 (2)	58
第44図 S B 25	60
第45図 S B 28	60
第46図 S B 29	62
第47図 S B 31	64
第48図 S B 32	64
第49図 S B 9	66
第50図 S B 12 (1)	66
第51図 S B 12 (2)	68
第52図 S B 22	68
第53図 S B 23	70
第54図 S B 26	70
第55図 S B 27	72
第56図 S B 33	74
第57図 主なS K・P・S X	76
第58図 S B 1出土土器(1)	91
第59図 S B 1出土土器(2)	92
第60図 S B 2出土土器(1)	93
第61図 S B 2出土土器(2), S B 3, S B 5, S B 7	93
出土土器	94
第62図 S B 4出土土器(1)	95
第63図 S B 4出土土器(2)	96
第64図 S B 4出土土器(3), S B 6出土土器(1)	97
第65図 S B 6出土土器(2)	98
第66図 S B 6出土土器(3), S B 11出土土器(1)	99
第67図 S B 11出土土器(2)	100
第68図 S B 11出土土器(3)	101
第69図 S B 8出土土器(1)	102
第70図 S B 8出土土器(2)	103
第71図 S B 8土器群出土土器	104
出土土器(1)	105
第73図 S B 14出土土器(2)	106
第74図 S B 14出土土器(3)	107
第75図 S B 15出土土器	108
第76図 S B 16, S B 18出土土器	109
第77図 S B 17出土土器(1)	110
第78図 S B 17出土土器(2)	111
第79図 S B 17出土土器(3)	112
第80図 S B 19出土土器(1)	113
第81図 S B 19出土土器(2)	114
第82図 S B 19出土土器(3)	115
第83図 S B 19出土土器(4)	116
第84図 S B 19出土土器(5)	117
第85図 S B 19出土土器(6)	118
第86図 S B 20出土土器	119
第87図 S B 21出土土器(1)	120
第88図 S B 21出土土器(2)	121
第89図 S B 24出土土器(1)	122
第90図 S B 24出土土器(2)	123
第91図 S B 25, S B 28, S B 31, S B 32出土土器	124
第92図 S B 29出土土器	125
第93図 S B 9, S B 12, S B 22, S B 23出土土器	126

第94図 S B 26, S B 27, S B 33出土土器	127
第95図 S K, P, S X, N R出土土器	128
第96図 遺物包含層出土土器(1)	129
第97図 遺物包含層出土土器(2)	130
第98図 土器	131
第99図 ミニチュア土器、加工凹盤、有孔土器製品、土鍬、焼成粘土塊、瓦	132
第100図 石器(1)石礫①	133
第101図 石器(2)石礫②	134
第102図 石器(3)石錐、異形石器、石匙	135
第103図 石器(4)石匙、スクレイバー、石核	136
第104図 石器(5)尖頭器、スクレイバー、楔形石器、R F, U F	137
第105図 石器(6)研磨器、打製石斧①	138
第106図 石器(7)打製石斧②、磨製石斧①	139
第107図 石器(8)磨製石斧②	140
第108図 石器(9)磨製石斧③、紡錘車、打斧石錐、磨石類①	141
第109図 石器(10)磨石類②	142
第110図 石器(11)砥石、石皿	143
第111図 石器(12)石棒	144
第112図 層年較正結果	166
第113図 積石式住居跡規模の散布状況	171
第114図 積石式と炉窓配置の分類	171
第115図 石門扉の分類	172
第116図 S B 8とS B 15の比較	172
第117図 S B 8とS B 19の比較	172
第118図 グループ分けと人の方向	174
第119図 織文時代集落の変遷	178
第120図 積石式住居の変遷	180
第121図 飛騨地方における戸井尻武末・曾利三式期の積石式住居	181
第122図 四隅に立石を持つ石圓炉	183

表目次

第1表 赤保木遺跡周辺縄文時代の遺跡	8
第2表 赤保木遺跡周辺遺跡	10
第3表 S B 1遺物の出土地点	28
第4表 S B 1内の遺構	28
第5表 S B 2遺物の出土地点	30
第6表 S B 2内の遺構	30
第7表 S B 3遺物の出土地点	30
第8表 S B 3内の遺構	30
第9表 S B 4遺物の出土地点	32
第10表 S B 4内の遺構	32
第11表 S B 5遺物の出土地点	34
第12表 S B 5内の遺構	34
第13表 S B 6遺物の出土地点	34
第14表 S B 6内の遺構	36
第15表 S B 11遺物の出土地点	36
第16表 S B 11内の遺構	36
第17表 S B 7遺物の出土地点	37
第18表 S B 8遺物の出土地点	37
第19表 S B 8内の遺構	40
第20表 S B 10遺物の出土地点	40
第21表 S B 10内の遺構	41
第22表 S B 13遺物の出土地点	41
第23表 S B 13内の遺構	41
第24表 S B 14遺物の出土地点	41
第25表 S B 14内の遺構	43
第26表 S B 15遺物の出土地点	45
第27表 S B 15内の遺構	45
第28表 S B 16遺物の出土地点	45
第29表 S B 16内の遺構	45
第30表 S B 17遺物の出土地点	47
第31表 S B 17内の遺構	47
第32表 S B 18遺物の出土地点	49
第33表 S B 18内の遺構	49
第34表 S B 19遺物の出土地点	53
第35表 S B 19内の遺構	53
第36表 S B 20遺物の出土地点	54
第37表 S B 20内の遺構	54
第38表 S B 21遺物の出土地点	56
第39表 S B 21内の遺構	56
第40表 S B 24遺物の出土地点	59
第41表 S B 24内の遺構	59
第42表 S B 25遺物の出土地点	59
第43表 S B 25内の遺構	61
第44表 S B 28遺物の出土地点	61
第45表 S B 28内の遺構	61
第46表 S B 29遺物の出土地点	61
第47表 S B 29内の遺構	63
第48表 S B 31遺物の出土地点	63
第49表 S B 31内の遺構	63
第50表 S B 32遺物の出土地点	63
第51表 S B 32内の遺構	63
第52表 S B 9遺物の出土地点	65
第53表 S B 9内の遺構	65
第54表 S B 12遺物の出土地点	65
第55表 S B 12内の遺構	67
第56表 S B 22遺物の出土地点	67
第57表 S B 23遺物の出土地点	67
第58表 S B 23内の遺構	69
第59表 S B 26遺物の出土地点	69
第60表 S B 26内の遺構	69

第61表	S B27遺物の出土地点	71
第62表	S B27内の遺構	71
第63表	S B33遺物の出土地点	73
第64表	S B33内の遺構	73
第65表	堅穴住居跡計測表	77
第66表	ピット・土坑・不明遺構計測表(1)	78
第67表	ピット・土坑・不明遺構計測表(2)	79
第68表	ピット・土坑・不明遺構計測表(3)	80
第69表	ピット・土坑・不明遺構計測表(4)	81
第70表	S D計測表	81
第71表	土器及び土製品観察表(1)	145
第72表	土器及び土製品観察表(2)	146
第73表	土器及び土製品観察表(3)	147
第74表	土器及び土製品観察表(4)	148
第75表	土器及び土製品観察表(5)	149
第76表	土器及び土製品観察表(6)	150
第77表	土器及び土製品観察表(7)	151
第78表	土器及び土製品観察表(8)	152
第79表	土器及び土製品観察表(9)	153
第80表	土器及び土製品観察表(10)	154
第81表	土器及び土製品観察表(11)	155
第82表	土器及び土製品観察表(12)	156
第83表	石礫計測表	157
第84表	石礫計測表	157
第85表	異形石器、石庭、スクレイバー、尖頭器、楔形石器、R F、U F、礫器計測表	158
第86表	打製石斧計測表	158
第87表	磨製石斧計測表	158
第88表	打欠石錐、納縫車計測表	159
第89表	磨石・截石・凹石類計測表	159
第90表	砾石・石礫・石礫計測表	159
第91表	住居跡出土陶瓦材の樹種同定結果一覧	163
第92表	測定試料及び処理	165
第93表	放射性炭素年代測定及び曆年較正の結果	165
第94表	薄片観察した土器試料	167
第95表	土器粘土中の粘土及び砂粒の特徴	170
第96表	駄土中の岩石片の分類と組み合わせ	170
第97表	赤保木遺跡縄文時代堅穴住居跡の属性	173
第98表	各堅穴住居跡の時期	177

写真図版目次

写真図版1	187	写真図版23	209
写真図版2	188	写真図版24	210
写真図版3	189	写真図版25	211
写真図版4	190	写真図版26	212
写真図版5	191	写真図版27	213
写真図版6	192	写真図版28	214
写真図版7	193	写真図版29	215
写真図版8	194	写真図版30	216
写真図版9	195	写真図版31	217
写真図版10	196	写真図版32	218
写真図版11	197	写真図版33	219
写真図版12	198	写真図版34	220
写真図版13	199	写真図版35	221
写真図版14	200	写真図版36	222
写真図版15	201	写真図版37	223
写真図版16	202	写真図版38	224
写真図版17	203	写真図版39	225
写真図版18	204	写真図版40	226
写真図版19	205	写真図版41	227
写真図版20	206	写真図版42	228
写真図版21	207	写真図版43	229
写真図版22	208	写真図版44	230

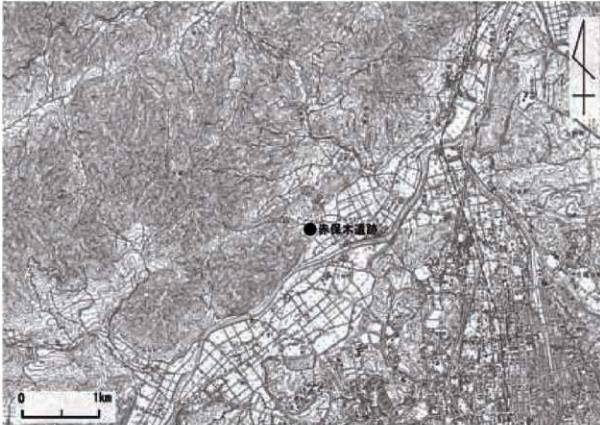
第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

当遺跡は高山市赤保木町宮ヶ平に所在し、高山盆地の北西部、川上川左岸にある見量山(標高997m)の山裾に広がる標高580m前後の扇状地上に立地している。南東向きで日当たりがよく、北アルプスや御岳を一望できる。遺跡の規模は東西約200m、南北約190m、面積約20,000m²である。

昭和29年(1954)11月、熊野神社北側の山林で、客土採掘工事中に2基の石匂炉が発見された。この石匂炉は平面形が舟形のもので、付近から縄文時代中期の土器片が採集された。昭和31年11月14日には、2基のうち完存していた1基の石匂炉を中心に150m²が、県史跡「赤保木石器時代火炉」に指定された。

平成3年(1991)、風土記の丘史跡公園整備に伴い、高山市教育委員会が1,425m²の発掘調査を行った。調査の結果、縄文時代中期後半の堅穴住居跡1軒、弥生時代中期後半~後期初頭の堅穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、古墳時代(6世紀)の堅穴住居跡1軒等が確認された。平成4・5年度に、調査の成果をもとにして5軒の住居が復元され、「風土記の丘史跡公園」として整備されている。



第1図 赤保木遺跡の位置 (S=1/50,000国土地理院「飛騨古川」「三日町」「船津」「高山」)

平成4年から、中部縦貫自動車道高山清見道路（高山市丹生川町坊方～高山市清見町夏腰に至る延長約24.7kmの道路）整備事業が開始された。この道路は、長野県松本市を起点に飛騨・奥美濃・越前地方の山岳地帯を経て、福井県福井市に至る延長約160km（東海北陸自動車道を除く。）の中部縦貫自動車道の一部を構成するものである。全線が開通すると、中央自動車道長野線・東海北陸自動車道・北陸自動車道と連絡して、中部・関東・北陸圏を高速で結ぶ広域交通網が整備されることになる。

中部縦貫自動車道高山清見道路建設区域が本遺跡範囲内を通過することから、平成13年度に東側（以下東区）、平成14年度に西側（以下西区）の試掘確認調査を行い、堅穴住居跡などの遺構及び多数の縄文土器や石器を確認した。この結果を踏まえて、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会において、赤保木遺跡6,500m²の本発掘調査が必要であると判断された。

本発掘調査は、平成16年度に国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受け、財団法人岐阜県教育文化財团文化財保護センターが実施した。

第2節 発掘調査の経過と方法

1 調査期間

平成16年5月11日～平成16年12月8日

2 グリッド設定

現況地形測量終了後、世界測地系座標を基準として、10m×10mのグリッドを設定した。グリッド名は、西から東に向かって1～12、北から南に向かってA～Jとし、算用数字とアルファベットを組み合わせ、「1 A」「2 B」などと呼称することとした。

3 調査対象面積

6,500m²

4 調査の経過

平成16年5月7日に調査区の現況地形測量を行った。重機で表土を除去した後、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削はすべて人力で行った。遺物の取り上げは、遺物包含層から出土した遺物については、グリッド単位で層位ごとに一括取り上げを原則とした。遺構内から出土した遺物については、原則として出土地点の座標を記録した上で取り上げた。

検出した遺構については、堅穴住居跡は長軸方向とそれに直交する方向にセクションベルトを設定して掘削し、土層観察後、セクションベルトを取り外した。土坑・ピットは長軸方向の半割によって土層を観察し、その後完掘した。遺構名は、遺構記号と通し番号で表した。なお、検出時に長軸80cm以上の遺構を土坑、それ以下をピットとした。土層断面図は縮尺1/20を原則として、すべての遺構について作成した。遺構の平面図は堅穴住居跡など主要遺構のみ1/20で作成した。遺構の全体図は、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量（縮尺1/50）により図化・記録した。

空撮後、堅穴住居跡については、最初に設定したセクションベルトに沿って基礎層までの断ち割りを行い、貼床の確認を行った。以下、調査経過を記述する。

第1・2週 (5/11～5/21)	西区の重機表土掘削。5/19（木）西区を北西側（2B～2D、3B～3Dグリッド）から作業員による遺物包含層掘削及び遺構検出開始。
第3・4週 (5/24～6/3)	2B～2E、3B～3Eグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。調査区西端で南北方向の自然流路跡検出。遺物取り上げ開始。SB1～SB6を検出。
第5・6週 (6/7～6/18)	2C～2F、3B～3F、4C～4Fグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出及び遺構掘削。SB1で石窓炉検出。SB4中層より台付鉢、壁面より深鉢出土。SB4P1で立石検出。SB8埋土10cm掘削で焼成粘土塊と炭の層検出。中層で深鉢出土。SB7～SB9を検出。
第7・8週 (6/21～7/2)	1H、2F～2G、3C～3F、4C～4Fグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。SB4～6・8で石窓炉を検出（SB8は土器敷石窓炉）。SB8床面や上層で釣手土器出土。SB11より土偶出土。SB10床面で多量の炭化材を検出。SB10～SB12を検出。
第9・10週 (7/6～7/16)	2G～2I、3C～3I、4C～4F、4H・4Iグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出及び遺構掘削。SB10で石窓炉検出。南側擾乱激しく遺構密度は希薄。7/12（月）より一次整理作業開始。
第11・12週 (7/20～7/30)	2G～2I、3F～3I、4C～4I、5Hグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。7/28（水）第13回タイムスリップ探検隊飛騨開催（参加者14組31名）。
第13・14週 (8/2～8/6)	2H・2I、3H～3I、4E～4I、5E～5H、6Gグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。SB12床面で壁板と考えられる炭化材（1.9m×0.3m）検出。
第15・16週 (8/16～8/20)	西区の調査終了。8/26（木）西区の空中写真測量実施。反転調査のため西区の一部（遺構の少ない部分）埋め戻し。東区の重機表土掘削後、北側（5～8A・B）から遺物包含層掘削、遺構検出開始。SB13～SB15を検出。
第17・18週 (9/6～9/17)	4～9A・Bグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。SB15で多量炭化材、厚さ10cm前後の焼土層検出。床面の四隅からミニチュア土器、北東隅から土偶出土。SB16から動物意匠土器、SB17下層から土偶出土。SB15・SB17で石窓炉検出。
第19・20週 (9/21～9/30)	5・6B・C・7・8A～C、9Bグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。SB20で石窓炉検出。SB18～SB21を検出。
第21・22週 (10/4～10/15)	4C・4D、5B～5E、6B・6C、7A・7B・7E・7F、8A～8E、9Dグリッドの遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。SB19から完形浅鉢出土。SB27跡塚から土師器高环出土。SB25で石窓炉検出。10/7（木）金沢美術工芸大学教授小島俊彰氏現場指導。SB22～SB31を検出。
第23・24週 (10/18～10/30)	4D、4C～7C、7B、8B～8D、9C～9F、10B～10E、11B～11Dグリッドの遺物包含層掘削遺構検出、遺構掘削。SB24から土偶出土。10/28（木）指導調査員泉良氏現場指導。10/30（土）現地説明会実施（参加者141名）。
第25・26週 (11/1～11/12)	5・6D・E、8E、7C～7Eグリッドの遺構検出、SB22～32の遺構掘削。SB24・26で多量の炭化材を検出。SB23・SB24・SB26・SB29で石窓炉検出。

第27・28週 11/18（木）東区の空中写真測量実施。空撮後、貼床確認のため堅穴住居跡床面断ち
 (11/15~11/26) 割り作業。11/25（木）現場作業終了。11/26（金）岐阜県教育委員会文化課による
 完了検査。

第29・30週 12/3（金）一次整理作業終了。12/7（火）埋め戻し完了。12/8（水）現地引き渡
 (11/29~12/8) し。

整理作業は平成16~18年度に実施した発掘調査及び整理作業の調査体制は、以下のとおりである。

理事長 日比治男（16・17年度）高木正弘（18年度）

副理事長 高橋宏之（16~18年度）平光明彦（16・17年度）中島正和（18年度）

伊藤克己（18年度）

常務理事兼センター所長 福田昭明（16年度）田口久之（17・18年度）

経営課長 川瀬崇敏（16・17年度）後藤 智（18年度）

調査部長 川部 誠（16~18年度）

担当調査課長 小谷和彦（16年度）大熊厚志（17年度）近藤 聰（18年度）

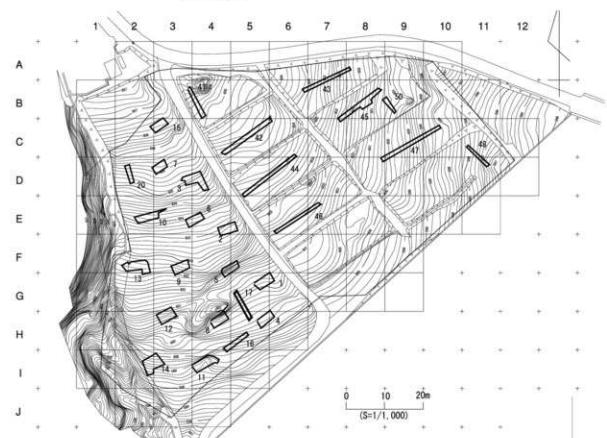
担当調査員 森下茂司（16年度）大宮次郎（16年度）平田篤志（16・17年度）

近藤正枝（18年度）

整理作業員 小澤真紀子 国井悦子 菅原祐子 瀬戸幸子 竹部泉 常富由美子

長柄利嗣 長屋和子 堀三恵 村瀬後哉 山口久子 山下恭子

戸賀代子



第2図 赤保木遺跡試掘確認調査坑位置・発掘調査区・グリッド設定図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

当遺跡の南には南西から北東に向かって川上川が流れている。この川が造る細長い平地とその周囲に見量山（997m）、三枝山（825m）、中山などが平地の両脇を固めている。当遺跡の南西部には標高1,000m程の山々が連なっており、その山間から川上川が流れ出している。川上川は、中切辺りで高山市街地を北流してきた宮川に合流する。当遺跡周辺を含む飛騨北部は、活断層が多いことで知られており、尾根、谷、川の流れがこれいくつかの活断層の影響を受けている。活断層の方向はほぼ北東~南西方向であり、川上川の流れの方向もほぼ同じである。中山丘陵と上野平は段丘地形である。中山丘陵はかなり開析が進み、ほとんど平坦面は残っていないが、上野平には残っている。赤保木地区の字内川の北西に字ボタ上があり、内川や中川原より高くなっている。

比高は2~3mくらいの低位段丘である。この段丘上に赤保木古墳群がある。

当遺跡周辺の地形は、川上川周辺の平地（氾濫原若しくは沖積地）、見量山のような山地、中山や上野のような丘陵地、平地と山地の境界に多い崖錐、崩積地あるいは扇状地に区分される。

三枝山をつくる地層は、礫岩・砂岩・凝灰岩・石灰岩・粘板岩・安山岩・結晶片岩などからなり、飛騨外縁帯の一部をなしている。見量山、中山の北半分及び松倉山から源氏岳に連なる山々は、漫飛流紋岩と呼ばれる岩石からできている。飛騨外縁帯の形成時期から後に起きた火山活動によって形成されている。



第3図 赤保木遺跡周辺の地質略図

第2節 歴史的環境

平成17年（2005）2月、高山市・大野郡（白川村を除く。）及び吉城郡の一部（国府町・上宝村）の市町村合併に伴い、高山市は日本一面積の広い市となった。

当遺跡の所在する赤保木は、平安時代の長瀧寺文書の中に寄進地として「赤保幾根」とあるのが初見とされている（「北限赤保幾根」とあり、見量山のこととも考えられる。）。慶長10年（1605）の飛騨国帳では、三枝郷に「あかほき」と見え、上切・中切・下切・前原・赤保木の5村が三枝郷であった。三枝郷は見量山と高草洞、三枝山の山麓から川上川左岸一帯の平地にかけて広がっている。明治8年（1875）清見村、明治22年に上枝村（川上郷の「上」）と三枝郷の「枝」をとって上枝とした。となる。昭和18年（1943）から高山市赤保木町となる。赤保木という地名の由来については、明治6年完成の『斐太後風土記』には、「山の兀て、赤土なる夢危路を、通ひし故に、赤保木と云成む。」とある。

当遺跡周辺では、縄文時代から中世に至るまで数多くの遺跡が知られている。

縄文時代

狐洞遺跡・下切遺跡では燃文土器や押型文土器（狐洞遺跡では、昭和初期、江馬修による早期押型文・燃文土器の採集報告がある）が見つかっている。また、打越遺跡では大量（22kg）のクリの炭化物が見つかり、約7,000年前の縄文時代早期のものと分析されている。

前期になると、中切上野等に集落が形成される。中切上野遺跡は、南東向きで日当たりが良く、水も豊富、高山市北方を眺望できる好所にある。早期の集石遺構2基、前期の堅穴住居跡15軒、古代の堅穴住居跡1軒が確認されている。堅穴住居跡は弧状に並び、前期の住居跡が多い。出土した土器は前期後半を主体とし、北白川下層II式、諸磯a・b・c式が多くを占めている。

中期に入ると、高山市内では、清見町牧ヶ洞岩野（上岩野遺跡）、丹生川町板殿（岩垣内遺跡）、久々野町堂之上（堂之上遺跡、昭和55年国史跡指定）、国府町森ノ木（森ノ木遺跡）、上野町垣内（垣内遺跡）、赤保木などに集落が形成される。垣内遺跡は、中央広場を囲む環状石列をさらに取り囲むようにして、縄文時代中期後半の堅穴住居跡が48軒、後期前半の堅穴住居跡が90軒、時期不明の堅穴住居跡が7軒確認されている。中期後半では唐草文系を主体とした曾利I～IV式、後期では堀之内I～II式・加曾利式の土器が出土した。また、祭祀・儀礼に関わる遺物の出土も多く、石棒20点、土偶66点、ミニチュア土器65点等が出土した。

弥生時代

赤保木遺跡の他に荒神洞跡・狐洞遺跡・打越遺跡・垣内遺跡が知られている。内垣内遺跡からは、ほぼ完形の横羽状文甕が出土している。これは、飛騨を中心に広く分布することから、「内垣内式」と呼ばれる飛騨独自の弥生土器で、外面に施文された横方向の矢羽状沈線が特徴的である。ウバガ平遺跡や野内遺跡B地区からも横羽状文甕が出土している。また、赤保木遺跡・中切遺跡からは、大型蛤刃石斧や抉柱状片刃石斧などの大陸系磨製石器が見つかっている。

古墳時代

赤保木遺跡周辺の古墳は「岐阜県高山市遺跡地図」（平成7年3月）では、古墳群12か所54基を数える。古墳群は川上川左岸に集中している。赤保木古墳群は5基が現存している。5号古墳から2基の

堅穴式石室が確認されている。中切王塚古墳・冬頭王塚古墳等とともに、飛騨では5世紀後半の数少ない古墳である。野内遺跡A地区では、古墳時代中期を中心とした集落跡を確認している。赤保木古墳群とは約300mの距離であり、古墳群との密接な関係が考えられる。野内遺跡の北約300mに位置するウバガ平遺跡でも、ほぼ同時期の堅穴住居跡を確認している。飛騨地方全体では、上町遺跡（飛騨市古川町）、桜木遺跡・藤ノ木遺跡（高山市国府町）などで集落跡が確認されている。

下やせ尾古墳群（1・2号）・真言屋敷裏山古墳は6世紀代の築造と考えられる。6世紀後葉から7世紀に川上川左岸古墳群（1～5号）、7世紀前半から中葉にかけて、与島古墳群（1～6号）・溝上古墳群（1～3号）が築造される。中切上野古墳群（1～6号）も7世紀代である。その時期に後続するものとして、上切寺尾古墳群（1～18号）がある。

古代

赤保木遺跡の周辺には窯跡が集中している。窯をつくるのに良質な粘土や水、豊富な燃料、構築に適した斜面などの条件が揃っていたからと考えられる。赤保木瓦窯跡は飛騨国分寺の瓦等を焼いた古窯跡である。奈良時代の国分寺瓦窯跡4基と平安時代末から鎌倉時代初頭にかけての須恵器窯跡2基が確認された。よしま1号古窯跡は平安時代後期の灰釉陶器窯跡で、日焼（炭焼）古窯跡は白鳳期の三寺寺の瓦を焼いた窯と考えられている。

野内遺跡B地区では、奈良～平安時代を中心とした集落跡を確認している。中でも、鐵鍛冶工房跡が丘陵部の緩斜面全体に広がっていることが注目される。また、縄釉陶器や帶飾りである匂方などの発見から、官営工房的な性格をもつ集落の可能性を推定している。

中世

戦国時代末になると、諸豪族の進出・侵略、淨土真宗の広まりによって、長瀧寺の河上荘支配は終わりを告げる。本遺跡周辺では三枝城跡・山田城跡・畠佐城跡・松倉城跡が確認されている。山田城は山田紀伊守の居城とされる。畠佐城は当初山田紀伊守が在城したが、三木氏に滅ぼされ、後に郡上郡を統一した遠藤氏に追われた畠佐氏が三木氏との関係で畠佐城に入ったと見られている。6代三木自綱は松倉城を築き、飛騨の大半を手中に収めるが、天正13年（1585）金森長近に攻められ滅亡する。

延宝8年（1680）、金森家の御用塗師成田正利は熊野神社を再興する。熊野神社は「斐太後風土記」によると、「国造・國守等もおり拜礼し玉ひけむ。」とあり、古くから有力者に尊崇された神社であったようである。正利は飛騨春慶の発展に尽力した人物で、晩年は赤保木村に隠棲し、その墓は県史跡に指定されている。

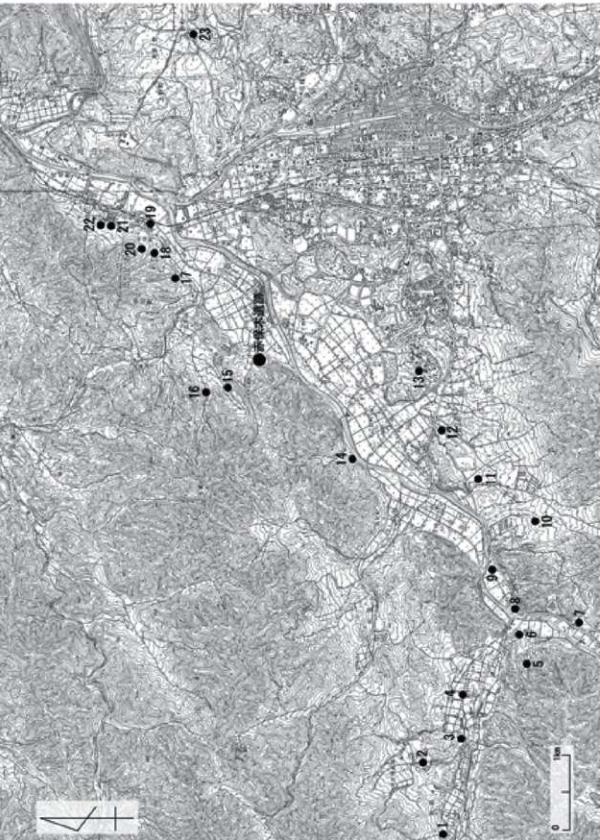
注1 上枝村は明治22年～昭和18年の大野郡の自治体名。清見村から下切・中切・上切・赤保木・下林・山田・下之切・新宮・八日町・前原の10字が分離して成立。昭和18年に高山市と合併。（角川日本地名大辞典21 岐阜県 1978年）

注2 1936・1937年に赤木清、吉田富夫、杉原莊介などにより紹介され、「西ノ山式（乃至新宮式）」という式名も用いられている（赤木1937a・b、杉原1937、吉田1936）。近年では石川日出志が横羽状文甕について、飛騨独自の土器式として「内垣内式」を提唱している（石川1995）。

第1表 赤保木遺跡周辺縄文時代の遺跡

(※第1表の番号は第4図に同じ)

地区	番号	遺跡名	時期				遺跡の位置・概要	主な出土遺物
			早期	中期	後期	不明		
牧谷川流域	1	はつや遺跡	○		○	○	牧谷川左岸の段丘面上の緩傾斜面上。早 期の集石石6基、後期の住居跡2軒を確認。 昭和60、62年に発掘調査。	縄文土器(回転押型土器)、回転魚骨 文、黑面人土器)、石碑、石礫、打製石 斧、磨製石斧、石匙、石鑿、凹石、敲石
	2	椎畜場遺跡					牧谷川左岸の山側に入った広大な緩傾斜面上。 標高約70m。	石礫、打製石斧、磨製石斧
	3	上岩野遺跡	○	○	○	○	牧谷川左岸上位段丘面から丘陵緩傾斜面。標 高約70m。赤堀内遺跡から南側へ流れる距離 で約3km。平成13年発掘調査。北側斜 面にも住居跡。	縄文土器、石器、大型石器、刻文入石 皿、石劍、有孔輪付土器、三角柱状土器 品、土器耳飾、土偶
	4	下岩野遺跡	○	○	○	○	牧谷川左岸。地形の集落によっては複数 に連なる長大な丘陵地。弥生時代に至る複 合遺跡。	縄文土器(尖底)、有舌尖頭器、有頭火 石核、極り切立勾玉の未完成品、海生土 器、刀形の石製櫛造品、須恵器
	5	寺洞遺跡	○	○	○	○	牧谷川右岸(川上川から見れば左岸)段丘上。 弥生時代に至る複合遺跡。	縄文土器(貝取町式)、海生土器、石冠、 磨製石斧、朱色り石器
	6	徳野遺跡		○	○		牧谷川右岸上位段丘段丘上。古墳時代に及ぶ複 合遺跡。	縄文土器、磨製付石器、石礫、打製石 斧、磨製石斧、石匙、石鑿、石砧、石礫、 石礫、骨玉、須恵器等
川上	7	上山ノ田遺跡		○	○		川上川右岸段丘上。	縄文土器、打製石斧、磨製石斧
	8	川島遺跡					牧谷川が川上川に合流する地点。川上川右 岸段丘上。	打製石斧、磨製石斧、石盤、砾石
	9	えんさい遺跡		○	○		川上川右岸段丘上。	縄文土器、石礫、打製石斧、磨製石斧等
	10	岩平遺跡	○				川上川の岸の広大な台地。弥生・歴史時代 にかけての複合遺跡。	縄文土器、弥生土器、六頭石斧、太形矛 石斧、石錐
	11	内垣内遺跡		○	○		川上川右岸の山腹緩傾斜面。弥生時代にかけ ての複合遺跡。	縄文土器、弥生土器、石礫、打製石斧、 石核、大型船形石斧、偏平刃石斧、勾 玉
	12	打越遺跡	○				やせ尾根の先端部。弥生時代にかけての複 合遺跡。平成5年に一般発掘調査。	縄文土器、弥生土器、石礫、磨製石斧、 石盤、石核、石盤、石匙、勾玉、大量的 クリ状化粧土
上川流域	13	狐洞遺跡	○				丘陵地西面。弥生時代にかけての複合遺跡。	縄文土器、弥生土器、石礫、打製石斧、 磨製石斧、石盤、石匙、石劍、石核、石錐
	14	下之切遺跡	○				川上川左岸。見雲山南面。	縄文土器
	15	上切平野遺跡		○			川上川左岸。見雲山南面の緩傾斜面上。中期の 長持式土器を伴う住居跡を確認。昭和63年に 発掘調査。	縄文土器、石礫、打製石斧、磨製石斧、 石盤、石核等
	16	弓島A地点遺跡	○				川上川左岸。見雲山南面の緩傾斜面上。中期の 長持式土器を伴う住居跡を確認。昭和63年に 発掘調査。	縄文土器、石劍、石核、石匙、三頭石斧
	17	日焼遺跡	○	○			川上川と宮川が合流する地点。川上川左岸。 古代にかけての複合遺跡。	縄文土器、石礫、石盤、凹石
	18	中切遺跡	○	○	○	○	川上川と宮川が合流する地点。川上川左岸。 中切上遺跡の範囲。	縄文土器、石盤、打製石斧、磨製 石斧、石匙、石盤、石核、勾玉等
境域	19	中切日焼遺跡	○	○	○	○	川上川と宮川が合流する地点。川上川左岸 段丘上。	縄文土器、石礫、御物石器、石冠、石刀
	20	中切上野遺跡	○	○	○	○	川上川と宮川が合流する川上川左岸。見雲 山南面から東下るやせ尾根が断続的に伸び て約30~60m、幅約10mの谷間に、昭和 40年に発掘調査。弥生時代の住居跡が多く いた。古代の住居跡も確認。	縄文土器、縫孔浅鉢、赤色繪彩土器多 い、彩繪土器、石器、特殊磨石、菅玉、 小石球体、メノウ類等
	21	宮野B地点遺跡		○	○		川上川と宮川が合流する地点。宮川左岸。見 雲山南面の緩傾斜面上。	縄文土器、石劍、環状石斧、独船石
	22	下切遺跡	○	○	○		川上川と宮川が合流する地点。宮川左岸。見 雲山南面の緩傾斜面上。	縄文土器、石劍、石核、打製石斧
	23	垣内遺跡		○	○		右谷右岸の台地に位置。標高52m前後。赤 道遺跡から直線距離にして約7km。平 成元、2年に発掘調査。中央広場を囲む複数 の石垣を伴う整った永久住居地。屋根を伴う住 居が98基の中14基。	縄文土器、石器、石核、土偶、ミニチュ ア土器、動物形土器製品



第4図 赤保木遺跡周辺縄文時代の遺跡 (S = 1/50,000 国土地理院発行「飛驒古川」「三日町」「船津」「高山」)

第2表 赤保木遺跡周辺遺跡

(※第2表の番号は第5図に同じ)

番号	遺跡名	遺跡の時代	遺跡の位置・概要	主な出土遺物
1	上町遺跡 古墳～中世	昭和42年、平成3年発掘調査。整六住居跡、獨立柱土器部、須恵器、灰陶器、山茶碗、陶磁器、瓦、鏡、磁石、鉄製品。		
2	藤ノ木遺跡 古墳、平安、鎌倉	平成8年発掘調査。整穴住居跡、獨立柱建物跡。	土器部、須恵器、山茶碗、鉄製品。	
3	桜木遺跡 古墳～奈良初期	平成3年発掘調査。整穴住居跡、獨立柱建物跡。	土器部、須恵器、鉄製品。	
4	森ノ木遺跡 純文中期～後期	昭和62年発掘調査。整穴住居跡、土器破片。	純大土器、石器、石製品、土器、土製品。	
5	荒城神社遺跡 純文中期～晩期	昭和61年一部が史跡に指定。平成5年調査。整穴住居跡、土坑。	純大土器、石器、石刀、石劍、石製袋身具、石冠、御物石器、土製耳飾、土飼	
6	荒神洞遺跡 純文	數寄屋		石斧、石礫
7	こう岬古墳 古墳	昭和31年歴史跡指定。前方後円墳。		
8	石橋廃寺跡 白鳳	昭和60・61・63年、平成元年発掘調査。	純大土器、石器、灰陶器、須恵器、灰陶陶器、山茶碗、中世陶器、銀松灰、刀子、白瓦	
9	宮ノ下遺跡 純文早期～後期	昭和60年発掘調査。整穴住居跡、配石遺構。		
10	村山遺跡 純文・平安	昭和25年発掘調査。昭和31年県史跡指定。		
11	広瀬城跡 宮町～安土桃山	昭和45年歴史跡指定。		
12	高堂城跡 安土桃山	昭和45年歴史跡指定。		
13	保別1丁・2号古墳	古墳前期初頭	平成13年発掘調査。木棺直葬痕跡。	土器部、須恵器、磨製石器
14	下切古墳 古墳	円墳。		
15	中切王塚古墳	5世紀後半	明治30年発掘調査。円墳。	
16	中切1丁～5号墳	7世紀	円墳。	
17	日焼(炎焼)古墳跡	奈良	三仏坐像の瓦を焼いたか?	瓦、須恵器
18	ウバガ平遺跡 純文～古墳、平安	平成30年発掘調査。集落跡。	純大土器、土器部、管玉、鋸鱗鏡、鐵製刀子	
19	三枝城跡 古代、中世(室町)	平成30・31年発掘調査。主郭、曲輪、櫓切	瓦、須恵器、灰陶陶器、山茶碗	
20	よしま古窯跡	平安後期	昭和32年史跡に指定。灰陶陶器。	灰陶陶器、須恵器
21	与島6号古窯跡	7世紀前半～中葉	円墳。3・4・6号平成8年発掘調査。3・4号斜天井式石室。	須恵器、土器部、瓦器、鐵製品
22	与島1号古窯跡	7世紀前半～中葉	円墳。	
23	上切平野1号古墳 古墳	円墳。		
24	野内遺跡 古墳中葉～後期、奈良	A地丘立平成15年、B～D地区平成14・16～18年発掘調査。整穴住居跡、獨立柱建物跡、水道跡。	純大土器、孫生土器、石器、土器部、須恵器、灰陶陶器、中世陶器、木製品、鐵製武器遺物	
25	赤保木1～6号古窯跡	5世紀	元上切左岸の仲條地。5基の円墳が現存。昭和45年県史跡に指定。5号古墳平成4年発掘調査。奈穴式石室。	大正2年に6号墳から磨頭大刀、直刀、勾玉、管玉、金鏡、鐵鏡。昭和24年に3号墳から直刀、5号墳から鉄鏡。他。
26	真言尼敷裏山古墳	6世紀	円墳。	
27	下や尾堀1・2号古墳	6世紀	円墳。	
28	ミヨヒ平1号古墳 古墳	円墳。		
29	赤保木1～6号古窯跡	奈良～鎌倉	見事な東夷文化に驚く一文支の唯我獨尊的形。昭和31年県史跡指定。今から其の瓦を焼いたか?昭和48～49年に発掘調査。奈良時代の国守瓦室跡4基。平安時代～鎌倉時代の須恵器2基。	須恵器、軒丸・平瓦、鬼瓦、桂先瓦、隅木雀瓦、丸・平瓦、鐵鏡
30	平野1～3号古窯跡	平安	登り坂。	
31	諏上1～3号古墳	7世紀前半～中葉	円墳。	
32	川上川左岸1号古墳	6世紀後半～7世紀	円墳。支窓遺存。	
33	川上川左岸1号古墳	6世紀後半～7世紀	円墳。	
34	山田城跡 宮町	山城。	曲輪、櫓切。	
35	畠佐城跡 宮町	山城。	曲輪、櫓切、廻転。	
36	冬頭王塚古墳	5世紀	昭和45年発掘調査。段築成圓墳。2基の整穴式石室。	鐵器、直刀、劍、鉢、土器部、玉類。2号石室から素文鏡。
37	冬頭王塚古墳	中世	平成30年発掘調査。	
38	三仏寺城跡 宮町	昭和45年歴史跡指定。		
39	三仏寺城跡 宮町	平安～13年発掘調査。	鐵造石、瓦器、木製品、ガラス製品。	
40	高山城跡 中世(室町)、近世	昭和45年史跡に指定。昭和61年発掘調査。	須恵器、鐵器、古鏡	
41	飛驒國分寺跡	奈良	昭和9年発掘調査。昭和9年重要文化財に指定。	瓦、須恵器、古鏡、鉄
42	飛驒國分寺跡	奈良	昭和63年発掘調査。7・4号金堂。	瓦、須恵器、灰陶陶器
43	松倉城跡 宮町	昭和33年歴史跡指定。		

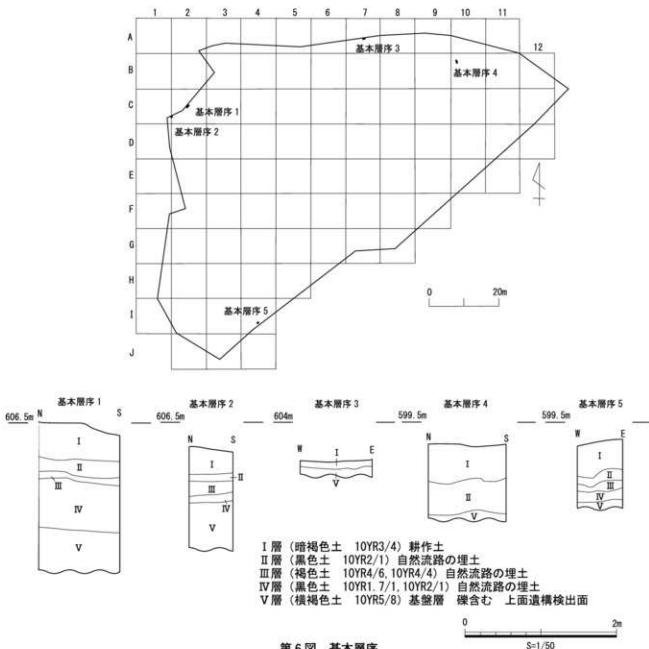


第5図 赤保木遺跡周辺の遺跡 (S = 1/50,000 国土地理院発行「飛騨古川」「三日町」「船津」「高山」)

第3章 遺構

第1節 基本層序

調査区は扇状地上にあり、西から東へ、北から南へ（標高差約11m）と傾斜している。西端には谷と尾根があり、緩い平坦地が東南方向へと広がっていく。調査前は山林、畑地として利用されていた。遺構のほとんどは基盤層で検出しており、基本層序を観察した西側では基盤層までの耕作土・自然流路等の堆積が厚く、東側は基盤層までの堆積が浅い。西側のSB1、SB2、SB3、SD1、SX6は、縄文時代早期以降に埋没した自然流路の埋土Ⅲ層上面で検出した。



第2節 遺構概要

今回の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡（SB）32軒、竪穴住居跡内土坑（SK）15基、竪穴住居跡内ピット（P）316基、竪穴住居跡内溝状遺構（SD）53条、炉跡・竈跡23基、竪穴住居跡に含まれない土坑（SK）89基、竪穴住居跡に含まれないピット（P）747基、不明遺構（SX）8基、溝状遺構（SD）9条、自然流路（NR）1条である。

遺構番号は原則として検出順であるが、重複した遺構の場合は、必ずしも先行する番号がより新しい時期のものを示しているわけではない。調査区西区のT1～20は平成14年度の試掘確認調査トレチで、東区のT41～48は平成13年度の試掘確認調査トレチである。

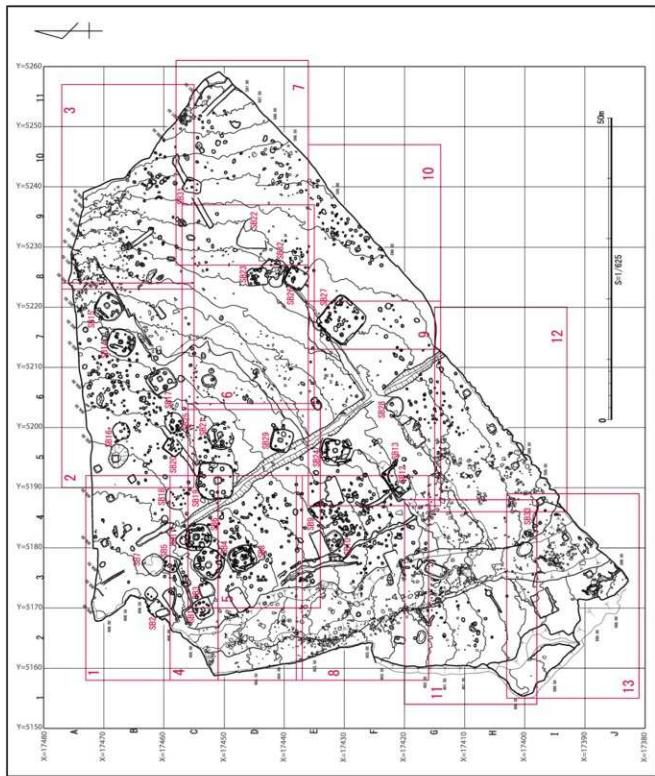
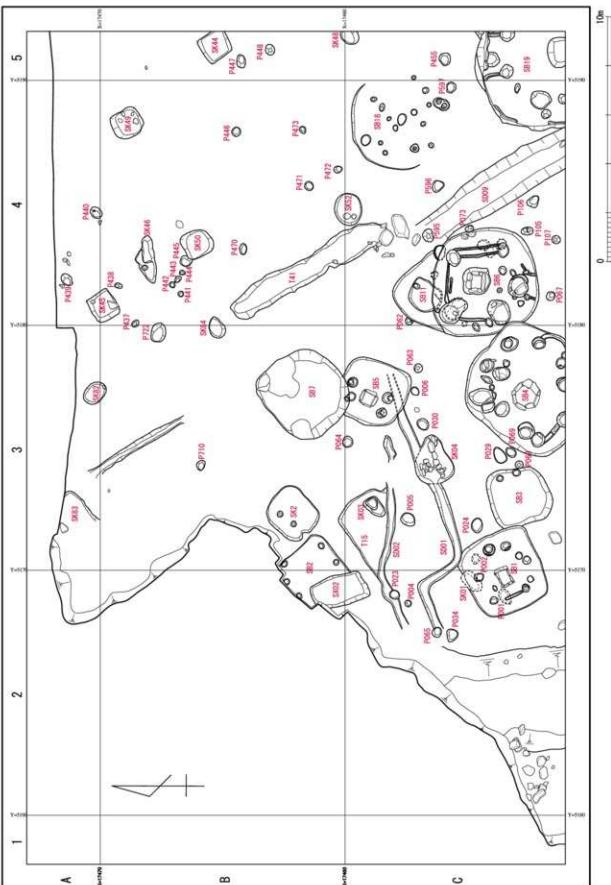
竪穴住居跡はSB33まであるが、SB30は底面が湾曲し、明確な床面や炉跡が確認できなかったことから、土坑としたため欠番である。また不明遺構SX4は、掘削前に床面で柱穴、北壁で竈跡を確認したことからSB33に名称を変更した。なお、竪穴住居跡は縄文時代中期中葉から後葉にかけてのものを25軒、弥生時代中期のものを2軒、古墳時代初頭のものを4軒、古墳時代中期のものを1軒確認した。

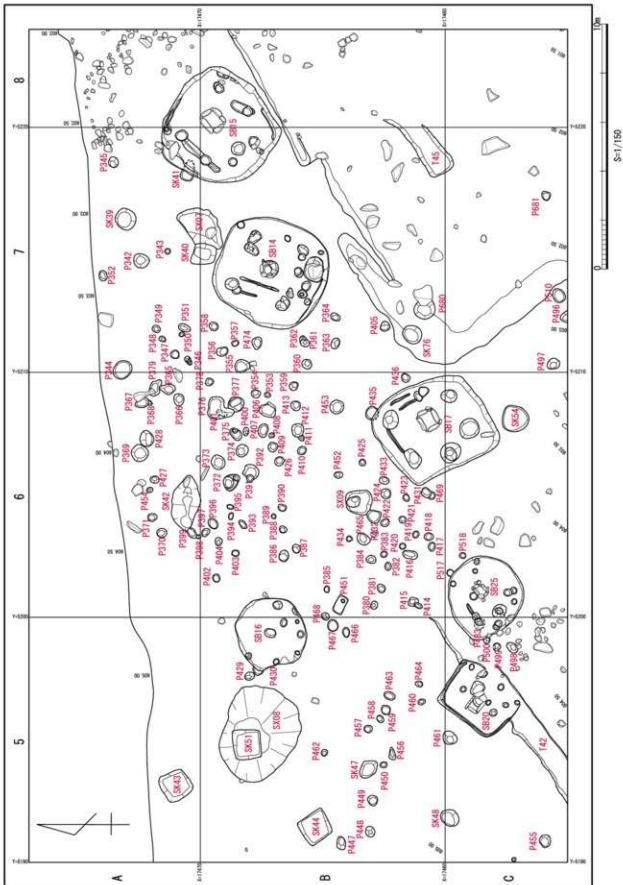
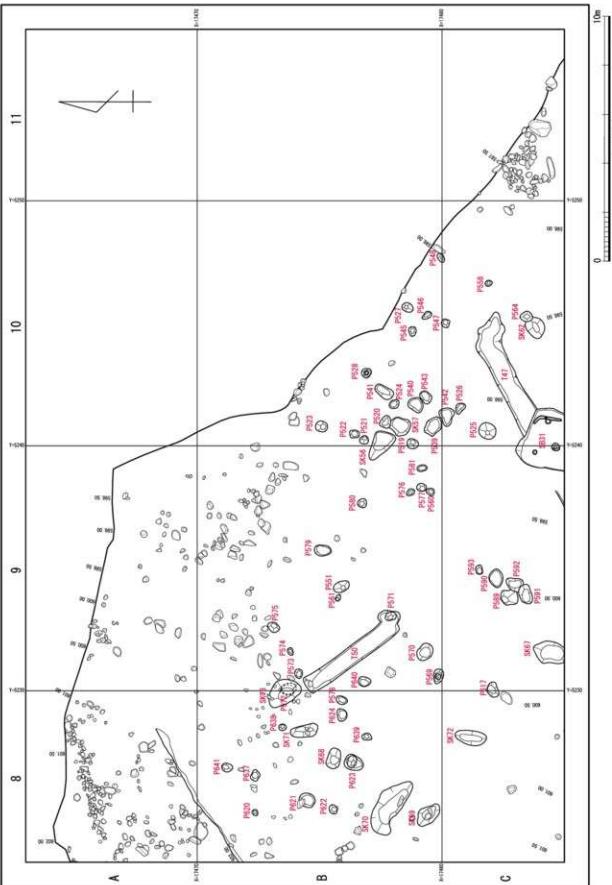
遺構実測図について

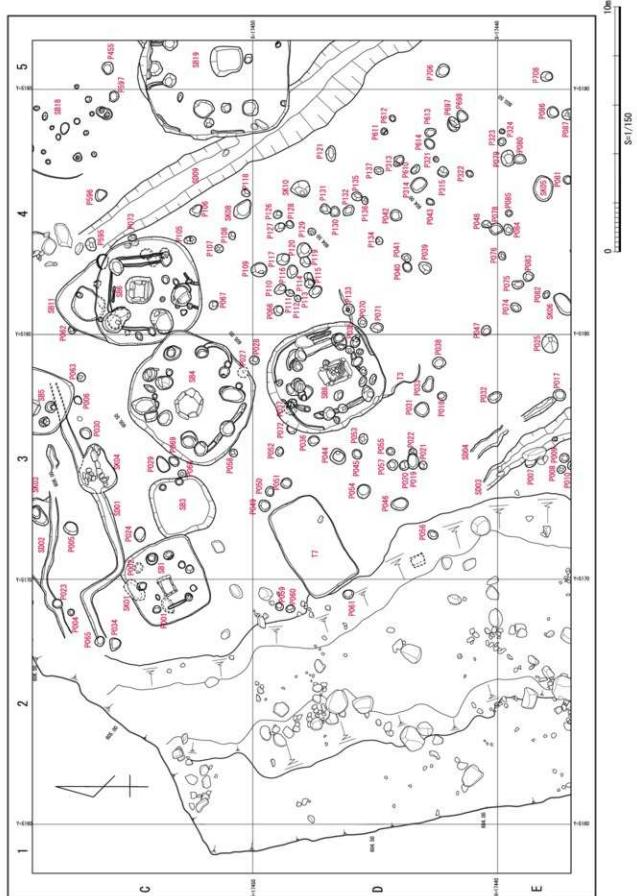
- 平面図のスクリーントーンは、焼土の範囲を表す。
- 土層断面図の斜線トーンは混入物を示し、原則として礫を表す。混入物の種類が複数ある場合は、断面図中に記載した。

遺構計測表について

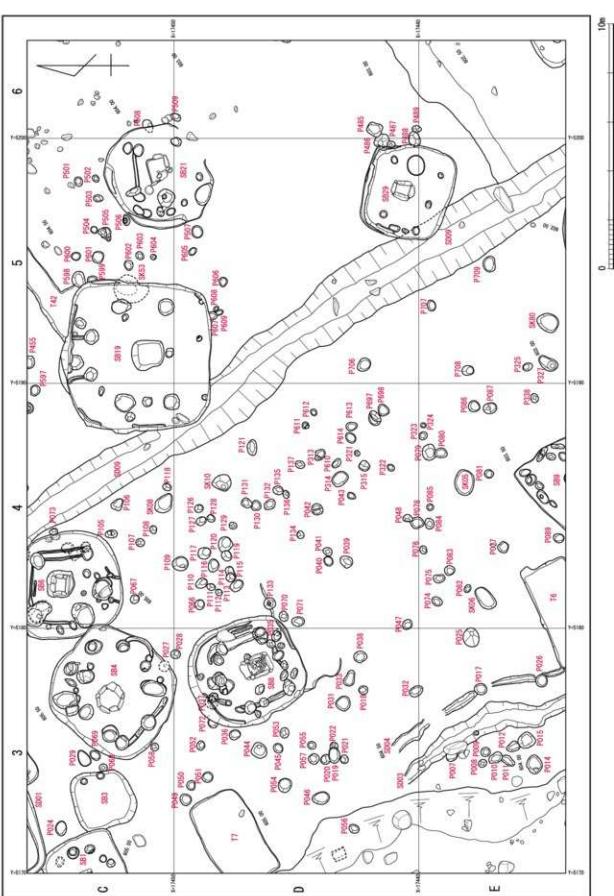
- 地区名は、遺構を検出したグリッド名を表す。
- 遺構の検出面は基本層序で表し、V層上面で検出した遺構の場合「V」と表記した。
- 遺構の規模の単位は、mとした。（ ）で示したものは、全形が確認できなかったため、残存長を測ったものである。
- 遺構の切り合いは、「新>古」の関係を表す。
- 主軸方位は、北を元にして、東西へ度数傾くかを記号化した。
(例)「北から東へ65度傾く」→「N-65°-E」
- 遺構番号は発掘調査時に付与したため、整理時に変更した場合は、右矢印と変更後の名称を記した。

第7図 遺構全体図割付図
Figure 7: Archaeological structure distribution map with area division.第8図 遺構全体図分割図1
Figure 8: Archaeological structure distribution map with area division 1.

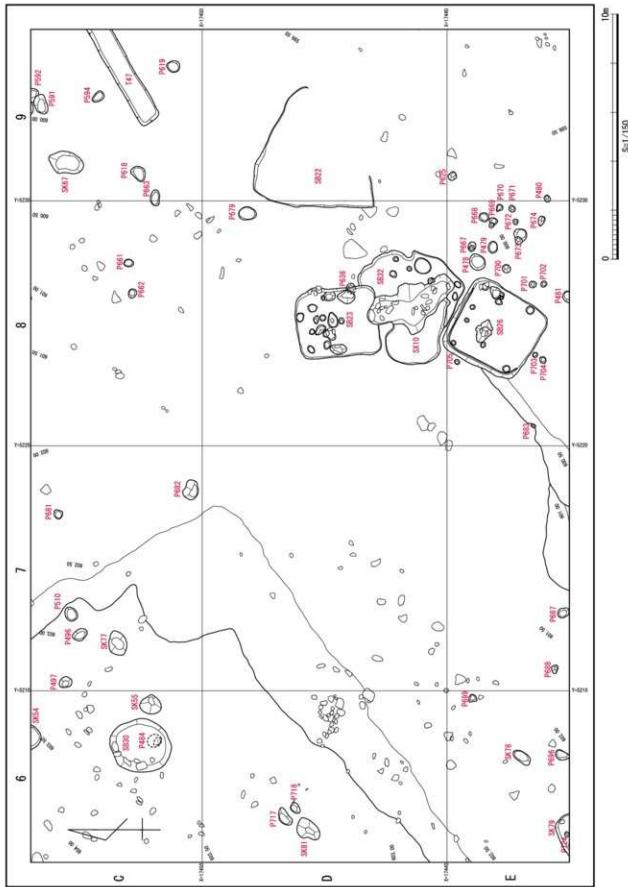
第9図 遺構全体図分割図2
©2024, Kyushu University第10図 遺構全体図分割図3
©2024, Kyushu University



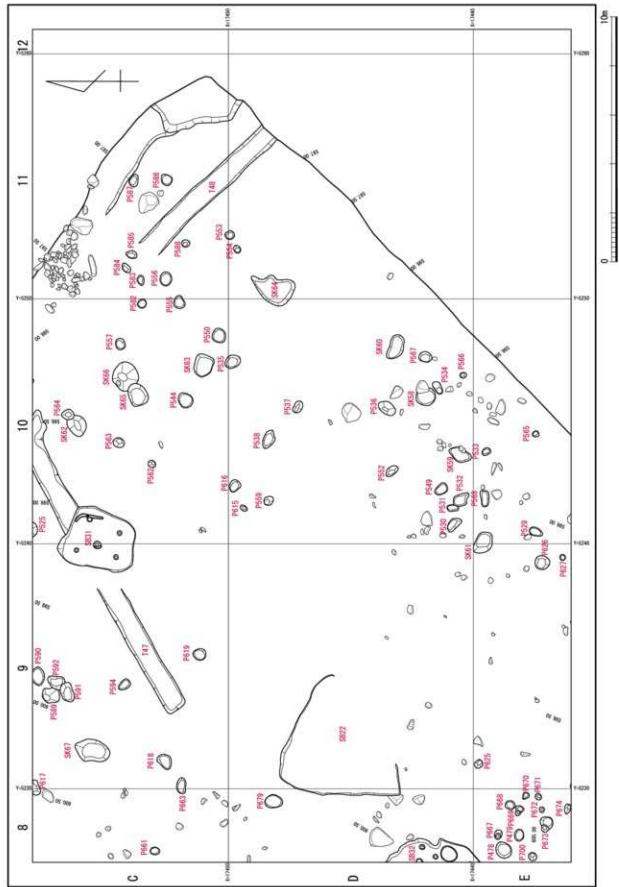
第11図 遺構全体図分割図4



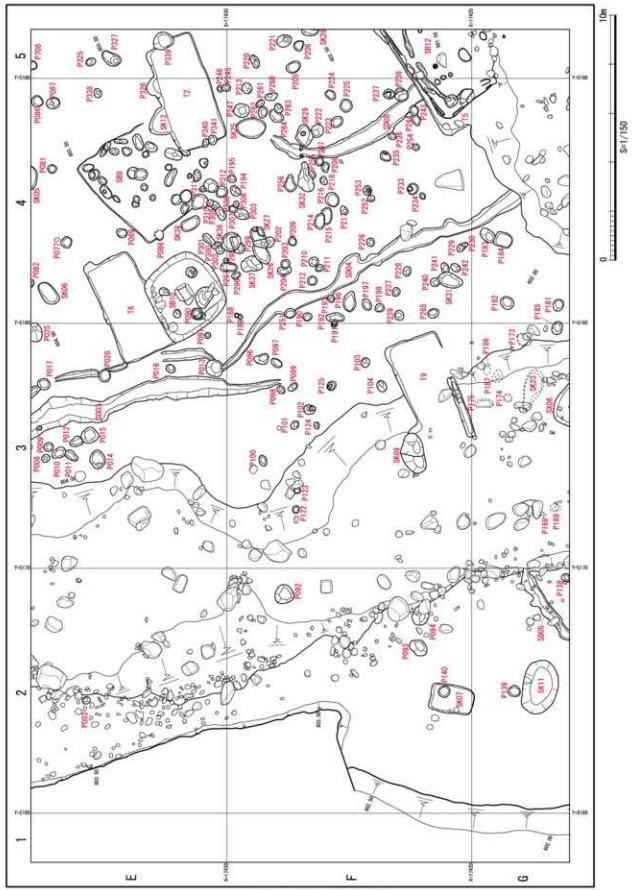
第12図 遺構全体図分割図5



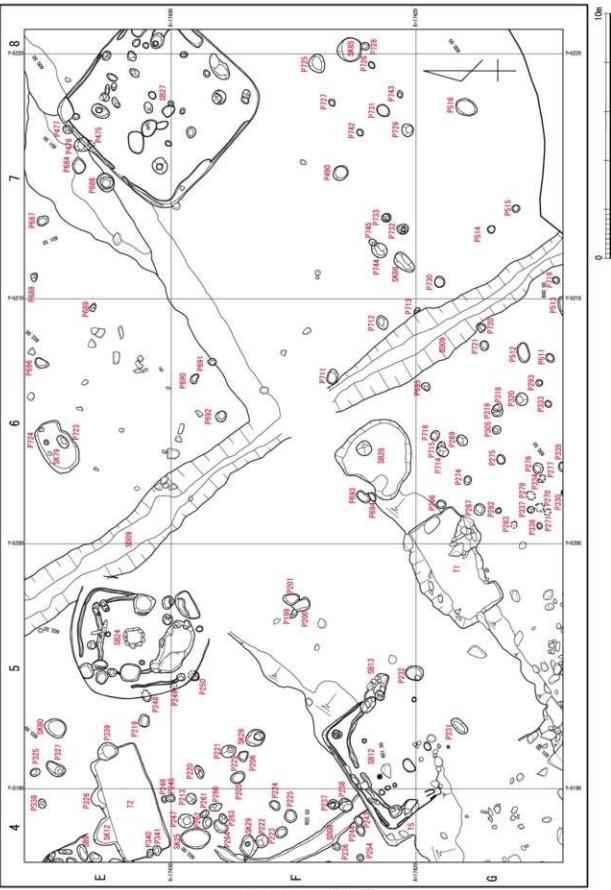
第13図 遺構全体図分割図 6



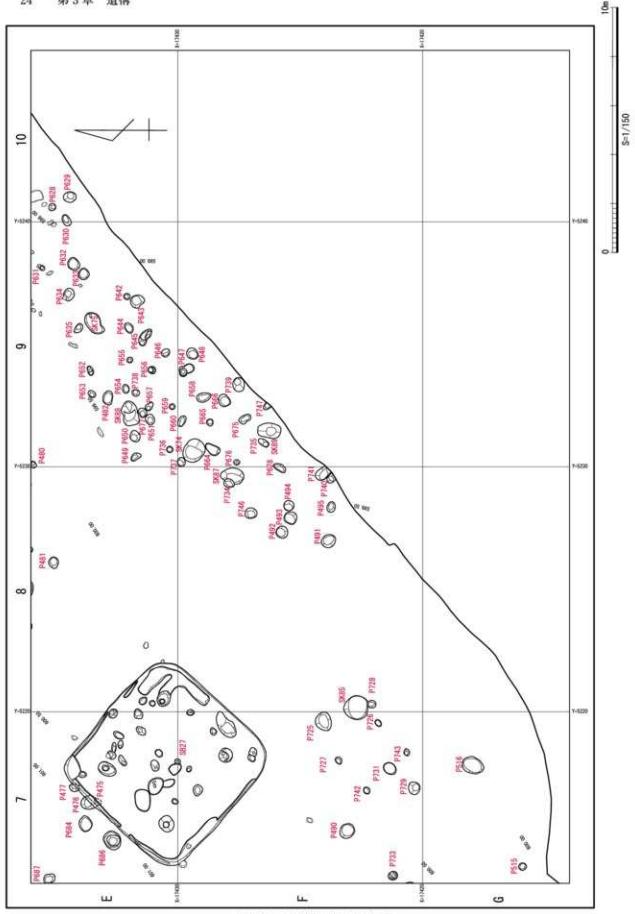
第14図 遺構全体図分割図7



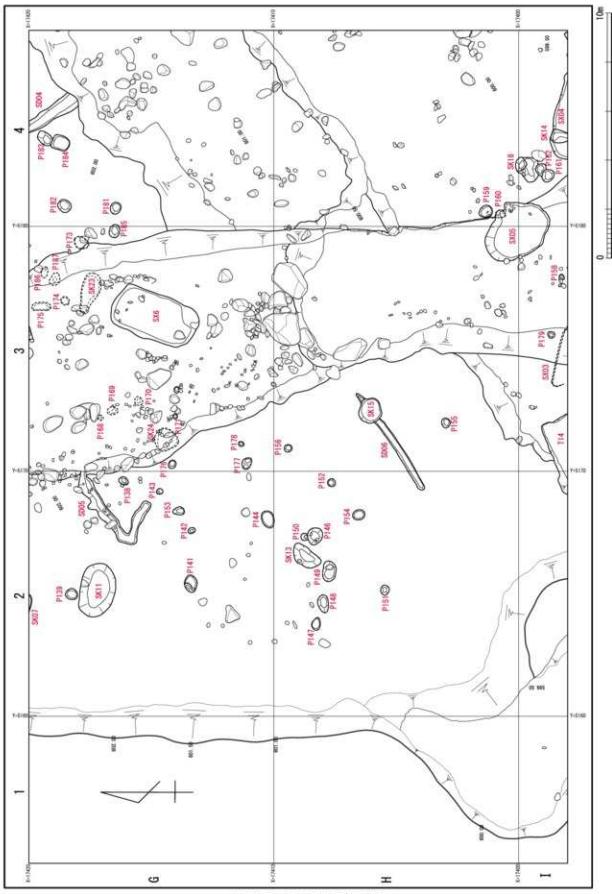
第15図 遺構全体図分割図8



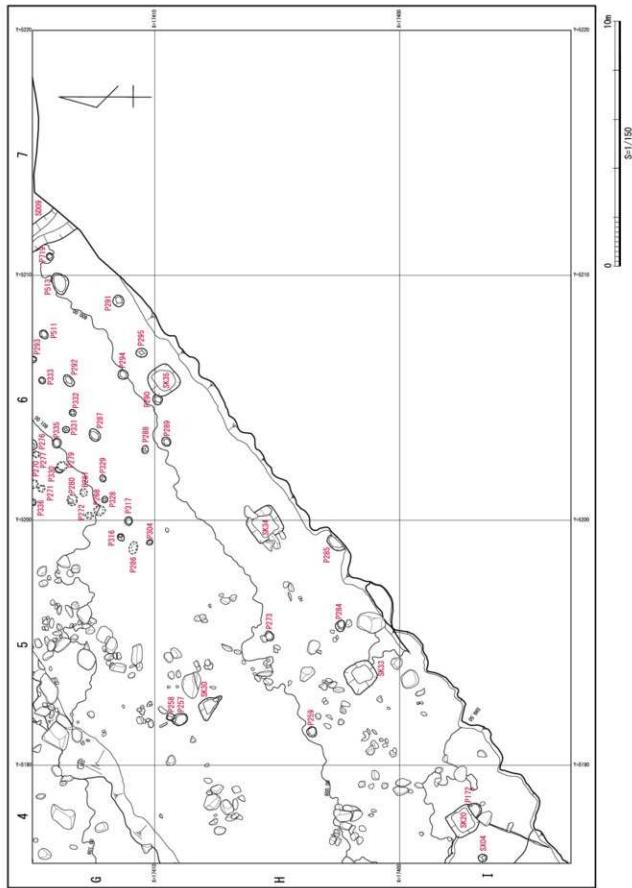
第16図 遺構全体図分割図9



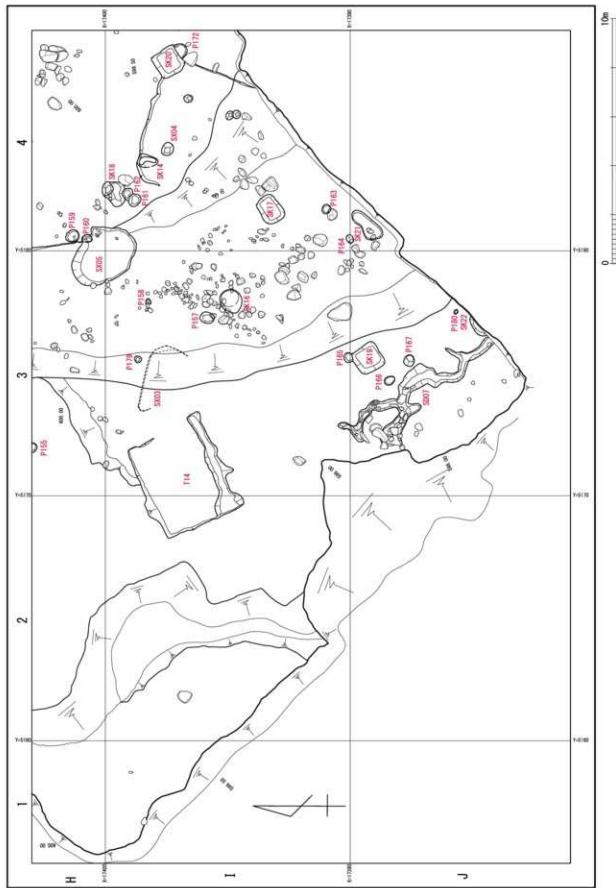
第17図 遺構全体図分割図10



第18回 遺構全体図分割図11



第19図 遺構全体図分割図12



第20図 遺構全体図分割図13

第3節 壁穴住居跡

1 繩文時代

繩文時代中期中葉から後葉にかけての壁穴住居跡を25軒確認した。石火炉を伴う壁穴住居跡は、炉石の一辺が扁平な面を上向きに埋設してある方向、あるいは炉跡が床面中央より一方にずれる場合、その反対方向を入口側と推定し調査を進めた。

以下、各々の壁穴住居跡について記す。なお、壁穴住居跡出土の遺物点数は、遺物取り上げ時の破片数である。

SB 1 (遺構図: 第21図) (遺物図: 第58・59・98・100・105・108・110・111図)

C区・C'区に位置し、東側でSB 3と切り合う。また、SB 1の埋土内でP001・002、SK001と切り合う。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で3.3×3.2m、床面で3.2×3.1m、深さ0.42mである。

床面ではピット9基、石火炉1基、P1～P8の柱穴間に溝1条を確認した。主柱穴はP1～P4の4本柱の住居跡と推定する。

床面中央やや奥に位置する石火炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。7個の河原石を方形に埋設する。4隅に球状若しくは円柱状の石が埋設されており、南西角に埋設した球状の炉石は磨石類を転用したものである。炉石は被熱し赤褐色に変色している。北東側の炉石は平らな面を上面にして埋設されていた。入口方向は東北東で炉石の中心を通る軸はN-65°-Eである。

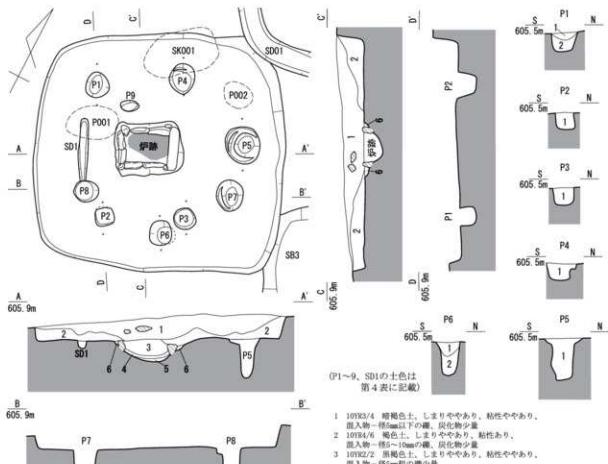
出土遺物は、縄文土器1,054点、土偶2点、石器類119点である。

第3表 SB 1 遺物の出土地点

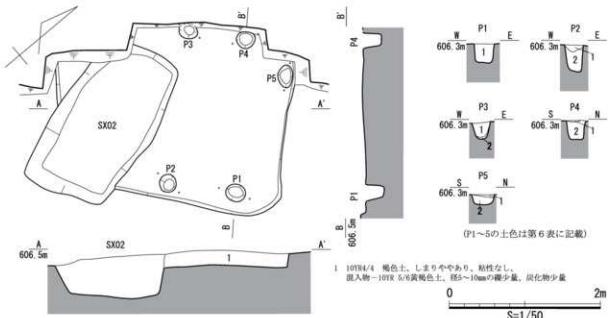
出土地点	報告書掲載番号
上層	2, 4, 5, 7-10, 13, 15, 16, 19, 20, 22-25, 27, 32-34, 736, 1001-1004, 1006, 1098, 1138
中層	1, 6, 11, 14, 17, 21, 26, 29-31, 735, 1005, 1157
床面	12, 18, 28, 1155
跡跡・ピット等	3 (P1), 1139(剖面)

第4表 SB 1内の遺構

遺構名	法量 (m)				土層	備考
	上端	短軸	下端	短軸		
P 1	0.33	0.28	0.26	0.18	0.25	褐色土。(10YR 4/4) 暗褐色土。(10YR 3/4)
P 2	0.28	0.27	0.24	0.24	褐色土。(10YR 3/4)	主柱穴
P 3	0.28	0.28	0.28	0.27	褐色土。(10YR 3/4)	主柱穴
P 4	0.39	0.31	0.29	0.26	褐色土。(10YR 3/4)	主柱穴
P 5	0.56	0.45	0.21	0.20	0.56	褐色土。(10YR 4/6) 暗褐色土。(10YR 3/4)
P 6	0.34	0.28	0.25	0.24	褐色土。(10YR 4/6) 暗褐色土。(10YR 3/4)	
P 7	0.39	0.36	0.28	0.18	0.46 褐色土。(10YR 5/8) 暗褐色土。(10YR 5/6)	
P 8	0.32	0.28	0.25	0.28	0.43 褐色土。(10YR 5/6) 褐色土。(10YR 4/4)	
P 9	0.24	0.19	0.24	0.11	0.10 褐色土。(10YR 3/4)	
SD 1	0.80	0.10	-	-	0.08 褐色土。(10YR 4/6)	
跡跡(外)	0.80	0.60	-	-	-	
跡跡(内)	0.56	0.37	0.62	0.43	0.20 土色は遺構図断面に記載 底面に焼土	



第21図 SB 1



第22図 SB 2

SB 2 (遺構図: 第22図) (遺物図: 第60・61・100・104図)

2B・3B・2C・3C区に位置している。南西側でSX02に切られる(SX02は現代の擾乱、内部より1頭分の牛骨が出土)。SB 2住居跡の北西側は調査区外となり北壁は確認できなかった。平面形は隅丸方形と推定する。残存部の大きさは上端で $2.4 \times 2.0\text{m}$ 、床面で $2.4 \times 2.0\text{m}$ 、深さは 0.21m である。床面では壁際に環状配置されたピットを5基確認しているが、炉跡は確認できなかった。床面の断ち割り調査でも、土色の変化はなかった。

出土遺物は、縄文土器339点、石器類95点である。

第5表 SB 2遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	35~37, 43, 44, 1007, 1008, 1092
中層	38~42, 45~47, 49~56
床面	48

第6表 SB 2内の遺構

遺構名	法量(m)				備考	
	上層		下層			
	長軸	短軸	長軸	短軸	深さ	
P1	0.25	0.22	0.23	0.18	0.29	にぶい黄褐色土 (10YR 4/3)
P2	0.23	0.22	0.21	0.18	0.35	褐色土 (10YR 4/6) 喰褐色土 (10YR 3/4)
P3	0.22	0.21	0.17	0.17	0.22	暗褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P4	0.23	0.22	0.2	0.18	0.25	褐色土 (10YR 4/4) 喰褐色土 (10YR 4/6)
P5	0.27	0.19	0.25	0.15	0.14	褐色土 (10YR 4/4) 喰褐色土 (10YR 4/6)

SB 3 (遺構図: 第24図) (遺物図: 第61図)

3C区に位置し、西側でSB 1・東側でP068と切り合う。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で $2.5 \times 2.4\text{m}$ 、床面で $2.5 \times 2.4\text{m}$ 、深さは 0.09m である。

床面では東側でピットを2基確認したが、炉跡は確認できなかった。床面の断ち割り調査を行ったが、土色の変化は見られなかった。

出土遺物は、縄文土器14点である。

第7表 SB 3遺物の出土地点 第8表 SB 3内の遺構

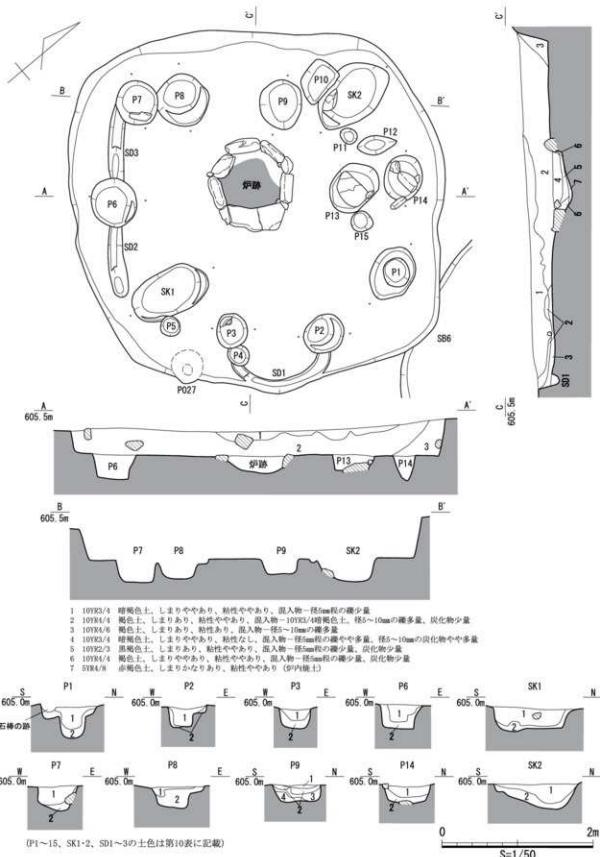
出土地点	報告書掲載番号	法量(m)				備考
		上層		下層		
		長軸	短軸	長軸	短軸	深さ
						1層土色
P1	0.31	0.28	0.21	0.18	0.10	暗褐色土 (10YR 3/4)
P2	0.28	0.27	0.19	0.16	0.07	暗褐色土 (10YR 3/4)

SB 4 (遺構図: 第23図) (遺物図: 第62・100~103・105・108図)

3C区に位置し、東側でSB 6を切る。また、P027に切られる。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で $5.0 \times 4.9\text{m}$ 、床面で $4.9 \times 4.6\text{m}$ 、深さは 0.52m である。

床面でピットを15基、土坑を3基、石垣炉を1基、溝状遺構を3条確認した。主柱穴は環状に配置され P1・P14・P9・P8・P6・SK1・P2・P3の8本柱の住居跡と推定する。また、P1では、下部が15cm埋められた状態の立石を確認した。

床面中央から北西寄りに位置する石垣炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。円柱状5個、板状1個の河原石を円形に並べ、小型の石で大型の石の隙間を埋めている。また、北西側の炉石は外面が被熱し赤色を呈しており、他の炉から転用したと考えられる。炉内の基盤層上面は被熱し赤褐色に



第23図 SB 4

変色している。入口方向は南東で炉石の中心を通る軸はN=55°-Wである。掘削後床面の断ち割り調査を行ったが、土色の類似により炉石の掘形、貼床は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器678点、石器類103点である。入口付近の床面で2個並べられた状態の磨製石斧（第106図1110・1111）が出土した。

第9表 SB 4遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	79, 81~83, 87, 88, 92, 94, 113, 115, 117, 118, 121, 1010, 1077, 1099~1101
中層	84, 86, 93, 95, 96, 98~109, 111, 114, 116, 119, 120, 122, 124~127, 1009, 1057, 1102, 1112, 1140
床面	80, 85, 89~91, 110, 112, 123, 1110, 1111
野跡・ピット等	97 (P 6), 1011 (伊内)

第10表 SB 4内の遺構

遺構名	法面			備考
	上層	V層	深5	
P 1	0.76	0.54	0.31	0.30 0.49 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 2	0.53	0.49	0.38	0.27 0.30 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 3	0.45	0.41	0.40	0.34 0.28 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 4	(0.26)	0.41	0.27	0.23 0.12 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 5	0.25	0.24	0.23	0.13 0.13 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 6	0.64	0.56	0.53	0.30 0.30 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 7	0.57	0.57	0.49	0.40 0.30 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 8	(0.74)	0.68	0.50	0.43 0.30 褐色土 (10YR 4/4) 褐色土 (10YR 4/6) 褐色土 (10YR 4/6)
P 9	0.65	0.54	0.52	0.41 0.22 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6) 褐色土 (10YR 4/6)
P 10	0.58	0.46	0.54	0.40 0.18 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 11	0.22	0.19	0.15	0.14 0.10 褐色土 (10YR 4/6)
P 12	0.53	0.24	0.33	0.17 0.29 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P 13	0.50	0.50	0.50	0.16 0.16 褐色土 (10YR 4/6) 褐色土 (10YR 4/6)
P 14	0.59	0.46	0.56	0.49 0.31 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
S 1	0.55	0.55	0.55	0.40 0.30 褐色土 (10YR 4/6) 褐色土 (10YR 4/6)
SK 1	1.07	0.57	0.64	0.50 0.29 褐色土 (10YR 3/2) 褐色土 (10YR 4/6)
SK 2	1.09	0.82	0.63	0.51 0.38 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
SD 1	1.28	0.18	0.00	0.14 0.08 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
SD 2	0.93	0.20	0.00	0.11 0.13 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
SD 3	0.86	0.18	0.00	0.14 0.07 褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
野跡(P)	1.20	1.18	0.00	0.00 0.00 褐色土 (0.74) 0.87 0.80 0.92 0.29

土色は遺構断面に記載

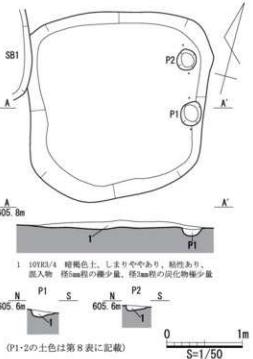
SB 5（遺構図：第26図）（遺物図：第61・106図）

調査区の北西3C区に位置し、北側がSB 7に切られており、壁面の一部を確認できなかった。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で2.8×2.6m、床面で2.6×2.5m、深さは0.24mである。

床面でピットを5基、石畳を1基確認した。主柱穴はP 1～P 3・P 5と推定する。これらのピットは検出面では長軸が約0.4mであるが、柱があった部分のみ深く掘り込まれていた。

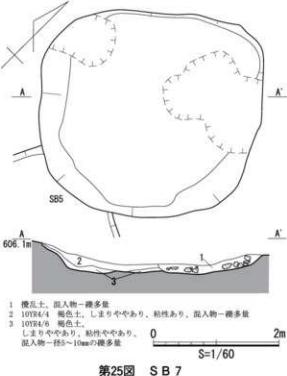
床面中央や奥に位置する石畳は、炉石の抜き取りがなく完存している。約0.5mの円柱状3個、板状1個の河原石を方形に並べ、北側隣の2か所は小型の石で隙間を埋めている。西側の炉石は板状の河原石を立てて埋設している。炉内の基礎層上面は被熱し赤褐色に変色している。入口方向は東南東で、炉石の中心を通る軸はN=65°-Wである。掘削後床面の断ち割り調査を行ったが、炉石の掘形、貼床共に確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器74点、石器類7点である。

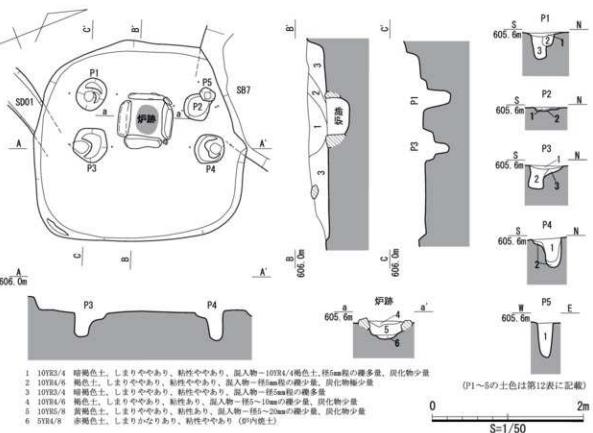


1 10YR3/4 褐褐色土、しまりややあり、粘性あり、
混入物・根5cmの纏多量、径3cmの炭化物複数
2 10YR4/4 褐色土、しまりややあり、粘性あり、混入物・纏多量
3 10YR4/6 褐褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量
P 1~2の土色は第8表に記載
S 1/50

第24図 SB 3



1 黄土、粘入物・纏多量
2 10YR4/4 褐色土、しまりややあり、粘性あり、混入物・纏多量
3 10YR4/6 褐褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量
S 1/60



1 10YR3/4 褐褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5cmの纏多量、径3cmの炭化物複数
2 10YR4/4 褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量、炭化物少
3 10YR4/6 褐褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量
4 10YR4/6 褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量、炭化物少
5 10YR5/0 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量、炭化物少
6 10YR4/6 褐褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、
混入物・根5~10mmの纏多量
(P 1~5の土色は第12表に記載)

第26図 SB 5

第11表 SB 5遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	65～69, 72, 1103
中層	70, 71, 74
剝離・ピット等	73(羽内)

第12表 SB 5内の遺構

遺構名	法量(m)			土層			備考		
	上層	下層	深さ	1 層土色	2 層土色	3 層土色			
P1	0.44	0.33	0.20	0.16	0.36	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 3/4)	黃褐色土 (10YR 5/8)	主柱穴
P2	0.38	0.37	0.34	0.31	0.05	褐色土 (10YR 3/4)	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 4/6)	柱穴圓形?
P3	0.43	0.43	0.18	0.16	0.31	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 3/4)	黃褐色土 (10YR 5/8)	主柱穴
P4	0.41	0.26	0.22	0.17	0.05	褐色土 (10YR 3/4)	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴
P5	0.28	0.17	0.11	0.10	0.53	褐色土 (10YR 4/6)			主柱穴
剝離(外)	0.72	0.72							
剝離(内)	0.55	0.63	0.50	0.42	0.26				

土色は遺構断面に記載

SB 6 (遺物図: 第27図) (遺物図: 第65・66・100・102~104・106・108図)

4C区の調査区を東西に分ける農道の下に位置しており、車両による土砂の踏み込み等によって検出が困難であった。平面形は隅丸方形である。西側でSB4と切り合う。当初、楕円形のプランを検出しSB 6として掘削を開始したが、SB 6の埋土上層で貼床状の硬化面とピット、土坑を検出しており、土層3までSB11として分離した。大きさは上端で4.4×4.3m、床面で4.2×4.2m、深さは0.5mである。床面ではピットを14基、石臼炉を1基、土坑を1基、溝状遺構を7条確認した。主柱穴はP1～P4と推定する。P3より約100点の繩文土器が出土したが、直上にSB11のSK 1が切っており、上層からの遺物混入の可能性も考えられる。

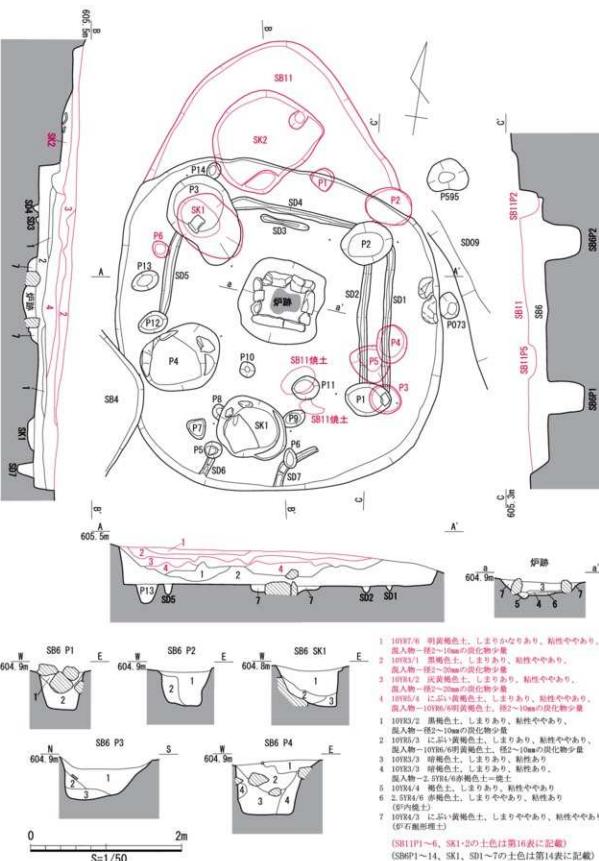
床面中央に位置する石臼炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。床面で長短軸共に1.1mを測る炉石の掘形を確認した。石臼炉は方形を呈し、南北方向が短軸である。西辺は1個の河原石を3つに割りて埋設しており、1つは切断面を下にして刃を短くしている。東辺は1個の河原石を2つに割り、1つは切断面を上にして埋設している。炉内の基盤層上面は被熟し赤褐色に変色している。

入口方向は南で、炉石の中心を通る軸はN=4°-Eである。床面の溝は、主柱穴を結ぶ位置と入口方向壁面からP5・P6方向に延びている。掘削後床面の断ち割り調査を行ったが、貼床は確認できなかった。

出土遺物は、繩文土器1,862点、石器類890点である。

第13表 SB 6遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	1058, 1141
中層	138, 142, 144, 146, 147, 149, 150, 152~154, 161, 163, 164, 1080, 1083, 1089, 1094, 1113
床面	128, 134, 135, 137, 139, 143, 158, 159, 1142
剝離・ピット等	130, 133, 145, 151, 156, 160, 162(P 3), 148(P 2), 129, 131, 132, 140, 141, 1104(P 4), 136(羽内), 1132(SK 1)
不明	1012



第27図 SB 6・11

第14表 SB 内の遺構

遺構名	法量 (m)			土層	備考	
	上端 長軸 短軸	下端 長軸 短軸	深さ			
P 1	0.59	0.43	0.47	0.33	0.56 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P 2	0.67	0.58	0.52	0.33	0.49 黄褐色土 (10YR 3/3) 黄褐色土 (10YR 5/6)	主柱穴
P 3	1.23	0.86	0.78	0.55	0.46 黄褐色土 (10YR 3/3) 黄褐色土 (10YR 4/6) 條帶土 (10YR 4/4)	主柱穴
P 4	1.08	0.78	0.67	0.33	0.73 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3) 黄褐色土 (10YR 4/4) 條帶土 (10YR 4/6)	主柱穴
P 5	0.25	0.21	0.21	0.16	0.18 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P 6	0.25	0.16	0.22	0.11	0.35 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P 7	0.26	0.25	0.23	0.16	0.17 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P 8	0.19	0.19	0.19	0.13	0.13 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P10	0.22	0.19	0.19	0.10	0.07 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P11	0.36	0.30	0.29	0.17	0.04 黄褐色土 (10YR 3/3)	
P12	0.38	0.27	0.33	0.22	0.15 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P13	0.36	0.21	0.24	0.13	0.24 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
P14	(0.20)	0.18	0.18	0.10	0.21 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 3/3)	
SK 1	0.95	0.77	0.67	0.34	0.53 黄褐色土 (10YR 3/3) 條帶土 (10YR 4/6) 條帶土 (10YR 4/4)	
SD 1	1.84	1.68	1.68	—	0.05 にぶい黄褐色土 (10YR 3/3) 條帶土 (10YR 4/6)	
SD 3	1.55	1.55	1.55	—	0.03 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 4/6)	
SD 3	0.66	0.67	—	0.03	0.06 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 4	1.43	0.07	—	0.05	0.05 黄褐色土 (10YR 3/3)	
SD 5	1.08	0.11	—	0.05	0.15 黄褐色土 (10YR 3/3)	
SD 6	0.25	0.19	—	0.06	0.06 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 4/4) 條帶土 (10YR 4/6)	
SD 7	(0.60)	0.12	—	0.07	0.21 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 條帶土 (10YR 4/4) 條帶土 (10YR 4/6)	
炉跡・ビット等	0.81	0.72	—	—	—	
鉢形	0.51	0.39	0.54	0.42	0.28 土色は遺構断面に記載	

SB11 (遺構図: 第27図) (遺物図: 第67・68・100・102~104・106図)

4C区のSB 6 とは位置が重なっている。北側壁面とピットを6基、土坑を2基確認した。東側で検出したP595から出土した縄文土器がSB11出土の縄文土器(第67図172)と接合したため、P595もSB11に伴う遺構である可能性が高い。平面形、主柱穴とともに不明である。

広さ5.0×3.6mの広がりを見せる床面は、SK 2 の南側からにぶい黄褐色土(土層6)の基盤層の土を使った貼床が見られた。また、P 5 の南西側で焼土面2か所を確認した。

出土遺物は、縄文土器478点、土偶1点、石器類139点である。

第15表 SB11遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	166, 172, 178, 179, 181, 191, 194, 197, 199, 200, 201, 207~210, 219~221, 231, 233, 1059, 1078, 1105, 1114, 1133
中層	165, 169, 171, 173~175, 183, 184, 186~190, 192, 198, 1061, 1082, 1115, 1116
床面	167, 170, 177, 180, 193, 196
炉跡・ビット等	176 (SK 1), 168, 185 (SK 2), 2019 (P 1), 182, 195 (P 2)

第16表 SB11内の遺構

遺構名	法量 (m)			土層	備考	
	上端 長軸 短軸	下端 長軸 短軸	深さ			
P 1	0.35	0.30	0.32	0.19	0.24 海色土 (10YR 4/6) にぶい黄褐色土 (10YR 4/3)	
P 2	0.60	0.46	0.59	0.45	0.16 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3)	
P 3	0.43	0.38	0.42	0.36	0.18 黑褐色土 (10YR 3/2)	土偶出土
P 4	0.50	0.40	0.43	0.35	0.24 黑褐色土 (10YR 3/2)	
P 5	0.50 (0.50)	0.33 (0.30)	0.10	0.28	0.18 黑褐色土 (10YR 3/2) 海色土 (10YR 4/6)	
P 6	0.24	0.20	0.20	0.16	0.08 黑褐色土 (10YR 3/1) 海色土 (10YR 4/4)	
SK 1	1.00	0.65	0.52	0.44	0.34 黑褐色土 (10YR 3/1)	
SK 2	1.32	1.18	1.11	1.02	0.30 海色土 (10YR 4/6) 海色土 (10YR 4/4)	

SB 7 (遺構図: 第25図) (遺物図: 第61・111図)

3B区に位置し、SB 5 を切る。平面形は隅丸方形である。当初、方形の搅乱土坑(SX01)として掘削を開始したが、壁面・床面(一部搅乱)を確認したためSB 7とした。大きさは上端で3.5×3.2m、床面で3.0×2.9m、深さは0.58mである。床面で遺構、貼床は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器9点、石器類3点である。

第17表 SB 7 遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
中層	75, 77, 78, 1158(石棒)
床面	76

SB 8 (遺構図: 第28・29図) (遺物図: 第69~71・100・102・103・106・108・109・111図)

3D区に位置し、P037に切られる。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で4.6×4.0m、床面で4.3×3.8m、残存状態の良い北壁での深さは0.9mである。床面でピットを21基、石開炉を1基、溝状遺構を8条確認した。主柱穴はP 1~P 4 と推定する。楕円形のP 3 は別のピットと切り合っていた可能性もあり、東側の掘り込みが主柱穴と考えられる。検出面より0.1m下方の埋土中層(土層3、6)から、炭化物と被熱して赤く焼けた石が多量に出土した。焼成粘土塊も出土した。SB 8 が埋没していく過程でできた窓みの上で火を焚いたと考えられる。

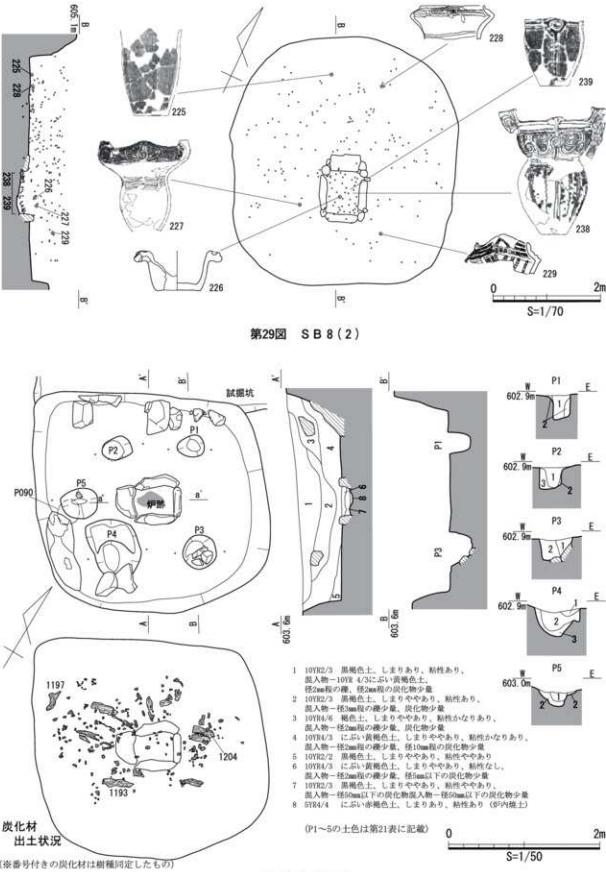
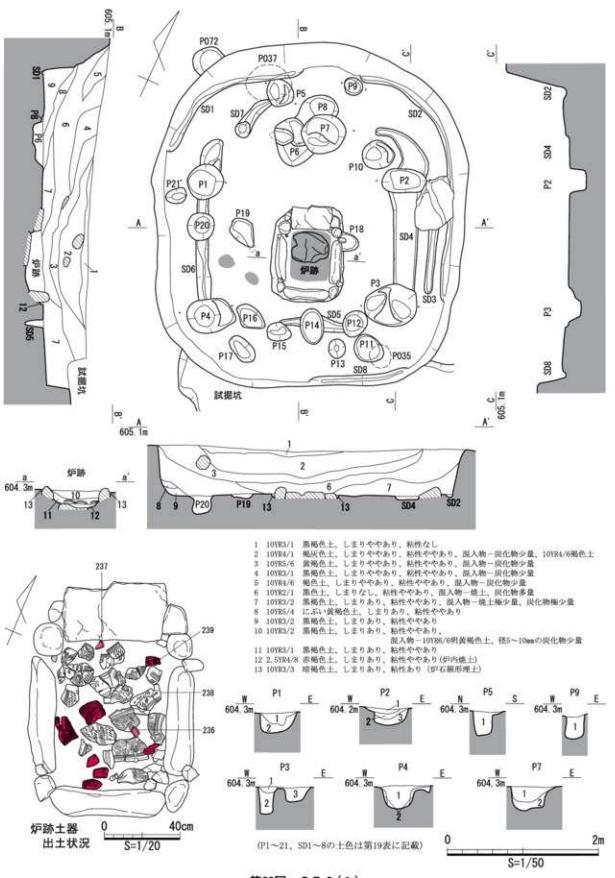
床面中央から南寄りに位置する石開炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。3個の円柱状、1個の扁平な河原石によって形成された方形の石開炉の四隅には立石が見られる。炉内には、2個体分の縄文土器が文様のある外側面上にしき書き詰められていた(第28図・第71図238・239)。その土器が被熱していないことから、住居や炉の魔術に伴う儀礼行為として土器を敷き詰めた可能性が考えられる。炉内の土器の下には焼土が見られ、基盤層内の大型礫が露出していた。

入口方向は北北西で、炉石の中心を通る軸はN=23° -Wである。床面SDは、主柱穴を結ぶ位置と壁際で確認した。P 2 の脇には基盤層内の大型礫が露出していた。炉跡の東西両脇では、床面が非常に固く締まっていた。炉跡の西側では焼土が2か所見られた。

出土遺物は、縄文土器641点、土製品7点、石器類142点である。床面より5cmほど上の埋土中から、東海系の呪文式土器(第70図227)と、信州系の釣手土器(第70図226)が出土した。

第18表 SB 8 遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	203, 212, 215, 217, 218, 228, 234, 1013
中層	202, 204~207, 209~211, 213, 214, 216, 219~222, 226, 227, 229~231, 233, 1059, 1078, 1105, 1114, 1133, 1143, 1159, 1160
床面	201, 208, 223~225, 231, 1014, 1144
炉跡・ピット等	235 (SD 1), 236~239 (土器散剤)



第30図 S B 10

第19表 SB2内の遺構

遺構名	法量(m)				土層	備考	
	上端 長軸 幅	下端 短軸 幅	深さ	1層土色	2層土色	3層土色	
P1	0.48	0.45	0.36	0.28	0.22	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4)	主柱穴
P2	0.55	0.38	0.47	0.27	0.22	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4)	主柱穴
P3	0.67	0.53	(0.60)	0.50	(0.36)	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4) にい黄褐色土 (10YR 4/3)	主柱穴
P4	0.68	0.45	0.31	0.34	0.26	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4)	主柱穴
P5	0.58	0.35	0.29	0.12	0.36	黒褐色土 (10YR 4/3) にい黄褐色土 (10YR 5/6)	埋葬?
P6	0.60	(0.37)	0.55	0.38	0.28	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 4/3)	埋葬?
P7	0.48	0.45	0.51	0.49	0.38	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/6)	埋葬?
P8	0.49	0.45	0.50	0.49	0.35	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/6)	埋葬?
P9	0.24	0.20	0.24	0.20	0.31	黒褐色土 (10YR 3/2)	
P10	0.43	0.37	0.23	0.20	0.22	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4)	
P11	0.38	0.31	0.35	0.30	0.04	黒褐色土 (10YR 3/2)	
P12	0.33	0.26	0.25	0.23	0.26	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4)	
P13	0.23	0.21	0.20	0.09	0.07	黒褐色土 (10YR 3/2)	
P14	0.46	0.30	0.44	0.29	0.04	黒褐色土 (10YR 3/2)	
P15	0.31	0.23	0.24	0.13	0.27	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4)	
P16	0.42	0.24	0.40	0.28	0.28	黒褐色土 (10YR 3/2) 明黄色土 (10YR 6/6)	
P17	0.40	0.22	0.30	0.15	0.06	黒褐色土 (10YR 3/2) 明黄色土 (10YR 6/6)	
P18	0.23	(0.20)	0.21	(0.18)	0.02	にい黄褐色土 (10YR 4/3)	
P19	0.39	0.30	0.47	0.25	0.17	黒褐色土 (10YR 3/2)	
P20	0.35	0.35	0.24	0.23	0.26	黒褐色土 (10YR 3/2) にい黄褐色土 (10YR 5/4) にい黄褐色土 (10YR 4/3)	
P21	0.28	0.18	0.24	0.13	0.03	にい黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 1	2.26	0.13	-	0.06	0.03	にい黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 2	3.52	0.10	-	0.07	0.03	にい黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 3	0.68	0.11	-	0.06	0.07	黒褐色土 (10YR 3/2)	
SD 4	2.38	0.29	-	0.25	0.08	黒褐色土 (10YR 3/2)	
SD 5	0.68	0.19	-	0.03	0.02	明黄色土 (10YR 6/6)	
SD 6	2.14	0.16	-	0.06	0.08	黒褐色土 (10YR 3/2)	
SD 7	0.41	0.16	-	0.08	0.10	黒褐色土 (10YR 3/2)	
SD 8	1.32	0.10	-	0.07	0.05	にい黄褐色土 (10YR 4/3)	
跡跡(外)	1.26	0.83	-	-	-	土色は遺構図断面に記載	土部跡跡
跡跡(内)	0.90	0.70	0.79	0.63	0.23	土色は遺構図断面に記載	土部跡跡

SB10 (遺構図: 第30図) (遺物図: 第72・100・104図)

3E・4E区に位置し、P090に切られる。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で3.1×2.9m、床面で2.7×2.6m、深さは0.62mである。埋土中には人頭大の大型礫が含まれていた。また、床面から多量の炭化材が出土した。堅穴住居跡内に明確な生活用具等が出土しなかったため、住居の廃棄後に焼失したものと考えられる。

床面でピットを5基、石開炉を1基確認している。床面・壁面に基盤層内の大型礫が露出しており、主柱穴と推定したP1～P4の底面にも基盤層内の礫が見られる。床面中央に位置する石開炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。石開炉は4つの大型の河原石により形成され、南西側の一辺は扁平な台形状の石を用いる。内面形は方形で、輪郭は舟形を呈する。炉内の基盤層上面は被熱し赤褐色に変色している。入口方向は南西で、炉石の中心を通る軸はN=59° -Eである。炉石の掘形、貼床は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器162点、石器類5点である。

第20表 SB10遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	241, 243, 248, 251
中層	240, 242, 244~247, 249, 250, 252, 253, 1016
跡跡・ピット等	1084 (P 2)

第21表 SB10内の遺構

遺構名	法量(m)				土層	備考	
	上端 長軸 幅	下端 短軸 幅	深さ	1層土色	2層土色	3層土色	
P1	0.33	0.28	0.19	0.19	0.32	にい黄褐色土 (10YR 4/3)	主柱穴
P2	0.44	0.29	0.28	0.26	0.29	にい黄褐色土 (10YR 3/4)	主柱穴
P3	0.46	0.44	0.34	0.31	0.31	褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴 跡跡に遺物散在
P4	0.85	0.59	0.71	0.53	0.36	褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴
P5	0.53	0.39	0.18	0.09	0.23	褐色土 (10YR 4/4)	主柱穴
炉跡(外)	0.67	0.61	-	-	-	土色は遺構図断面に記載	
炉跡(内)	0.57	0.37	0.55	0.39	0.16	土色は遺構図断面に記載	

SB13 (遺構図: 第31図) (遺物図: 第72・99図)

5F区に位置している。SB12に切られるため、炉石の半分は崩れ、一部欠損している。炉内の基盤層上面及び炉石の一部が被熱し赤色に変色している。

出土遺物は、縄文土器5点である。

第22表 SB13遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号	法量(m)				土層
		上端 長軸 幅	下端 短軸 幅	深さ	1層土色	
中層	254, 747					
炉跡(外)	(1, 22)	(0, 70)	-	-	土色は遺構図断面に記載	
炉跡・ピット等	255 (炉内)	-	-	(1, 16)	(0, 48)	(0, 10)

SB14 (遺構図: 第32図) (遺物図: 第72~74・100・102・109図)

7B区に位置している。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で4.5×4.2m、床面で4.4×4.2m、深さは0.38mである。

床面でピットを16基、石開炉を1基、土坑を1基、溝状遺構を2条確認した。主柱穴はP1～P4と推定する。また、P1～P4は、P5～P8とそれぞれ切り合っており、建て替えが行われた可能性が考えられる。P1・P4・P9・P11・SK 1には基盤層内の礫が露出していた。

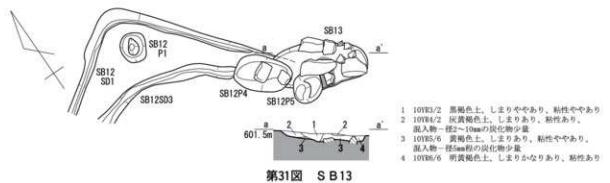
床面中央に位置する石開炉は、炉石の一部が欠損しており完全な形を留めていないが、被熱し赤色を呈している部分もある。炉内の燃土は確認できなかった。

入口方向は南南西で、炉石の中心を通る軸はN=23° -Eである。貼床は確認できなかった。

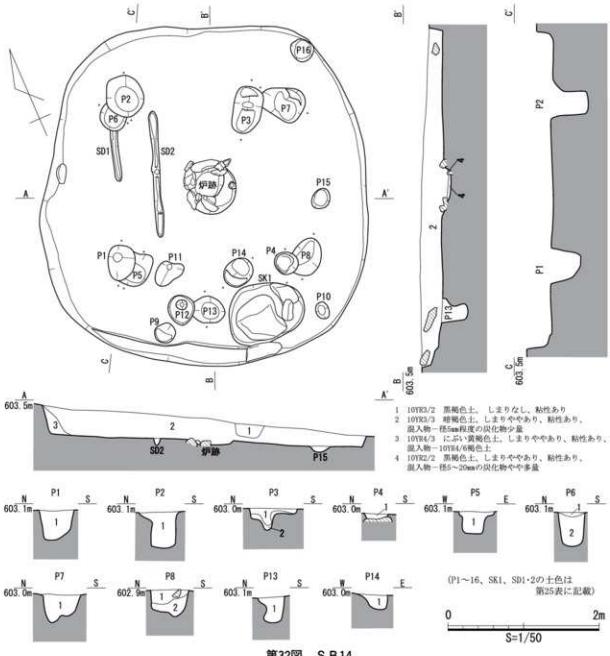
出土遺物は、縄文土器869点、土製品1点、石器類142点である。

第24表 SB14遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	256, 258~260, 263, 271~276, 283, 286, 292~298, 1021, 1145
中層	257, 262, 265~269, 277, 278, 280~282, 284, 287~289, 291, 299, 300, 1020, 1062
床面	279, 283, 290
炉跡・P等	261(P 2), 264, 270(SK 1)



第31図 SB13



第32図 SB14

第25表 SB14内の遺構

遺構名	法面(m)				土層	備考
	上端	短軸	長軸	下端		
					1 層土色	2 層土色
P 1	0.46	0.34	0.22	0.15	49 黒褐色土 (10YR 2/2)	
P 2	0.53	0.47	0.35	0.33	53 黒褐色土 (10YR 2/2)	主柱穴
P 3	0.61	0.36	0.16	0.15	35 黒褐色土 (10YR 2/2) 褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴
P 4	0.32	0.28	0.27	0.15	15 黒褐色土 (10YR 2/2)	主柱穴
P 5	0.49	(0.22)	0.27	(0.15)	0.27 黄褐色土 (10YR 5/6)	
P 6	0.36	(0.22)	0.27	(0.16)	0.4 黒褐色土 (10YR 2/2) 黄褐色土 (10YR 5/6)	旧主柱穴
P 7	(0.57)	0.44	0.47	0.25	0.47 黒褐色土 (10YR 2/2)	旧主柱穴
P 8	(0.49)	0.36	0.45	(0.17)	0.35 黒褐色土 (10YR 2/2) 黄褐色土 (10YR 5/6)	旧主柱穴
P 9	0.28	0.36	0.24	0.24	0.28 黄褐色土 (10YR 5/6)	
P10	0.30	0.16	0.16	0.10	10 黑褐色土 (10YR 3/3)	
P11	0.32	0.22	0.17	0.10	0.27 黒褐色土 (10YR 3/3)	
P12	0.38	0.34	0.37	0.32	0.13 黒褐色土 (10YR 3/3)	
P13	(0.40)	0.33	0.27	0.23	0.31 黒褐色土 (10YR 3/3)	
P14	0.39	0.32	0.26	0.24	0.16 黑褐色土 (10YR 2/2)	
P15	0.27	0.22	0.28	0.24	0.06 黒褐色土 (10YR 2/2)	
P16	0.30	0.28	0.24	0.23	0.07 黑褐色土 (10YR 3/3)	
SK 1	1.05	0.81	0.97	0.71	0.17 黒褐色土 (10YR 2/2)	地山難多
SD 1	0.67	0.67	-	0.04	0.10 黄褐色土 (10YR 4/6)	
SD 2	1.67	0.68	-	0.05	0.07 黄褐色土 (10YR 3/3) 黄褐色土 (10YR 4/6)	
炉跡	0.71	0.67	0.33	0.29	0.18 土色は遺構横断面に記載	

SB15 (遺構図: 第33・34図) (遺物図: 第75・98・99・102・109図)

7 A・7 B・8 A・8 B区に位置している。SB15を検出した周囲の基盤層は疊が多く含む。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で4.6×4.6m、床面で4.1×3.9m、深さは0.73mである。西側壁面で、テラス状の段を確認した。

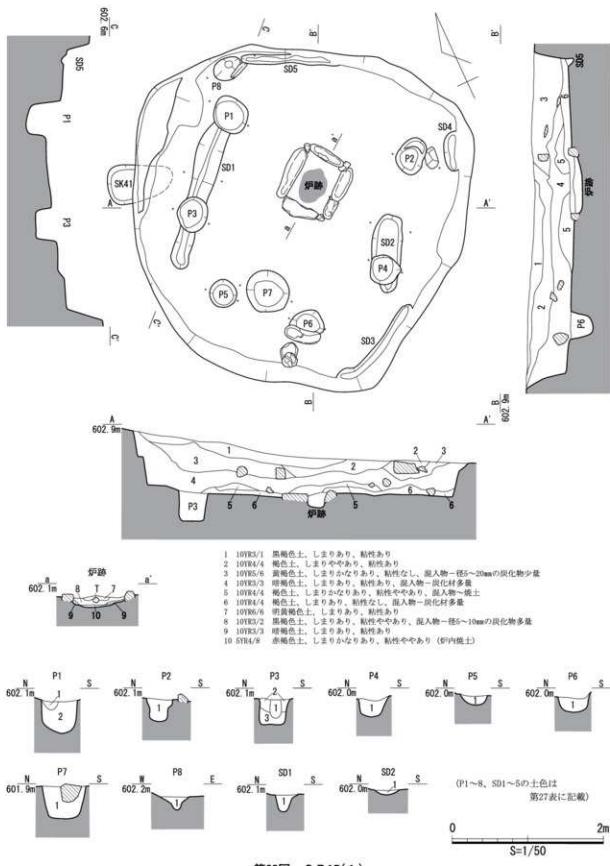
埋土掘削中に多い量の炭化材が出土する層（土層4）を確認した。多量の炭化材を取り除いた後、褐色土に焼土混じりの層（土層5）が見られた。また、床面上からも多量の炭化材が出土した（土層6）。

床面でピットを8基、石窯炉を1基、溝状造構を5条確認している。主柱穴はP 1～P 4と推定する。

床面中央に位置する石窯炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。円柱状3個、板状1個の河原石を方形に並べ、3か所の隙に小型の石を配置する。南西側の炉石は三角形で板状の河原石を埋設している。炉石の基盤層上面は被燃し赤褐色に変色している。

入口方向は南西で、炉石の中心を通る軸はN-49°-Eである。炉石の掘形、貼床は確認できなかつた。床面においても検出面同様、基盤層内の疊が多く露出していた。入口側壁面で2個の大型の円柱状河原石を確認している。1つは壁面に立て掛けるように、もう一つはP 6に添えられるように出土した。

出土遺物は、繩文土器390点、土製品2点、石器類43点である。ミニチュア土器（748・749・750・751・753）、土偶（738）、動物型土製品（737）が住居の床面の四隅で出土した。出土状況から廃棄に伴う祭祀儀礼として置かれた可能性が考えられる。



第26表 SB15遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	301, 302, 304, 306, 318, 323, 325, 326, 1063
中層	303, 305, 307~317, 319, 320, 322, 324, 328~332, 737, 750~753, 1146
床面	321, 738, 748, 749
炉跡・ピット等	327 (P 5)

第27表 SB15内の造構

造構名	法量(m)				土層	備考	
	上端	短軸	長軸	下端			
P 1	0.45	0.42	0.45	0.40	0.48 10YR 5/2)	黒褐色土 (10YR 3/2)	
P 2	0.47	0.45	0.32	0.20	0.36 10YR 2/1)	黒褐色土 (10YR 3/2)	主柱穴
P 3	0.48	0.46	0.36	0.30	0.36 10YR 2/1)	黒褐色土 (10YR 3/2)	主柱穴・屋根土裏人
P 4	0.40	0.38	(0.35)	0.24	0.30 10YR 2/1)	黒褐色土 (10YR 3/2)	主柱穴・屋根人
P 5	0.36	0.34	0.31	0.29	0.14 10YR 4/6)	黒褐色土 (10YR 3/2)	地土裏人
P 6	0.46	0.38	0.35	0.30	0.30 10YR 2/1)	黒褐色土 (10YR 3/2)	地土裏人
P 7	0.57	0.50	0.45	0.38	0.43 10YR 2/1)	黒褐色土 (10YR 3/2)	地土裏人
P 8	0.45	0.30	0.12	0.11	0.17 10YR 5/2)	黒褐色土 (10YR 3/2)	
SD 1	1.90	0.30	—	—	0.09 10YR 5/2)	黄褐色土 (10YR 5/6)	
SD 2	1.00	0.42	—	0.40	0.58 10YR 4/3)	黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 3	1.40	0.12	—	0.06	0.11 10YR 4/3)	黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 4	0.50	0.19	—	0.12	0.10 10YR 4/3)	黄褐色土 (10YR 4/3)	
SD 5	1.20	0.11	—	—	0.07 10YR 4/3)	黄褐色土 (10YR 4/3)	
炉跡(外)	0.95	0.82	—	—	—	土色は造構断面に記載	
炉跡(内)	0.68	0.54	0.68	0.56	0.21		

SB16(造構図: 第35図)(遺物図: 第76・100図)

5B・6B区に位置している。平面形は円形である。大きさは上端で2.8×2.8m、床面で2.7×2.6m、深さは0.4mである。床面でピットを8基、炉石を伴わない地床炉を1基確認した。壁際に沿ってピットが環状に配されるが、柱穴かどうかは不明である。P2・P5・P8は壁面に接している。床面中央の地床炉は、ほとんど掘り込みがなく、約3cmの厚さで赤く変色していた。點床は確認できなかった。

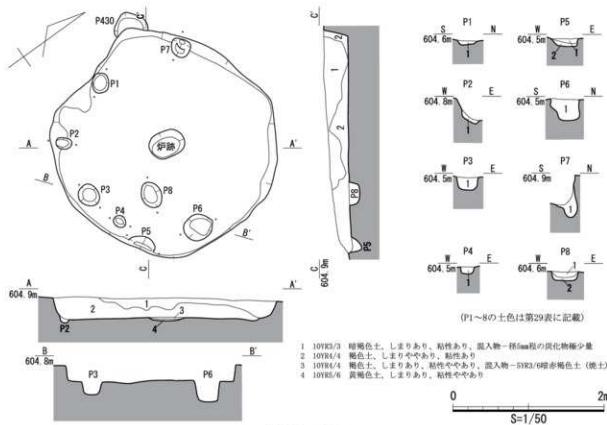
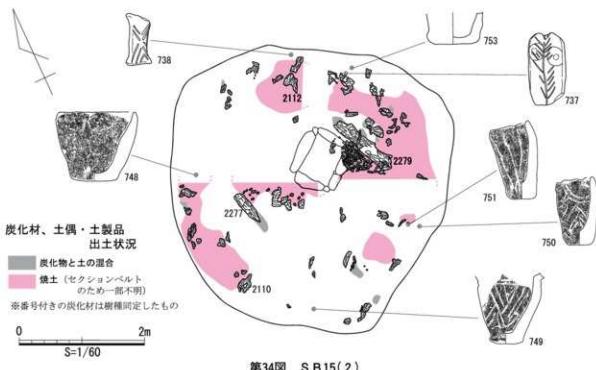
出土遺物は、縄文土器14点、石器類2点である。床面付近で動物意匠文土器(第76図337)が出土した。

第28表 SB16遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	335, 336, 338, 1022
中層	333, 334, 337
不明	339

第29表 SB16内の造構

造構名	法量(m)				土層	備考
	上端	短軸	長軸	下端		
P 1	0.25	0.21	0.22	0.19	0.04 暗褐色土 (10YR 3/4)	
P 2	0.22	0.14	0.20	0.12	0.06 暗褐色土 (10YR 3/4)	1層に径5mm程度の灰鉛少量混入
P 3	0.28	0.26	0.20	0.19	0.17 暗褐色土 (10YR 3/4)	
P 4	0.16	0.14	0.12	0.06	0.11 暗褐色土 (10YR 3/4)	1層に10YR5/6黄褐色土混入
P 5	0.33	0.14	0.27	0.04	0.11 暗褐色土 (10YR 3/4)	1層に10YR5/6黄褐色土混入
P 6	0.37	0.25	0.28	0.26	0.30 暗褐色土 (10YR 3/4)	
P 7	0.35	0.25	0.12	0.10	0.23 暗褐色土 (10YR 3/4)	
P 8	0.32	0.25	0.26	0.18	0.10 暗褐色土 (10YR 4/4)	2層に10YR2/2黒褐色土混入
炉跡	0.45	0.36	0.21	0.13	0.04 土色は造構断面に記載	



SB17 (遺構図: 第36図) (遺物図: 第77~79・98~100・102・105・107・109図)

6B・6C区に位置している。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で4.5×3.8m、床面で4.1×3.8m、深さは0.65mである。

床面でピットを7基、石窯炉を1基、溝状遺構を3条確認した。主柱穴はP1~P4と推定する。

床面中央から東北寄りに位置する石窯炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。石窯炉は炉石の掘形（土層4）が見られ、円柱状の河原石5個を用いて形成している。石窯炉の四隅のうち南東側の隅は石が立った状態で置かれていた。また、南北隅以外の3か所の隅には同一の縁を3つに割って埋設している。

入口方向は西南西で、炉石の中心を通る軸はN-65°-Eである。P3の脇でSB15のような大型の円柱状河原石が置かれていた。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器991点、土偶1点、土製品1点、石器類155点である。埋土中層の石窯炉の近くから土偶（第98図740）が出土した。

第30表 SB17遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	351, 354, 356, 357, 359~363, 366, 370~372, 382, 386, 387, 393, 395, 756, 1065, 1096, 1117, 1119
中層	343~350, 352, 355, 358, 364, 365, 367~369, 373~377, 379~381, 383, 388, 389, 391, 394, 740, 1023, 1073, 1075, 1118, 1147, 1148
床面	390, 392, 739, 755, 1024
炉跡・ピット等	378 (P 1), 384, 385, 393 (P 3)

第31表 SB17内の構造

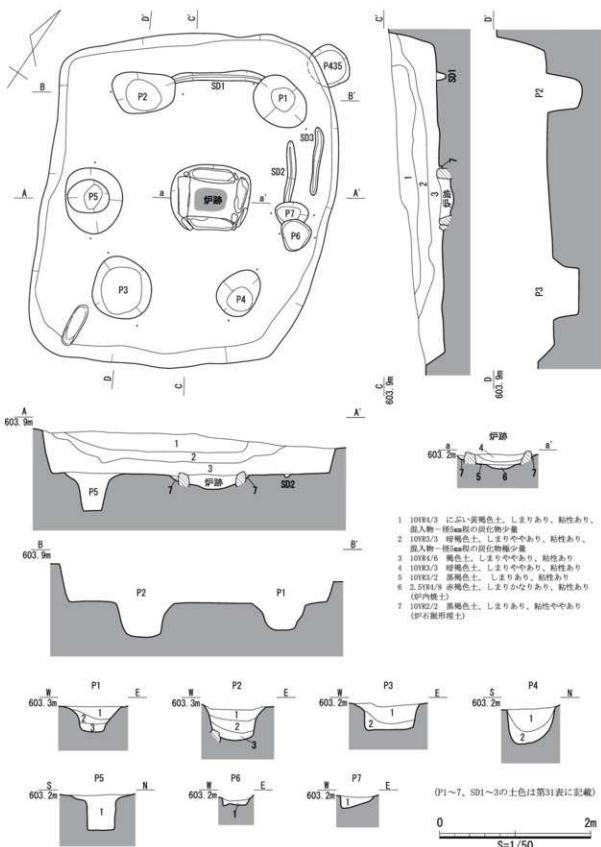
遺構名	法量(m)			土層	備考	
	上層	中層	下層			
P1	0.76	0.58	0.33	0.30	0.47	■ 棕褐色土 (10YR 3/3)
P2	0.80	0.54	0.55	0.40	0.45	■ 棕褐色土 (10YR 3/3)
P3	0.86	0.72	0.67	0.57	0.53	■ 棕褐色土 (10YR 4/3)
P4	0.86	0.50	0.48	0.38	0.45	■ 棕褐色土 (10YR 4/3)
P5	0.85	0.75	0.36	0.25	0.72	■ 棕褐色土 (10YR 4/3)
P6	0.40	0.38	0.38	0.33	0.07	■ 黄褐色土 (10YR 5/6)
P7	0.44	-	-	0.28	-	■ 黄褐色土 (10YR 4/4)
SD 1	1.07	0.10	1.06	0.04	0.11	■ 棕褐色土 (10YR 4/4)
SD 2	0.84	0.10	0.72	0.02	0.10	■ 棕褐色土 (10YR 4/4)
SD 3	0.90	0.11	0.80	0.06	0.05	■ 棕褐色土 (10YR 4/4)
炉跡(外)	0.86	0.78	-	-	-	土色は遺構断面に記載
炉跡(内)	0.64	0.52	0.63	0.48	0.19	

SB18 (遺構図: 第37図) (遺物図: 第76・100・107図)

4C区に位置している。南側壁面は開窓による削平を受け欠損している。平面形は円形と推定する。残存部の大きさは上端で4.2×4.0m、床面で4.1×4.0m、深さは0.32mである。

床面でピットを16基（P9は欠番）確認したが、南壁面が残存していないため、すべてがSB18に伴うピットではない可能性も考えられる。主柱穴は、深さと配置からP1・P6・P10・P17若しくはP1・P6・P10・P16と考えられる。床面中央の焼土は、炉石の抜き取り痕が確認できないため地床炉とを考えられる。掘り込みは8cm程度である。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器20点、石器類4点である。



第36図 SB18

第32表 SB18遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	340, 1120
中層	1025
炉跡・ピット等	341, 342 (P 4)

第33表 SB18内の遺構

遺構名	法量(m)			土層		備考
	上層 長軸	下層 短軸	深さ 短軸	1層土色	2層土色	
P 1	0.24	0.17	0.18	0.11	0.42	暗褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/8) 主柱穴
P 2	0.32	0.19	0.20	0.10	0.06	暗褐色土 (10YR 3/3)
P 3	0.17	0.15	0.15	0.12	0.03	暗褐色土 (10YR 3/4)
P 4	0.24	0.17	0.22	0.14	0.08	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P 5	0.43	0.32	0.40	0.30	0.05	褐色土 (10YR 4/6)
P 6	0.19	0.17	0.19	0.11	0.44	暗褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/8) 主柱穴
P 7	0.19	0.18	0.15	0.12	0.08	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P 8	0.36	0.23	0.06	0.05	0.19	暗褐色土 (10YR 3/4)
P 9	—	—	—	—	—	欠番
P10	0.19	0.19	0.12	0.12	0.44	暗褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6) 主柱穴
P11	0.20	0.16	0.13	0.12	0.37	暗褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P12	0.25	0.24	0.21	0.22	0.14	暗褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P13	0.20	0.17	0.14	0.10	0.19	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P14	0.42	0.40	0.35	0.35	0.21	暗褐色土 (10YR 3/4)
P15	0.41	0.24	0.11	0.08	0.26	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P16	0.27	0.23	0.19	0.17	0.25	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8) (主柱穴)
P17	0.15	0.15	0.14	0.11	0.35	暗褐色土 (10YR 3/4) (主柱穴)
炉跡	0.57	0.30	0.43	0.27	0.08	土色は遺構断面に記載

SB19（遺構図：第39・40図）（遺物図：第80～85・99・100・104・106・107・109・110図）

4C・4D・5C・5D区に位置している。東側がP598・599・SK53、南側がP607に切られる。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で6.3×5.8m、床面で5.9×5.6m、深さは0.87mと、今回の調査で確認した縄文時代の堅穴住居跡の中では最大である。

埋土掘削中に多量の炭化材が出土する層（土層2～5）を確認したが、炭化材が埋土に複雑に混入しており、他の焼失住居跡のように埋土と炭化材を分離し、図に記録することはできなかった。

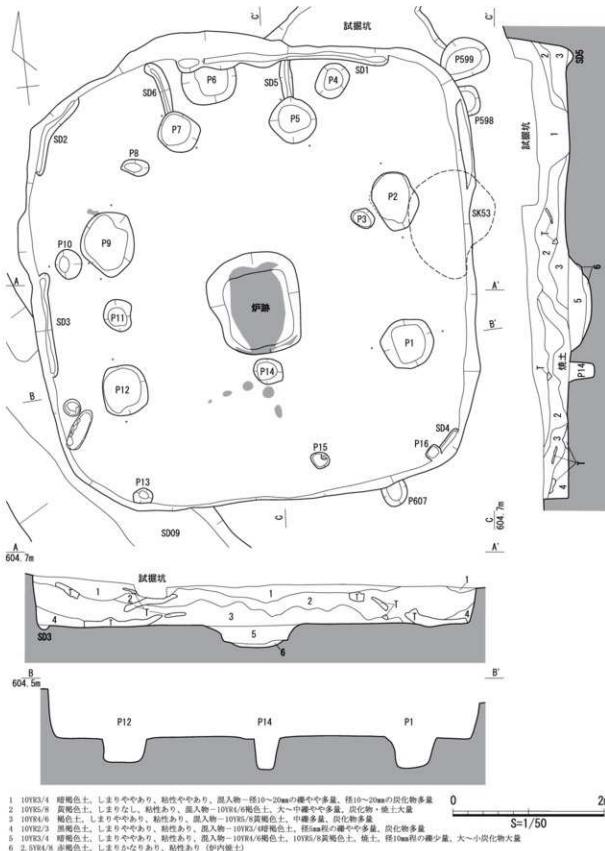
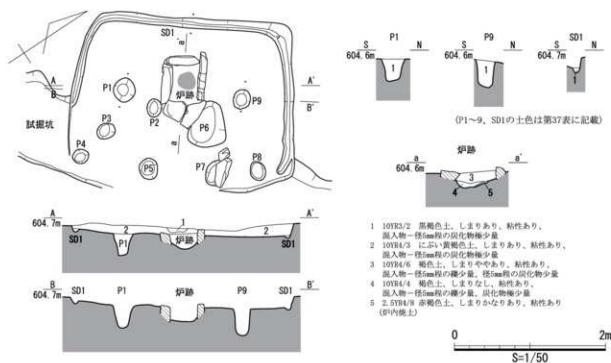
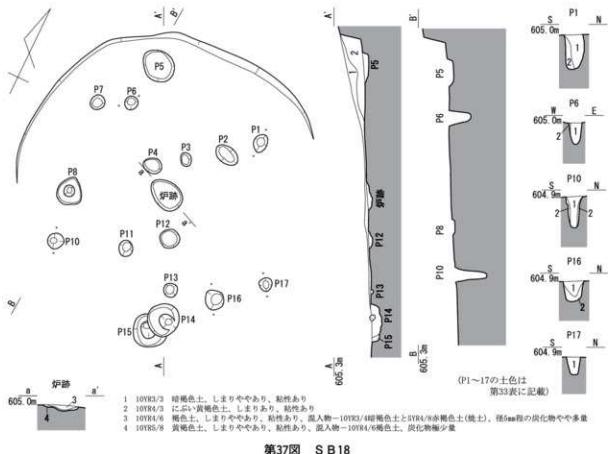
床面でピットを16基、炉跡を1基、溝状構造を6条確認した。主柱穴はP 1・P 2・P 9・P 12と推定する。

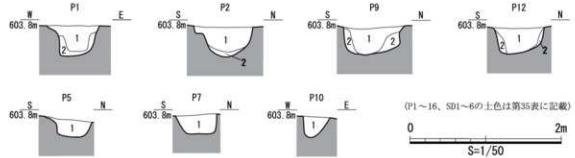
床面中央から南寄りに位置する炉跡は、炉石が全て抜き取られている。炉内の基盤層上面は被燃し赤褐色に変色しているが、掘形の周囲に被燃していない部分が見られることから、炉石が埋設されていた可能性が高い。

炉石がないため入口方向を断定できないが、SD 5・SD 6が壁面からP 5・P 7に向かって延びる様相はSB 4・SB 6等と同様であることから、入口方向は北と推定できる。炉石の中心を通る軸はN-Wである。

P12西側の床面で、SB15等と同様な格円形と円形の自然縫を確認した。SB19の炉石である可能性もあるが、被燃していない。炉石の掘形、貼床は確認できなかった。なお、炉跡の南脇及びP 9の脇の床面で焼土を確認した。

出土遺物は、縄文土器1037点、土製品9点、石器類143点である。床面から完形の浅鉢（第85図463）が出土した。P 2から出土した451は、ほぼ完形である。





第40図 SB19(2)

第34表 SB19遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	396, 397, 399, 400, 408, 409, 418, 434, 443, 448, 449, 457
中層	401~407, 416~417, 419~421, 424~433, 436, 437, 439~442, 444, 446, 447, 452~454, 458~462, 464, 465, 467, 571, 106, 1121, 1122, 1148
床面	398, 422, 435, 438, 445, 450, 455, 456, 463, 466, 468, 469, 1156
研究・ピット等	423, 451 (P'2)
不明	1026, 1093

第35表 SB19内の遺構

道橋名	法量(m)				渡さ	土層	備考	
	上端		下端					
	長軸	短軸	長軸	短軸		1 層土色	2 層土色	
P1	0.67	0.63	0.50	0.45	0.39	黃褐色土 (10YR 3 / 4)	褐色土 (10YR 4 / 6)	主柱穴
P2	0.79	0.56	0.27	0.25	0.41	黃褐色土 (10YR 3 / 4)	黃褐色土 (10YR 5 / 8)	主柱穴
P3	0.30	0.25	0.24	0.20	0.25	褐色土 (10YR 4 / 6)	褐色土 (10YR 5 / 8)	
P4	0.34	0.33	0.22	0.18	0.08	黃褐色土 (10YR 5 / 6)		
P5	0.62	0.50	0.40	0.35	0.28	黃褐色土 (10YR 3 / 4)		
P6	0.68	-	-	-	0.28	褐色土 (10YR 4 / 6)		
P7	0.35	0.29	0.49	0.40	0.40	褐色土 (10YR 3 / 4)		
P8	0.35	0.22	0.21	0.15	0.06	褐色土 (10YR 4 / 6)		
P9	0.78	0.69	0.76	0.58	0.40	暗褐色土 (10YR 3 / 4)	黃褐色土 (10YR 5 / 6)	主柱穴
P10	0.36	0.33	0.15	0.12	0.30	暗褐色土 (10YR 3 / 4)		
P11	0.43	0.42	0.22	0.20	0.30	暗褐色土 (10YR 3 / 4)	黃褐色土 (10YR 5 / 8)	
P12	0.67	0.56	0.40	0.38	0.34	暗褐色土 (10YR 3 / 4)	黃褐色土 (10YR 5 / 8)	主柱穴
P13	0.22	0.20	0.12	0.12	0.36	暗褐色土 (10YR 3 / 4)		
P14	0.38	0.37	0.26	0.25	0.43	暗褐色土 (10YR 3 / 4)	褐色土 (10YR 4 / 6)	
P15	0.24	0.21	0.16	0.15	0.04	暗褐色土 (10YR 3 / 4)		
P16	0.19	0.18	0.16	0.16	0.31	暗褐色土 (10YR 3 / 4)		
SD1	2.80	0.08	-	-	0.05	0.05	褐色土 (10YR 4 / 6)	
SD2	1.00	0.12	-	-	0.04	0.04	褐色土 (10YR 4 / 6)	
SD3	1.82	0.11	-	-	0.05	0.05	褐色土 (10YR 4 / 6)	
SD4	0.34	0.09	-	-	0.07	0.06	褐色土 (10YR 4 / 6)	
SD5	0.50	0.15	-	-	0.05	0.10	褐色土 (10YR 4 / 6)	
SD6	0.73	0.11	-	-	0.04	0.19	褐色土 (10YR 4 / 6)	
97#	1.35	1.15	0.94	0.81	0.24	土色と道橋断面図に記載		

SB20 (遺構図: 第38図) (遺物図: 第86図)

5C区に位置している。平面形は方形と考えられ、残存部の大きさは上端で $2.9 \times 2.6\text{m}$ 、床面で $2.9 \times 2.6\text{m}$ 、深さは 0.24m である。

床面でピットを9基、石囲炉を1基、溝状遺構を1条確認した。主柱穴はP1・P9と推定する。

床面中央から北西寄りに位置する炉跡は、炉石の抜き取りがなく完存している。大型の河原石4個により形成されており、南東側の1辺は扁平な三角形の石を平らに埋設している。内側は方形で、輪郭は舟形を呈する。炉内の基盤層上面の一部は被熱し赤褐色に変色している。床面には基盤層中の露出が多い。

入口方向は南東で、炉石の中心を通る軸はN-53°-Wである。炉石の掘形、貼床は確認できなかつた。

出土遺物は、縄文土器71点、石器類22点である。炉跡周辺出土470（第86図）は、ほぼ完形である。

第36表 SB20遺物の出土土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	471
中層	472, 474, 476, 477
床面	470, 475
炉跡・ピット等	473(炉内)
不明	478

第37表 SB20内の造構

造構名	法量(m)			土層	備考
	上層	下層	幅員		
P1	0.29	0.28	0.22	0.18	0.33 褐色土 (10YR 4/6)
P2	0.23	0.17	0.15	0.12	0.08 褐色土 (10YR 4/6) 褐色土 (10YR 4/6)
P3	0.22	0.20	0.14	0.13	0.05 褐色土 (10YR 4/6)
P4	0.21	0.17	0.16	0.13	0.07 褐色土 (10YR 4/6)
P5	0.26	0.22	0.15	0.10	0.10 暗褐色土 (10YR 3/4)
P6	0.60	0.48	0.53	0.40	0.26 褐色土 (10YR 4/6)
P7	0.35	—	0.24	—	0.09 褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P8	0.24	0.18	0.21	0.15	0.04 暗褐色土 (10YR 3/4) 褐色土 (10YR 4/6)
P9	0.24	0.22	0.17	0.14	0.35 褐色土 (10YR 4/6)
SD1	5.40	0.09	—	0.04	0.08 褐色土 (10YR 4/6)
炉跡(外)	0.98	0.57	—	—	—
炉跡(内)	0.48	0.49	0.55	0.40	0.28 土色は造構図断面に記載

SB21 (造構図: 第41図) (遺物図: 第87・88・98・100・109図)

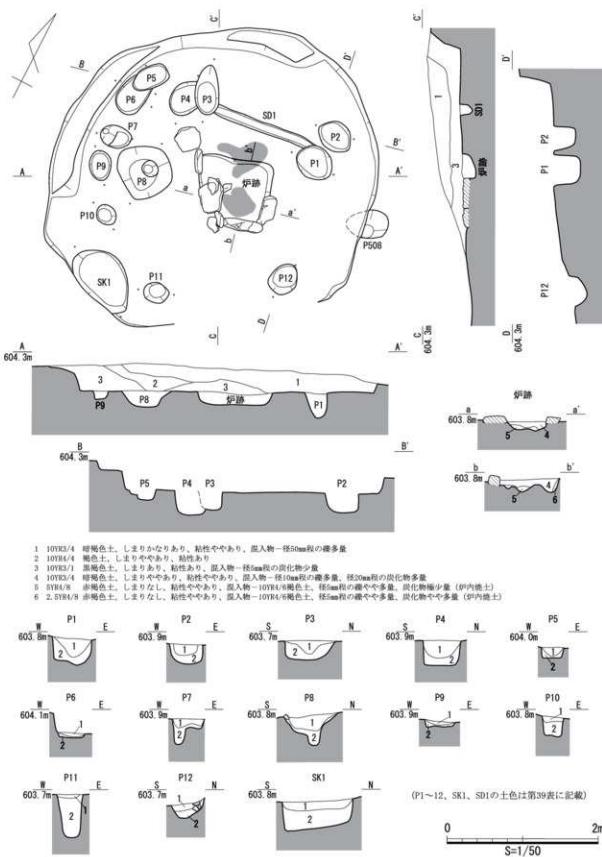
5C・5D・6C・6Dに位置している。東壁の一部がP508に切られる。南東壁面は開窓によって削平されている。平面形は円形である。残存部の大きさは上端で4.3×4.0m、床面で3.9×3.6m、深さは0.42mである。

床面でピットを12基、石闇炉を1基、土坑を1基、溝状造構を1条確認した。主柱穴は2基以上で、P1・P3がそれに相当すると考えられるが、それ以外は不明である。P11・P3の脇に同様の規模のP2・P4が存在し、石闇炉は焼土面が2面あった。また西側壁面で、テラス状の段を確認しており、住居の建て替えが行われた可能性が高い。

床面中央から東寄りに位置する炉跡は、炉石の半数以上が抜き取られていた。南西側には扁平な台形状の石を埋設しており、入口方向は西南西と考えられる。炉内の基盤層上面の一部は被熱し赤褐色に変色している。炉内の被熱した焼土面の一部が床面まで広がり、厚さは最大で2cmを測る。

炉石の中心を通る軸はN-76°-Eである。炉石の掘痕、貼床は確認できなかった。P4の南東側の床面からは、埋設された37×32cmの扁平な石が出土したが、用途は不明である。

出土遺物は、繩文土器51点、土偶3点、石器類58点である。土偶(742)はP9とP10の間の床面から、右半身と左半身とに割れた状況で出土した。右脚部はSB14の上層から出土した。



第41図 SB21

第38表 SB21遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	481, 482, 485, 496, 498, 500, 507, 509, 510, 515, 741
中層	479, 480, 483, 484, 486~491, 493~495, 499, 502~505, 508, 511~514, 516, 517, 1027, 1028, 1150
床面	492, 497, 501, 506, 742

第39表 SB21内の造構

造構名	法量(m)			土層	備考	
	上層	下層	短軸	長軸	短軸	深さ
P1	0.48	0.44	0.44	0.40	0.35	海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8) 主柱穴
P2	0.46	0.37	0.40	0.31	0.30	海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8) 旧主柱穴
P3	0.65	0.32	0.40	0.25	0.29	海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8) 主柱穴
P4	0.45	0.34	0.40	0.30	0.25	海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8) 旧主柱穴
P5	0.55	0.31	0.38	0.49	0.25	0.30 海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P6	(0.44)	0.35	-	0.34	0.38	海褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P7	0.40	0.29	0.10	0.08	0.35	海褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P8	0.76	0.70	0.53	0.48	0.42	海褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P9	0.38	0.30	0.33	0.25	0.11	海褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P10	0.29	0.23	0.24	0.19	0.25	海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P11	0.33	0.29	0.25	0.21	0.59	海色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P12	0.43	0.35	0.27	0.25	0.28	海褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/6)
SK 1	0.97	(0.60)	0.82	(0.50)	0.38	暗褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色土 (10YR 5/8)
SD 1	1.36	0.11	-	0.09	0.16	海色土 (10YR 4/6)
炉跡(外)	1.05	0.93	-	-	-	
炉跡(内)	0.53	-	0.45	-	0.18	

土色は造構断面に記載

SB24(造構図: 第42・43図)(遺物図: 第89・90・98・101・109図)

5E~5F区に位置しており、東側でSD09に切られる。南東側壁面は後世の削平を受けている。平面形は楕円形で、残存部の大きさは上端で5.6×4.8m、床面で5.5×4.8m、深さは0.57mである。

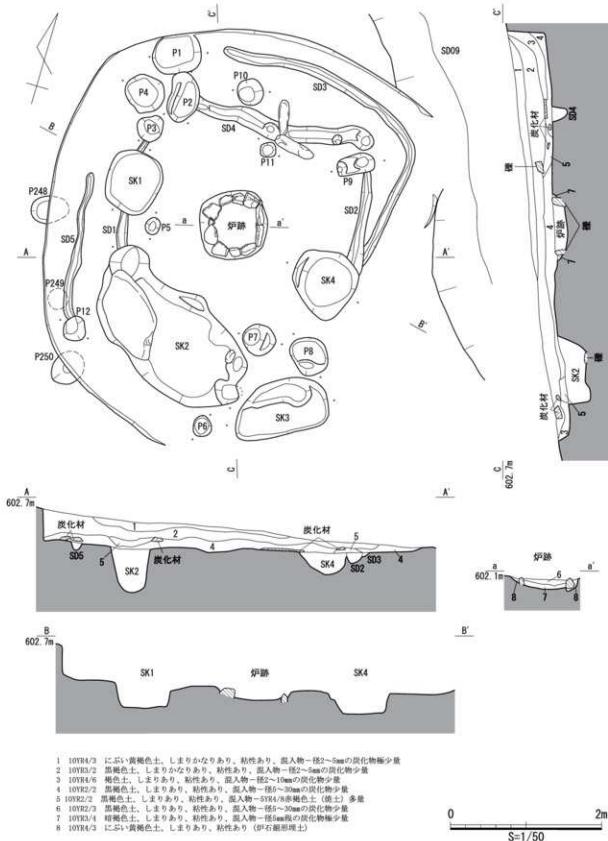
埋土掘削中に床面で多量の炭化材が出土したことから、焼失住居跡と考えられる(第43図)。

床面でピットを12基、石畳炉を1基、土坑を4基、溝状造構を5条確認した。主柱穴は不明であるが、ピットとピットの間に溝状造構を持つものが主柱穴であった可能性が高い。SK 2は両端に深みがありピット状になっており、柱穴であった可能性が考えられる。

床面のほぼ中央に位置する石畳炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。12個の小型縦を円形に埋設している。西側の4つの炉石は扁平面を上にして埋設しているため、入口の方向は南西と考えられる。炉石の解体を行い観察したところ、北辺の炉石3つは、石畳炉の形状が丸みを持つように円柱状の河原石1つを3分割して埋設していることが判明した。炉石の掘形(土層6)を確認したが、炉内に被熱痕はない。炉石の中心を通る軸はN-73°~Eである。

SD 2及びSD 3はSK 4付近で交差することから、主軸方向を変えて住居の拡張を行った可能性が考えられる。床面SD 4上の床面でL字型に配置した円柱状の河原石を検出した。貼床は確認できなかつた。

出土遺物は、繩文土器641点、土偶2点(743, 744)、石器類365点が出土した。



第42図 SB24(1)

1 10YR4/2 上ぶく 黄褐色土。しまりかなりあり、粘性あり、混入物一部2~5mmの炭化物少量

2 10YR3/2 黑褐色土。しまりかなりあり、粘性あり、混入物一部2~5mmの炭化物少量

3 10YR2/2 黒褐色土。しまりあり、粘性あり、混入物一部2~5mmの炭化物少量

4 10YR2/2 黑褐色土。しまりあり、粘性あり、混入物一部2~5mmの炭化物少量

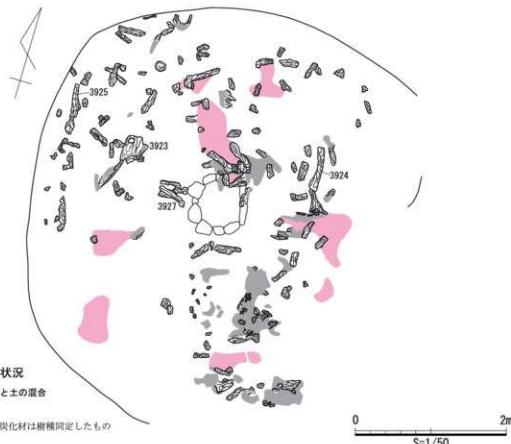
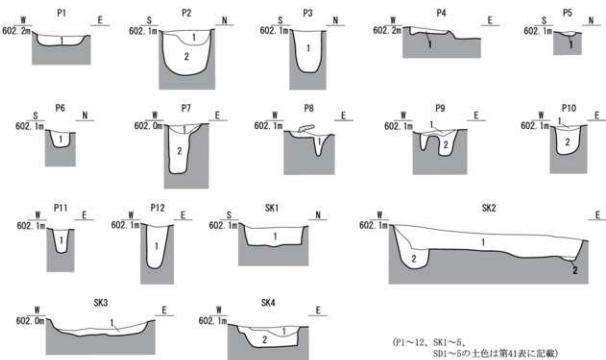
5 10YR2/2 黑褐色土。しまりあり、粘性あり、混入物一部2~5mmの炭化物少量

6 10YR2/2 黑褐色土。しまりあり、粘性あり、混入物一部2~5mmの炭化物少量

7 10YR3/4 灰褐色土。しまりあり、粘性あり、混入物少量

8 10YR4/3 上ぶく 黄褐色土。しまりあり、粘性あり (P石器形成土)

0 2m
S=1/50



第43図 SB24(2)

第40表 SB24遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	518, 536, 542, 550, 554～556, 1031
中層	519, 523, 525～528, 530～535, 537～539, 543, 544, 546, 548, 549, 551, 557, 743, 744, 1032, 1134, 1151
床面	520～522, 545, 547, 552, 553
炉跡・ピット等	1030 (P 8), 540 (SK 1), 524 (SK 2), 529 (SK 3), 541 (SD 3)

第41表 SB24内の遺構

遺構名	法線(m)				土層	備考
	上層	短軸	長軸	厚さ		
P 1	0.62	0.53	0.53	0.45	0.13 褐色土 (10YR 4/4)	
P 2	0.66	0.23	0.45	0.25	0.58 黒褐色土 (10YR 2/3)	褐色土 (10YR 4/6)
P 3	0.37	0.34	0.29	0.26	0.55 黒褐色土 (10YR 2/3)	
P 4	0.51	0.46	0.43	0.32	0.05 にぶく 黃褐色土 (10YR 4/3)	
P 5	0.21	0.18	0.13	0.08	0.06 黒褐色土 (10YR 2/3)	
P 6	0.26	0.24	0.24	0.21	0.22 黒褐色土 (10YR 2/3)	
P 7	0.45	0.40	0.29	0.27	0.61 黒褐色土 (10YR 2/3)	褐色土 (10YR 4/4)
P 8	0.52	0.44	0.50	0.38	0.05 黒褐色土 (10YR 2/3)	
P 9	0.50	0.23	0.14	0.12	0.34 黒褐色土 (10YR 2/3)	褐色土 (10YR 4/4)
P 10	0.33	0.33	0.24	0.22	0.55 黒褐色土 (10YR 2/3)	褐色土 (10YR 4/6)
P 11	0.19	0.19	0.16	0.14	0.31 黒褐色土 (10YR 2/3)	
P 12	0.31	0.28	0.28	0.16	0.56 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SK 1	0.77	0.69	0.75	0.61	0.30 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SK 2	2.60	1.20	2.43	1.02	0.32 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SK 3	1.24	0.69	0.75	0.15	0.30 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SK 4	0.85	0.83	0.67	0.65	0.28 黒褐色土 (10YR 2/3)	褐色土 (10YR 4/6)
SD 1	1.48	0.12	—	0.09	0.09 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SD 2	1.36	0.11	—	0.04	0.12 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SD 3	4.00	0.10	—	0.04	0.03 褐色土 (10YR 4/4)	
SD 4	2.20	0.16	—	0.08	0.16 黒褐色土 (10YR 2/3)	
SD 5	2.00	0.14	—	0.07	0.05 褐色土 (10YR 4/4)	
炉跡(外)	0.83	0.82	—	—	—	土色は遺構図断面に記載
炉跡(内)	0.58	0.54	0.54	0.54	0.13	

SB25(遺構図: 第44図)(遺物図: 第91・101・109図)

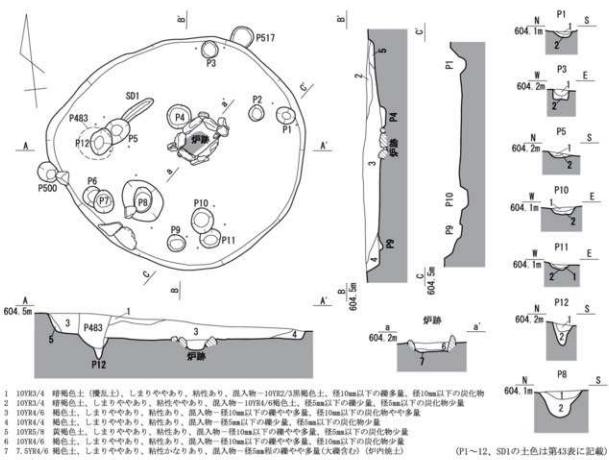
5C・6C区に位置しており、P483に切られる。平面形は円形である。大きさは上端で3.2×3.1m、床面で3.0×3.0m、深さは0.39mである。

床面でピットを12基、石臼炉を1基、溝状遺構を1条確認した。主柱穴は配置からP1・P3・P10・P12と推定する。

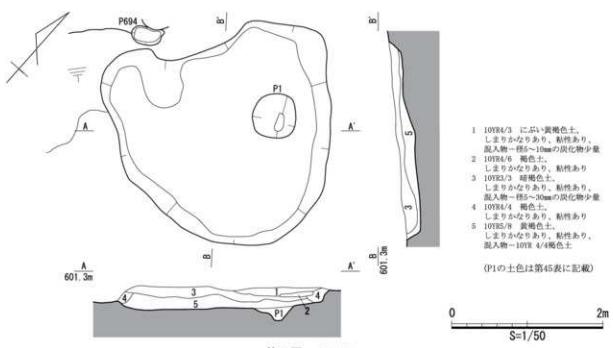
床面中央から東寄りに位置する小型の石臼炉は、ほぼ完存している。この石臼炉の炉石は、他の堅穴住居跡に見られるような円柱状の河原石ではなく、基礎層中に含まれる礫を使用している。炉石外側(幅4～5cm)はややしまりのない土ではあったが、明確な炉石の掘形は確認できなかった。炉内で焼土が混入した土層(土層7)を確認した。入口方向は南東で、炉石の中心を通る軸はN-37°～Wである。出土遺物は、繩文土器146点、石器類13点である。

第42表 SB25遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	558, 563, 565, 569, 570
中層	560～562, 564, 566, 567
床面	559, 1033, 1123, 1152
炉跡・ピット等	571 (P12), 568 (炉内)



第44図 S B25



第45図 S B28

第43表 SB25内の遺構

遺構名	法量(m)				土層	備考
	上端	下端	長軸	短軸		
P1	0.23	0.21	0.13	0.10	0.08	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6) 主柱穴
P2	0.20	0.20	0.16	0.14	0.08	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P3	0.22	0.20	0.19	0.18	0.14	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P4	0.31	0.30	0.27	0.20	0.08	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P5	0.28	-	0.17	-	0.14	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P6	0.25	-	0.17	-	0.14	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P7	0.27	0.25	0.20	0.18	0.13	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P8	0.60	0.48	0.32	0.24	0.48	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P9	0.25	0.24	0.18	0.16	0.08	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
P10	0.31	0.30	0.25	0.20	0.14	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8) 主柱穴
P11	0.28	-	0.18	-	0.11	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/8)
P12	0.30	-	0.14	0.11	0.28	褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土 (10YR 5/6)
SD1	0.47	0.10	-	-	0.05	褐色土 (10YR 4/6)
剥離(外)	0.62	0.50	-	-	-	
剥離(内)	0.44	0.32	0.42	0.30	0.11	

土色は遺構断面に記載

SB28 (遺構図: 第45図) (遺物図: 第91図)

6F区に位置している。平面形は不定形である。大きさは上端で3.0×2.9m、床面で2.8×2.6m、深さは0.15mである。SB28に伴う遺構は床面北東部のピット1基のみである。P1内の埋土はSB5の土層5と同じ土である。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、繩文土器47点、石器類26点である。

第44表 SB28遺物の出土地点 第45表 SB28内の遺構

出土地点	報告書掲載番号	法量(m)				土層	備考
		上端	下端	長軸	短軸		
中層	572-575						

SB29 (遺構図: 第46図) (遺物図: 第92・101・103・104・108図)

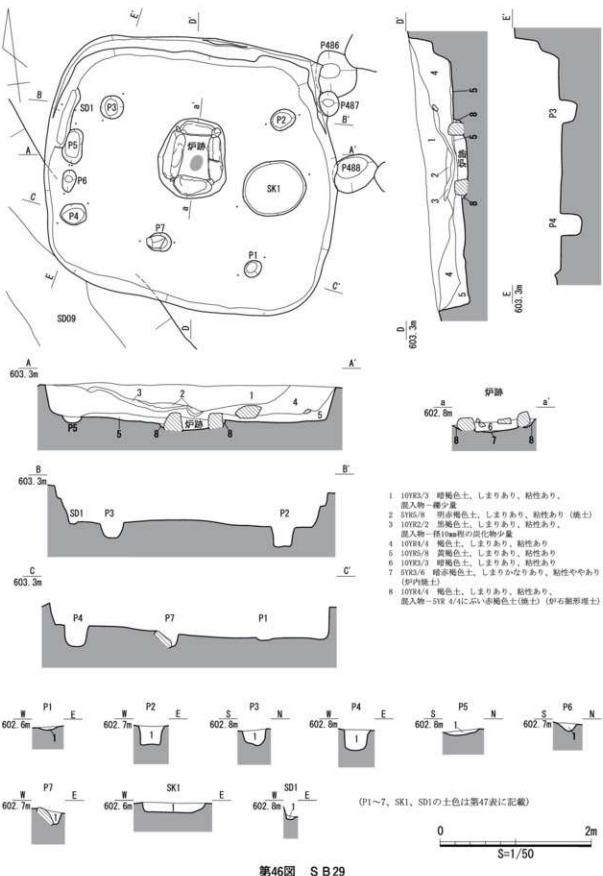
5D・5E区に位置しており、東側でP486～P488に切られる。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で3.9×3.6m、床面で3.7×3.2m、深さは0.6mである。土層断面の土層2は明赤褐色の焼土である。床面でピットを7基、石圓炉を1基、溝状遺構を1条確認した。主柱穴はP1～P4と推定する。

床面中央から北寄りに位置する石圓炉は、炉石の抜き取りがなく完存している。4個の円柱状の大型河原石を用いた方形で、南辺は扁平面を上にして埋設している。四隅には角砾を埋設している。炉内の中央部が被熱して暗赤褐色に変色している。幅2～11cm、深さ約5cmの炉石の掘形（埋土6）を確認した。入口方向は南南西で、炉石の中心を通る軸はN=15°～Eである。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、繩文土器487点、石器類78点である。

第46表 SB29遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	593, 599, 600
中層	589～592, 594～596, 598, 601～605, 607～611, 613～616, 618, 1034～1036, 1079, 1085, 1135
床面	597, 612, 617
炉跡・ピット等	606 (炉跡)



第47表 SB29内の遺構

遺構名	法線(m)				土層	備考
	上端	下端	長軸	短軸		
P1	0.25	0.22	0.16	0.11	0.03	暗褐色土 (10YR 3/3) 柱穴
P2	0.33	0.25	0.25	0.22	0.24	褐色土 (10YR 4/4) 柱穴
P3	0.29	0.28	0.23	0.23	0.22	褐色土 (10YR 4/4) 柱穴
P4	0.34	0.27	0.34	0.20	0.29	暗褐色土 (10YR 3/3) 柱穴
P5	0.46	0.23	0.39	0.19	0.07	褐色土 (10YR 4/4)
P6	0.28	0.16	0.16	0.11	0.10	褐色土 (10YR 4/4)
P7	0.27	0.23	0.14	0.05	0.13	褐色土 (10YR 4/4)
SK1	0.83	0.72	0.76	0.68	0.32	暗褐色土 (10YR 3/3)
SD1	0.82	0.73	—	—	0.09	褐色土 (10YR 4/4)
炉跡(外)	0.99	0.73	—	—	—	土色は遺構断面に記載
炉跡(内)	0.56	0.36	0.55	0.35	0.23	土色は遺構断面に記載

SB31 (遺構図: 第47図) (遺物図: 第91図)

9C・10C区に位置しており、調査区の最も東側で確認した堪穴住居跡である。平面形は方形である。大きさは上端で3.0×2.5m、床面で2.8×2.5m、深さは0.32mである。床面でピットを4基、炉跡を1基、溝状構造を1条確認した。柱穴はP1～P4と推定する。床面中央から西寄りに位置する炉跡は、埋土が褐色を呈し、炭化物が混入することから炉跡と判断した。しかし、炉跡の土層断面では柱痕が確認できるピット状の遺構であるため、柱穴の可能性も考えられる。この場合、SB31は本柱の堪穴住居跡の可能性が考えられる。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器9点、石器類2点である。

第48表 SB31遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	577, 579, 582
中層	576, 578
床面	580, 581

第49表 SB31内の遺構

遺構名	法線(m)				土層	備考
	上端	下端	長軸	短軸		
1	10YR 3/3	暗褐色土、しまりあり、粘性あり。 混入物-陶器片量少				
2	10YR 4/4	褐色土、しまりあり、粘性あり。 混入物-柱穴				
3	10YR 2/2	黒褐色土、しまりあり、粘性あり。 混入物-柱穴の炭化物少量				
4	10YR 5/5	黄褐色土、しまりあり、粘性あり。				
5	10YR 8/8	黄褐色土、しまりあり、粘性あり。				
6	10YR 3/3	暗褐色土、しまりあり、粘性あり。				
7	10YR 2/2	暗褐色土、しまりあり、粘性ややあり (柱穴)				
8	10YR 4/4	褐色土、しまりあり、粘性あり。 混入物-石器類				
炉跡	10YR 4/4	褐色土、(右)灰褐色土(地)(左)灰褐色土(地)				
						土色は遺構断面に記載

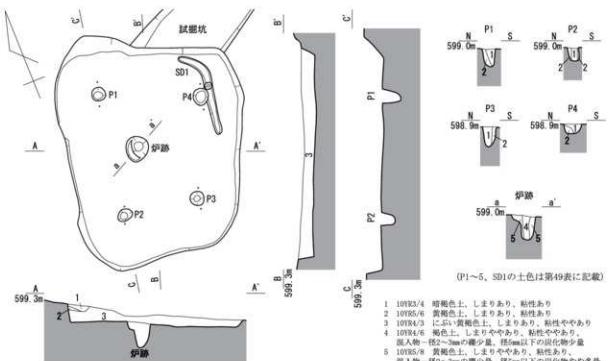
SB32 (遺構図: 第48図) (遺物図: 第91・101図)

8D・8E区に位置し、北側でSB23、西側で現代の搅乱土坑SX10に切られる。西側の床面の広がり及び壁面は確認していない。平面形は不明である。残存部の大きさは、上端で4.4×2.2m、床面で4.3×2.1m、深さは0.17mである。床面でピットを7基確認したが、柱穴は不明である。貼床は確認できなかった。出土遺物は、縄文土器18点である。

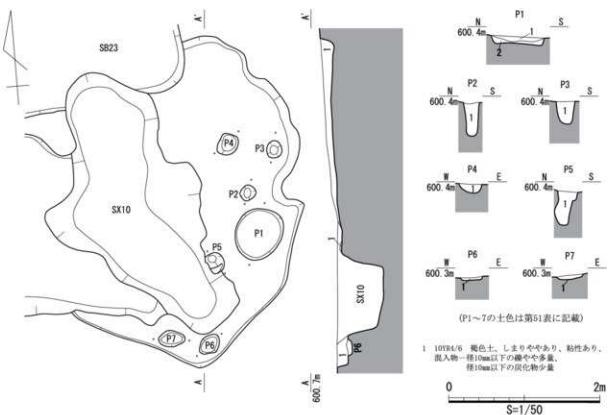
第50表 SB32遺物の出土地点

第51表 SB32内の遺構

出土地点	報告書掲載番号	法線(m)				土層	備考
		上端	下端	長軸	短軸		
上層	585, 1037	0.67	0.58	0.48	0.57	1 柱土色 (10YR 4/4)	2 黄褐色土 (10YR 5/6)
中層	584, 586, 588	0.33	0.19	0.14	0.08	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 4/6)
炉跡・ピット等	583, 587 (P1)	0.27	0.21	0.10	0.05	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 4/6)
		0.30	0.26	0.23	0.20	0.12	褐色土 (10YR 4/6)
		0.17	—	0.14	0.12	褐色土 (10YR 4/6)	褐色土 (10YR 4/6)
		0.31	0.22	0.27	0.17	0.05	褐色土 (10YR 4/6)
		0.34	0.20	0.31	0.17	0.06	褐色土 (10YR 4/6)



第47図 SB31



第48図 SB32

2 弥生時代

弥生時代中期の竪穴住居跡を2軒確認した。

SB 9 (遺構図: 第49図) (遺物図: 第93図)

4E区に位置しており、西側でP088と切り合う。南東側壁面は確認できなかった。平面形は方形である。残存部の床面の広がりは4.2m×4.2m、深さは0.12mである。

床面でピットを30基確認した。主柱穴は不明である。また、土層断面等から考えると、全てのピットがSB 9に伴うとは断言できない。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、弥生時代中期の土器44点、石器類14点である。

第53表 SB 9 内の遺存

第52表 SB 9 遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
中層	620, 1015
床面	619, 1060

第53表 SB 9 内の遺材

探査名	法長(m)						備考
	上端		下端		深5		
	長軸	短軸	屈曲	1層土色	2層土色	3層土色	
P1	0.61	0.34	0.13	0.09	0.22	暗褐色土 (10YR 2/2)	暗褐色土 (10YR 3/3)
P2	0.34	0.16	0.25	0.06	0.06	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P3	0.34	0.25	0.24	0.13	0.07	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P4	0.48	0.39	0.27	0.18	0.17	暗褐色土 (10YR 2/2)	
P5	0.45	0.28	0.41	0.19	0.13	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P6	0.28	0.26	0.19	0.19	0.20	13 暗褐色土 (10YR 2/2)	
P7	0.26	0.23	0.19	0.15	0.24	暗褐色土 (10YR 2/2)	
P8	0.23	0.19	0.17	0.12	0.25	黑色土 (10YR 2/2)	暗褐色土 (10YR 3/3)
P9	0.30	0.25	0.22	0.14	0.06	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P10	0.46	0.41	0.37	0.18	0.12	黑色土 (10YR 2/2)	
P11	0.47	0.43	0.41	0.26	0.11	暗褐色土 (10YR 3/4)	
P12	0.64	0.18	0.21	0.15	0.34	黑色土 (10YR 2/2)	暗褐色土 (10YR 3/4)
P13	0.37	0.26	0.27	0.10	0.06	黑色土 (10YR 2/2)	
P14	0.41	0.34	0.33	0.26	0.07	暗褐色土 (10YR 3/4)	
P15	0.54	0.07	0.36	0.10	0.06	黑色土 (10YR 2/3)	暗褐色土 (10YR 3/4)
P16	0.28	0.26	0.20	0.20	0.06	暗褐色土 (10YR 3/4)	
P17	0.70	0.35	0.55	0.18	0.08	暗褐色土 (10YR 3/4)	
P18	0.51	0.38	0.30	0.17	0.12	黑色土 (10YR 2/2)	暗褐色土 (10YR 4/2)
P19	0.26	0.20	0.20	0.10	0.06	暗褐色土 (10YR 3/4)	
P20	0.60	0.29	0.30	0.10	0.15	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P21	0.42	0.49	0.27	0.20	0.09	暗褐色土 (10YR 3/4)	
P22	0.50	0.50	0.44	0.49	0.11	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P23	0.40	0.29	0.23	0.22	0.17	暗褐色土 (10YR 2/2)	
P24	0.70	0.40	0.38	0.19	0.19	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P25	0.47	0.43	0.29	0.19	0.05	0.17	黑色土 (10YR 2/2)
P26	0.48	0.29	0.34	0.22	0.23	暗褐色土 (10YR 3/3)	
P27	0.38	0.35	0.36	0.32	0.09	暗褐色土 (10YR 2/2)	
P28	0.58	0.50	0.43	0.40	0.27	暗褐色土 (10YR 2/3)	黑色土 (10YR 2/3) 黑褐色土 (10YR 2/2)
P29	0.32	0.23	—	0.12	0.14	黑色土 (10YR 2/2)	黑褐色土 (10YR 2/2)
P30	0.20	0.20	0.13	0.13	0.11	褐色土 (10YR 4/4)	褐色土 (10YR 4/4)

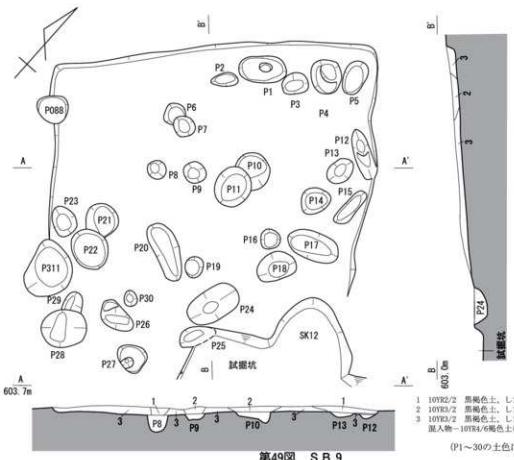
SB12 (遺構図: 第50図) (遺物図: 第93図)

4F・4G・5F・5G区に位置しており、東側でSB13を切る。南東側壁面は後世の開闢により確認できなかった。平面形は方形と推定する。残存部の床面の広がりは、8.8m×4.0m、深さは0.57mである。床面から多量の炭化材が出土したことから、焼失住居と判断した。西側には、長さ2.0m、幅0.3mの壁板材と思われる炭化材を確認した（詳細は第5章を参照）。

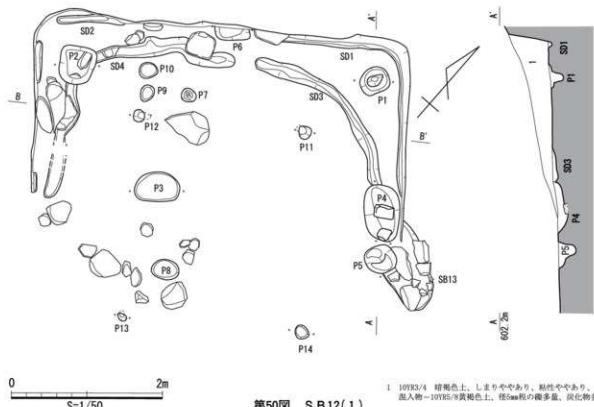
床面でピットを14基、溝状遺構を4条確認した。主柱穴はP11～P14と推定する。しかし、P14は深

第54表 SB12遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	623, 624, 626
中層	622,
床面	621
不明	625, 627



第49図 SB 9



第50図 SB 12(11)

さが3cmしかなく、他の3穴と比べ浅いため、主柱穴ではない可能性もある。床面中央から西寄りで、明赤褐色に変色した焼土を確認した。北壁際で36×32×7cmの幅広な石が出土した。明確な使用痕は観察できなかったが、何らかの目的で設置されたものと考えられる。SD1・SD2は壁面に沿っており、SD3・SD4は床面で弧状に設置されることから、竪穴の拡張や、建て替えを行った可能性が考えられる。主軸はN-36°-Wである。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、弥生時代中期後葉の土器120点、石器類6点である。

第55表 SB12内の遺構

遺構名	法量(m)			土層			備考
	上層	中層	下層	反転	原転	深さ	
P 1	0.38	0.38	0.14	0.10	0.19	黒褐色土 (10YR 3/1)	
P 2	0.49	0.45	0.36	0.14	0.16	黒褐色土 (10YR 3/1)	
P 3	0.58	0.38	0.56	0.26	0.10	黒褐色土 (10YR 3/1)	
P 4	0.76	0.45	0.49	0.24	0.18	黒褐色土 (10YR 2/1)	
P 5	0.41	0.36	0.21	0.15	0.25	黒褐色土 (10YR 2/1)	
P 6	0.47	0.32	0.34	0.26	0.29	辺縁部 黒褐色土 (10YR 4/3)	
P 7	0.20	0.20	0.13	0.13	0.11	黒褐色土 (10YR 3/1)	
P 8	0.30	0.25	0.32	0.23	0.04	灰褐色土 (10YR 4/2)	
P 9	0.23	0.17	0.20	0.14	0.06	黒褐色土 (10YR 3/1)	
P 10	0.23	0.20	0.22	0.19	0.04	黒褐色土 (10YR 3/1)	
P11	0.18	0.17	0.15	0.13	0.57	黒褐色土 (10YR 3/1)	主柱穴か
P12	0.15	0.15	0.10	0.09	0.32	黒褐色土 (10YR 3/1)	主柱穴か
P13	0.11	0.08	0.09	0.09	0.07	21 黒褐色土 (10YR 3/1)	主柱穴か
P14	0.20	0.18	0.18	0.12	0.03	黒褐色土 (10YR 3/1)	主柱穴か
SD 1	-	-	-	-	-	灰褐色土 (10YR 4/2)	
SD 2	-	-	-	-	-	0.06 0.09 灰褐色土 (10YR 4/2)	
SD 3	-	-	-	-	-	0.07 0.09 黒褐色土 (10YR 3/1)	
SD 4	-	-	-	-	-	0.16 0.09 黒褐色土 (10YR 3/1)	

3 古墳時代

古墳時代初頭の竪穴住居跡を4軒、古墳時代中期の竪穴住居跡を1軒確認した。

SB22（遺構図：第52図）（遺物図：第93図）

SD 9・D 9区に位置している。南東側壁面は削平を受けており確認できなかった。平面形は方形である。残存部の床面の広がりは4.8×4.7m、深さは0.28mである。床面上では跡跡や主柱穴は確認できなかった。貼床も確認できなかった。床面の南東側以外では基盤層に含まれる礫が多量に露出している。

出土遺物は、古墳時代初頭の土師器75点、石器類3点である。

SB23（第53・93・101図、写真図版9・30・34・35）

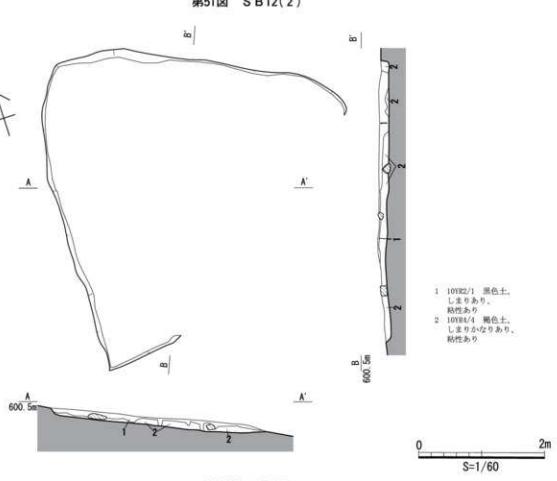
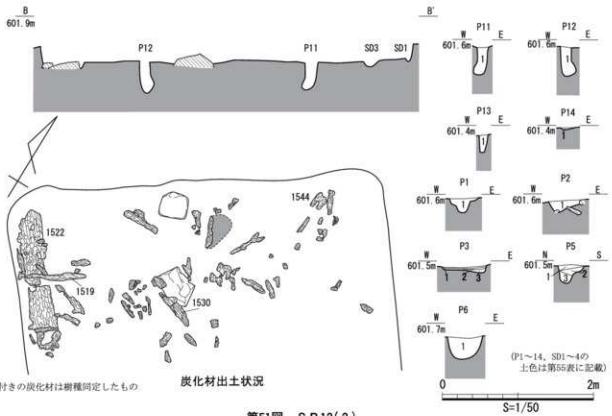
D区に位置しており、南側でSB22・SX10と切り合う。平面形は方形である。大きさは上端で3.4×2.8m、床面で3.3×2.8m、深さは0.36mである。床面でピットを15基、跡跡を1基確認した。主柱穴はP 6・P 10を推定したが、対応する柱穴が見られない。床面中央から西寄りに位置する跡跡では、灰石が西壁に向かって開くようにコの字形状に配置される。長さ20cm前後の円柱状の河原石を、深

第56表 SB22遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	629, 633
中層	628, 630, 631
床面	632, 634

第57表 SB23遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	637, 638, 1029
中層	635, 639, 641
床面	636, 640, 642
跡跡・ピット等	641(P15)
不明	760



さ10cmの掘幅の中に埋設している。また、炉跡周辺、P7とP8の間、P2とP13の間の床面で焼土を確認した。床面には基盤層に含まれる礫が多量に露出している。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、古墳時代初頭の土器54点、弥生土器41点、石器類3点である。

第58表 SB23内の遺構

遺構名	法縦(m)				土層			備考	
	上端	長軸	下端	短軸	深さ	1 層土色	2 層土色	3 層土色	
P1	0.25	0.24	0.18	0.10	0.06	暗褐色土 (10YR 3/4)			
P2	0.33	0.20	0.18	0.12	0.14	暗褐色土 (10YR 3/4)			
P3	0.35	0.26	0.34	0.24	0.05	褐色土 (10YR 4/6)			
P4	0.33	0.32	0.32	0.31	0.04	褐色土 (10YR 4/6)			
P5	0.20	0.15	0.10	0.10	0.13	暗褐色土 (10YR 3/4)			
P6	(0.45)	0.34	—	0.24	0.19	暗褐色土 (10YR 3/4)			主柱穴
P7	0.68	0.54	0.57	0.40	0.13	暗褐色土 (10YR 3/4)	褐色土 (10YR 4/6)		
P8	0.28	0.20	0.15	0.14	0.07	黄褐色土 (10YR 5/6)			
P9	0.59	0.41	0.35	0.38	0.14	暗褐色土 (10YR 3/4)	黃褐色土 (10YR 5/6)		
P10	0.64	0.34	0.30	0.24	0.18	褐色土 (10YR 4/6)	黃褐色土 (10YR 5/6)		
P11	0.28	0.26	0.18	0.14	0.11	褐色土 (10YR 4/6)			
P12	0.28	0.26	0.18	0.14	0.11	褐色土 (10YR 4/6)			
P13	0.28	0.18	0.17	0.16	0.04	褐色土 (10YR 4/6)			
P14	0.32	0.22	0.30	0.18	0.04	褐色土 (10YR 4/6)			
P15	0.48	0.30	0.43	0.15	0.13	褐色土 (10YR 4/6)	暗褐色土 (10YR 3/4)	黃褐色土 (10YR 5/6)	
炉跡(外)	0.50	0.36	—	—	—				
炉跡(内)	0.42	0.17	0.35	0.14	0.10				
						土色は遺構断面に記載			

SB26(遺構図:第54図)(遺物図:第94図)

8E区に位置している。平面形は方形である。大きさは上端で3.5×3.3m、床面で3.4×3.1m、深さは0.46mである。

埋土中及び床面で多量の炭化木と焼土を確認したことから、焼失住居と考えられる(第54図)。床面上に見られる硬化した焼土の厚さは最大で7cmある。茅状の炭化材は樹種同定の結果、ススキであった(詳細は第5章参照)。

床面でピットを9基、炉跡を1基、溝状遺構を1条確認した。

主柱穴はP1・P3・P6・P9と推定する。周溝SD1は全長約5.7mで、北東・北東側の壁面に位置している。床面中央から北西寄りに位置する炉跡は、SB23同様、炉石が北西壁側に向かって開くように、深さ4cmの掘幅の中にコの字状に配置される。

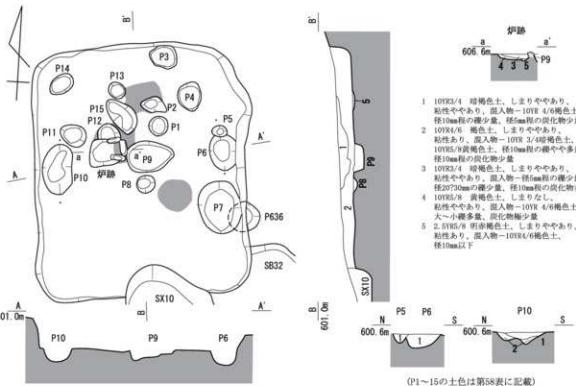
出土遺物は、古墳時代初頭の土器54点、弥生土器41点である。

第59表 SB26遺物の出土地点

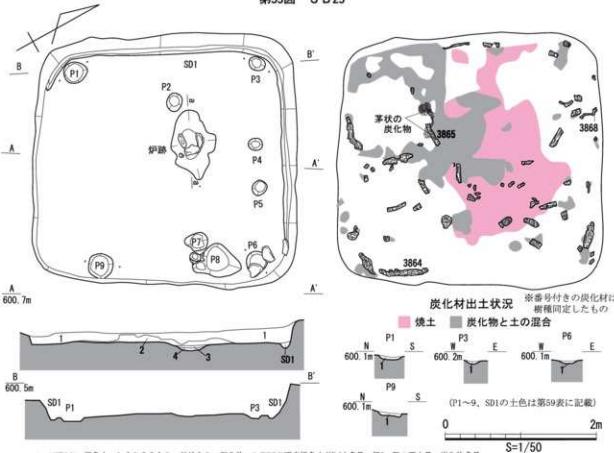
出土地点	報告書掲載番号
上層	650
中層	644, 649, 652, 657
床面	645, 651, 655, 656
炉跡・ピット	653(P8)
不明	643, 646, 647, 648

第60表 SB26内の遺構

遺構名	法縦(m)				土層			備考	
	上端	長軸	下端	短軸	深さ	1 層土色	2 層土色		
P1	0.28	0.26	0.27	0.24	0.04	褐色土 (10YR 4/6)			
P2	0.23	0.20	0.15	0.14	0.23	暗褐色土 (10YR 3/4)	褐色土 (10YR 4/6)		
P3	0.20	0.19	0.15	0.13	0.07	褐色土 (10YR 4/6)			
P4	0.17	0.16	0.12	0.10	0.03	褐色土 (10YR 4/6)			
P5	0.28	0.27	0.21	0.14	0.05	褐色土 (10YR 3/4)			
P6	0.28	0.27	0.21	0.16	0.25	褐色土 (10YR 4/6)			
P7	0.30	0.25	0.18	0.13	0.22	褐色土 (10YR 4/6)			
P8	0.67	0.50	0.27	0.23	0.37	暗褐色土 (10YR 3/4)			
P9	0.32	0.30	0.30	0.27	0.06	褐色土 (10YR 4/6)			
SD1	5.66	0.69	—	—	0.07	褐色土 (10YR 4/6)			
炉跡(外)	0.94	0.62	—	—	—				
炉跡(内)	0.31	—	0.40	0.34	0.10	土色は遺構断面に記載			



第53図 SB23



1. 10YR 4/4 暗褐色土, しまりややあり, 軟性ややあり, 地面物-2.30%の明褐色土(焼土)多量, 10YR 4/4の微量, 10YR 4/4の微量, 焙化物多量
2. 3.3%の明褐色土, しまりややあり, 軟性ややあり, 地面物-2.30%の明褐色土(焼土)少量, 10YR 4/4の微量, 10YR 4/4の微量, 焙化物多量
3. 10YR 4/4 暗褐色土, しまりなし, 軟性ややあり, 地面物-2.30%の明褐色土(焼土)少量, 10YR 4/4の微量, 10YR 4/4の微量, 焙化物多量
4. 10YR 4/4 暗褐色土, しまりややあり, 地面物-2.30%の明褐色土(焼土)多量, 10YR 4/4の微量, 10YR 4/4の微量, 焙化物多量

第54図 SB26

SB27 (遺構図: 第55図) (遺物図: 第94図)

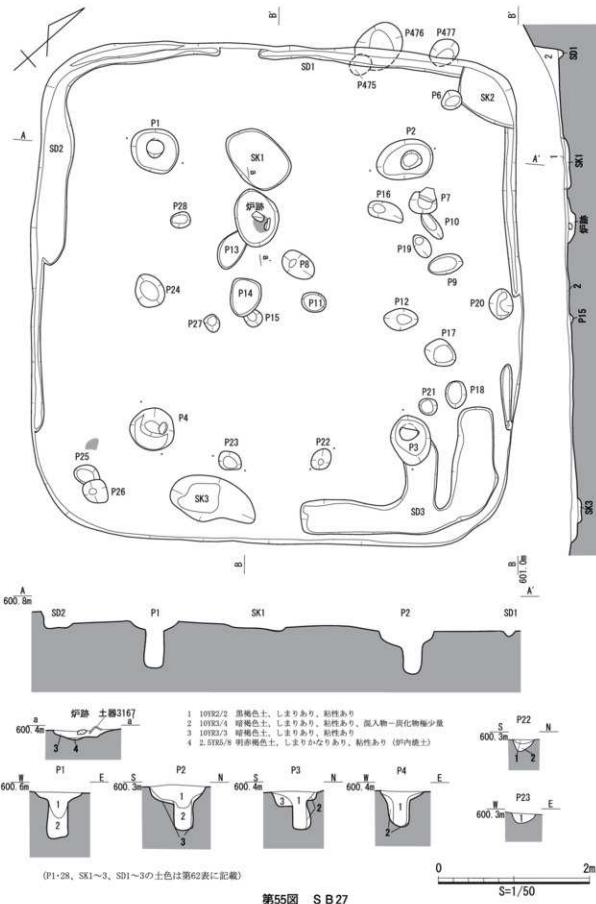
7E・7F・8E・8F区に位置している。平面形は方形である。大きさは上端で6.6×6.5m、床面で6.5×6.4mである。耕作土の搬出による削平を受けており、深さは最も残りの良い北西側で0.4mであるが、南東側・南西側では約0.1mである。床面でピットを27基、炉跡を1基、土坑を3基、溝状遺構を3条確認した。主柱穴はP1～P4と推定する。主柱穴は4基とも中央部分のみが深くなっている。土層断面等から推定して、全ての遺構がSB27に伴うとは断言できない。SB27埋土の掘削時に土師器高壙(662)が出土した。高壙を取り上げる前に床面精査を行ったところ、出土した周間に遺構のプランを確認した。この遺構の埋土内で、SB23・SB26と同様な炉石が出土したため、炉跡と判断した。この炉跡には、コの字状に配置された炉石の一部と考えられる2個の石が残存していた。ただし、2個とも移動していた可能性があり、開口方向は不明である。炉跡は床面中央から北西寄りに位置する。この他、南隅に近い床面上でも焼土が見られた。貼床は確認できなかった。

出土遺物は、古墳時代初頭の土師器118点、石器類18点である。

第62表 SB27内の遺構

遺構名	法量(m ³)				備考	
	上端	下端	長軸	短軸		
P1	0.65	0.56	0.25	0.24	0.60 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:暗褐色土 (10YR 3/2)	主柱穴
P2	0.77	0.50	0.26	0.18	0.59 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:暗褐色土 (10YR 3/2)	主柱穴
P3	0.63	0.50	0.26	0.21	0.50 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:暗褐色土 (10YR 4/4)	主柱穴
P4	0.56	0.55	0.22	0.16	0.51 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:暗褐色土 (10YR 6/6)	主柱穴
P5	-	-	-	-	-	欠番
P6	0.27	0.23	0.21	0.20	0.09 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/6)	
P7	0.36	0.23	0.20	0.12	0.13 ○印:燒土 (10YR 3/3)	
P8	0.45	0.30	0.43	0.27	0.17 ○印:燒土 (10YR 3/3)	
P9	0.46	0.25	0.43	0.19	0.09 ○印:燒土 (10YR 3/3)	
P10	0.37	0.16	0.34	0.12	0.08 ○印:燒土 (10YR 3/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/6)	
P11	0.35	0.25	0.33	0.23	0.09 ○印:燒土 (10YR 3/3)	
P12	0.45	0.28	0.35	0.21	0.21 ○印:燒土 (10YR 3/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/6)	
P13	(0.50)	(0.48)	(0.45)	(0.35)	(0.11) ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/6)	
P14	0.44	0.45	0.42	0.42	0.11 ○印:燒土 (10YR 2/2) △印:黃褐色土 (10YR 5/6)	
P15	0.22	0.20	0.20	0.13	0.11 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 4/6)	
P16	0.48	0.21	0.38	0.16	0.19 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
P17	0.40	0.33	0.38	0.28	0.08 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 4/6)	
P18	0.36	0.27	0.33	0.21	0.10 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 4/6)	
P19	0.33	0.21	0.29	0.15	0.12 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
P20	0.40	0.34	0.35	0.25	0.08 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
P21	0.23	0.23	0.22	0.18	0.11 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
P22	0.29	0.25	0.22	0.19	0.09 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
P23	0.32	0.23	0.20	0.14	0.18 ○印:燒土 (10YR 4/3)	
P24	0.46	0.39	0.13	0.11	0.07 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
P25	0.26	(0.23)	0.25	(0.15)	0.13 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 4/6)	
P26	0.28	0.31	0.33	0.26	0.14 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 4/6)	
P27	0.25	0.20	0.18	0.17	0.09 ○印:燒土 (10YR 4/3)	
P28	0.20	0.20	0.14	0.07	0.07 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
SK 1	0.69	0.61	0.71	0.58	0.06 ○印:燒土 (10YR 2/2)	
SK 2	1.03	0.61	0.10	0.48	0.06 ○印:燒土 (10YR 4/3)	
SK 3	1.14	0.68	0.62	0.53	0.06 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 3/3)	
SD 1	(6.06)	0.15	-	-	0.12 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 3/3)	
SD 2	(6.80)	0.40	-	0.37	0.06 ○印:燒土 (10YR 4/4) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
SD 3	(3.56)	0.20	-	0.25	0.08 ○印:燒土 (10YR 4/3) △印:黃褐色土 (10YR 5/4)	
土壤(HIPS)	0.77	0.56	0.75	0.53	0.11 土色は遺構断面に記載	

出土地点	報告書掲載番号
上層	658, 662, 668
中層	663, 665
床面	659, 664, 666, 667
炉跡・ピット等	1091(F 9)
不明	660, 661, 761



SB33 (遺構図: 第56図) (遺構図: 第94図)

4II区に位置しており、北東側でSK20と切り合う。また埋土内でSK14と切り合う。平面形は方形で、南北側壁面は自然流路の埋土内であったため、確認できなかった。残存部の大きさは床面で5.0×3.7m、深さは0.21mである。

床面でピットを4基、竈跡を1基確認した。主柱穴はP1・P2・P4と推定する。北西側の主柱穴は確認できなかった。

北壁面中央から東寄りに位置する竈跡は、竈穴の外側に赤色を呈する焼土が延びており、煙道跡であると考えられる。竈跡埋土中及び床面にも焼土を確認しているが、上部構造を示す土層等は確認できなかった。

出土遺物は、古墳時代中期の須恵器片、土師器片である。

第64表 SB33内の遺構

遺構名	法量(m)				土層		備考
	上層	下層	上層	下層	1層土色	2層土色	
P1	0.30	0.28	0.28	0.26	0.29 黒褐色土 (10YR 2/3)	褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴
P2	0.32	0.31	0.21	0.15	0.26 暗褐色土 (10YR 3/4)	褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴
P3	0.32	(0.31)	0.30	—	0.21 暗褐色土 (10YR 3/4)		
P4	0.32	0.29	0.32	0.29	0.25 暗褐色土 (10YR 3/4)	褐色土 (10YR 4/6)	主柱穴
竈跡	1.00	0.70	—	—	0.31 土色は遺構図断面に記載		

第4節 その他の遺構

1 土坑 (SK) (遺構図: 第57図)

堅穴住居跡に属しない土坑は89基検出した。貯蔵穴、土坑墓と明確に判断できるものはなかった。すべてのSKについて計測表を示す(第66表)。そのうちの特徴のある数基について記載する。出土遺物は、672 (SK049)、673 (SK053)、674 (SK088)、1038 (SK046)、1107 (SK040)を掲載している(第95・99図)。

SK002

調査区の北西3B区に位置している。平面形は隅丸方形である。大きさは上端で2.0×1.8m、下端で1.9×1.7m、深さは1.2mである。底面中央部やや西側にピットを2基確認した。主柱穴や石闌炉はなく、時代が特定できるような土器は出土していないが、様相はSB3に類似しており、堅穴住居跡であった可能性がある。出土遺物は、縄文土器が22点、石器類が7点である。

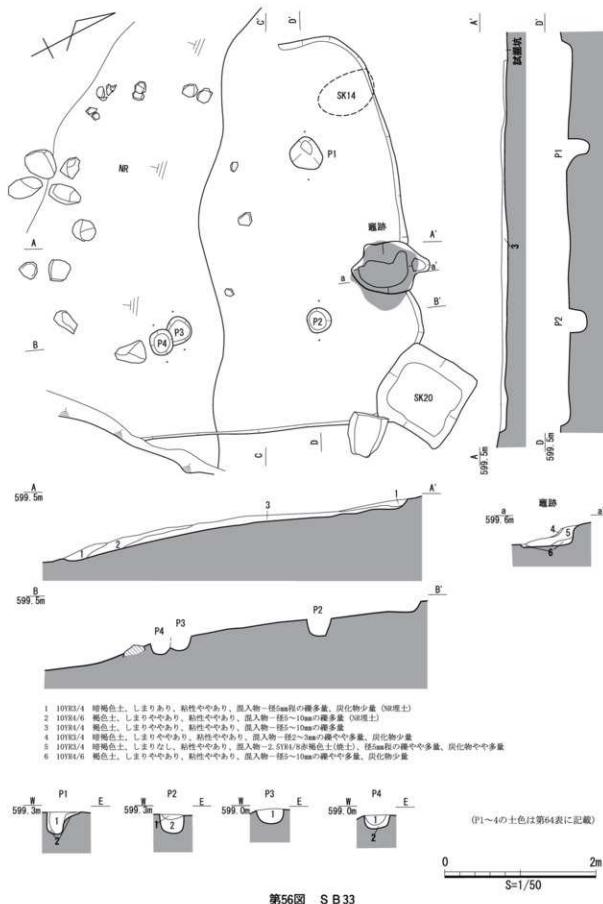
SK017、019、020、033、034、035

3J・4I・5I・6II区に位置し、6基の土坑が7.2mの等間隔で1列に並んでいる。平面形は全て方形である。大きさはいずれも上端で2.0×1.8mである。

SK033は形状を方形にするために壁面に露出している大型礫を打ち欠いている。埋土は、炭と土の層とが幾重にも繰り返し重なっている。SB33を切っていることから、古墳時代中期以降の土坑列と考えられるが、詳細は不明である。

第63表 SB33遺物の出土地点

出土地点	報告書掲載番号
上層	670
中層	669



第56図 S B 33

2 ピット(P)（遺構図：第57図）

竪穴住居跡の床面以外から検出したピットは744基である。掘立柱建物跡等の明確な柱穴列は確認できなかった。すべてのピットについて計測表を示す（第66~69表）。出土遺物は、675（P373）、676（P478）、677-678（P516）、679（P589）、681~684（P628）、1040（P306）、1064（P739）、1136（P623）を掲載している（第95・101・108図）。

3 不明遺構(SX)（遺構図：第57図）

検出時に性格の判断がつかなかった遺構を不明遺構とし、10基を確認した。なお、SX02・SX05・SX08・SX10は後世の搅乱であった。すべての不明遺構について計測表を示す（第69表）。特徴のあるSX03とSX06について以下に記す。出土遺物は、685（SX03）、686（SX06）、1039（SX08）、687（SX11）、688（SX11）を掲載している（第95・101図）。

SX03

調査区南西の3I区に位置している竪穴状の遺構である。南西側壁面は確認していないが、平面形は方形と推定する。大きさは底面の残存部で2.9×1.5m、深さは0.1mであった。底面はほぼ平らである。山茶碗の皿（685）が出土した。

SX06

3G区に位置している竪穴状の遺構である。自然流路内の埋土である第III層上で炭化物が広がる範囲をSX06とした。平面形は方形であり、大きさは上端で3.5×1.9m、下端で3.36×1.76m、深さは0.37mである。壁面沿いに炭化材と焼土が混在した部分を3か所確認した。また、底面でも焼土を確認した。須恵器の盤（686）が出土した。また、SX06西側の同一面で滑石製の紡錘車1137（第108図）が出土した。

4 溝状遺構(SD)

9条確認した。すべての溝状遺構について計測表を示す（第70表）。

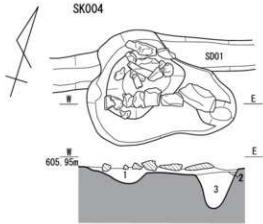
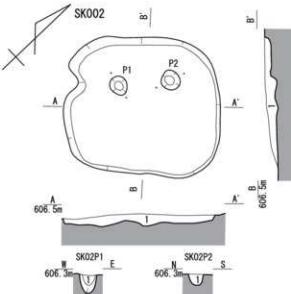
SD01・SD02・SD03・SD04・SD08は、遺構底部の所々で黄褐色（10YR 5/8）の粘質土を検出したことから、流路である可能性が高い。また、SD08の中央部では、木板等を用いて水を堰き止めていたと考えられる痕跡を確認した。

調査区の中央部を南北に通じるSD09は、幅約2.0m、深さは0.33mである。開墾後の旧農道の下に位置する。聞き取りの結果、旧農道が造成される以前から見量山へ通じる山道がこの位置に存在していたことが判明した。SD09は縄文時代の竪穴住居跡を切っていることから、弥生時代以降の道路であると考えられる。

SD05・SD06・SD07の性格は不明である。

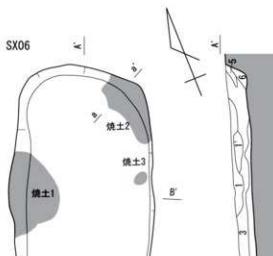
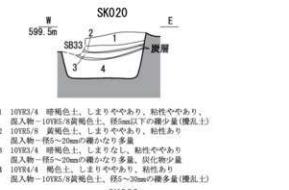
5 自然流路(NR)（第95図）

2C区から4I区にかけて位置し、南北端は調査区外に続いている。SX06等がNRの埋土上に作られていた。流路の埋土掘削前に第IV層から、縄文時代早期の条痕文系の縄文土器（689~691）が出土した。また、第III層と第IV層の境で、弥生時代中期と思われる甕（692）が出土した。よって、NRは縄文時代早期から弥生時代中期にかけて埋没したと考えられる。

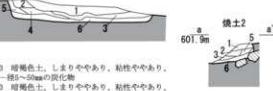
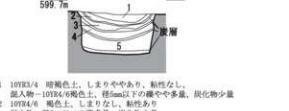


1. 10Y32/4 暗褐色土、しまりややあり、粘性なし、鉄入物・炭化物少量
2. 10Y32/4 黄褐色土、しまりややあり、粘性あり、鉄入物・炭化物少量
3. 10Y32/3 黄褐色土、しまりややあり、粘性なし、鉄入物・炭化物少量

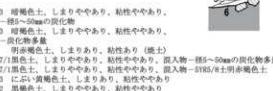
1. 10Y32/4 暗褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・10Y6/6褐色土、層5m以下下の層やや多量
2. 10Y32/4 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・炭化物少量
3. 10Y32/3 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・炭化物少量
4. 10Y32/4 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・炭化物少量
5. 10Y32/3 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・10Y6/6褐色土、層1~2mの層少量



1. 10Y3/4 暗褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・10Y6/6褐色土、層5m以下下の層やや多量、炭化物少量
2. 10Y3/8 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・炭化物少量
3. 10Y3/4 暗褐色土、しまりややし、粘性ややあり、鉄入物・1~2mの層やや多量、炭化物少量
4. 10Y3/4 黄褐色土、しまりややあり、粘性ややあり、鉄入物・炭化物少量
5. 10Y3/4 黄褐色土、しまりなし、粘性ややあり、鉄入物・10Y6/6褐色土、層5~30mの層多量(鉄込土)



1. 10Y3/4 暗褐色土、しまりややあり、粘性あり
2. 10Y3/3 黄褐色土、しまりややあり、粘性あり



1. 10Y3/4 暗褐色土、しまりややあり、粘性あり
2. 10Y3/3 黄褐色土、しまりややあり、粘性あり

第57図 主なSK・P・SX

0
S=1/50
2m

第56図 積穴式住居跡計測表

遺構名	時代	地名	平面形	上層 長軸	上層 幅員	下層 長軸	下層 幅員	柱数	人口 方向	柱主 穴数	柱脚・壁脚	主な切口合	備考	
SB1	周文	2.C, 3C	楕円方形	3.25	3.20	3.18	3.09	0.42	9	東北東	N=65°-E	石砂脚	>SK3	
SB2	周文	2.B, 3.C	楕円方形	3.42	(2.03)	2.38	1.97	0.41	-	不明	N=50°-E	-	<SK2	
SB3	周文	2.C, 3.C	楕円方形	2.54	2.43	2.45	2.35	0.69	2	-	N=73°-E	-	<SK3, P88	
SB4	周文	2.C, 3.C	楕円方形	5.00	4.88	4.65	4.63	0.22	15	西南東	N=55°-W	石砂脚	>SK6	
SB5	周文	3.C	楕円方形	2.77	2.61	2.63	2.52	0.24	5	西南東	N=65°-W	石砂脚	>SK7	
SB6	周文	3.C	楕円方形	4.36	4.30	4.18	4.16	0.50	14	南	N=4°-E	石砂脚	<SH1, SR4	
SB7	周文	3.C	楕円方形	3.53	3.24	3.20	3.00	0.58	-	不明	N=38°-W	-	>SK5	
SB8	周文	3.D	楕円方形	4.60	4.00	4.25	3.80	0.90	21	北	N=23°-W	石砂脚	<SK6	
SB10	周文	3.E, 4B	楕円方形	3.07	2.87	2.70	2.62	0.62	5	西南西	N=59°-E	石砂脚	<SK6	
SB11	周文	4.C	不明	-	-	(5.00)	(5.00)	(0.13)	6	不明	不明	燒土の火	<SK6	
SB12	周文	5.C	不明	-	-	(1.30)	(1.30)	0.00	16	西南西	N=55°-E	石砂脚	<SH12	
SB14	周文	7.B	楕円方形	4.50	4.23	4.40	4.15	0.38	16	4	西南西	N=23°-E	石砂脚	<SK10
SB15	周文	7.A~8.C	楕円方形	4.55	4.55	4.10	3.88	0.73	8	4	西南西	N=49°-E	石砂脚	<SK10
SB16	周文	6.B, 6G	円形	2.80	2.77	2.65	2.60	0.40	8	-	不明	地盤	<SD9	
SB17	周文	6.B, 6G	楕円方形	4.45	4.20	4.00	3.78	0.65	7	西南西	N=57°-E	石砂脚	<SD9	
SB18	周文	4.C	不明	-	-	(4.20)	(4.00)	(0.00)	16	4	不明	地盤	<SD9	
SB19	周文	5.D	楕円方形	6.32	5.82	5.93	5.61	0.87	16	4	北	N=1°-W	石砂脚	<SK10
SB20	周文	5.C	方形	2.83	(2.62)	2.90	2.54	0.24	9	2	西南東	N=33°-W	石砂脚	<SK10
SB21	周文	5.C~6.D	円形	4.30	(4.02)	3.90	(3.63)	0.42	12	2	西南西	N=76°-E	石砂脚	<SK10
SB22	周文	5.E, 5F	楕円形	5.60	(4.82)	5.50	(4.76)	0.57	12	不明	地盤	N=73°-E	石砂脚	<SD9
SB23	周文	5.C, 6C	円形	3.16	3.09	3.00	2.97	0.39	12	4	西南西	N=37°-W	石砂脚	<SD9
SB24	周文	6.F	不定形	3.00	2.85	2.80	2.55	0.15	1	-	不明	地盤	<SD9	
SB25	周文	4.C~5.D	楕円方形	3.87	3.63	3.72	3.21	0.60	16	4	西南西	N=15°-E	石砂脚	<SK10
SB26	周文	9.C, 10.C	方形	3.04	2.47	2.84	2.45	0.32	4	不明	不明	-	<SK3, SK10	
SB27	周文	8.D, 8E	不明	4.35	(2.16)	4.26	(2.06)	0.17	7	不明	不明	-	<SK3, SK10	
SB28	周文	4.E	方形	-	-	-	-	-	30	不明	不明	-	<SK3, SK10	
SB29	周文	4.F~5.G	方形	5.60	-	-	-	-	4	不明	不明	-	<SK3, SK10	
SB30	周文	6.D, 9.D	方形	(4.84)	(4.80)	4.75	(4.70)	0.28	14	不明	不明	-	<SK3, SK10	
SB31	周文	7.E~8.F	方形	3.35	2.78	3.30	2.75	0.36	15	2	不明	不明	>SK22, <SK10	
SB32	周文	8.E	方形	3.50	3.33	3.37	3.12	0.46	9	4	不明	不明	>SK22, <SK10	
SB33	周文	4.I	方形	6.60	6.50	6.40	6.40	0.40	4	不明	不明	(石砂)	<SK20	

第66表 ピット・土坑・不明造構計測表(1)

造構名	地区	横幅(m)	上層(m)	下層(m)	深さ(m)	造構名	地区	横幅(m)	上層(m)	下層(m)	深さ(m)	造構名	地区	横幅(m)	上層(m)	下層(m)	深さ(m)				
SK0001	IC	0.60	0.51	0.81	0.33	0.41	SK0073	SB-BH	V	1.50	0.85	0.50	0.43	P056	3D	V	1.30	0.30	0.30		
SK0002	3B	1.16	1.78	1.88	1.76	0.10	SK0074	95'	V	0.80	0.80	0.72	0.28	P057	2D	V	1.17	0.37	0.21		
SK0003	3C	1.00	1.10	1.10	0.90	0.20	SK0075	7C	V	1.00	0.80	0.50	0.30	P058	2D	V	1.00	0.30	0.10		
SK0004	4E	1.00	1.51	1.56	1.49	0.30	SK0076	7B	V	0.92	0.80	0.50	0.31	P059	2D	V	1.28	0.32	0.27		
SK0005	4E	V	1.00	0.75	0.95	0.87	0.14	SK0077	7C	V	0.98	0.75	0.70	0.30	P060	2D	V	1.28	0.34	0.26	
SK0006	4E	V	0.99	0.55	0.93	0.52	0.22	SK0078	6S	V	0.85	0.80	0.45	0.13	P061	2D	V	1.29	0.33	0.27	
SK0007	2F	-	1.71	1.09	1.49	1.05	0.06	SK0079	6S	-	2.10	1.18	1.20	2.00	P062	4C	V	1.30	0.30	0.20	
SK0008	4C	V	0.88	0.63	0.74	0.27	0.25	SK0080	5S	V	0.88	0.75	0.82	0.72	P063	3C	V	1.24	0.32	0.30	
SK0009	3C	V	0.88	0.63	0.74	0.27	0.25	SK0081	5S	V	0.88	0.75	0.82	0.72	P064	3C	V	1.24	0.32	0.30	
SK0010	4D	V	0.80	0.60	0.53	0.18	0.31	SK0082	3A-BH	V	1.00	0.75	0.75	0.48	P065	2D	V	1.00	0.36	0.23	
SK0011	2G	V	1.21	1.33	1.40	0.93	0.84	SK0083	3A	V	1.76	(1.63)-(1.60)	(1.60)	(1.60)	P066	4D	V	1.40	0.36	0.20	
SK0012	4E	V	1.07	-	0.93	-	-	SK0084	3B-AB	V	0.98	0.60	0.76	0.51	P067	4C	V	1.26	0.33	0.20	
SK0013	2H	V	1.22	0.64	0.39	0.66	0.51	SK0085	7B-F7	V	1.01	0.98	0.95	0.92	P068	3C	V	1.29	0.27	0.17	
SK0014	4I	H	1.10	1.80	1.01	0.72	0.26	SK0086	3C	V	1.27	0.94	0.92	0.23	P069	3C	V	1.48	0.32	0.21	
SK0015	3H	V	0.98	0.88	0.86	0.81	0.81	SK0087	8F	V	0.96	0.64	0.58	0.25	P070	4D	V	1.25	0.31	0.27	
SK0016	3C	V	0.98	0.88	0.86	0.81	0.81	SK0088	8F	V	0.96	0.64	0.58	0.25	P071	4D	V	1.25	0.31	0.27	
SK0017	4I	V	1.08	0.64	0.96	0.76	0.29	SK0089	9F	V	0.94	0.58	0.57	0.45	P072	3D	V	1.28	0.30	0.20	
SK0018	4I-4H	V	1.10	0.65	0.97	0.76	0.24	PO01	2C	V	0.78	0.42	0.45	0.35	P073	4C	V	1.28	0.22	0.20	
SK0019	3J	V	1.10	1.09	0.82	0.88	0.53	SK0090	3C	V	0.40	0.33	0.22	0.24	P074	4E	V	1.41	0.30	0.19	
SK0020	4I	V	1.06	1.05	0.92	0.93	0.63	PO02	2H	V	0.30	0.08	0.06	0.05	P075	4E	V	1.44	0.31	0.20	
SK0021	4J	-	1.10	0.45	0.96	0.40	0.25	PO04	2C	V	0.24	0.20	0.09	0.12	P076	4E	V	1.31	0.23	0.10	
SK0022	3D	V	1.17	0.77	0.77	0.67	0.16	PO05	2C	V	0.24	0.20	0.09	0.12	P077	4E	V	1.42	0.30	0.20	
SK0023	3C	V	0.91	0.54	0.54	0.40	0.30	PO06	2C	V	0.25	0.15	0.29	0.24	P078	4E-B	V	1.43	0.30	0.09	
SK0024	3G	V	1.00	0.85	0.90	0.82	0.30	PO07	3E	V	0.44	0.20	0.20	0.18	P079	4E-B	V	1.44	0.35	0.20	
SK0025	4F	V	1.21	0.80	1.14	0.72	0.23	PO08	3E	V	0.32	0.18	0.14	0.12	P080	4E	V	1.47	0.36	0.29	
SK0026	4F	V	0.95	0.51	0.73	0.68	0.13	PO09	3E	V	0.33	0.24	0.21	0.23	P081	4E	V	1.20	0.30	0.18	
SK0027	4F	V	0.98	0.59	0.91	0.64	0.24	PO10	3E	V	0.53	0.34	0.42	0.24	P082	4E	V	1.20	0.32	0.11	
SK0028	5F	V	0.78	0.62	0.52	0.31	0.36	PO11	3E	V	0.40	0.30	0.30	0.05	P083	4E	V	1.40	0.37	0.20	
SK0029	5H	V	1.18	0.60	0.47	0.59	0.21	PO12	3E	V	0.64	0.44	0.16	0.16	P084	4E	V	1.27	0.32	0.17	
SK0030	4F	V	1.06	0.56	0.58	0.49	0.19	PO13	3E	V	0.74	0.56	0.40	0.40	P085	4E	V	1.27	0.32	0.17	
SK0031	4F	V	1.08	0.56	0.58	0.49	0.19	PO14	3E	V	0.84	0.42	0.40	0.35	P086	4E	V	1.27	0.35	0.09	
SK0032	4F	V	1.20	0.62	0.70	0.34	0.18	PO15	3E	V	0.67	0.47	0.43	0.13	P087	4E	V	1.25	0.39	0.09	
SK0033	SH	V	1.14	1.14	0.94	0.92	0.57	PO16	3E	V	0.33	0.20	0.28	0.17	P088	4E	V	1.34	0.34	0.22	
SK0034	SH-BH	V	1.17	1.24	0.96	0.90	0.80	PO17	3E	V	0.47	0.47	0.36	0.27	P089	4E	V	1.40	0.34	0.29	
SK0035	6H-BG	V	1.17	1.17	0.95	0.95	0.85	PO18	3E	V	0.33	0.20	0.28	0.20	P090	4E	V	1.35	0.34	0.17	
SK0036	4F-B	V	0.77	0.60	0.61	0.61	0.13	PO19	3E	V	0.49	0.30	0.29	0.20	P091	4E	V	1.22	0.31	0.16	
SK0037	4F	V	0.82	0.54	0.42	0.51	0.23	PO20	3E	V	0.37	0.26	0.22	0.11	P092	4E	V	1.17	0.31	0.17	
SK0038	4E	V	0.81	0.45	0.47	0.33	0.06	PO21	3E	V	0.31	0.20	0.26	0.11	P093	4E	V	1.17	0.31	0.17	
SK0039	7A	V	0.88	0.76	0.64	0.66	0.31	PO22	3E	V	0.41	0.32	0.22	0.28	P094	2E	-	0.61	-	0.54	
SK0040	7D	H	V	1.17	1.01	0.74	0.74	0.38	PO23	3C	V	0.36	0.34	0.31	0.06	P095	4E	-	0.89	-	0.89
SK0041	7A	V	0.88	0.75	0.55	0.49	0.20	PO24	3C	V	0.40	0.42	0.32	0.06	P096	3F	V	1.15	0.35	0.42	
SK0042	7A	V	1.15	1.22	0.72	0.72	0.24	PO25	3C	V	0.40	0.42	0.32	0.06	P097	3F	V	1.15	0.35	0.42	
SK0043	5A	V	1.15	1.15	1.12	1.02	0.58	PO26	3C	V	0.51	0.35	0.26	0.21	P098	3F	V	1.25	0.35	0.24	
SK0044	5A	V	1.15	1.15	1.12	1.02	0.58	PO27	3C	V	0.51	0.35	0.26	0.21	P099	3F	V	1.25	0.35	0.24	
SK0045	5B	V	1.15	1.15	1.12	1.12	0.54	PO28	3C	V	0.41	0.40	0.35	0.20	P100	3F	V	1.25	0.37	0.17	
SK0046	4B	V	1.16	0.78	1.01	0.93	0.28	PO29	3C	V	0.44	0.45	0.40	0.10	P101	3F	V	1.28	0.37	0.16	
SK0047	5B	V	0.85	0.65	0.65	0.65	0.50	PO30	3C	V	0.47	0.44	0.42	0.30	P102	3F	V	1.48	0.32	-	
SK0048	5C-BH	V	1.15	1.15	1.15	1.15	0.54	PO31	3C	V	0.47	0.44	0.42	0.30	P103	3F	V	1.28	0.37	0.16	
SK0049	5D	V	1.15	1.15	1.15	1.15	0.54	PO32	3C	V	0.54	0.47	0.42	0.32	P104	3F	V	1.28	0.37	0.17	
SK0050	5D	V	1.15	1.15	1.15	1.15	0.54	PO33	3D	V	0.59	0.56	0.51	0.31	P105	4C	V	1.47	0.39	0.25	
SK0051	5B	V	1.20	1.02	0.90	0.90	0.40	PO34	3D	V	0.56	0.47	0.44	0.15	P106	4C	V	1.35	0.39	0.20	
SK0052	4C-B	V	1.10	1.23	1.26	1.26	0.28	PO35	3D	V	0.30	0.25	0.12	0.21	P107	4C	V	1.34	0.32	0.17	
SK0053	5C	V	1.10	1.40	0.60	0.55	0.24	PO36	3D	V	0.42	0.36	0.37	0.31	P108	4C	V	1.25	0.36	0.17	
SK0054	6C	V	1.00	1.00	1.03	1.03	0.28	PO37	3D	V	0.60	0.46	0.44	0.33	P109	4D-C	V	1.34	0.35	0.22	
SK0055	6C	V	1.00	1.00	1.00	1.00	0.25	PO38	3D	V	0.47	0.40	0.37	0.22	P110	4D-C	V	1.34	0.35	0.22	
SK0056	10B-BH	V	1.41	0.77	1.28	0.76	0.16	PO39	4D	V	0.51	0.48	0.46	0.34	P111	4D	V	1.41	0.37	0.17	
SK0057	10B	V	0.81	0.61	0.68	0.62	0.23	PO40	4D	V	0.40	0.40	0.35	0.30	P112	4D	V	1.47	0.37	0.17	
SK0058	10D	V	0.89	0.56	0.64	0.54	0.24	PO41	4D	V	0.35	0.27	0.31	0.21	P113	4D	V	1.48	0.37	0.22	
SK0059	10D	V	0.88	0.60	0.77	0.54	0.10	PO42	4D	V	0.38	0.32	0.34	0.30	P114	4D	V	1.39	0.38	0.27	
SK0060	10D	V	1.06	0.56	0.58	0.56	0.11	PO43	4D	V	0.32	0.28	0.28	0.21	P115	4D	V	1.30	0.39	0.21	
SK0061	10B-BH	V	0.99	0.72	0.98	0.64	0.24	PO44	3D	V	0.40	0.36	0.40	0.24	P116	4D	V	1.30	0.39	0.21	
SK0062	10C	V	0.98	0.75	0.56	0.50	0.15	PO45	3D	V	0.68	0.46	0.45	0.32	P117	4D	V	1.28	0.39	0.21	
SK0063	10C	V	1.17	1.26	1.44	0.52	0.22	PO46	3D	V	0.37	0.24	0.21	0.14	P118	4C	V	1.30	0.35	0.22	
SK0064	11D-10D	V	1.21	1.26	1.44	0.52	0.22	PO47	3D	V	0.41	0.36	0.43	0.31	P119	4D	V	1.41	0.37	0.22	
SK0065	10C	V	0.97	0.76	0.66	0.53	0.23	PO48	3D	V	0.47	0.37	0.34	0.31	P120	4D	V	1.30	0.36	0.20	
SK0066	10C	V	1.40	0.80	1.00	0.98	0.13	PO49	3D	V	0.44	0.43	0.40	0.31	P121	4D	V	1.41	0.37	0.22	
SK0067	9C	V	1.40	1.00	0.98	0.83	0.13	PO50	3D	V	0.38	0.28	0.34	0.20	P122	3F	V	1.41	0.37	0.22	
SK0068	9B	V	1.14	1.14	1.14</td																

第68表 ピット・土坑・不明造構計測表(3)

造構名	地区	横幅(m)	上端(m)	下端(m)	深さ(m)	造構名	地区	横幅(m)	上端(m)	下端(m)	深さ(m)	造構名	地区	横幅(m)	上端(m)	下端(m)	深さ(m)					
P344	7A~6E	V	0.76	0.77	0.73	0.64	0.22	P416	G8	0.62	0.63	0.55	0.25	0.36	P468	5D~6E	V	0.58	0.67	0.45	0.39	0.54
P345	V	0.49	0.36	0.32	0.20	0.25	P417	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.37	P469	6D~6E	V	0.58	0.67	0.37	0.28	0.35	
P346	V	0.49	0.36	0.32	0.20	0.25	P418	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.37	P470	V	0.58	0.67	0.37	0.28	0.35		
P347	V	0.38	0.32	0.29	0.26	0.25	P419	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.37	P471	V	0.58	0.67	0.37	0.28	0.35		
P348	V	0.38	0.32	0.27	0.20	0.17	P420	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.36	P472	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P349	V	0.38	0.31	0.30	0.14	0.10	P421	G8	0.62	0.63	0.55	0.22	0.21	P473	V	0.58	0.67	0.51	0.48	0.40		
P350	V	0.38	0.31	0.15	0.17	0.10	P422	G8	0.62	0.63	0.55	0.22	0.26	P474	V	0.58	0.67	0.39	0.38	0.34		
P351	V	0.58	0.32	0.22	0.19	0.28	P423	G8	0.62	0.63	0.55	0.24	0.15	P475	V	0.58	0.67	0.36	0.33	0.40		
P352	V	0.58	0.32	0.20	0.16	0.29	P424	G8	0.62	0.63	0.55	0.24	0.17	P476	V	0.58	0.67	0.36	0.34	0.34		
P353	G8	0.49	0.39	0.29	0.16	0.29	P425	G8	0.62	0.63	0.55	0.24	0.17	P477	V	0.58	0.67	0.36	0.34	0.35		
P354	G8	0.7	0.35	0.32	0.28	0.32	P426	G8	0.62	0.63	0.55	0.25	0.33	P478	V	0.58	0.67	0.38	0.34	0.37		
P355	G8	0.52	0.46	0.41	0.08	0.17	P427	G8	0.62	0.63	0.55	0.23	0.22	P479	V	0.58	0.67	0.33	0.32	0.29		
P356	V	0.49	0.35	0.38	0.26	0.16	P428	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.25	P480	V	0.58	0.67	0.36	0.34	0.37		
P357	V	0.29	0.24	0.18	0.14	0.06	P429	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.15	P481	V	0.58	0.67	0.36	0.34	0.29		
P358	V	0.29	0.24	0.27	0.23	0.14	P430	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.15	P482	V	0.58	0.67	0.36	0.34	0.29		
P359	V	0.29	0.24	0.27	0.20	0.14	P431	G8	0.62	0.63	0.55	0.26	0.15	P483	V	0.58	0.67	0.36	0.34	0.29		
P360	V	0.49	0.37	0.29	0.16	0.14	P432	G8	0.62	0.63	0.55	0.27	0.15	P484	V	0.58	0.67	0.37	0.34	0.30		
P361	V	0.38	0.31	0.18	0.11	0.14	P433	G8	0.62	0.63	0.55	0.28	0.20	P485	V	0.58	0.67	0.37	0.34	0.34		
P362	V	0.29	0.22	0.13	-	0.13	P434	G8	0.62	0.63	0.55	0.27	0.12	P486	V	0.58	0.67	0.37	0.34	0.35		
P363	V	0.44	0.34	0.30	0.23	0.09	P435	G8	0.62	0.63	0.54	0.52	0.45	P487	V	0.58	0.67	0.47	0.43	0.49		
P364	V	0.47	0.37	0.30	0.22	0.33	P436	G8	0.62	0.63	0.57	0.31	0.23	P488	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.37		
P365	V	0.46	0.34	0.44	0.38	0.34	P437	G8	0.62	0.63	0.57	0.32	0.23	P489	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.37		
P366	V	0.46	0.34	0.44	0.38	0.34	P438	G8	0.62	0.63	0.57	0.32	0.17	P490	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.37		
P367	V	0.46	0.34	0.50	-	0.18	P439	G8	0.62	0.63	0.57	0.31	0.18	P491	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.37		
P368	V	0.24	0.20	0.16	-	0.16	P440	G8	0.62	0.63	0.57	0.32	0.22	P492	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P369	V	0.7	0.68	-	-	-	P441	G8	0.23	0.22	0.16	0.16	0.2	P493	V	0.67	0.72	0.57	0.63	0.65		
P370	V	0.4	0.38	0.38	0.31	0.21	P442	G8	0.27	0.25	0.16	0.17	0.27	P494	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P371	V	0.49	0.38	0.38	0.28	0.16	P443	G8	0.27	0.25	0.16	0.17	0.27	P495	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P372	V	0.49	0.38	0.38	0.28	0.16	P444	G8	0.27	0.25	0.16	0.17	0.27	P496	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P373	V	0.49	0.38	0.38	0.28	0.16	P445	G8	0.27	0.25	0.16	0.17	0.27	P497	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P374	V	0.38	0.34	0.35	0.31	0.28	P446	G8	0.41	0.37	0.31	0.34	0.33	P498	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P375	V	0.49	0.38	0.38	0.30	0.29	P447	G8	0.48	0.38	0.30	0.34	0.30	P499	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P376	V	0.49	0.70	0.85	0.55	0.30	P448	G8	0.51	0.48	0.36	0.28	0.26	P500	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P377	V	0.46	0.62	0.62	-	0.33	P449	G8	0.45	0.42	0.28	0.25	0.26	P501	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P378	V	0.49	0.38	0.59	0.23	0.22	P450	G8	0.48	0.38	0.30	0.18	0.15	P502	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P379	V	0.49	0.38	0.59	0.23	0.21	P451	G8	0.71	0.62	0.55	0.21	0.19	P503	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P380	G8	0.29	0.24	0.20	0.17	0.22	P452	G8	0.35	0.26	0.29	0.17	0.24	P504	V	0.58	0.67	0.48	0.42	0.36		
P381	V	0.38	0.35	0.33	0.30	0.22	P453	G8	0.58	0.58	0.48	0.34	0.22	P505	G8	0.25	0.22	0.20	0.22	0.25		
P382	G8	0.38	0.27	0.22	0.18	0.28	P454	G8	0.41	0.41	0.46	0.36	0.23	P506	G8	0.35	0.32	0.31	0.29	0.23		
P383	V	0.38	0.44	0.30	0.15	0.26	P455	G8	0.41	0.41	0.44	0.35	0.23	P507	G8	0.35	0.32	0.31	0.29	0.23		
P384	V	0.38	0.35	0.32	0.26	0.19	P456	G8	0.58	0.58	0.42	0.22	0.11	P508	G8	0.42	0.31	0.38	0.29	0.27		
P385	V	0.38	0.35	0.32	0.26	0.19	P457	G8	0.58	0.58	0.42	0.22	0.11	P509	G8	0.35	0.32	0.31	0.29	0.27		
P386	V	0.46	0.38	0.38	0.26	0.25	P458	G8	0.58	0.58	0.42	0.27	0.22	P510	G8	0.41	0.31	0.38	0.29	0.27		
P387	V	0.38	0.32	0.32	0.20	0.19	P459	G8	0.48	0.38	0.39	0.24	0.11	P511	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P388	V	0.38	0.27	0.28	0.16	0.13	P460	G8	0.51	0.41	0.35	0.26	0.16	P512	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P389	V	0.27	0.19	0.16	0.12	0.08	P461	G8	0.51	0.41	0.35	0.26	0.16	P513	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P390	V	0.39	0.23	0.23	0.16	0.14	P462	G8	0.38	0.29	0.35	0.22	0.17	P514	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P391	V	0.39	0.23	0.23	0.16	0.14	P463	G8	0.38	0.29	0.35	0.22	0.17	P515	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P392	V	0.39	0.23	0.23	0.16	0.14	P464	G8	0.38	0.29	0.35	0.22	0.17	P516	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P393	V	0.39	0.23	0.23	0.16	0.14	P465	G8	0.38	0.29	0.35	0.22	0.17	P517	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P394	V	0.39	0.20	0.26	0.15	0.08	P466	G8	0.41	0.46	0.39	0.35	0.28	P518	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P395	V	0.39	0.20	0.26	0.15	0.08	P467	G8	0.41	0.46	0.39	0.35	0.28	P519	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P396	V	0.29	0.19	0.19	0.13	0.08	P468	G8	0.41	0.46	0.39	0.35	0.28	P520	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P397	V	0.29	0.19	0.19	0.13	0.08	P469	G8	0.41	0.46	0.39	0.35	0.28	P521	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P398	V	0.29	0.19	0.19	0.13	0.08	P470	G8	0.41	0.46	0.39	0.35	0.28	P522	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P399	V	0.29	0.19	0.19	0.13	0.08	P471	G8	0.41	0.46	0.39	0.35	0.28	P523	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P400	V	0.35	0.24	0.18	0.10	0.08	P472	G8	0.41	0.46	0.39	0.34	0.28	P524	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P401	V	0.4	0.38	-	-	-	P473	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P525	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P402	V	0.3	0.30	0.36	0.25	0.12	P474	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P526	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P403	V	0.3	0.30	0.36	0.25	0.12	P475	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P527	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P404	V	0.3	0.30	0.36	0.25	0.12	P476	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P528	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P405	V	0.3	0.30	0.36	0.25	0.12	P477	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P529	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P406	V	0.3	0.30	0.36	0.25	0.12	P478	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P530	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P407	V	0.3	0.30	0.36	0.25	0.12	P479	G8	0.32	0.30	0.23	0.28	0.14	P531	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P408	V	0.2	0.24	0.18	0.16	0.07	P480	G8	0.32	0.20	0.17	0.13	0.08	P532	G8	0.47	0.37	0.38	0.29	0.27		
P409	V	0.2	0.24	0.18	0.16	0.07	P481	G8	0.32	0.20	0.17	0										

第4章 遺物

第1節 土器類

出土した土器類は19,574点（土器類の点数は接合前の破片数を示す。以下同様）である。内訳は縄文土器が18,385点、弥生土器が681点、土師器が403点、須恵器が25点、中近世以降の陶器が80点である。遺構出土の土器類は12,053点、遺物包含層出土の土器類は7,017点、試掘確認調査で出土した土器類は504点である。出土遺物が多い遺構は堅穴住居跡で、破片数で1,000点近く出土しているSB 1・SB 6・SB17・SB19、400点近く出土しているSB 4・SB 8・SB11・SB14・SB15・SB21・SB24・SB29がある。出土した土器類をすべて分類し、746点（接合後の点数）を掲載した。

出土した土器類は、器種・器形が判別できるまでに接合できたもののが少ない。縄文土器はほとんどが縄文時代中期前葉後半～中期後葉のもので、その他、早期のものが少量見られる。当遺跡出土の中期の土器は、信州、北陸、東海、関西など周辺地域からの影響を受けた飛騨独特のものがほとんどで、飛騨地方の遺跡である上岩野遺跡、端輪縄文遺跡の8号住居出土台付土器15に類似する。SB 8の土器敷石出土土器238は、飛騨市中野山越遺跡12号住居跡出土の台付土器や長野県高森町増野新切遺跡出土土器と器形・文様がよく似ており「曾利Ⅱ式あるいは曾利Ⅲ式の古い段階かと考えられる土器で横幅展開のワラビ状文は伊原方面の類例を見る」と報告されている。SB 6出土の165～167は高山市上岩野遺跡の1649や、中野山越遺跡9～11号住居跡出土の土器、長野県荒神山遺跡出土土器に類似しており、このような土器は長野県松本平からの影響が考えられる。SB16出土の337は動物意匠文土器で、県内には下呂市峰一合遺跡・飛騨市下田遺跡・高山市宮ノ下遺跡・飛騨市堂ノ前遺跡・長野県では藤内遺跡・沢駅遺跡・尖石遺跡・富山県では岩上遺跡・松原遺跡・北代遺跡、石川県では真直遺跡に類例が見られる。

縄文土器の時期については、小林達雄編「縄文土器大観」を参照した。土器の時期・型式についても、主に観察者の判断によるが、縄文土器全体については泉拓良氏、関東の土器については戸田哲也氏、北陸の土器については小島俊彰氏に御指導いただいた。

図示した土器の分類及び觀察期については、土器觀察表（第71～82表）に掲載した。

縄文土器（1～516, 518～573, 576～618, 634, 657, 672～684, 687～691, 693～715, 747～756, 759）

早期の土器は胎土中に纖維を含み、押型文土器と薄手の条痕文系土器様式のものがある。

中期後半に属する土器が量的にはほとんどを占め、遺構の多くがこの時期になる。以下のように分類した。

A類 信州系の土器をこの類とした。胎土より搬入品と思われるものをA 1類、在地的なものと思われるものをA 2類とした。A 1類は、砂が少なくきめ細かい胎土のもので、勝坂式土器様式の中郡高地井戸尻式段階終末期のものは主にぶい黄橙色、曾利式土器様式のものは主に橙色で金雲母を多く含む。A 2類は、主に褐色で直径1～2mmの砂岩・長石・石英などの砂を多く含み胎土が粗いものが多い。なお、この類に属するが、小破片のため土器様式がはつきりしないものについては括弧付きで表記した。さらに、文様などによって次のように細分した。

いては括弧付きで表記した。さらに、時期や文様などによって次のように細分した。

a類 中期中葉の勝坂式土器様式の藤内式段階～曾利式土器様式に属する土器で、藤内式段階に該当するもの（新保・新崎式土器様式の新崎式段階並行）を a 1類、井戸尻式段階終末期～曾利式土器様式のⅠ段階に該当するものを a 2類とした。

b類 中期後葉の曾利式土器様式に属する土器で、曾利式土器様式のⅡ段階に該当するものを b 1類、曾利式土器様式のⅢ段階に該当するものを b 2類とした。

c類 中期後葉の唐草文系土器様式に属する土器で、唐草文系土器様式の第Ⅰ段階に該当するものを c 1類、唐草文系土器様式の第Ⅱ段階に該当するものを c 2類とした。

d類 中期後葉の大木式土器様式第Ⅷb様式に該当するもの。縄文を地文とする。

e類 加曾利E式土器様式の第3様式に該当するもの。縄文を地文として墨下線を施す。

B類 飛騨に独特の折衷的土器をこの類とした。胎土が主に褐色で直径1～2mmの砂岩・長石・石英などの砂を多く含み粗いもので、文様が井戸尻式段階終末期や唐草文系土器様式第Ⅱ段階から発展したと考えられる。なお、この類に属するが、小破片のため土器様式がはつきりしないものについては括弧付きで表記した。さらに、文様などによって次のように細分した。

a類 檜形の器形で横位にリボン状突文がめぐり、地文に縄文、綾杉文、条線文を施すもの。リボン状突文（424～432）は隆帶上に押圧・沈線のあるもの（275）と無いものの（206）から変化したものと考える。

b類 手厚で地文に縄文を施し、唐草文系土器様式の渦巻文などの隆帶を貼り付けるモチーフに似た文様を持つもの（144, 161～164, 272）、折り返し口縁など唐草文系土器様式の特徴があるが地文に縄文を施すもの（140, 141）がある。

c類 刻隆帯や隆帯に沿う押印・横位隆帯など文様は北陸系だが、地文に綾杉文を施すなど、様式が折衷している要素のあるもの。（457, 458, 568）

d類 器形・文様が唐草文系土器様式第Ⅱ段階に該当し、胎土が在地的なもの。

e類 口縁部～胴部にかけて、縄文・綾杉文条線文を施し、胎土が在地的なもの。

C類 北陸系の土器をこの類とした。胎土より搬入品と思われるものをC 1類、在地的なものと思われるものをC 2類とした。C 1類は、砂が少なくきめ細かい胎土のもの。主にぶい黄橙色のもので、C 2類は、主に褐色で直径1～2mmの砂岩・長石・石英などの砂を多く含み胎土が粗いものが多い。なお、この類に属するが、小破片のため土器様式がはつきりしないものについては括弧付きで表記した。さらに、文様などによって次のように細分した。

a類 新保・新崎式土器様式の第V～VII様式に該当するもの。

b類 上山田・天神山式土器様式に該当するもの。文様が曲線的なもの。

c類 串田新式土器様式に該当するもの。

D類 東海系の土器をこの類とした。東海系の土器としては、咲畠・醍醐式土器様式に該当するものが出土している。胎土より搬入品と思われるものをD 1類、在地的なものと思われるものをD 2類とした。D 1類の胎土はA 1類に似る。D 2類の胎土はB類に似る。さらに、時期によって次のように細分した。

a類 第1様式（咲畠土器様式）に該当するもの。

b類 第2様式に該当するもの。

E類 関西系の船元・里木式土器様式に該当するものをこの類とした。胎土より信州からの搬入品と思われるものをE1類、胎土より在地的なものと思われるものをE2類とした。E1類の胎土はA1類に似る。E2類の胎土はB類に似る。さらに、時期によって次のように細分した。

a類 船元I式に該当するもの。

b類 船元II式に該当するもの。

c類 船元III式に該当するもの。

d類 里木II式に該当するもの。

e類 中部東海系の里木II式。繩文、撫糸文を施さない。

F類 小破片や底部など、土器様式が判断できないものをこの類とした。胎土より搬入品と思われるものをF1類、胎土より在地的なものと思われるものをF2類とした。

G類 ミニチュア土器をこの類とした。SB13、SB15、SB17、6Bから出土した11点を掲載した。掲載した以外にはSB1で1点、SB4で1点、SB14で2点、SX4で1点、小破片が出土している。胴部に沈線で文様があるものと無いものがある。

また、繩文土器の器形を以下のように分類し、土器観察表に掲載した。

1類 檜形の土器（深鉢）

2類 直線的に外反して立ち上がる口縁を特徴とする土器（深鉢）

3類 キヤリバー形の土器（深鉢）

4類 そろばん玉のような形の土器（北陸系浅鉢）

5類 内彎する土器（浅鉢、台付土器）

弥生土器（574, 575, 619, 620, 622~627, 635, 643~651, 716~720）

弥生土器は大半が中期のものである。沈線による横羽状文の壺がほとんどで、条痕文のあるもの、櫛描きの波状文のみられる壺と思われるものが少數ある。

土器師（517, 621, 628~633, 636~642, 652~656, 661~667, 721, 722）

大半が古墳時代初頭～中期の土器である。

須恵器（669~671, 686, 723, 724）

SB33から3点、SX06から1点、試掘確認調査坑で2点出土した。

灰釉陶器（668, 725~732）

725~732は灰釉陶器と山茶碗の中間形態を持つものが混じり、すべて重なった状況で包含層から出土した。灰原に捨てられたものが流出、転落した可能性が高い。調査区の山側約200mには赤保木古窯跡群があり、関係が考えられる。

その他の土器

山茶碗（733）、白磁（734）などがある。

(1) 戸田哲也氏の御教示による。

(2) 信州以北の大木式の土器、加曾利E式的土器の形式も含む。これらは直接ではなく信州を経て伝わってきているという判断に基づくものである。

(3) 戸田哲也氏の「リボン状突番の下に矢羽根状（長い綾状）沈線を施すものは、伊那のものようだが伊那ではやらないので在地化したものか」という御教示による。

飛脚の土器の特徴は、折衷的な土器が多いことである。以下に觀察表で表現しきれない土器について記載する。泉氏の御教示によるものである。

34は撫糸文、撫糸文が無い喫煙式ではない、船元・里木式でもないので中部東海系の里木II式と考える。

56は浅鉢であるが、突起は曾利式の特徴といえる。区画・押引・撫文は喫煙式の特徴だが、喫煙式にはあまり浅鉢が無い。

140, 141は折り返し口縁で撫文が無いものは唐草文系にあるが撫文があるので在地のものと判断した。

482は加曾利E2式並行でよいが、カップ形や脚台の特徴は北陸系のもので、撫文が無いため曾利式にしている。

第2節 土製品類

出土した土製品類は、土偶が23点、焼成粘土塊が45点、加工円盤が2点、有孔土製品が2点、土鍤が1点、瓦が6点（点数は接合前の破片数を示す。）出土している。遺構出土の土偶は18点、土製品は2点、瓦は1点、遺物包含層出土の土製品は3点、試掘確認調査で出土した瓦は1点である。出土した土製品類をすべて分類し、土偶12点、土製品3点、焼成粘土塊1点、瓦6点（接合後の点数）を掲載した。

土偶（735~746）

ほとんどが堅穴住居跡から出土している。SB1、SB15、SB17、SB21、SB24から出土したものを掲載した。それ以外に、遺構ではSB11から1点、SB14から1点、SB19から1点、P687から1点、遺物包含層では3Cグリッドから1点出土した。全体像が分かるものは2点で、他は脚部、腕部などの破片である。板状土偶が多い。文様は顔や胸部に粘土を貼り付けて立体的にする部分や、沈線・刺突を施すものがほとんどである。

SB21出土の742は、左上半身・右上半身・右脚部に割れていたものの、右脚部はSB14の上層より出土し、左上半身と右上半身はSB21内のP9とP10の間から出土したものが接合した。出土した土偶の中では、一番重量がある。

SB15から出土した737は、一部欠損しているが、ほぼ完形である。長方形の粘土の塊に粘土を貼り付け、長軸の一方に刻みを入れる。外面に葉脈状文を沈線で施し、両側縁部に二重の半円を沈線で施す。ミニチュア土器とともに住居の際際から出土した。

焼成粘土塊（757）

1点掲載しているが、粘土の塊が焼けたもので、堅穴住居跡の土壁が焼けたものである可能性が高い。SB1で1点、SB4で2点、SB6で3点、SB8で10点、SB11で3点、SB14で2点、SB17で1点、SB19で10点、SB21で1点、SX04で1点、SX06で8点、3Dグリッドで3点、4Hグリッドで1点出土している。

加工円盤（758）

758は撫文土器の口縁部付近を丸く加工したもので、一部口縁部が残存する。外面には刺突、内面には粘土貼り付けがある。

有孔土製品 (760, 761)

2点掲載した。半分に割れた状態で出土している。非常に薄く、胎土はきめ細かい。時期は不明である。

土錐 (762)

1点掲載した。胎土が繩文土器と異なるため、繩文時代より後の時期のものと思われる。

瓦 (763~768)

古代のものと思われる。焼成は良好で、内面に布目、外面上には繩目敲き痕が残り、撫で消しているものも見られる。小破片のためどのような瓦かは判別できない。

第3節 石器類

出土した石器類は4, 340点である。遺構出土の石器類は2, 786点、遺物包含層出土の石器類は1, 508点、試掘確認調査で出土した石器類は46点である。このうちの160点を掲載した。

石器類は繩文時代と弥生時代のものがみられる。繩文時代でも時期の遡るものでは尖頭器・礫器が少量見られる。弥生時代以降のものは有茎石錐・磨製石錐・砥石・紡錘車がある。その他は繩文時代の石器と考える。図示した石器の分類及び観察事項については、石器計測表（第83~90図）に掲載した。

尖頭器 (1082)

先端部と側縁部を槍先形に加工した石器で1点出土した。石材は頁岩で、繩文時代初頭の木葉形尖頭器と考える。繩文時代早期の土器が出土しているため、早期のものである可能性がある。

礫器 (1096, 1097)

礫の一部に打撃を加え、簡単な加工を加えたのみの石器で2点（1096・1097）掲載した。2点とも両刃で、1096は安山岩、1097は流紋岩で石斧的なものと考える。打製石斧としたものに比べれば明らかに大きさ、加工が簡単な点で異なり、時期が古いと考える。尖頭器とともに繩文時代早期の土器に伴うものと思われる。

石錐 (1001~1056)

左右の側縁部を加工して鋭利な先端部を作り出しておらず、矢柄に装着する基部が加工されているもののうち、比較的小型のものを石錐とした。

石錐の出土数は、未製品・欠損品を含め130点が出土しており、そのうち約半分の63点が遺構出土である。遺構出土の石錐を中心に図示した。石材別内訳は、下呂石が95点（73.1%）、チャートが20点（15.4%）、黒耀石が10点（7.5%）、その他の5点（3.7%）である。基部の形状により以下のように分類し、基部の詳細や先端部の形状、欠損部位を属性として示した。

基部の形状**1類…円基錐**

a類：抉りがU字状で浅いもの

b類：抉りがV字状で浅いもの

c類：抉りがU字状で深いもの

d類：抉りがV字状で深いもの**2類…平基錐****3類…円基錐****4類…有茎錐**

a類：基部が尖るもの

b類：基部が凹むもの

c類：基部が平らなもの

先端部の形状**A類…先端部が直線的に尖るもの**

B類…側縁部から外湾にて先端部にいたるもの（肩をつくるものも含む）

C類…側縁部から内灣にて先端部にいたるもの（凹みが入るものも含む）

D類…先端部が1mmほど凸状に作り出されるもの

E類…側縁部が磨歯状に加工されているもの

欠損部位

A類…脚部又は基部が欠損しているもの

イ類…先端部が欠損しているもの

ウ類…先端部と脚部（基部）が欠損しているもの

エ類…脚部から先端部付近にかけて左右どちらかの側縁部が欠損しているもの

オ類…茎部（有茎錐）

石錐 (1057~1068)

両縁部からの調整で錐状の突出した刃部を作り出した石器で34点出土した。このうち13点が遺構出土である。遺構出土の石錐を中心に図示した。石材別内訳は、下呂石が25点（73.5%）、チャートが9点（26.5%）である。以下のように分類した。

A類 つまり状の頭部を持ち、長い錐部を持つもの。頭部は角形、円形など。

B類 不定形の剥片の一端に加工調整して錐部を作り出したもの。錐部は短い。

C類 断面三角形若しくは菱形の細身棒状のもの。

石匙 (1071~1077)

つまり状の小突起を持ち、片面からの加熱によって刃部が作られる打製石器で、9点出土した。このうち7点が遺構出土である。遺構出土の石匙を中心に図示した。石材別内訳は、下呂石が2点（22.2%）、安山岩が2点（22.2%）、チャートが2点（22.2%）、黒耀石が3点（33.3%）である。形状によって横型石匙と縦型石匙に分類した。

スクレイパー (1078, 1079, 1083~1088)

剥片の縁辺に連続的な調整によって刃部を作り出した石器で26点出土した。このうち7点が遺構出土である。遺構出土のものをを中心に図示した。石材別内訳は、下呂石が12点（46.2%）、流紋岩が6点（23.1%）、チャートが5点（19.2%）、黒耀石が1点（3.8%）、安山岩が1点（3.8%）、ホルンフェルスが1点（3.8%）である。

異形石器（1069, 1070）

規格的な形態を持たない小形打製石器で2点出土した。2点とも遺物包含層4DグリッドⅢ層出土である。石材は下呂石である。

石核（1080, 1081）

素材剥片を剥離した残核で、8点出土した。このうち4点が遺構出土である。遺構出土のものを中心に図示した。石材の内訳は、下呂石が4点（50%）、チャートが4点（50%）である。

楔形石器（1089～1091）

台形の小型石器で、剥片の先端を折断し、両端に細かい調整が施されたもので、物にあてがってハンマーでたたため、ハンマーによる加撃と、対象物からの反作用による衝撃から、両端に剥離痕を持つ。楔形石器の出土数は19点で、このうち5点が遺構出土である。遺構出土のものを中心に図示した。石材の内訳は、下呂石が17点（89.5%）、チャートが2点（10.5%）である。

R F（リタッヂド・フレイク）（1092, 1093）

細部調整が行われた剥片で定形的な刃部を持たない石器で39点出土した。このうち27点が遺構出土である。遺構出土のものを中心に図示した。石材の内訳は、下呂石が22点（56.4%）、チャートが12点（30.8%）、黒耀石が4点（10.3%）、流紋岩が1点（2.6%）である。

U F（ユーズド・フレイク）（1094, 1095）

剥片の鋭い縁辺を刃部として使用し、潰れ痕がみられる石器で24点出土した。このうち7点が遺構出土である。遺構出土のものを中心に図示した。石材の内訳は、下呂石が19点（79.2%）、流紋岩が3点（12.5%）、黒耀石が1点（4.2%）、水晶が1点（4.2%）である。

打製石斧（1098～1109）

略長方形の形態で、ほぼ全周を二次加工し、長軸の一端に刃部を持つ石器で62点出土した。このうち24点が遺構出土である。遺構出土のものを中心に図示した。全面に加撃調整を施し、長方形をした短冊形のものと、三味線の撥に似た撥形のものに分類した。また、完形に近い状態での質量が100g未満のものを小、100g以上200g未満のものを中、200g以上の物を大とした。石材の内訳は、安山岩が41点（66.1%）、結晶片岩が17点（27.4%）、泥岩が3点（4.8%）、凝灰岩が1点（1.6%）である。

磨製石斧（1110～1131）

手ごろな礫あるいは大型の剥片を打ち欠いて、ある程度形を整えた後、砥石で研磨して滑らかにした石器で41点出土した。このうち28点が遺構出土である。遺構出土のものを中心に図示した。ほとんどが定角式磨製石斧で、硬い蛇紋岩を丁寧に磨いて作っている。刃部は欠損が激しい。完形に近い状態での質量が100g未満のものを小、100g以上200g未満のものを中、200g以上の物を大とした。大きいものは打製石斧に比べると磨製石斧の方が多い。磨製石斧の大型は400g以上のものが多く小型との重量の差が大きい。石材の内訳は、蛇紋岩が39点（95.1%）、砂岩が1点（2.4%）、凝灰岩が1点（2.4%）である。

石錘（1132～1136）

楕円形や細長い小型の自然礫の両端を打ち欠くか、あるいは両端を擦って紐状のものを掛けるための抉りを作り出した石器で9点出土した。このうち7点が遺構出土である。遺構出土の石錘を中心図示した。出土した石錘は、すべて河原石を打ち欠いただけの打欠石錘である。石材の内訳は、安山

岩が7点（77.8%）、流紋岩が1点（11.1%）、凝灰岩が1点（11.1%）である。

磨石類（1138～1152）

片手で持てる大きさの礫を使用し、礫の表面に磨痕や敲打痕が認められる石器で152点出土した。このうち99点が遺構出土である。磨痕と敲打痕が混在する石器が見られるため磨石と轟石を分類せず、一括して磨石類とした。遺構出土のものを中心に図示した。石材の内訳は、凝灰岩が64点（42.1%）、流紋岩が37点（24.3%）、安山岩36点（23.7%）、閃緑岩が13点（8.6%）、花こう岩が1点（0.7%）、砂岩1点（0.7%）である。

石皿（1155, 1156）

手の平よりも大きく扁平な川原石の平坦面に、磨痕が認められる石器で3点出土した。このうち2点が遺構出土である。中央を凹めた皿形のものと、扁平な河原石を使用し、磨り面の明瞭なものがある。遺構出土のものを中心に図示した。石材別内訳は、凝灰岩が2点（66.7%）、流紋岩が1点（33.3%）である。

砥石（1153, 1154）

河原石をそのまま用いたもので磨痕が集中し、砥石として用いられた可能性のある石器で2点出土した。この2点は砥面が平坦、あるいはゆるい凹み面を持つ平砥石で石材は流紋岩とアブライトである。未掲載の2点は凝灰岩である。

石棒（1157～1160）

長く棒状に敲打・研磨によって形を整えた石器で4点出土した。すべて遺構出土（SB1、SB7、SB8から2点）である。2点は破片で、2点は無頭石棒である。4点とも被熱している。石材別内訳は、凝灰岩が2点（50%）、流紋岩が2点（50%）である。

筋鋸車（1137）

糸を巻き取る軸に回転を与えるための石器で1点出土した。遺物包含層から出土し、滑石製である。

剥片類

石核や石器の製作やその後の修正によって生じる調整剥片や、石器製作の素材として意図的に作られた素材剥片である。剥片の出土数は3, 164点で、そのうち2, 221点が遺構出土である。石材別内訳は、下呂石が2,493点（78.8%）、チャート466点（14.7%）、黒耀石126点（4.0%）、安山岩25点（0.8%）、砂岩12点（0.4%）、凝灰岩10点（0.3%）、泥岩9点（0.3%）、ホルンフェルス6点（0.2%）、流紋岩5点（0.2%）、水晶4点（0.1%）、緑色片岩4点（0.1%）、粘板岩3点（0.1%）、頁岩1点（0.03%）である。

遺物実測図について

○石器実測図中のスクリーントーンは、摩耗痕の範囲を、実線は線状痕の方向を表した。

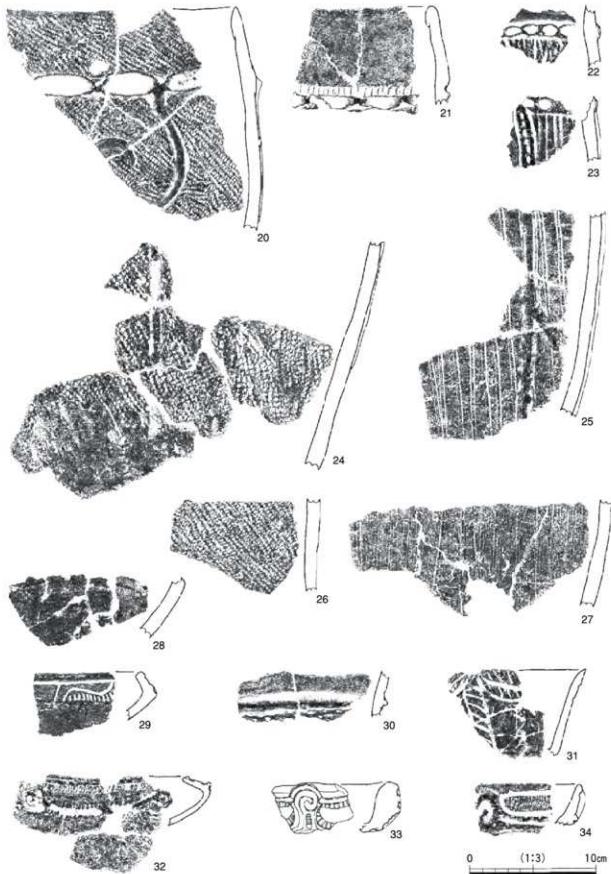
○石器の自然面はドットで表した。

遺物観察表について

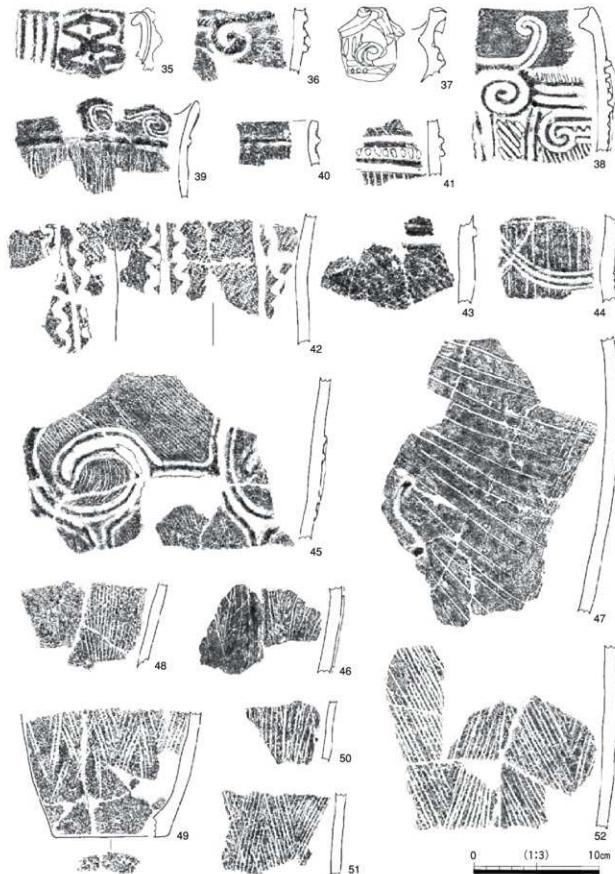
- 「遺構名・グリッド名」は、遺物が出土した遺構、若しくは地区で、複数の遺構や地区から出土した遺物が接合した場合には、主となる地区や遺構を記入している。また、試掘確認調査で出土した遺物の遺構名は、出土遺物の本発掘調査時に確認した遺構への帰属が分かった場合はその遺構名を記載したが、分からぬ場合は試掘坑出土とし、TL+試掘坑番号で表した。
- 「層位」は出土した位置で、埋土を上、中、下層に3分し、それぞれU、M、Lとした。
- 「雲母含有」の量は、肉眼で識別した。
- 「石材」の鑑定は、肉眼観察により藤岡比呂志（当センター）が行った。



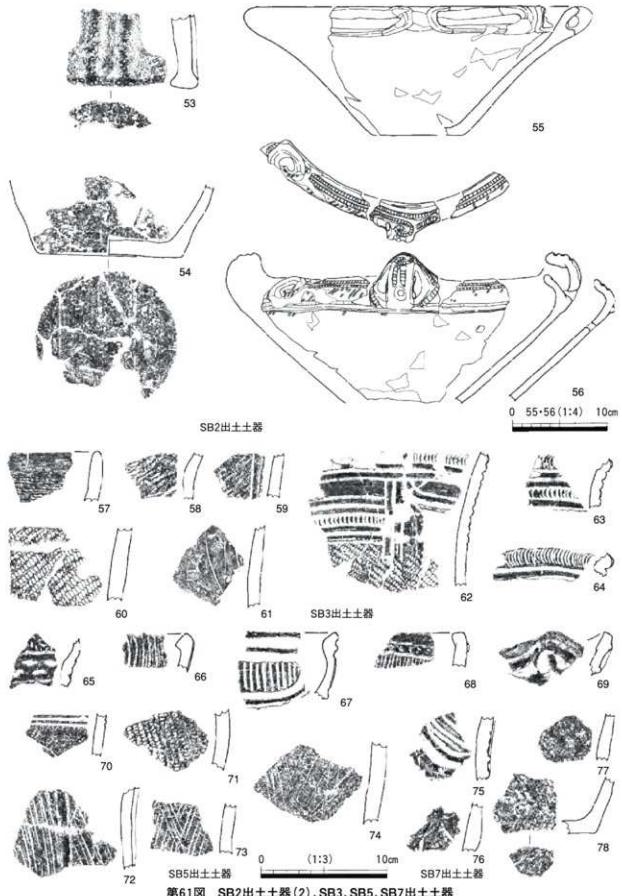
第58図 SB1出土土器(1)



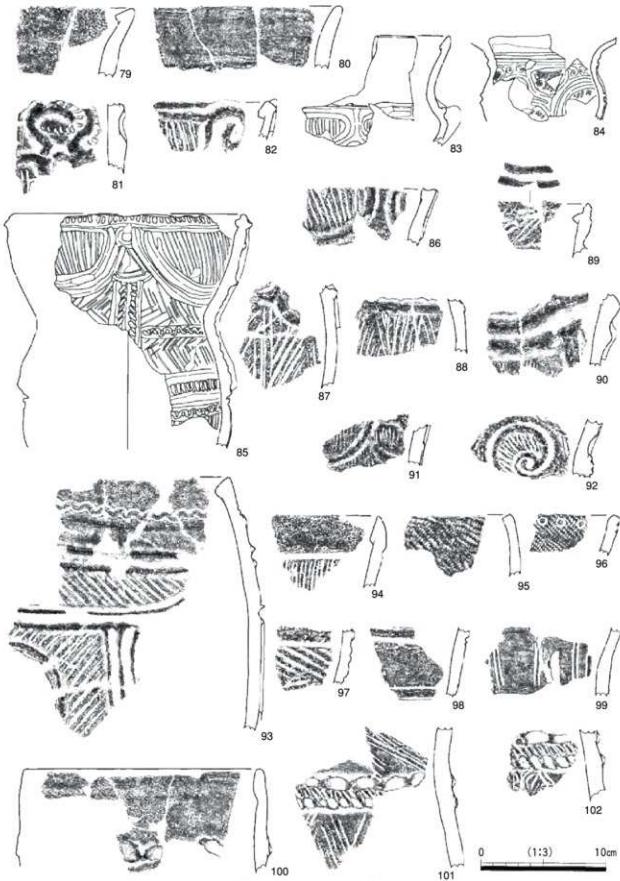
第59図 SB1出土土器(2)



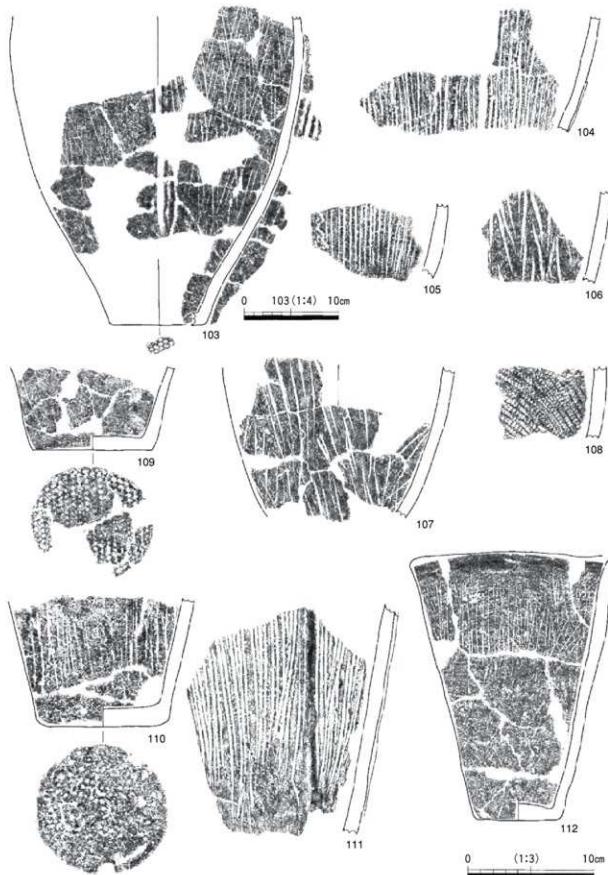
第60図 SB2出土土器(1)



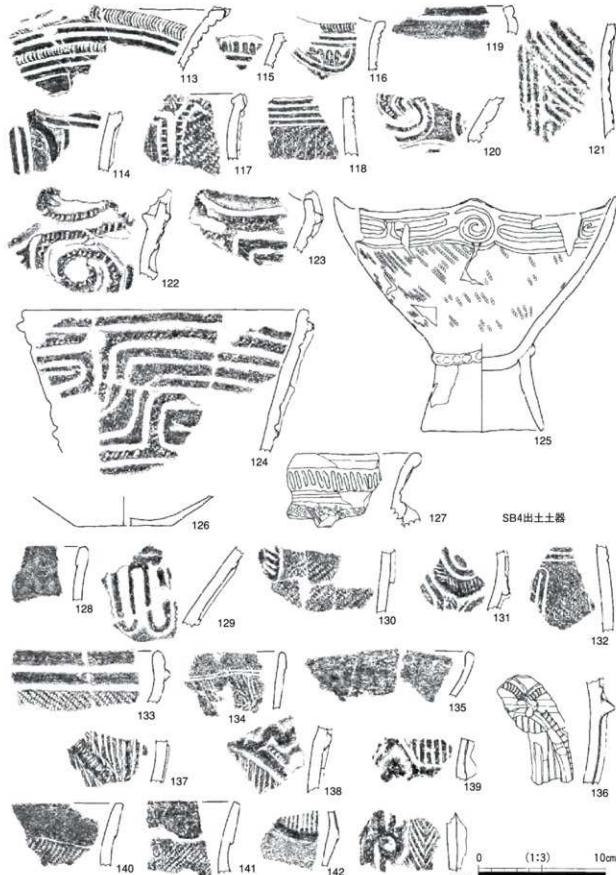
第61図 SB2出土土器(2)、SB3、SB5、SB7出土土器



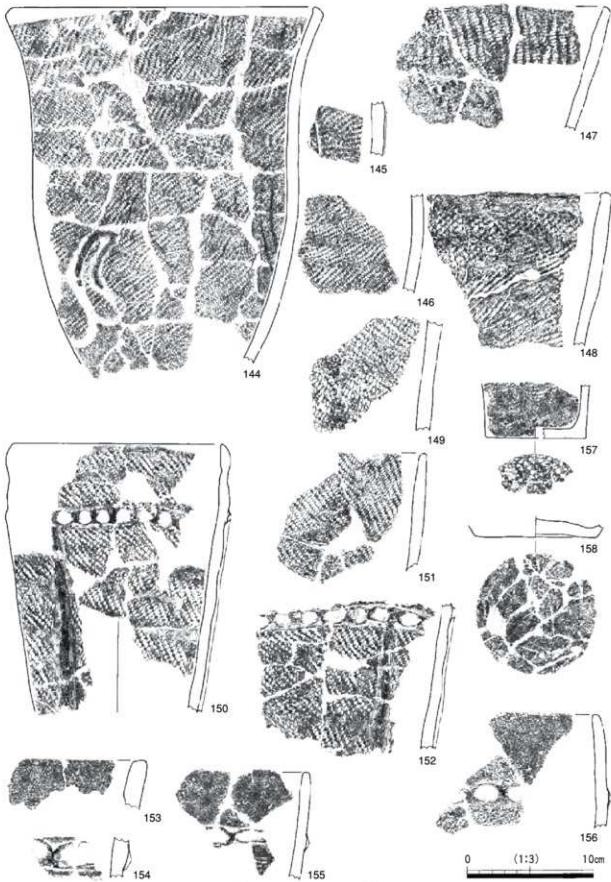
第62図 SB4出土土器(1)



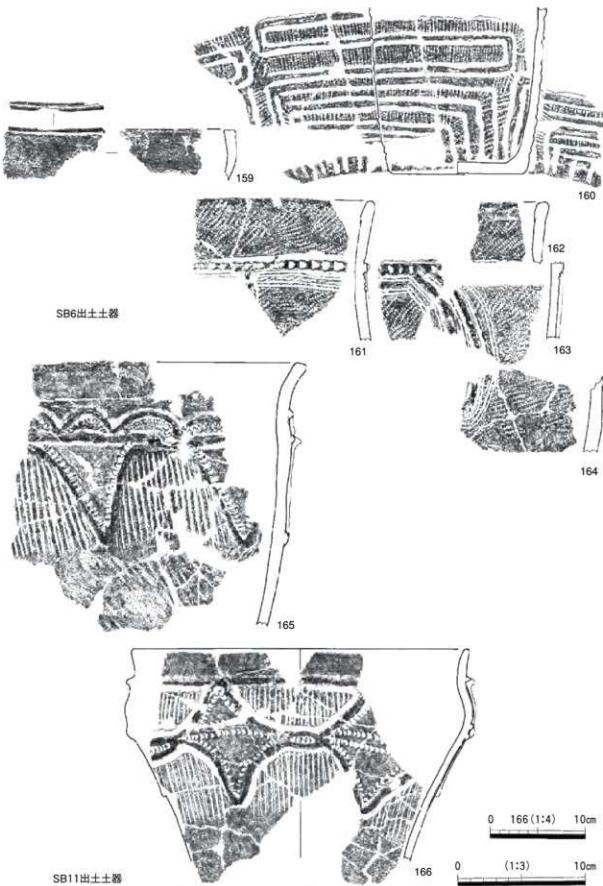
第63図 SB4出土土器(2)



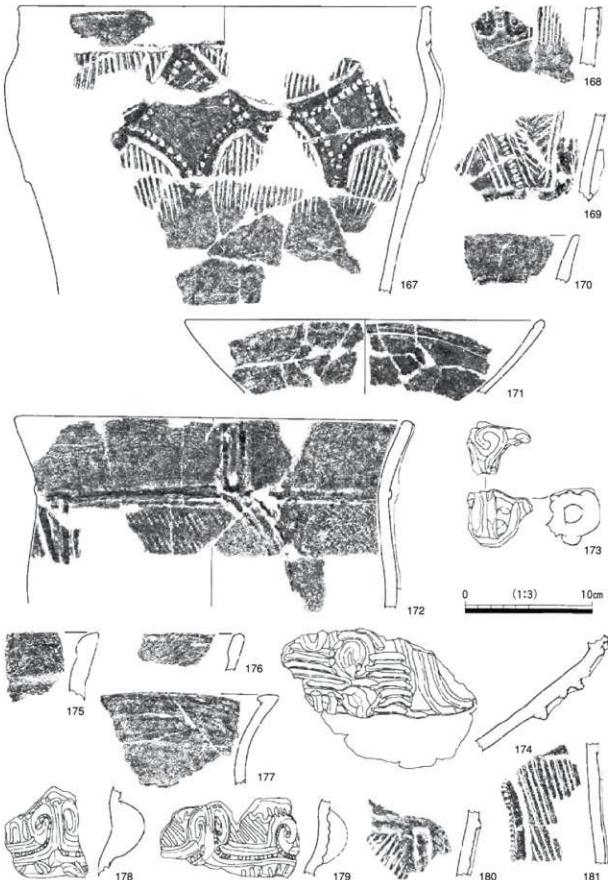
第64図 SB4出土土器(3), SB6出土土器(1)



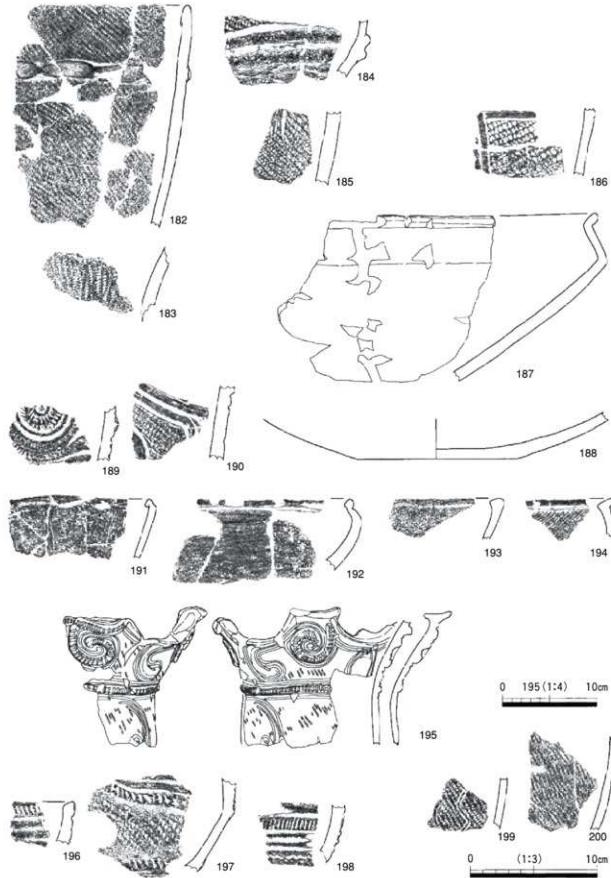
第65図 SB6出土土器(2)



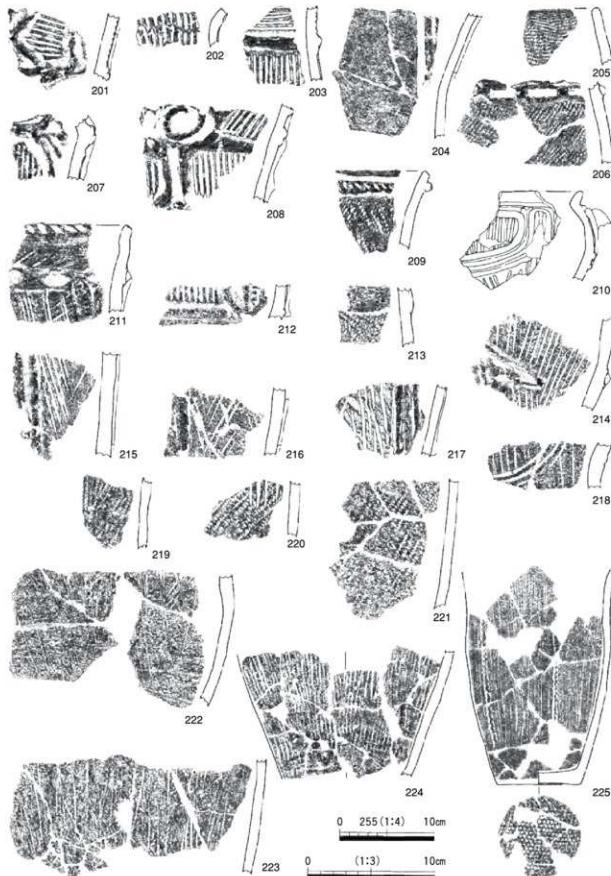
第66図 SB6出土土器(3)、SB11出土土器(1)



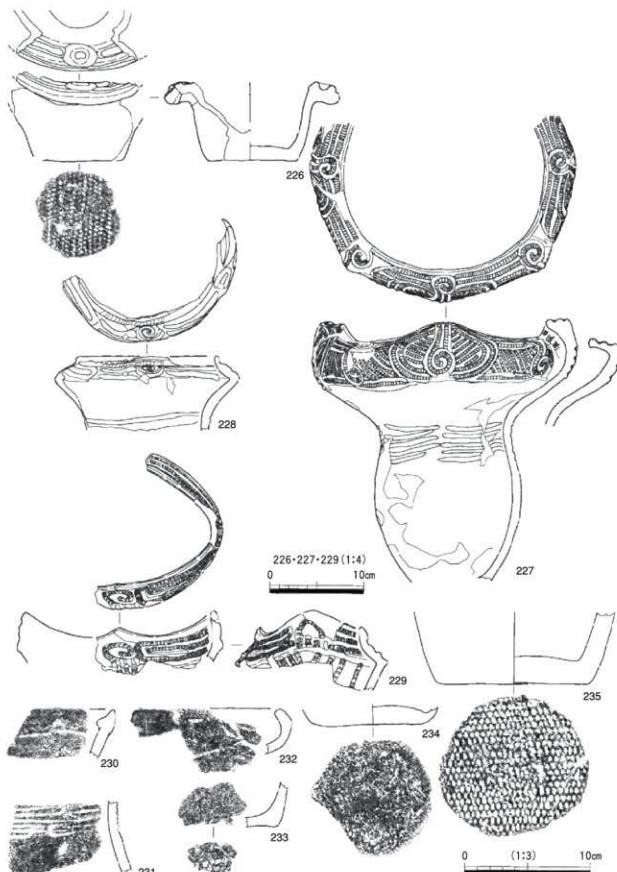
第67図 SB11出土土器(2)



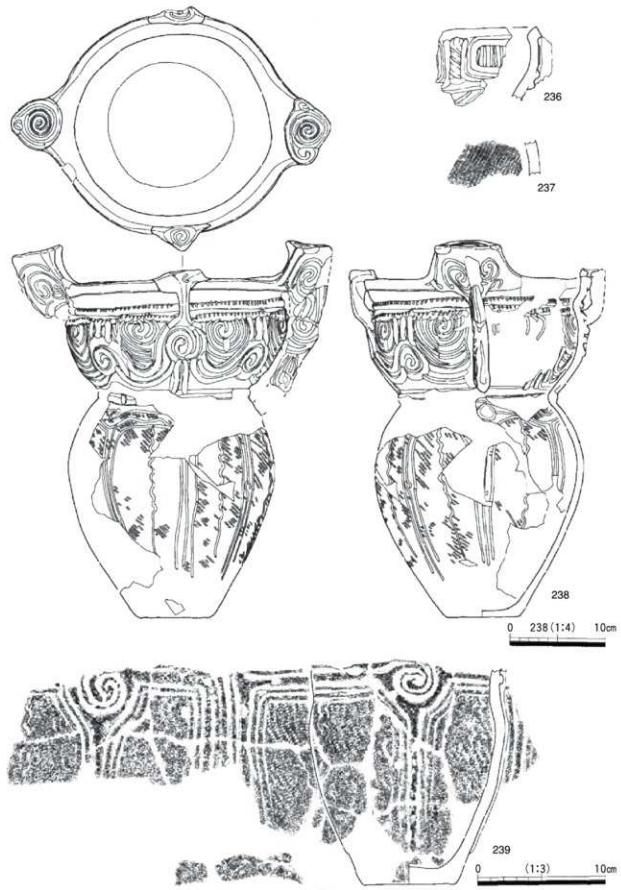
第68図 SB11出土土器(3)



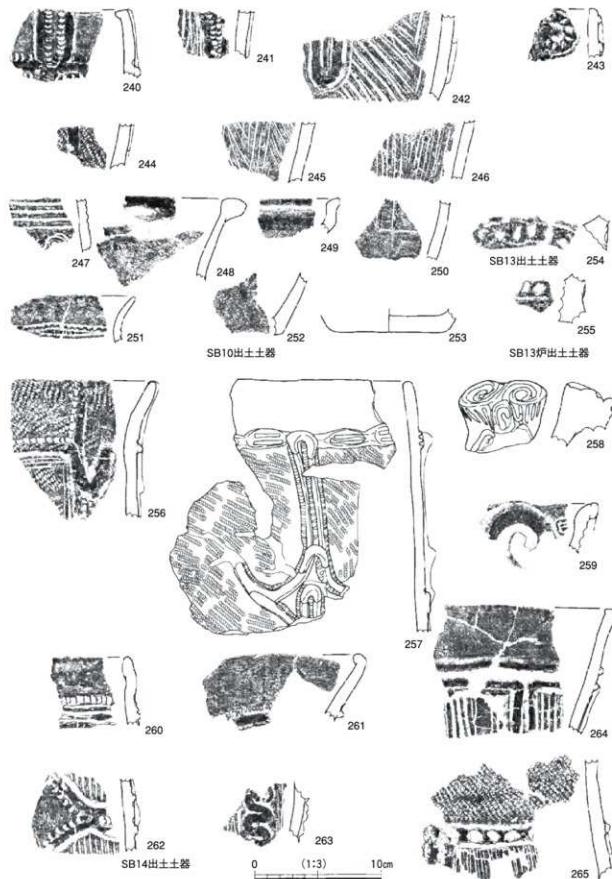
第69図 SB8出土土器(1)



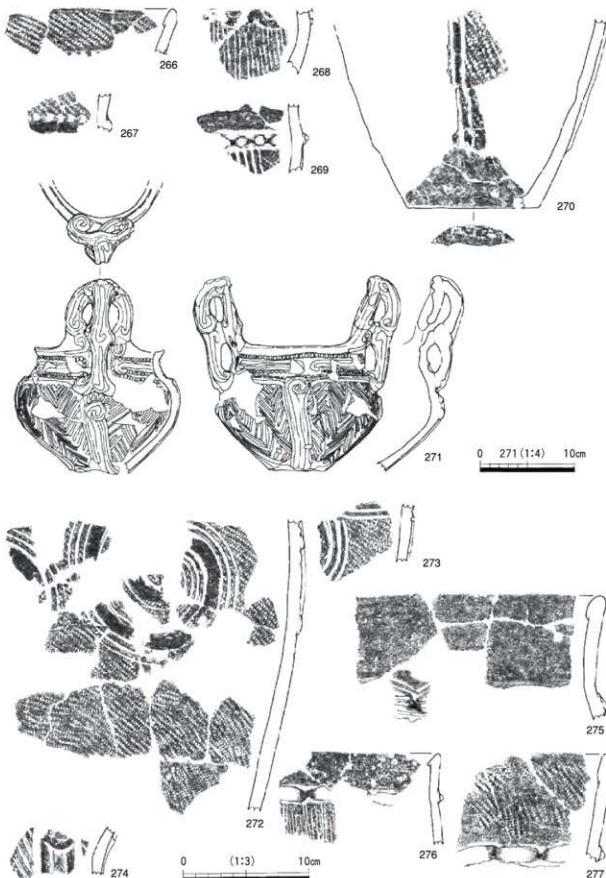
第70図 SB8出土土器(2)



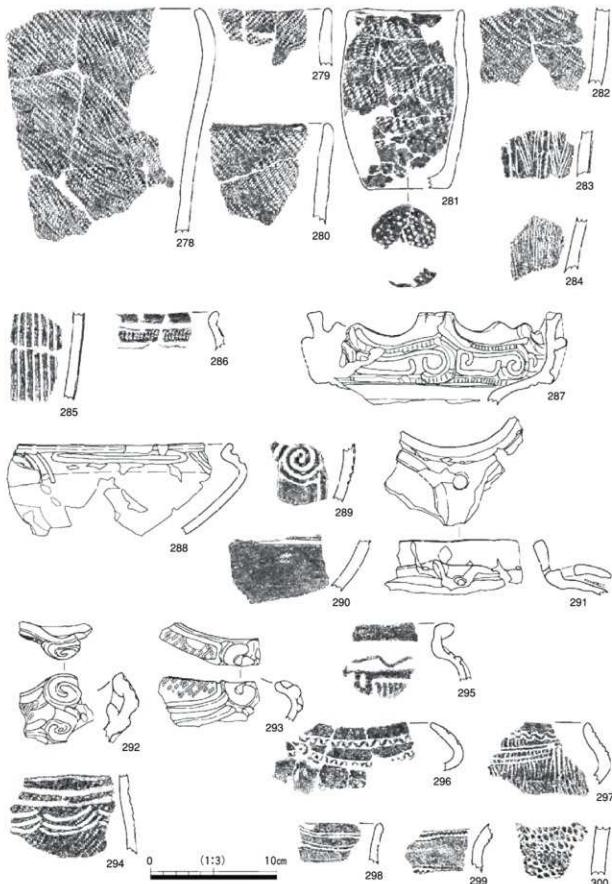
第71図 SB8土器數炉出土土器



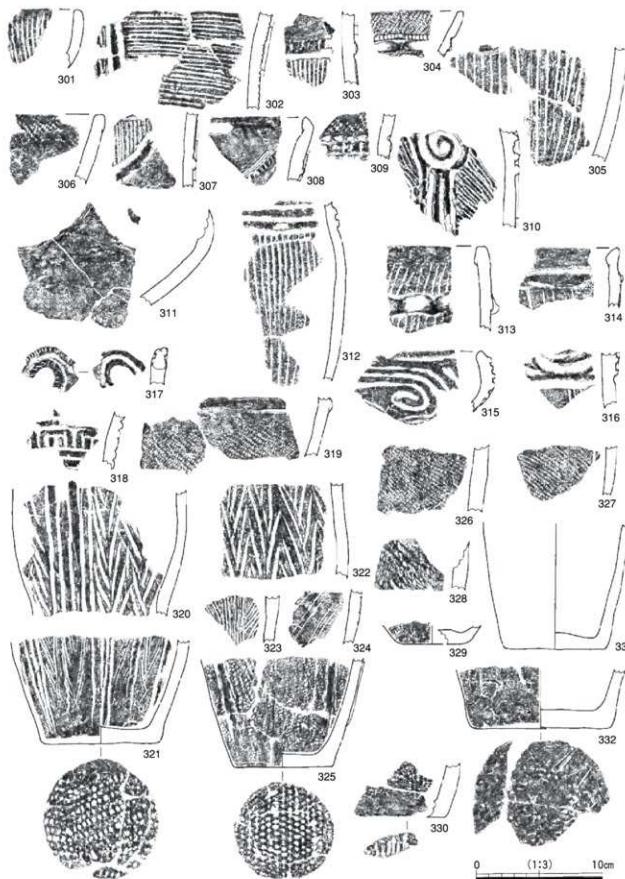
第72図 SB10,SB13出土土器、SB14出土土器(1)



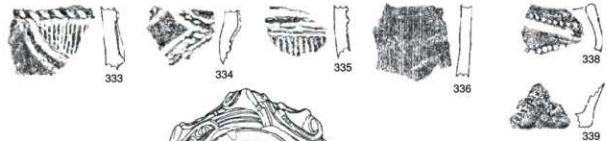
第73図 SB14出土土器(2)



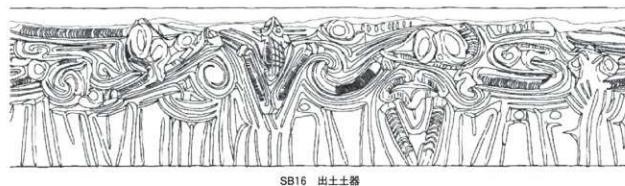
第74図 SB14出土土器(3)



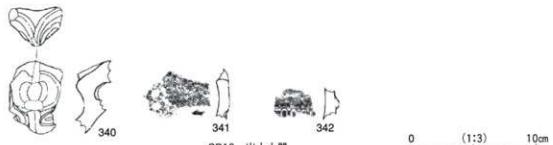
第75図 SB15出土土器

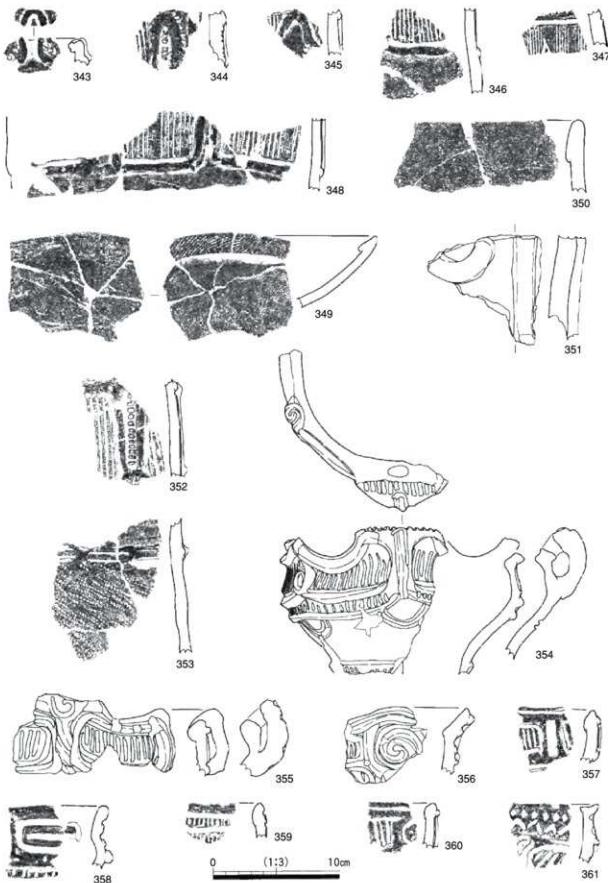


第76図 SB16、SB18出土土器

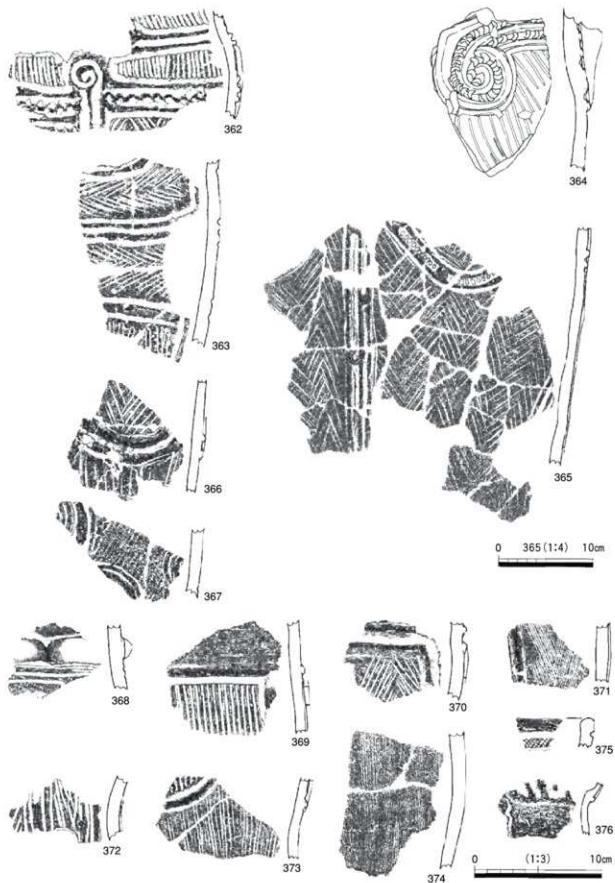


SB16 出土土器

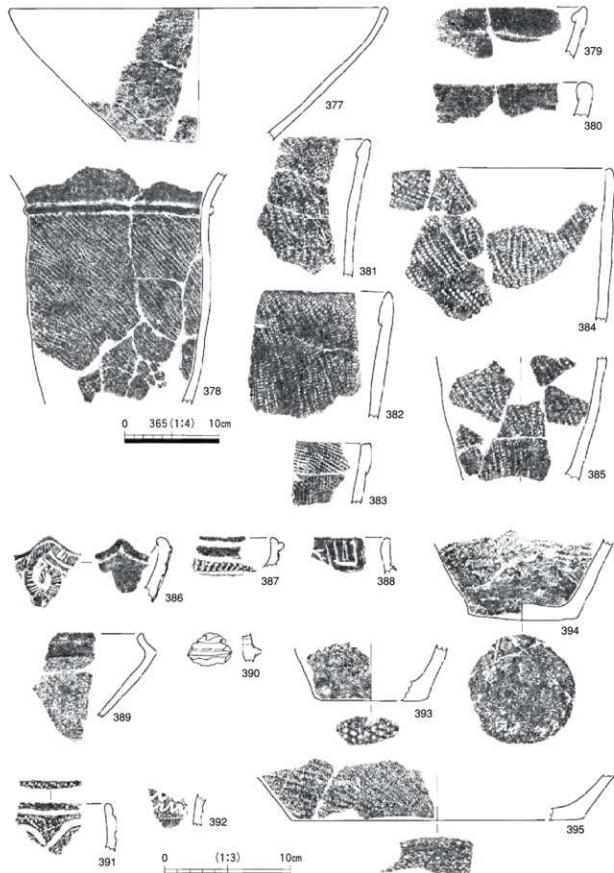




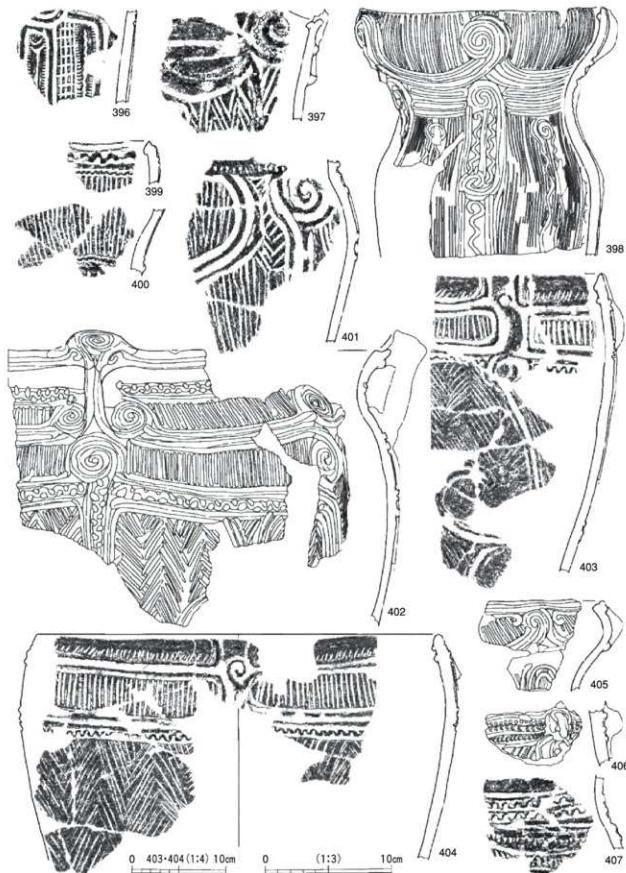
第77図 SB17出土土器(1)



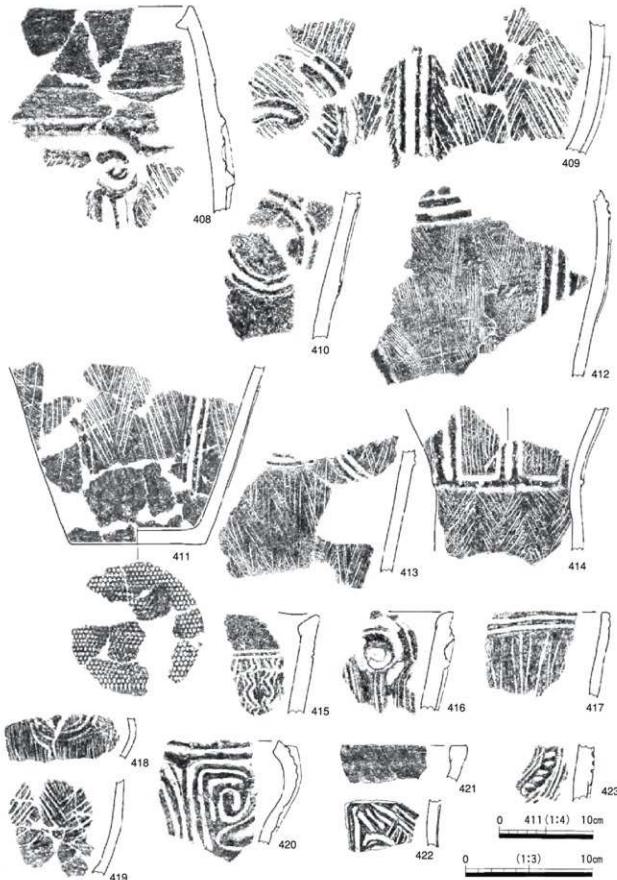
第78図 SB17出土土器(2)



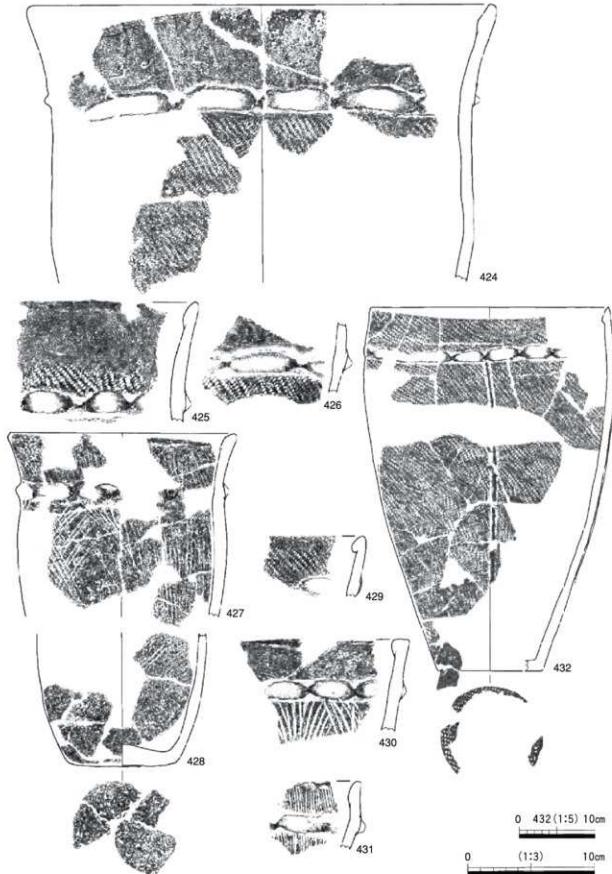
第79図 SB17出土土器(3)



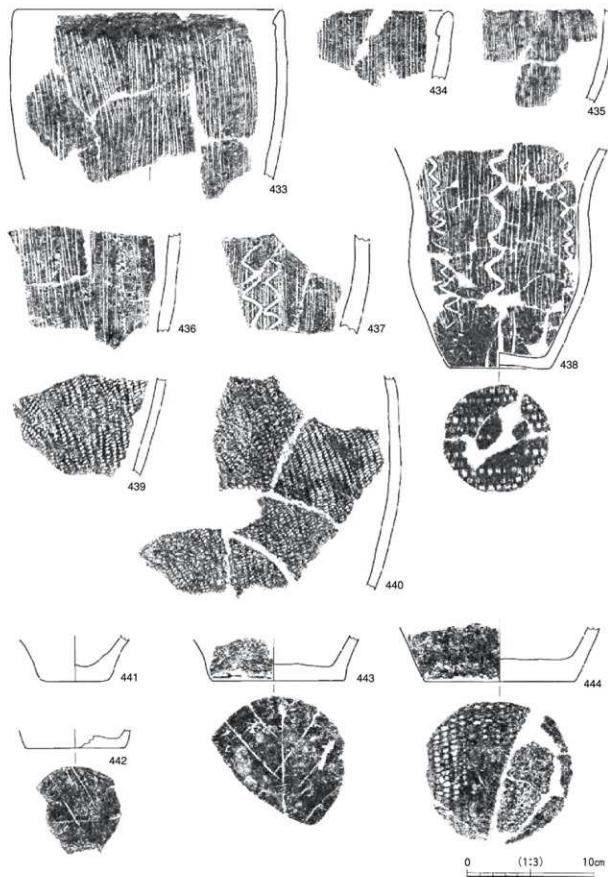
第80図 SB19出土土器(1)



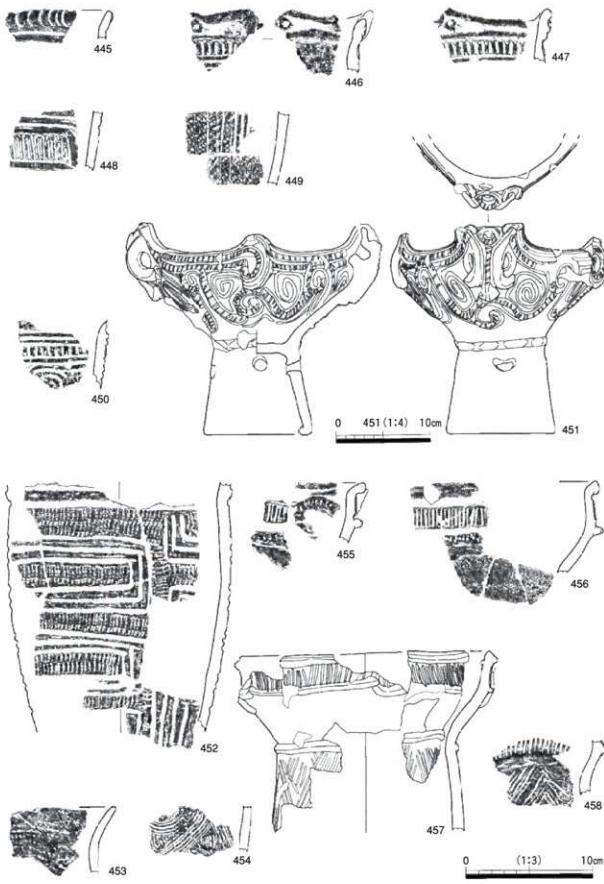
第81図 SB19出土土器(2)



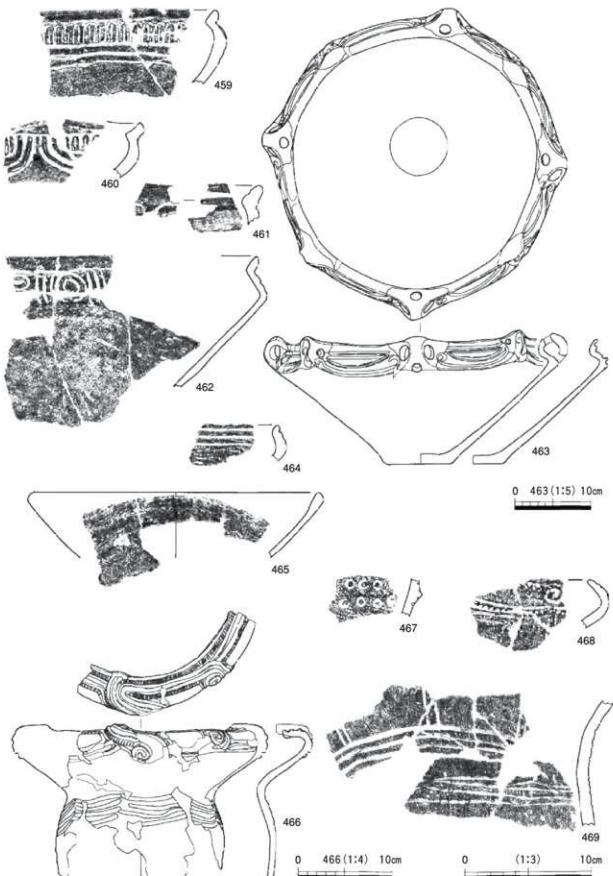
第82図 SB19出土土器(3)



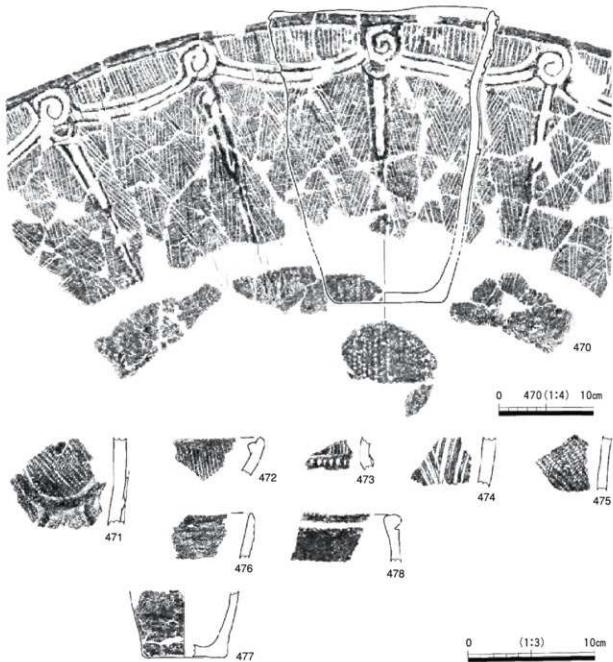
第83図 SB19出土土器(4)



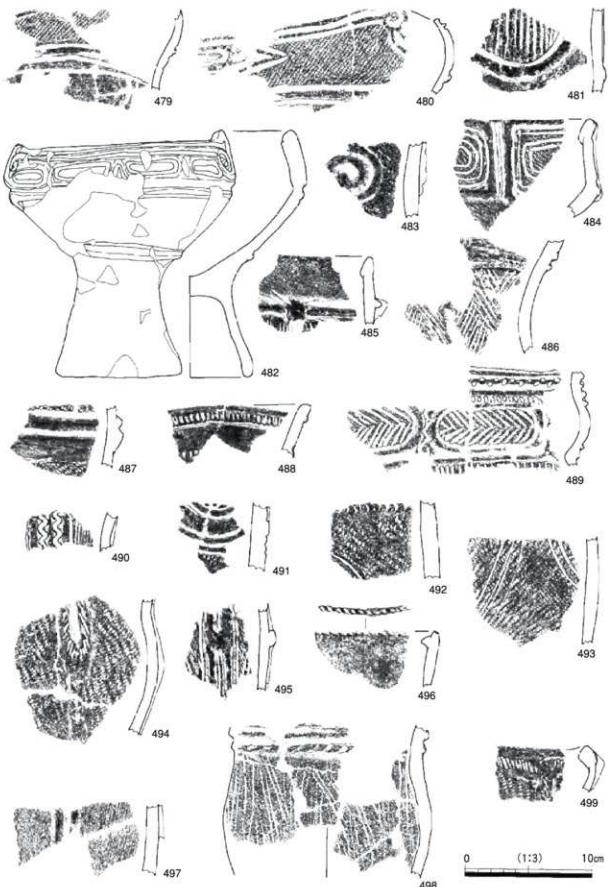
第84図 SB19出土土器(5)



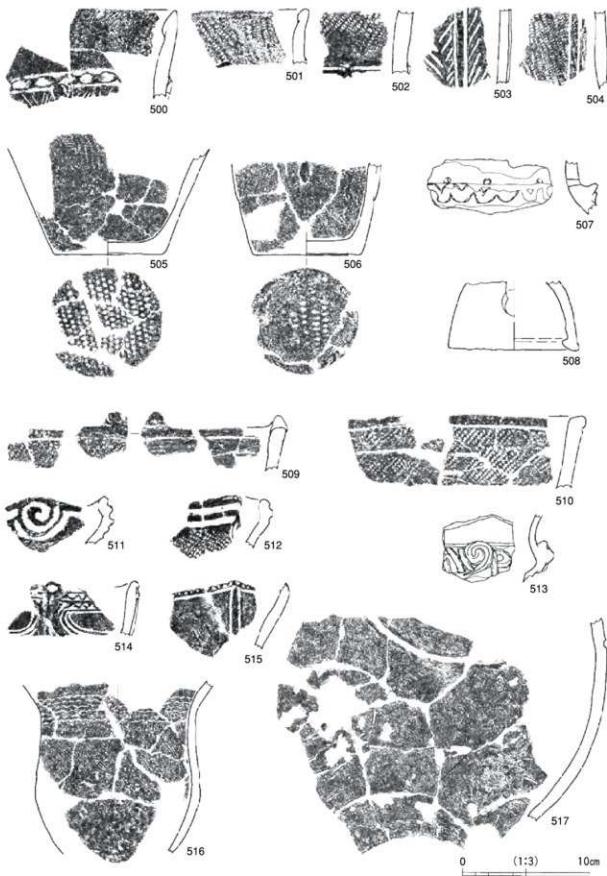
第85図 SB19出土土器(6)



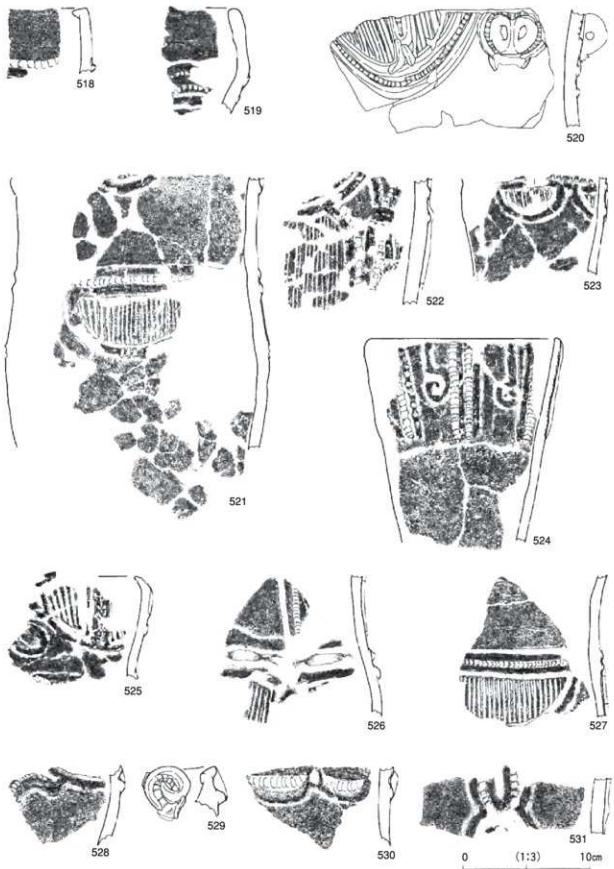
第86図 SB20出土土器



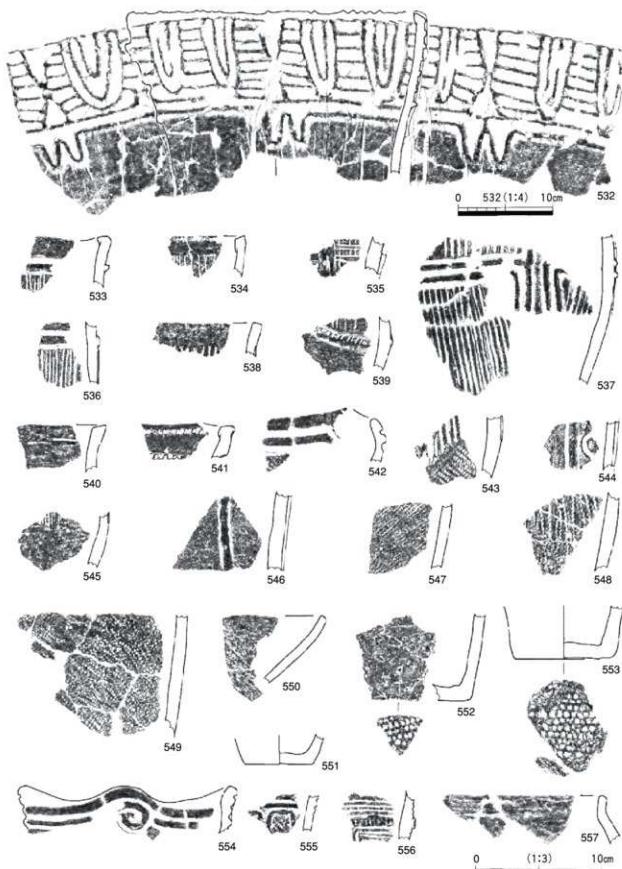
第87図 SB21出土土器(1)



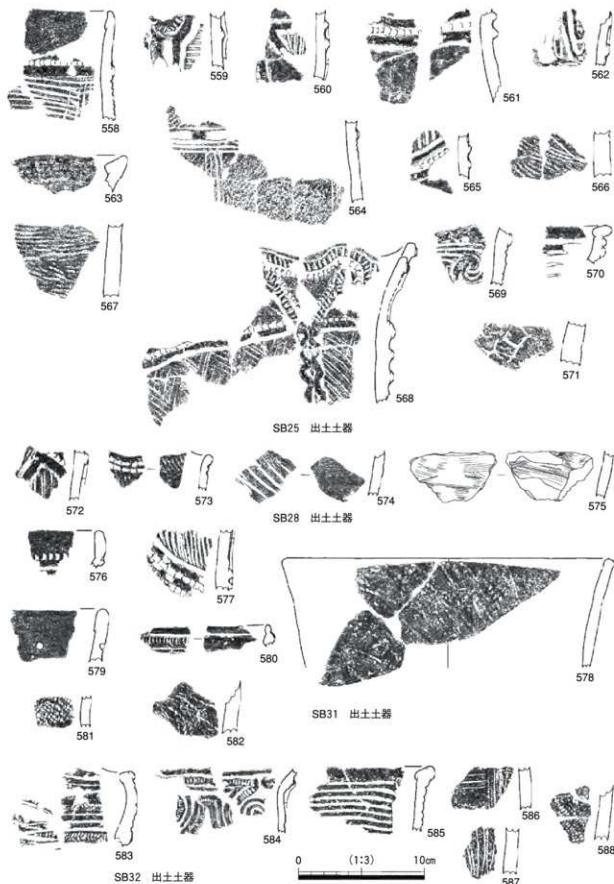
第88図 SB21出土土器(2)



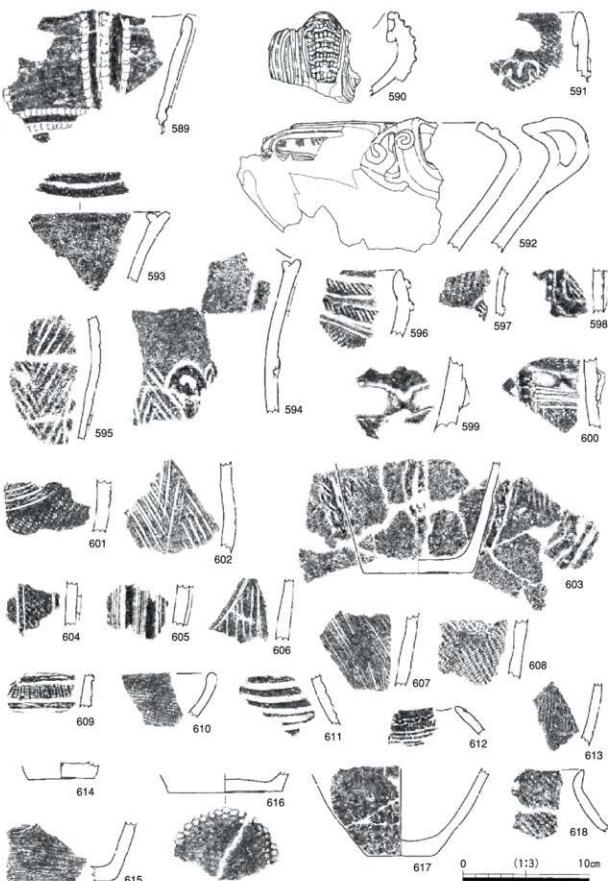
第89図 SB24出土土器(1)



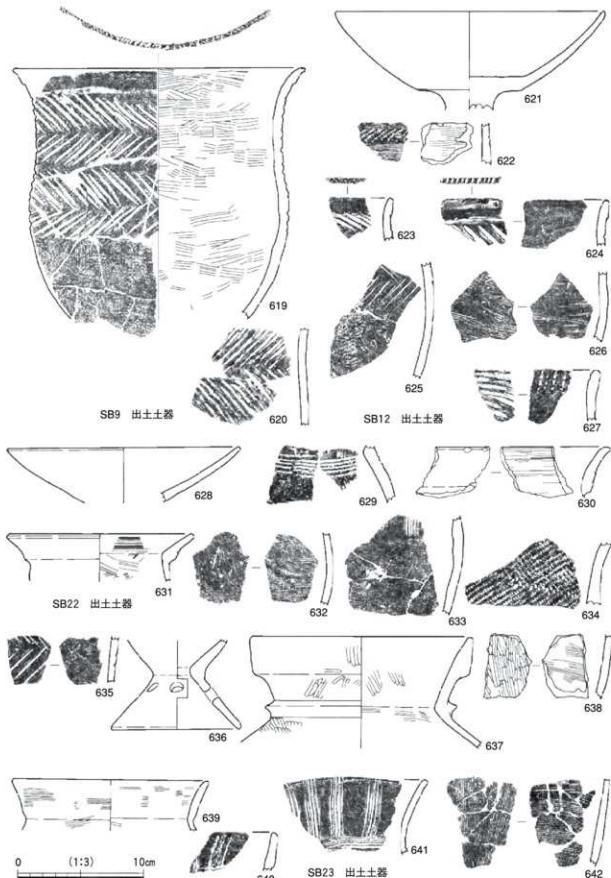
第90図 SB24出土土器(2)



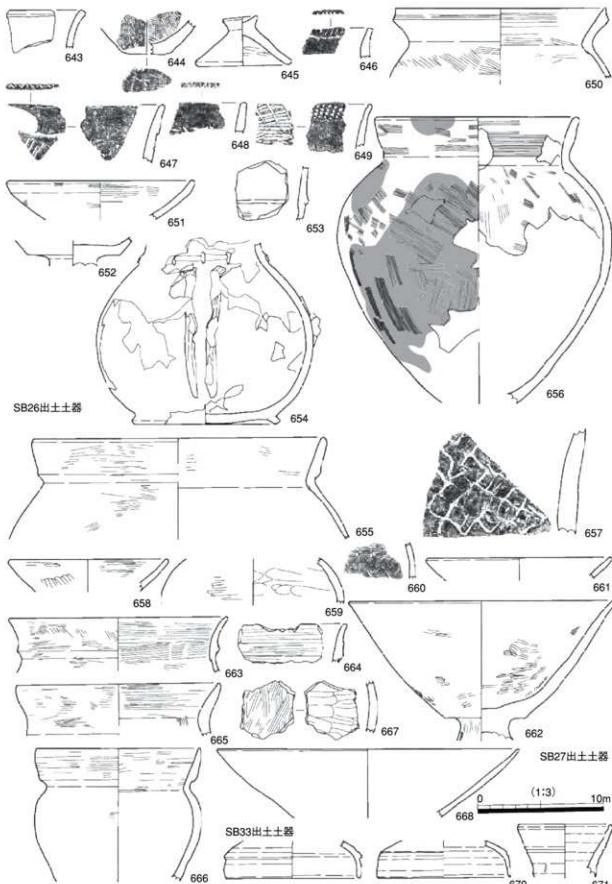
第91図 SB25,SB28,SB31,SB32出土土器



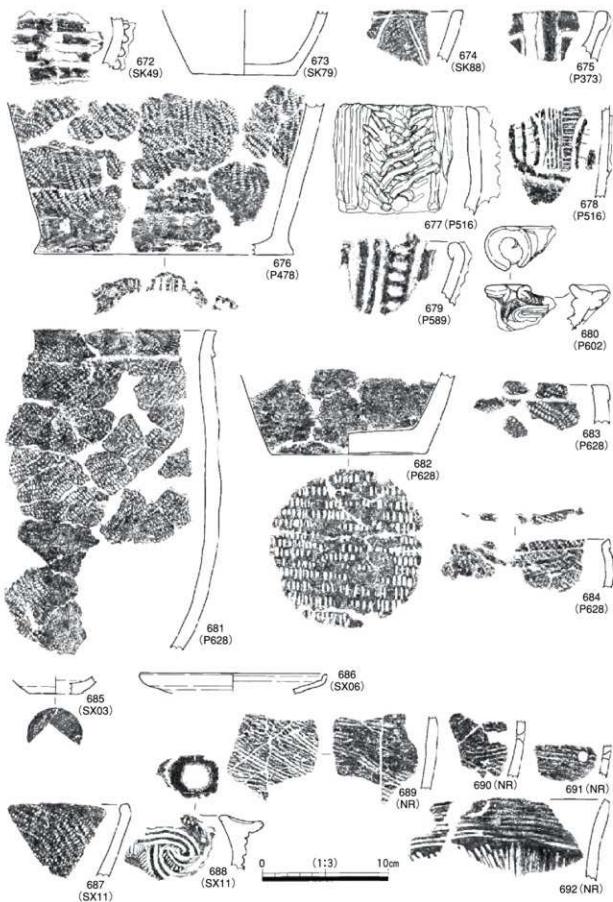
第92図 SB29出土土器



第93図 SB9,SB12,SB22,SB23出土土器



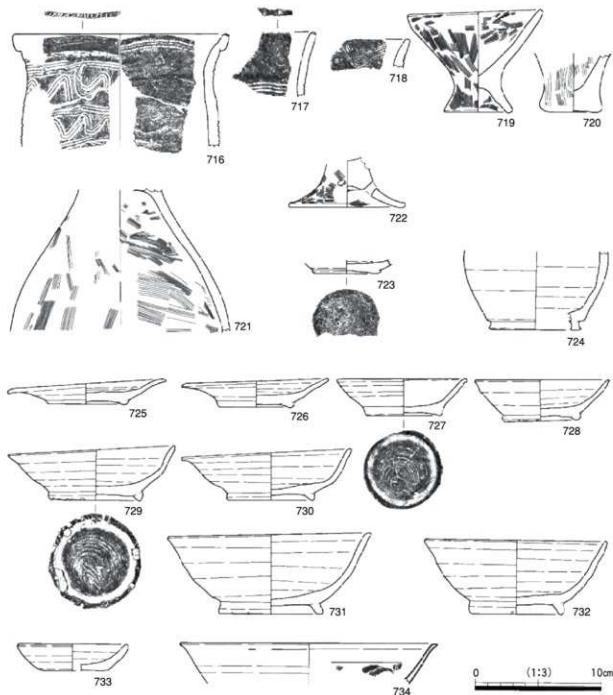
第94図 SB26,SB27,SB33出土土器



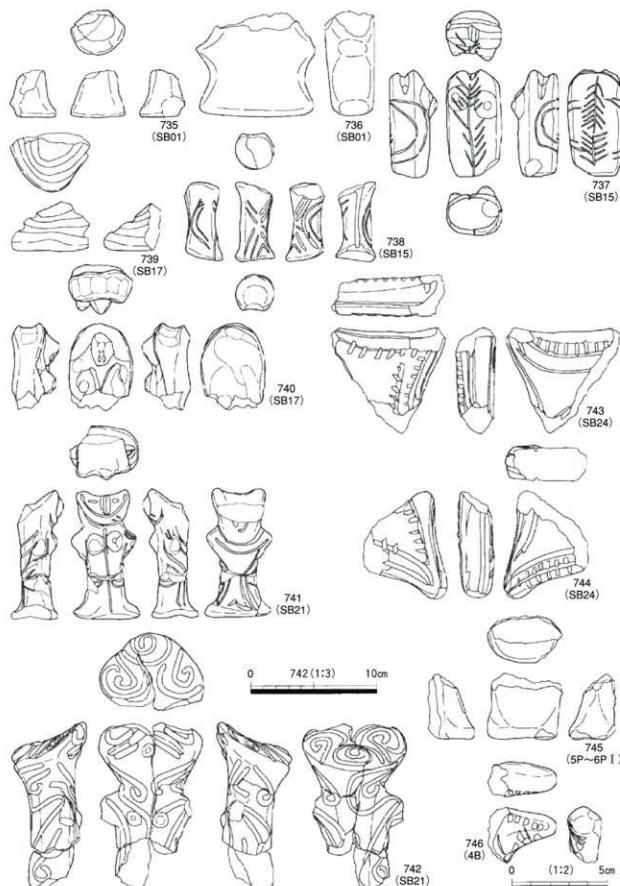
第95図 SK、P、SX、NR出土土器



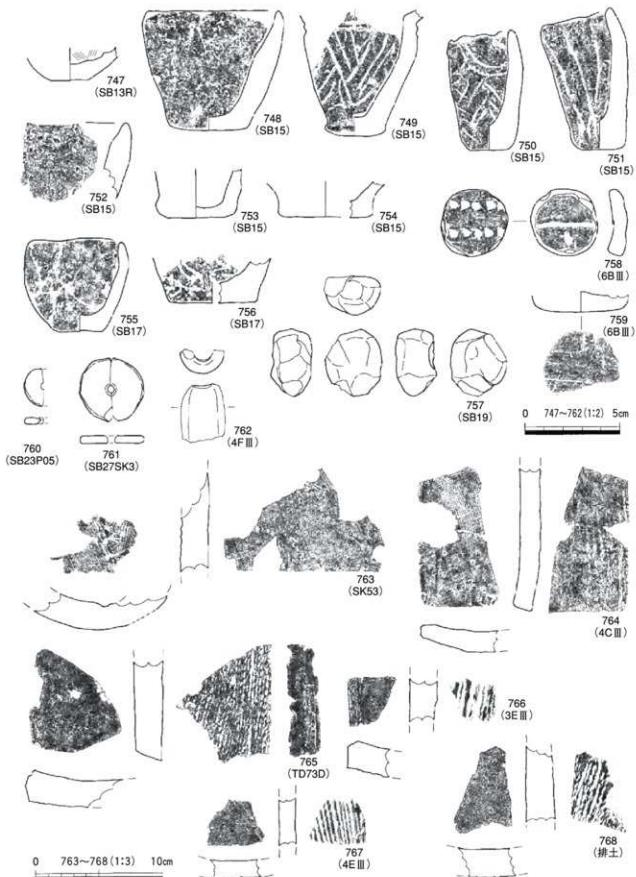
第96図 遺物包含層出土土器(1)



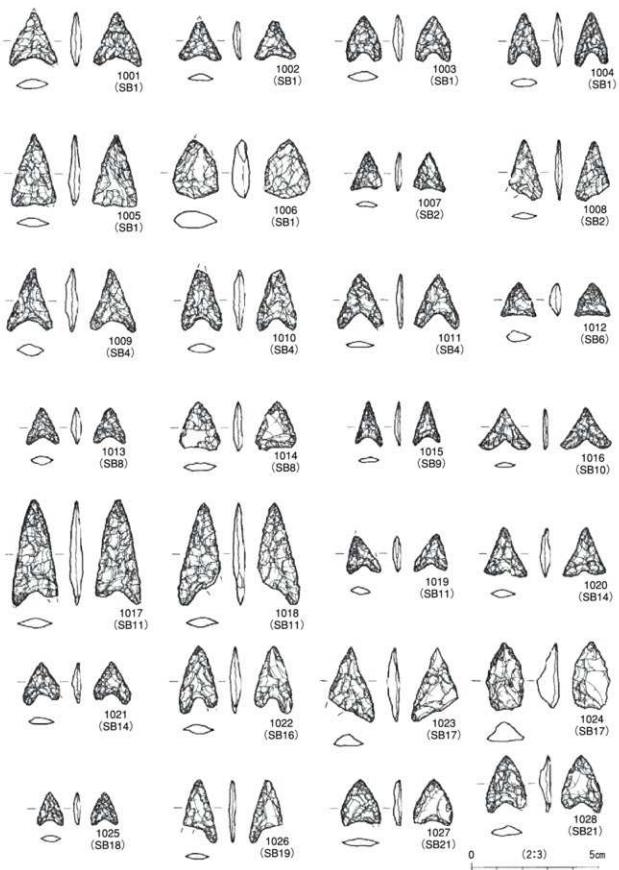
第97図 遺物包含層出土土器(2)



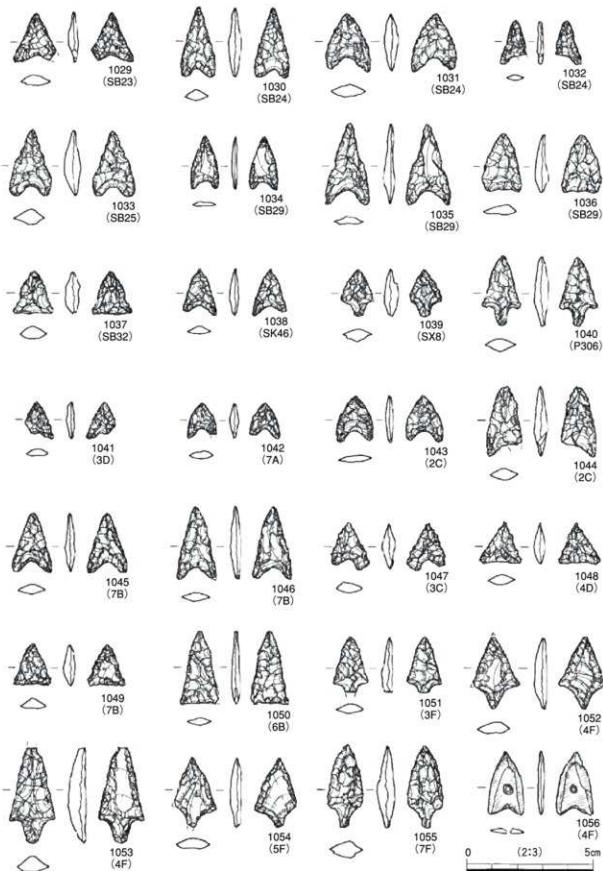
第98図 土偶



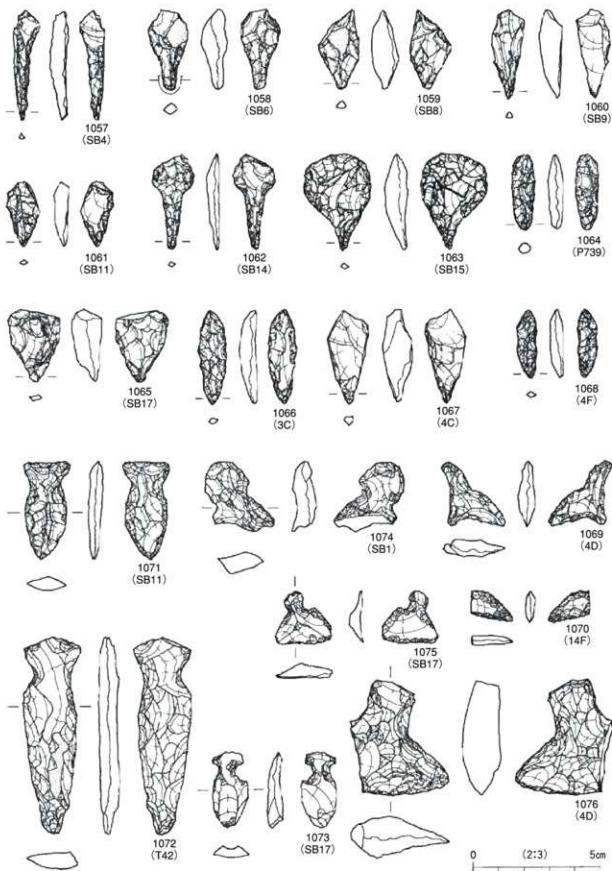
第99図 ミニチュア土器、加工円盤、有孔土製品、土鍤、焼成粘土塊、瓦



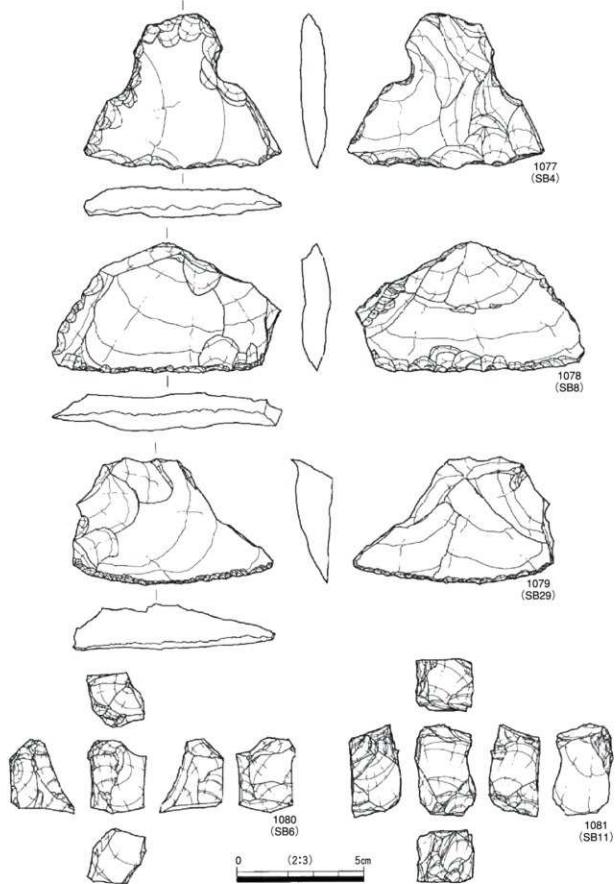
第100図 石器(1) 石鱗①



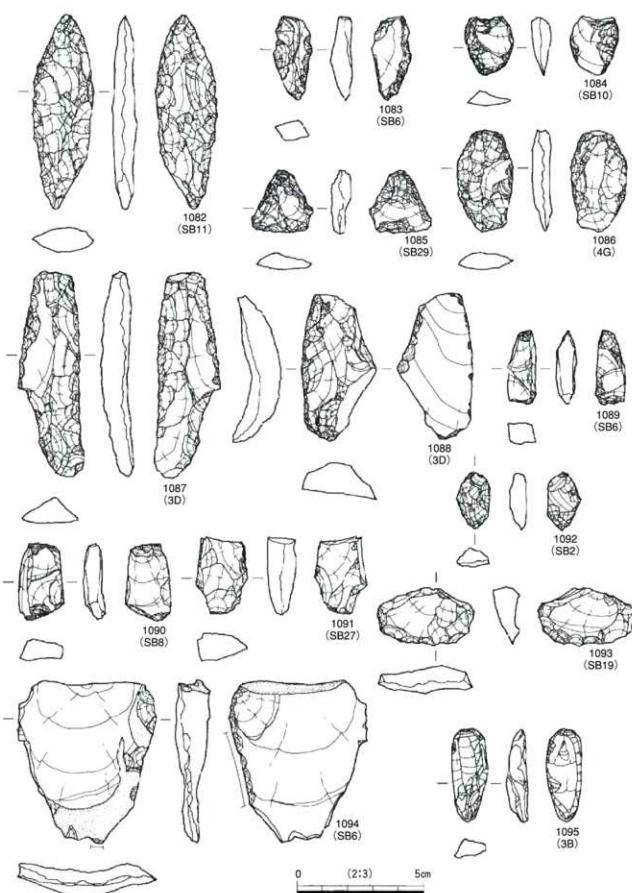
第101図 石器(2) 石鏃②



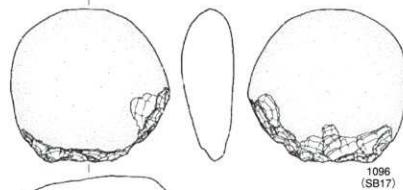
第102図 石器(3) 石鏃、異形石器、石匙



第103図 石器(4) 石匙、スクレイパー、石核

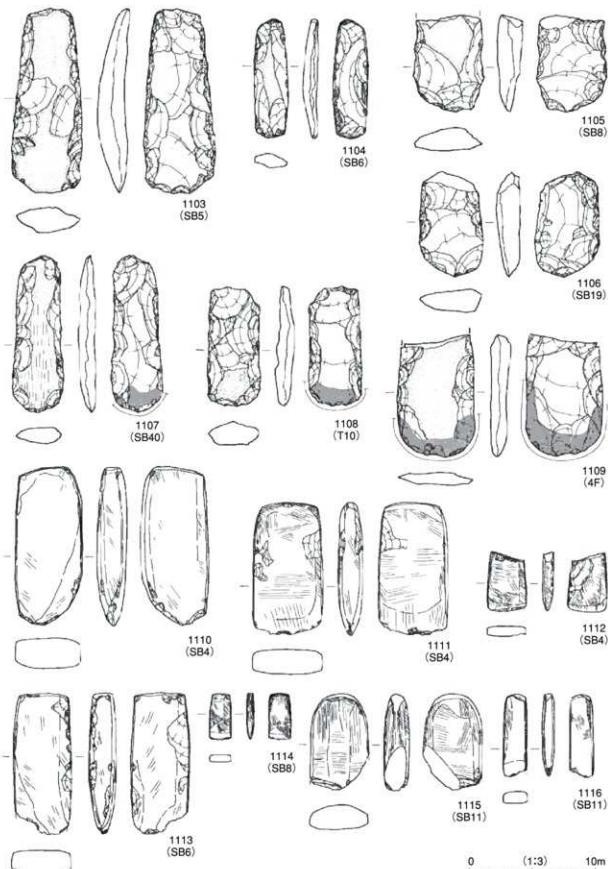


第104図 石器(5) 尖頭器、スクレイパー・楔形石器、RF、UF

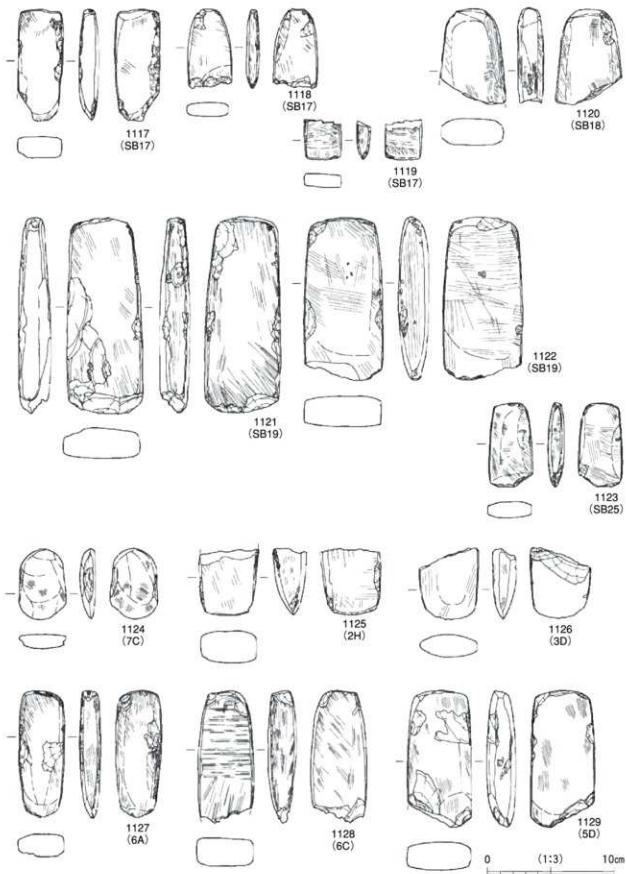


0 (1:3) 10cm

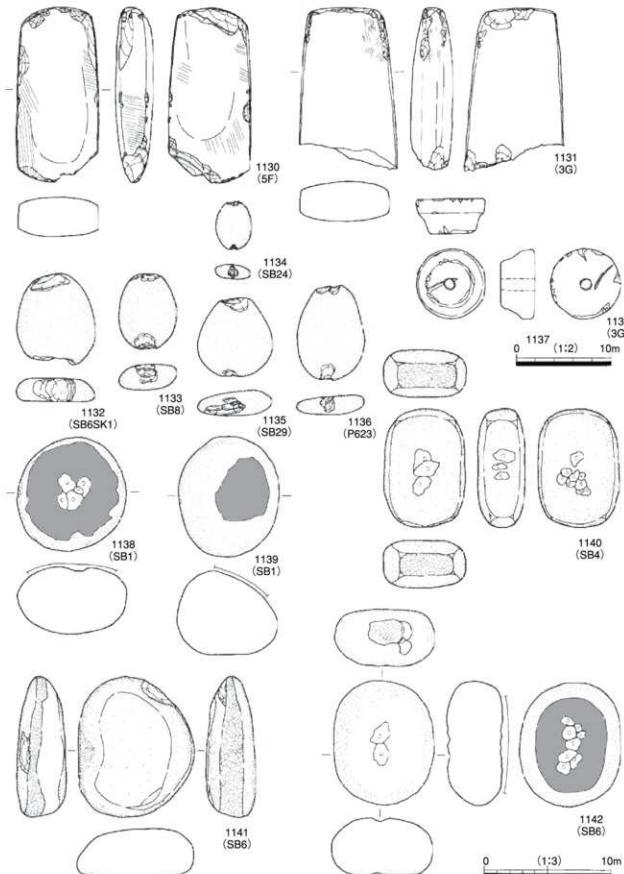
第105図 石器(6) 磨石器、打製石斧①



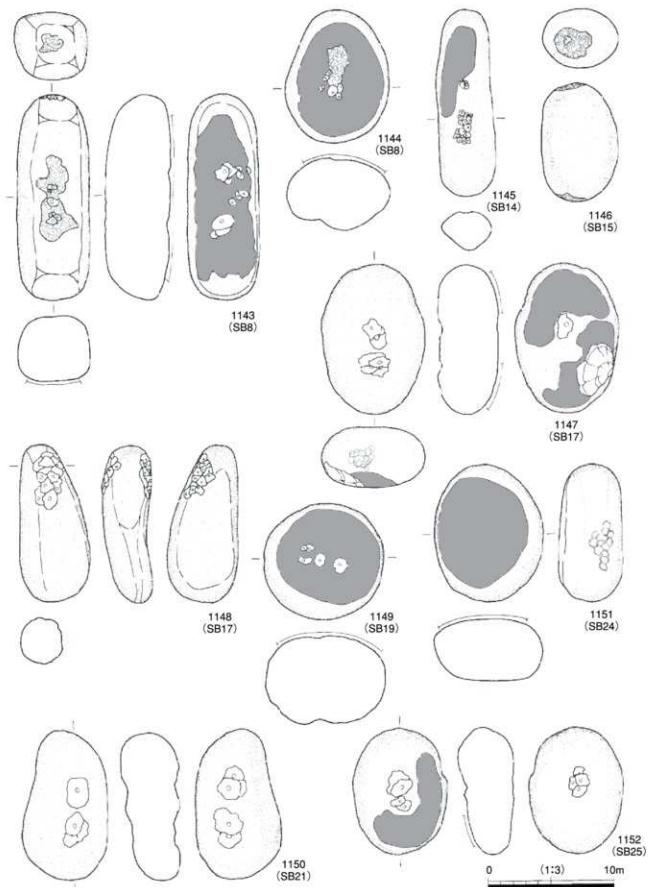
第106図 石器(7) 打製石斧②、磨製石斧①



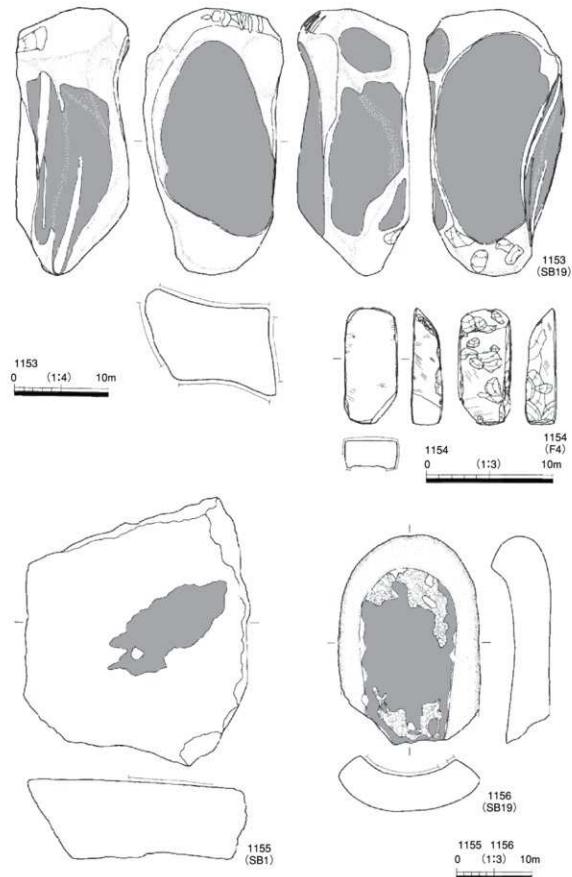
第107図 石器(8) 磨製石斧②



第108図 石器(9) 磨製石斧③、防護車、打欠石錐、磨石頭①



第109図 石器(10) 磨石類②

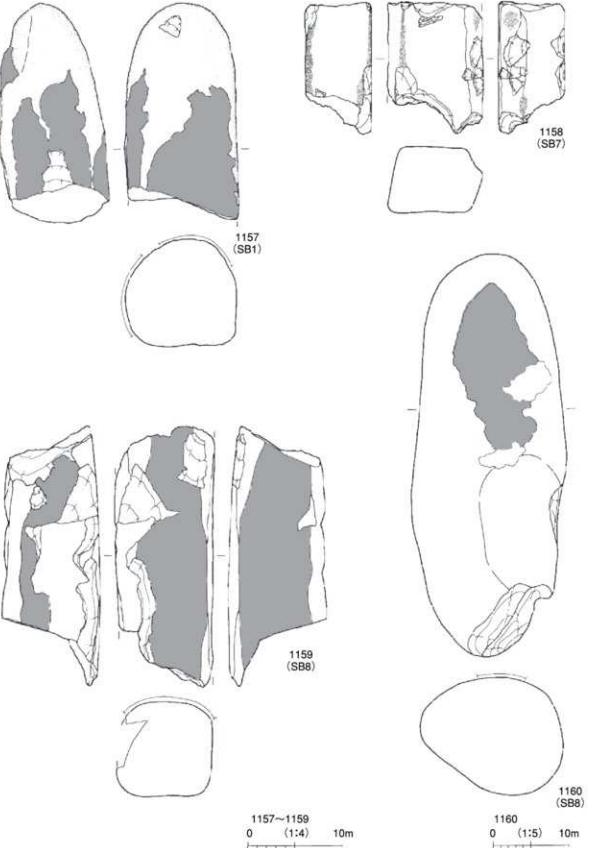


第110図 石器(11) 柴石、石皿

第71表 土器及び土製品観察表(1)

番号	種別	基板	分類	細分類	遺物名	グリッピング	層位	器形	色調	雲母	粘土	地文	備考	神奈 写真
1	縄文土器	深鉢	A1	a2	SB1	KC-KC	M	3	褐色	少	密	-	-	58 11
2	縄文土器	深鉢	A1	a2	SB1	KC-KC	Z	2	にじ褐色	少	密	-	大型、口縁内部肥厚	58 11
3	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB1	KC-KC	U	2	にじ褐色	少	密	-	P1出土	58 11
4	縄文土器	深鉢	(A5)	-	SB1	KC-KC	U	2	にじ褐色	少	密	-	-	58 11
5	縄文土器	深鉢	A1	e	SB1	KC-KC	U	3	褐色	少	密	-	折高口縁	58 11
6	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB1	KC-KC	M	3	褐色	多	密	-	上面灰化物付着	58 11
7	縄文土器	深鉢	A1	b2	SB1	KC-KC	U	2	赤褐色	少	密	鏡文	M, L接合	58 11
8	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB1	KC-KC	U	3	黒褐色	少	密	-	-	58 11
9	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB1	KC-KC	U	-	明褐色	少	密	RL鏡文	-	58 11
10	縄文土器	深鉢	B	-	SB1	KC-KC	Z	2	にじ褐色	少	密	-	口縁内面肥厚	58 -
11	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB1	KC-KC	M	3	褐色	少	密	-	-	58 -
12	縄文土器	深鉢	B	e	SB1	KC-KC	L	2	にじ赤褐色	少	密	鏡文	口縁内面肥厚、SBIP2接合	58 -
13	縄文土器	深鉢	A1	e	SB1	KC-KC	U	3	にじ褐色	多	密	-	-	58 11
14	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB1	KC-KC	M	-	赤褐色	少	密	条文鏡文	-	58 11
15	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB1	KC-KC	U	3	にじ赤褐色	少	密	RL鏡文	16と同一	58 11
16	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB1	KC-KC	U	3	赤褐色	少	密	RL鏡文	M-L接合	58 -
17	縄文土器	深鉢	B	b	SB1	KC-KC	M	-	褐色	少	密	鏡文	P1鏡文	58 11
18	縄文土器	深鉢	B	b	SB1	KC-KC	Z	2	にじ褐色	少	密	鏡文	内面肥厚付着	58 11
19	縄文土器	深鉢	B	b	SB1	KC-KC	U	2	にじ赤褐色	少	密	RL鏡文	小型、P1鏡文	58 11
20	縄文土器	深鉢	B	a	SB1	KC-KC	U	1	褐色	少	密	RL鏡文	P1接合、近口縁	59 11
21	縄文土器	深鉢	B	a	SB1	KC-KC	M	1	赤褐色	少	密	-	折高口縁	59 11
22	縄文土器	深鉢	B	a	SB1	KC-KC	U	-	にじ赤褐色	少	密	鏡文沈化	23と同一	59 -
23	縄文土器	深鉢	B	a	SB1	KC-KC	U	-	にじ赤褐色	少	密	鏡文沈化	22と同一	59 11
24	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB1	KC-KC	U	-	明褐色	少	密	RL鏡文	2C耳形	59 11
25	縄文土器	深鉢	F1	-	SB1	KC-KC	M	2	褐色	少	密	鏡文SK1、P1接合	-	59 11
26	縄文土器	深鉢	F1	-	SB1	KC-KC	U	-	にじ褐色	少	密	RL鏡文	-	59 -
27	縄文土器	深鉢	F1	-	SB1	KC-KC	U	-	にじ赤褐色	少	密	鏡文	-	59 -
28	縄文土器	浅鉢?	(A1)	-	SB1	KC-KC	L	-	褐色	少	密	-	M接合	59 -
29	縄文土器	浅鉢?	C1	a	SB1	KC-KC	M	4	褐色	少	密	-	-	59 11
30	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB1	KC-KC	M	-	にじ褐色	多	密	-	-	59 11
31	縄文土器	小型鉢	(C1)	-	SB1	KC-KC	M	2	にじ褐色	少	密	-	-	59 11
32	縄文土器	深鉢	D1	b	SB1	KC-KC	U	3	赤褐色	少	密	-	-	59 11
33	縄文土器	深鉢	(D1)	-	SB1	KC-KC	U	3	にじ赤褐色	少	密	-	-	59 11
34	縄文土器	深鉢	D1	b	SB1	KC-KC	U	3	にじ褐色	少	密	-	-	59 11
35	縄文土器	深鉢	A1	b2	SB2	BC-BC	U	3	にじ褐色	少	密	-	所近口縁	60 12
36	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB2	BC-BC	U	-	褐色	少	密	鏡文	-	60 12
37	縄文土器	深鉢	A1	b2	SB2	BC-BC	U	3	赤褐色	少	密	-	口縁内面肥厚、突起状	60 12
38	縄文土器	深鉢	A1	c2	SB2	BC-BC	M	1	褐色	多	密	鏡文	口縁内面肥厚突起状、金堂徑人骨?	60 12
39	縄文土器	小型鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	2	褐褐色	少	密	鏡文	M-L接合、波状口縁	60 12
40	縄文土器	小型鉢	(A1)	-	SB2	BC-BC	M	2	褐色	少	密	-	-	60 12
41	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	-	褐色	少	密	鏡文沈化	-	60 12
42	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	-	黒褐色	少	密	RL鏡文	43と勘士類似	60 12
43	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	U	-	黒褐色	少	密	鏡文	42と勘士類似	60 12
44	縄文土器	深鉢	B	d	SB2	BC-BC	U	-	褐色	少	密	鏡文	M接合	60 12
45	縄文土器	深鉢	B	d	SB2	BC-BC	M	1	褐色	少	密	鏡文	SB1-SB2よりやや古め	60 12
46	縄文土器	深鉢	(A1)	c	SB2	BC-BC	M	1	褐色	少	密	鏡文	47と勘士類似	60 12
47	縄文土器	深鉢	(A1)	c	SB2	BC-BC	M	1	にじ褐色	少	密	鏡文	46と勘士類似	60 12
48	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	L	-	褐色	少	密	鏡文	49と勘士類似、M接合	60 -
49	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	-	黒褐色	少	密	鏡文	48と勘士類似	60 -
50	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	-	褐色	少	密	鏡文	49と勘士類似	60 -
51	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	-	褐色	少	密	鏡文	52と勘士類似	60 -
52	縄文土器	深鉢	(B)	-	SB2	BC-BC	M	1	明褐色	少	密	鏡文	51と勘士類似	60 12
53	縄文土器	台付鉢	(A1)	-	SB2	BC-BC	M	-	褐色	少	密	-	SS-2と勘士類似	61 12
54	縄文土器	深鉢	F2	-	SB2	BC-BC	M	-	明褐色	少	密	鏡文	-	61 -
55	縄文土器	浅鉢	A1	a2	SB2	BC-BC	M	2	褐色	少	密	-	伴斜式Ⅱ・Ⅲ並行、S3と勘士類似。3B 1接合	61 12
56	縄文土器	深鉢	(D1)	-	SB2	BC-BC	M	5	褐色	-	密	-	突起は曾晳式、区画・押引・鏡文は仄 烟式	61 12
57	縄文土器	深鉢	F1	-	SB3	3C	U	-	灰褐色	少	密	鏡文	-	61 12
58	縄文土器	深鉢	F1	-	SB3	3C	U	-	灰褐色	少	密	鏡文	-	61 12
59	縄文土器	深鉢	F1	-	SB3	3C	U	-	灰褐色	少	密	鏡文	-	61 12
60	縄文土器	深鉢	F1	-	SB3	3C	U	-	灰褐色	少	密	鏡文	SB4U、SB8M接合	61 12
61	縄文土器	深鉢	F1	-	SB3	3C	U	-	灰褐色	少	密	鏡文	-	61 12
62	縄文土器	深鉢	C1	a	SB3	3C	U	2	にじ褐色	少	密	鏡文	波状口縁	61 12
63	縄文土器	深鉢	C1	a	SB3	3C	U	2	にじ褐色	少	密	-	63-64・113-114と同一	61 12
64	縄文土器	深鉢	C1	a	SB3	3C	U	-	にじ褐色	少	密	-	62-63・113-114と同一	61 12
65	縄文土器	深鉢	A1	c	SB3	3C	U	3	にじ褐色	多	密	-	-	61 14
66	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB3	3C	U	3	にじ褐色	少	密	-	口縁内面肥厚	61 14

第111図 石器(12) 石棒



第72表 土器及び土製品観察表(2)

閥類番号	種別	基椎	分類	細分類	遺物名	グリッド番	層位	断面	器形	色調	雲母	粘土	地文	備考	神奈	写真
60	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SH8	3C	U	3	浅色	少	黒	-	口縁部内面肥厚	61	14	
60	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	波状口縁、口縁部内面肥厚	61	14	
70	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	上縁内面肥厚	61	14	
71	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	多	黒	-	上縁内面肥厚	61	14	
72	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	灰褐色	多	黒	-	壁	61	14	
73	縄文土器	深鉢	F2	-	SH8	3C	M	-	灰褐色	少	黒	-	壁	61	14	
74	縄文土器	深鉢	F2	-	SH8	3C	M	-	灰褐色	少	黒	-	壁	61	14	
75	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3B	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	61	15	
76	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3B	L	-	濃赤褐色	少	黒	-	上縁内面肥厚	61	15	
77	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3B	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	上縁内面肥厚	61	15	
78	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3B	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	上縁内面肥厚	61	15	
79	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	3C	U	Z	濃赤褐色	少	黒	-	口縁部内面肥厚	62	-	
80	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	多	黒	-	3DⅡ、T7層合	62	-	
81	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	3DⅡ接合、外面炭化物付着	62	14	
82	縄文土器	深鉢	B	-	SH8	3C	U	-	濃赤褐色	少	黒	-	口縁部内面肥厚	62	14	
83	縄文土器	深鉢	A1	b2	SH8	3C	U	-	濃赤褐色	多	黒	-	SB8M接合	62	14	
84	縄文土器	深鉢	A1	b2	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	多	黒	-	壁	62	14	
85	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	L	3	赤褐色	少	黒	-	壁	62	13	
86	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	M	3	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
87	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	U	3	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
88	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	U	3	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
89	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	M	3	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
90	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	M	3	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
91	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
92	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	U	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
93	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
94	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
95	縄文土器	深鉢	B	d	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
96	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
97	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
98	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
99	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
100	縄文土器	深鉢	B	a	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	口縁部内面肥厚、U-3CⅢ接合	62	14	
101	縄文土器	深鉢	B	a	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
102	縄文土器	深鉢	B	a	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
103	縄文土器	深鉢	B	a	SH8	3C	M	1	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
104	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	3C	M	-	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
105	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	3C	M	-	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
106	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	3C	M	-	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
107	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	3C	M	-	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
108	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
109	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	3C	M	-	赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
110	縄文土器	深鉢	(F1)	-	SH8	3C	L	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
111	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
112	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SH8	3C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
113	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
114	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
115	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
116	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	多	黒	-	壁	62	14	
117	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
118	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	3C	U	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
119	縄文土器	深鉢	C1	b	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
120	縄文土器	深鉢	C1	b	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
121	縄文土器	深鉢	C1	b	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
122	縄文土器	深鉢	C1	b	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
123	縄文土器	深鉢	C1	c	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
124	縄文土器	深鉢	C1	c	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
125	縄文土器	台付鉢	C1	c	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
126	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SH8	3C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
127	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SH8	3C	M	3	濃赤褐色	少	黒	-	壁	62	14	
128	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	4C	L	-	浅黄色	少	黒	-	口縁部内面肥厚	64	15	

第73表 土器及び土製品観察表(3)

閥類番号	種別	基椎	分類	細分類	遺物名	グリッド番	層位	断面	器形	色調	雲母	粘土	地文	備考	神奈	写真
129	縄文土器	浅鉢	A1	a2	SH8	4C	M	Z	[に]濃赤褐色	少	黒	-	U接合、P4出土	64	15	
130	縄文土器	浅鉢	B	b	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	上縁内面肥厚	64	15	
131	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	上縁内面肥厚	64	15	
132	縄文土器	深鉢	A1	e	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	64	15	
133	縄文土器	深鉢	A1	e	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	P4出土・(118と重なる)	64	15	
134	縄文土器	小型?	F2	-	SH8	4C	L	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	64	15	
135	縄文土器	浅鉢	A1	b	SH8	4C	L	3	黄褐色	少	黒	-	壁	64	15	
136	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	4C	U	-	明褐色	少	黒	-	M接合、伊勢原	64	15	
137	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	4C	L	-	濃赤褐色	少	黒	-	地文	64	15	
138	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	U接合	64	15	
139	縄文土器	深鉢	A1	a2	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	地文	64	15	
140	縄文土器	深鉢	B	b	SH8	4C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	141と同一、SB8P4出土	64	15
141	縄文土器	深鉢	B	b	SH8	4C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	140と同一、SR11出土	64	15
142	縄文土器	深鉢	(B)	-	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	多	黒	-	壁	64	15	
143	縄文土器	深鉢	A1	c	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	64	15	
144	縄文土器	深鉢	B	c	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	64	15	
145	縄文土器	深鉢	B	c	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	64	15	
146	縄文土器	深鉢	F2	-	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	65	15	
147	縄文土器	深鉢	F2	-	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	壁	65	15	
148	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	2	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
149	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
150	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
151	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
152	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
153	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
154	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
155	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
156	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
157	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
158	縄文土器	深鉢	B	e	SH8	4C	M	1	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	65	15
159	縄文土器	深鉢	F1	-	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	66	15
160	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	66	15
161	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	66	15
162	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	66	15
163	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	66	15
164	縄文土器	深鉢	C1	a	SH8	4C	M	-	濃赤褐色	少	黒	-	RL調文	外縁部内面肥厚付着	66	15
165	縄															

第74表 土器及び土製品観察表(4)

閲覧番号	種類	形態	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	器形	色調	雲母	含土	地文	備考	神岡	写真
194	陶文土器	深鉢?	C1	b	SB11	4C	U	-	黒色	-	帶	RL調文	68	19	
195	陶文土器	深鉢	C2	b	SB11	4C	L	2	黒褐色	-	帶	RL調文	68	18	
196	陶文土器	深鉢	C1	c	SB11	4C	L	-	にごり褐色	少	帶	RL調文	68	-	
197	陶文土器	深鉢	C1	c	SB11	4C	L	-	にごり褐色	少	帶	RL調文	68	19	
198	陶文土器	深鉢	C1	b	SB11	4C	M	-	赤褐色	少	帶	内面灰化物付着	68	19	
199	陶文土器	深鉢	(D1)	-	SB11	4C	U	-	にごり褐色	少	帶	黒文	68	19	
200	陶文土器	深鉢	(D2)	-	SB11	4C	U	-	水滴状	少	無	黒文	68	19	
201	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	D	2	黒褐色	少	帶	黒文	69	17	
202	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	69	17	
203	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	M	-	浅褐色	少	帶	黒文	69	17	
204	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	M	-	浅褐色	少	帶	U接合	69	17	
205	陶文土器	深鉢	B	a	SB10	3D	M	1	にごり褐色	少	帶	RL調文	206・237と同一	69	17
206	陶文土器	深鉢	B	a	SB10	3D	M	1	褐色	少	帶	RL調文	205・237と同一・外面部灰化物付着	69	17
207	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	M	-	にごり褐色	少	帶	206と同一?	69	17	
208	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	M	-	にごり褐色	少	帶	207と同一? M接合、外面部灰化物付着	69	17	
209	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	3D	M	-	にごり褐色	少	帶	RL調文	69	17	
210	陶文土器	深鉢	A1	c2	SB10	3D	M	3	灰褐色	少	帶	黒文	69	17	
211	陶文土器	深鉢	B	a	SB10	3D	M	1	黒褐色	少	帶	黒文	69	17	
212	陶文土器	深鉢	Sb11	A1	a2	SB10	3D	M	-	にごり褐色	-	帶	黒文	69	17
213	陶文土器	深鉢	A1	c	SB10	3D	M	-	明る褐色	少	帶	RL調文	69	17	
214	陶文土器	深鉢	(B)	-	SB10	3D	M	-	水滴状	少	帶	黒文	69	17	
215	陶文土器	深鉢	(B)	-	SB10	3D	M	-	明る褐色	少	帶	SBHML接合	69	17	
216	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	黒文	69	17	
217	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	黒文	69	17	
218	陶文土器	深鉢	(B)	-	SB10	3D	M	-	灰褐色	少	帶	黒文	69	17	
219	陶文土器	深鉢	(P1)	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	RL調文	233と同一?	69	17
220	陶文土器	深鉢	(C1)	-	SB10	3D	M	-	にごり褐色	多	帶	RL調文	220と同一?	69	17
221	陶文土器	深鉢	(C1)	-	SB10	3D	M	-	にごり褐色	多	帶	110調文	221と同一	69	-
222	陶文土器	深鉢	(B)	-	SB10	3D	M	1	にごり褐色	多	帶	U接合	69	17	
223	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	-	水滴状	少	帶	黒文	69	17	
224	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	1	にごり褐色	少	帶	黒文	69	17	
225	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	1	にごり褐色	少	帶	黒文	69	17	
226	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	1	にごり褐色	少	帶	黒文	69	17	
227	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	3D	M	3	明る褐色	少	帶	波紋U接合(4枚底×2)	70	16	
228	陶文土器	深鉢	(D1)	a	SB10	3D	M	3	明る褐色	少	帶	波紋U接合(4枚底×2)	70	16	
229	陶文土器	深鉢	(D1)	a	SB10	3D	M	3	褐色	少	帶	キャラビーパーがかなり丸みを帯びる	70	16	
230	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	口縁部形張出し・舟形・波紋U接合(2重)	70	16	
231	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	3	にごり褐色	多	帶	221と同一・口縁部内面灰化物付着	70	17	
232	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	3	にごり褐色	多	帶	220と同一	70	17	
233	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	-	水滴状	少	帶	黒文	70	17	
234	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	-	水滴状	少	帶	黒文	70	17	
235	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	脚部・底面内面灰化物付着・SD1付着	70	17	
236	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	脚部・底面内面灰化物付着	70	17	
237	陶文土器	深鉢	(A)	-	SB10	3D	M	-	褐色	少	帶	上部脚部付着・SD1付着・SB1より新規の可能性あり・文庫裏系	70	17	
238	陶文土器	深鉢	(A1)	c2	SB10	3D	M	3	明る褐色	少	帶	黒文	70	17	
239	陶文土器	深鉢	(A1)	c2	SB10	3D	M	3	褐色	少	帶	黒文	70	17	
240	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	4E-3E	M	-	褐色	少	帶	口縁部内面灰化物付着	72	17	
241	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB10	4E-3E	M	-	褐色	少	帶	口縁部内面灰化物付着	72	17	
242	陶文土器	深鉢	A1	c	SB10	4E-3E	M	-	にごり褐色	少	帶	RL調文	72	17	
243	陶文土器	深鉢	A1	c	SB10	4E-3E	M	-	にごり褐色	少	帶	RL調文	72	17	
244	陶文土器	深鉢	F1	-	SB10	4E-3E	M	-	にごり褐色	少	帶	RL調文	72	17	
245	陶文土器	深鉢	(A1)	-	SB10	4E-3E	M	-	明る褐色	少	帶	黒文	72	17	
246	陶文土器	深鉢	(B)	-	SB10	4E-3E	M	-	明る褐色	少	帶	黒文	72	17	
247	陶文土器	深鉢	C1	a	SB10	4E-3E	M	-	褐色	少	帶	黒文	72	17	
248	陶文土器	深鉢	(C1)	-	SB10	4E-3E	Z	2	にごり褐色	多	帶	外面文様はがれ	72	17	
249	陶文土器	深鉢	(C1)	-	SB10	4E-3E	Z	2	にごり褐色	多	帶	外面文様はがれ	72	17	
250	陶文土器	深鉢	b	SB10	4E-3E	M	-	にごり褐色	少	帶	内面ミギキ・隕鉢の洞部?	72	17		
251	陶文土器	深鉢	(D)	-	SB10	4E-3E	M	2	にごり褐色	少	帶	内面ミギキ	72	17	
252	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	4E-3E	M	-	にごり褐色	少	帶	内面ミギキ	72	17	
253	陶文土器	深鉢	F2	-	SB10	4E-3E	M	-	褐色	多	帶	内面ミギキ	72	17	
254	陶文土器	台付鉢	(C1)	c	SB13	5F	M	-	浅褐色	多	無	-	254と同一・2次焼成受けるかも?	72	19
255	陶文土器	台付鉢	(C)	c	SB13	5F	M	-	浅褐色	多	無	写真	254と同一・2次焼成受けるかも?	72	19
256	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	U	-	明る褐色	少	帶	RL調文	257と同構造か?	72	20
257	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	1	褐色	少	帶	RL調文	256と同一?	72	20
258	陶文土器	深鉢	A1	b	SB14	7B	U	-	明る褐色	多	帶	-	258と同一	72	20

第75表 土器及び土製品観察表(5)

閲覧番号	種類	形態	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	器形	色調	雲母	含土	地文	備考	神岡	写真
259	陶文土器	深鉢	A1	b	SB14	7B	U	-	明る褐色	少	帶	-	口縁部内面肥厚	72	20
260	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	U	-	明る褐色	少	帶	-	口縁部内面肥厚	72	-
261	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	U	-	黒褐色	少	帶	-	口縁部内面肥厚、P2出土、内面灰化物付着	72	20
262	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	-	黒褐色	少	帶	-	U接合	72	20
263	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
264	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	2	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
265	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	2	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
266	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	3	明る褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
267	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	3	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
268	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	3	明る褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
269	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	3	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
270	陶文土器	深鉢	A1	a2	SB14	7B	M	3	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
271	陶文土器	台付鉢	A1	c	SB14	7B	U	-	にごり褐色	多	帶	黒文	黒文	72	19
272	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	U	-	水滴状	少	帶	黒文	黒文	72	20
273	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	U	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
274	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	U	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
275	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	U	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
276	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	U	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
277	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	黒褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
278	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
279	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
280	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
281	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
282	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
283	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
284	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
285	陶文土器	深鉢	B	b	SB14	7B	M	-	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
286	陶文土器	深鉢	E1	d	SB14	7B	M	3	褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
287	陶文土器	深鉢	E1	d	SB14	7B	M	3	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
288	陶文土器	深鉢	E1	d	SB14	7B	M	3	褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
289	陶文土器	深鉢	E1	d	SB14	7B	M	3	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	20
290	陶文土器	深鉢	E1	d	SB15	7B-A	M	-	明る褐色	少	帶	黒文	黒文	72	21
291	陶文土器	深鉢	E1	d	SB15	7B-A	M	2	にごり褐色	少	帶	黒文	黒文	72	21
292	陶文土器	深鉢	E1	d	SB15	7B-A	M	3	褐色	少					

第76表 土器及び土製品観察表(6)

閥類番号	種別	基相	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	器形	色調	雲母	結晶	地文	備考	神岡	写真
324	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	M	周縁部	-	少	無	墨縞文	75	21	
325	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS15	7B~8A	M	内面	墨縞文	-	無	無	75	-	
326	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	M	内に赤褐色	少	無	無	外縫合化物付	75	-	
327	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	L	内に赤褐色	少	無	無	RL縞文	PS出土	75	21
328	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	M	浅褐色	少	無	無	化粧土粒を多く含む	75	21	
329	萬代土器	ミニマニア 土器?	G	-	SBS15	7B~8A	M	褐色	-	無	無	RL縞文	75	21	
330	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	M	褐色	-	無	無	RL縞文	75	21	
331	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	M	褐色	-	無	無	U接合	75	-	
332	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS15	7B~8A	M	褐色	-	無	無	無	75	-	
333	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS16	SB~GB	M	内に赤褐色	少	無	無	33Nと同一	76	21	
334	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS16	SB~GB	M	内に赤褐色	少	無	無	33Sと同一	76	21	
335	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS16	SB~GB	U	褐色	少	無	無	76	21		
336	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS16	SB~GB	U	灰褐色	少	無	無	条縞文	76	21	
337	萬代土器	鉢	CI	a	SBS16	SB~GB	M	内に赤褐色	少	無	無	動物意匠文	76	21	
338	萬代土器	深鉢	CI	b	SBS16	SB~GB	U	3に内に褐色	少	無	無	無	76	21	
339	萬代土器	深鉢	(CI)	-	SBS16	SB~GB	U	3に内に褐色	少	無	無	RL縞文	76	21	
340	萬代土器	深鉢	FI	-	SBS18	AC	-	内面灰褐色	少	無	無	無	76	21	
341	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS18	AC	M	褐色	多	無	無	内面灰褐色、文様北斜系?	76	22	
342	萬代土器	深鉢	CI	a	SBS18	AC	-	内に赤褐色	少	無	無	P4出土	76	22	
343	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	77	22		
344	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	縦條文	77	22	
345	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	77	22		
346	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	77	22		
347	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	縦條文	77	22	
348	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	褐色	少	無	無	外縫合付着	77	22	
349	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	77	-	
350	萬代土器	深鉢	AI	b	SBS17	GB~KC	M	1に赤褐色	少	無	無	大型	77	-	
351	萬代土器	深鉢	AI	b	SBS17	GB~KC	U	褐色	多	無	無	大型	77	22	
352	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	35Sと同一	77	22	
353	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	35Sと同一	77	22	
354	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	RL縞文	77	22	
355	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	1口縫合内面肥厚、受口状、大きい横状把手、底に乳孔	77	22	
356	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	波状口縫、受口状	77	22	
357	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	1に内に赤褐色	少	無	無	内面灰褐色付着、口縫合内面肥厚	77	-	
358	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	2に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	77	22	
359	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	77	22	
360	萬代土器	深鉢	AI	b1	SBS17	GB~KC	M	口縫合上部肥厚、359と土壠紙	少	無	無	口縫合上部肥厚、内面灰褐色付着	77	22	
361	萬代土器	深鉢	AI	b2	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	口縫合上部肥厚、内面灰褐色付着	77	22	
362	萬代土器	深鉢	AI	c2	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	多	無	無	縦條文	492と同一	78	22
363	萬代土器	深鉢	B	d	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	多	無	無	内面灰褐色付着	78	22	
364	萬代土器	深鉢	B	d	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	条縞文	78	22	
365	萬代土器	深鉢	B	d	SBS17	GB~KC	M	1に内に赤褐色	少	無	無	36Aと同一	78	22	
366	萬代土器	深鉢	AI	c2	SBS17	GB~KC	M	1に内に赤褐色	少	無	無	縦條文	36Aと同一	78	-
367	萬代土器	深鉢	b	b	SBS17	GB~KC	M	1に内に赤褐色	少	無	無	RL縞文	78	-	
368	萬代土器	深鉢	b	b	SBS17	GB~KC	M	1に内に赤褐色	少	無	無	RL縞文	385と同一	78	22
369	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	1に内に褐色	少	無	無	RL縞文	385と同一	78	22
370	萬代土器	深鉢	AI	a2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	多	無	無	78	22		
371	萬代土器	深鉢	AI	c	SBS17	GB~KC	U	内に赤褐色	-	無	無	縦條文 (縦條)	78	22	
372	萬代土器	深鉢	AI	c	SBS17	GB~KC	U	明赤褐色	少	無	無	縦條文	内面灰褐色付着	78	22
373	萬代土器	深鉢	AI	c	SBS17	GB~KC	U	内に赤褐色	少	無	無	縦條文	内面灰褐色付着	78	22
374	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	縦條文	内面灰褐色付着	78	22
375	萬代土器	深鉢	(CI)	-	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	縦條文	内面灰褐色付着	78	22
376	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	多	無	無	縦條文	内面灰褐色付着	78	22
377	萬代土器	深鉢	AI	b2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	内面に? 付着、浅縫?	79	-	
378	萬代土器	深鉢	AI	b2	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	RL縞文	側面部内面灰褐色付着、SB17P1出土	79	22
379	萬代土器	深鉢	AI	b	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	多	無	無	口縫合内面肥厚	79	-	
380	萬代土器	深鉢	AI	b	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	79	-	
381	萬代土器	深鉢	e	e	SBS17	GB~KC	M	2に内に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	79	-	
382	萬代土器	深鉢	B	b	SBS17	GB~KC	M	2に内に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	79	-	
383	萬代土器	深鉢	B	b	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	79	22	
384	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	RL縞文	385と同一、P4出土	79	22
385	萬代土器	深鉢	(AI)	-	SBS17	GB~KC	M	1に内に赤褐色	少	無	無	RL縞文	385と同一、P4出土	79	-
386	萬代土器	深鉢	CI	b	SBS17	GB~KC	U	内に赤褐色	少	無	無	波状口縫、口縫合内面肥厚	79	22	
387	萬代土器	深鉢	CI	c	SBS17	GB~KC	U	内に赤褐色	少	無	無	波状口縫?	79	22	
388	萬代土器	深鉢	(CI)	-	SBS17	GB~KC	M	内に赤褐色	少	無	無	口縫合内面肥厚	79	22	
389	萬代土器	浅鉢	CI	a	SBS17	GB~KC	M	4に内に赤褐色	少	無	無	79	-		

第77表 土器及び土製品観察表(7)

閥類番号	種別	基相	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	焼成	器形	色調	雲母	結晶	地文	備考	神岡	写真
390	萬代土器	有孔鬚仔	CI	c	SBS17	GB~KC	M	-	網底	少	無	-	内面に朱付着	79	22	
391	萬代土器	深鉢	EI	d	SBS17	GB~KC	M	3に内に赤褐色	少	無	RL縞文	波状口縫?	79	-		
392	萬代土器	深鉢	EI	d	SBS17	GB~KC	M	-	赤褐色	少	無	縦條文	79	22		
393	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	明赤褐色	少	無	RL縞文	解説	79	-	
394	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	内に赤褐色	少	無	RL縞文	解説	79	-	
395	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	人の手で運んでいた土器	80	22	
396	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	解説	80	22	
397	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	解説	80	22	
398	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	解説	80	22	
399	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	解説	80	22	
400	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	解説	80	22	
401	萬代土器	深鉢	F1	-	SBS17	GB~KC	U	-	赤褐色	少	無	RL縞文	解説	80	22	
402	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1に内に赤褐色	多	無	縦條文	SB17と同一	80	24		
403	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	多	無	縦條文	404と同一、1の縫合内面縫合位置2本	80	-		
404	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	多	無	縦條文	405と同一、1の縫合内面縫合位置2本	80	24		
405	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	多	無	縦條文	1の縫合内面縫合付着、SB25と同一	80	28		
406	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	多	無	縦條文	解説	80	28		
407	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	多	無	縦條文	金雲母多く含む	80	26		
408	萬代土器	深鉢	AI	e	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	少	無	縦條文	T42合、409と同一、1の縫合内面肥厚	81	24		
409	萬代土器	深鉢	AI	b	SBS19	IC~SD	M	1赤褐色	少	無	縦條文	408と同一	81	24		
410	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	多	無	縦條文	411と始く縫合	81	25		
411	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	多	無	縦條文	410と同一、1の縫合内面縫合位置2本	81	25		
412	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	多	無	縦條文	410と同一、1の縫合内面縫合位置2本	81	25		
413	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	少	無	縦條文	412と同一	81	25		
414	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	少	無	縦條文	P2出土	81	-		
415	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	少	無	縦條文	413と同一	81	-		
416	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	1明赤褐色	少	無	縦條文	414と同一	81	-		
417	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	2	明赤褐色	少	無	縦條文	415と同一	81	-	
418	萬代土器	深鉢	B	d	SBS19	IC~SD	M	2	明赤褐色	少	無	縦條文	内面灰褐色付着	81	26	
419	萬代土器	小型土器	(AI)	-	SBS19	IC~SD	M	2に内に赤褐色	多	無	縦條文	内面灰褐色付着	81	26		
420	萬代土器	深鉢	AI	b2	SBS19	IC~SD	M	3に内に赤褐色	少	無	縦條文	内面灰褐色付着	81	26		
421	萬代土器	深鉢														

第78表 土器及び土製品観察表(8)

閥類番号	種別	基相	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	断面	器形	色調	雲母	含土	地文	備考	特徴	写真
449	縄文土器	深鉢	C1	a	SB19	IC-5D-0	U	-	にい・黄褐色	-	黒	土	JR縄文	84	26	
450	縄文土器	深鉢	C1	b	SB19	IC-5D-0	Z	明褐色	少	黒	土	JR縄文	84	26		
451	縄文土器	台付鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	U	-	にい・黄褐色	少	黒	土	JR縄文	84	26	
452	縄文土器	深鉢	C1	b	SB19	IC-5D-0	M	にい・黄褐色	少	黒	土	SB6の180と同一、内面灰化物付着	84	25		
453	縄文土器	深鉢	C1	b	SB19	IC-5D-0	M	にい・黄褐色	少	黒	土	RL縄文	84	-		
454	縄文土器	深鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	L	にい・黄褐色	少	黒	土	JR縄文	84	26		
455	縄文土器	深鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	L	3	にい・黄褐色	-	黒	土	495と同一	84	26	
456	縄文土器	深鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	L	3	明褐色	-	黒	土	455と同一、内面灰化物付着	84	-	
457	縄文土器	深鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	U	3	明褐色	少	黒	土	鍛錬文	84	23	
458	縄文土器	深鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	U	3	明褐色	少	黒	土	口縁部内面肥厚、受口状	84	23	
459	縄文土器	浅鉢	C1	b	SB19	IC-5D-0	M	にい・黄褐色	少	黒	土	内内外灰化物付着	84	25		
460	縄文土器	深鉢	C1	a	SB19	IC-5D-0	M	4	明褐色	少	黒	土	口縁部突起はがれか(調査文)	85	26	
461	縄文土器	浅鉢	C1	a	SB19	IC-5D-0	M	-	褐色	少	黒	土	口縁部外反	85	-	
462	縄文土器	浅鉢	C1	b	SB19	IC-5D-0	M	4	にい・黄褐色	少	黒	土	SB211・縁合付、内面灰化物付着	85	25	
463	縄文土器	浅鉢	C1	b	SB19	IC-5D-0	M	4	にい・黄褐色	少	黒	土	大型、口縁立ち上がる	85	23	
464	縄文土器	浅鉢	C1	c	SB19	IC-5D-0	M	-	明褐色	少	黒	土	JR縄文	85	26	
465	縄文土器	浅鉢	F1	c	SB19	IC-5D-0	M	-	褐色	少	黒	土	内外面ミガキ、L接合	85	25	
466	縄文土器	深鉢	D1	a	SB19	IC-5D-0	L	3	明褐色	少	黒	土	SB8の227より古く、内面灰化物付着	85	23	
467	縄文土器	深鉢	E1	c	SB19	IC-5D-0	M	-	褐色	少	黒	土	JR縄文	85	26	
468	縄文土器	深鉢	E1	d	SB19	IC-5D-0	L	3	褐色	少	黒	土	熱文	85	26	
469	縄文土器	深鉢	E1	e	SB19	IC-5D-0	L	3	にい・褐色	多	黒	土	JR縄文	85	25	
470	縄文土器	深鉢	B	d	SB20	SC	L	2	塔形灰化物	少	黒	土	SH1の4に類似。口縁に無支帯がないのでやや似てない?、口縁部内外灰化物付着	86	26	
471	縄文土器	深鉢	A1	c	SB20	SC	U	1	赤褐色	少	黒	土	RL縄文	86	26	
472	縄文土器	深鉢	A1	c	SB20	SC	M	-	褐色	少	黒	土	塔形灰化物付着	86	26	
473	縄文土器	深鉢	F1	-	SB20	SC	-	-	明褐色	少	黒	土	伊藤山出土	86	26	
474	縄文土器	深鉢	F1	-	SB20	SC	-	-	褐色	少	黒	土	鍛錬文	86	25	
475	縄文土器	深鉢	F1	-	SB20	SC	-	-	褐色	少	黒	土	JR縄文	86	25	
476	縄文土器	小形土器	A1	-	SB20	SC	M	2	塔形灰化物	少	黒	土	477と同一	86	26	
477	縄文土器	小形土器	A1	-	SB20	SC	M	2	塔形灰化物	少	黒	土	478と同一	86	25	
478	縄文土器	浅鉢?	A1	-	SB20	SC	-	-	にい・褐色	少	黒	土	内外面ミガキ	86	26	
479	縄文土器	深鉢	A1	a1	SB21	SC-5D-0C	M	3	にい・黄褐色	-	黒	土	RL縄文	87	-	
480	縄文土器	深鉢	A1	a1	SB21	SC-5D-0C	M	3	にい・黄褐色	-	黒	土	JR縄文	87	27	
481	縄文土器	深鉢	A1	a2	SB21	SC-5D-0C	M	3	にい・褐色	少	黒	土	金文	87	27	
482	縄文土器	台付鉢	A1	b1	SB21	SC-5D-0C	M	5	褐色	少	黒	土	塔形灰化物付着	87	26	
483	縄文土器	深鉢	A1	b1	SB21	SC-5D-0C	M	5	にい・黄褐色	-	黒	土	RL縄文	87	-	
484	縄文土器	深鉢	A1	b1	SB21	SC-5D-0C	M	5	にい・黄褐色	-	黒	土	塔形灰化物付着	87	27	
485	縄文土器	深鉢	A1	b1	SB21	SC-5D-0C	U	-	褐色	少	黒	土	塔形灰化物付着	87	27	
486	縄文土器	深鉢	A1	b1	SB21	SC-5D-0C	M	3	塔形	少	黒	土	486と同一	87	27	
487	縄文土器	深鉢	A1	e	SB21	SC-5D-0C	M	3	にい・黄褐色	-	黒	土	RL縄文	87	27	
488	縄文土器	深鉢	A1	e	SB21	SC-5D-0C	M	2	塔形	-	黒	土	塔形灰化物付着	87	27	
489	縄文土器	深鉢	A1	c2	SB21	SC-5D-0C	M	-	明褐色	多	黒	土	JR縄文	87	27	
490	縄文土器	深鉢	A1	c2	SB21	SC-5D-0C	M	-	にい・褐色	少	黒	土	5CⅡ接合	87	27	
491	縄文土器	深鉢	B	a	SB21	SC-5D-0C	M	-	塔形灰化物	少	黒	土	金文	87	27	
492	縄文土器	深鉢	B	b	SB21	SC-5D-0C	L	-	塔形灰化物	少	黒	土	塔形灰化物付着	87	27	
493	縄文土器	深鉢	A1	c	SB21	SC-5D-0C	M	1	にい・黄褐色	少	黒	土	RL縄文	87	27	
494	縄文土器	深鉢	B	b	SB21	SC-5D-0C	M	1	明褐色	多	黒	土	内面灰化物付着	87	27	
495	縄文土器	深鉢	A1	c	SB21	SC-5D-0C	M	1	にい・黄褐色	少	黒	土	金文	87	27	
496	縄文土器	深鉢	B	d	SB21	SC-5D-0C	U	-	灰褐色	-	黒	土	口縁部内面付付受口状	87	27	
497	縄文土器	深鉢	B	d	SB21	SC-5D-0C	L	-	褐色	少	黒	土	鍛錬文	87	27	
498	縄文土器	深鉢	B	d	SB21	SC-5D-0C	M	-	褐色	少	黒	土	496と同一	87	27	
499	縄文土器	深鉢	B	d	SB21	SC-5D-0C	M	3	にい・褐色	-	黒	土	塔形灰化物付着、波状口縁?	87	27	
500	縄文土器	深鉢	B	a	SB21	SC-5D-0C	U	1	褐色	少	黒	土	金文	87	27	
501	縄文土器	深鉢	B	a	SB21	SC-5D-0C	L	2	褐色	-	黒	土	所近口縁	87	27	
502	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB21	SC-5D-0C	M	1	赤褐色	-	黒	土	口縁部内面肥厚	88	-	
503	縄文土器	深鉢	(A1)	-	SB21	SC-5D-0C	M	1	にい・黄褐色	少	黒	土	JR縄文	88	27	
504	縄文土器	深鉢	F1	-	SB21	SC-5D-0C	M	-	赤褐色	少	黒	土	鍛錬文	88	27	
505	縄文土器	深鉢	F1	-	SB21	SC-5D-0C	M	-	褐色	少	黒	土	JR縄文	88	26	
506	縄文土器	深鉢	F1	-	SB21	SC-5D-0C	M	-	明褐色	少	黒	土	JR縄文	88	26	
507	縄文土器	有孔土器	B	d	SB21	SC-5D-0C	M	-	にい・褐色	少	黒	土	塔形灰化物付着	88	27	
508	縄文土器	有孔土器	C1	b	SB21	SC-5D-0C	M	-	褐色	少	黒	土	塔形灰化物付着、波状口縁?	88	26	
509	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB21	SC-5D-0C	U	2	にい・黄褐色	-	黒	土	JR縄文	88	-	
510	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB21	SC-5D-0C	U	2	にい・褐色	-	黒	土	509と同一	88	27	
511	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB21	SC-5D-0C	U	2	にい・褐色	-	黒	土	JR縄文	88	27	
512	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB21	SC-5D-0C	M	-	明褐色	多	黒	土	509と同一	88	27	
513	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB21	SC-5D-0C	M	-	塔形灰化物付着	少	黒	土	JR縄文	88	27	
514	縄文土器	深鉢	(C1)	-	SB21	SC-5D-0C	M	3	明褐色	多	黒	土	塔形灰化物付着	88	27	
515	縄文土器	深鉢	E1	d	SB21	SC-5D-0C	M	3	にい・褐色	少	黒	土	熱文	88	27	
516	縄文土器	深鉢	E1	d	SB21	SC-5D-0C	U	3	にい・褐色	少	黒	土	JR縄文	88	-	

第79表 土器及び土製品観察表(9)

閥類番号	種別	基相	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	断面	器形	色調	雲母	含土	地文	備考	特徴	写真
516	縄文土器	深鉢	E1	d	SB21	SC-5D-0C	M	3	明褐色	少	黒	土	熱文	88	26	
517	縄文土器	深鉢	E1	a	SB21	SC-5D-0C	M	3	明褐色	少	黒	土	内外面ミガキ、内外面に漆付着	88	25	
518	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	-	褐色	少	黒	土	所近口縁	89	28	
519	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	-	にい・褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着、SK2出土	89	28	
520	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	L	-	にい・褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
521	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	-	にい・褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	27	
522	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	L	-	にい・褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
523	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	-	褐色	少	黒	土	U接合	89	28	
524	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	明褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
525	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
526	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	明褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
527	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
528	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
529	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
530	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
531	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
532	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
533	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
534	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
535	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
536	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
537	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
538	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	
539	縄文土器	深鉢	A1	a	SB24	SE-5F	M	2	褐色	少	黒	土	内外面灰化物付着	89	28	

第80表 土器及び土製品観察表(10)

閥類番号	種別	基椎	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	器形	色調	雲母	粘土	地文	備考	神國	写真	
586 瓦文土器 漆鉢 (B1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	91	29				
587 瓦文土器 漆鉢 (B1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	91	29				
588 瓦文土器 漆鉢 (B1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	91	29				
589 瓦文土器 漆鉢 (A1)	a2	SBS2	SD-SE	M	2	にい・青褐色	-	漆	漆文	-	92	29				
590 瓦文土器 漆鉢 (A1)	a2	SBS2	SD-SE	M	3	にい・青褐色	-	漆	漆文	-	92	29				
591 瓦文土器 漆鉢 (A1)	a2	SBS2	SD-SE	M	4	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
592 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	5	青褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
593 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	U	2	明褐色	多	漆	漆文	594・595と同一、口縁部内面貼付	92	29				
594 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	U	2	にい・青褐色	多	漆	漆文	波状口縁、口縁部内面貼付、U接合、	92	29				
595 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	-	赤褐色	多	漆	漆文	596・597と同一	92	29				
596 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	3	暗褐色	少	漆	漆文	598・599と同一	92	-				
597 瓦文土器 漆鉢 (A1)	-	SBS2	SD-SE	L	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	92	-				
598 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	-	漆	漆文	-	92	-				
599 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
600 瓦文土器 漆鉢 (A1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	明褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
601 瓦文土器 漆鉢 (A1)	c	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
602 瓦文土器 漆鉢 (A1)	c	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
603 瓦文土器 漆鉢 (A1)	c	SBS2	SD-SE	M	-	明褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
604 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	-				
605 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	暗褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
606 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	U	-	周褐色	少	漆	漆文	凝灰沈澱	伊藤内出土	92	29			
607 瓦文土器 漆鉢 (A1)	a2	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	596と同一	92	29				
608 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
609 瓦文土器 漆鉢 (A1)	e	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
610 瓦文土器 漆鉢 (G1)	-	SBS2	SD-SE	U	5	にい・青褐色	少	漆	漆文	内面ミガキ	92	29				
611 瓦文土器 漆鉢 (H1)	-	SBS2	SD-SE	M	3	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
612 瓦文土器 漆鉢 (H1)	d	SBS2	SD-SE	M	3	褐色	-	漆	漆文	-	92	29				
613 瓦文土器 漆鉢 (H1)	d	SBS2	SD-SE	M	-	灰褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
614 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	-				
615 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	明褐色	少	漆	漆文	-	92	29				
616 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	7B(上層) 混合	92	29				
617 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	内面化物付着	92	29				
618 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	92	-				
619 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	92	-				
620 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	外表面化物付着、AMS分析	93	30				
621 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	4EV配合	93	30				
622 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	内外面ミガキ	93	30				
623 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	-	93	30				
624 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	灰褐色	少	漆	漆文	外表面化物付着	93	30				
625 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	灰褐色	少	漆	漆文	外表面化物付着	93	30				
626 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	外表面化物付着	93	30				
627 瓦文土器 漆鉢 (F1)	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	高麗式と山字式の間	93	30				
628 土脚部 高杯	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	-	漆	漆文	-	93	30				
629 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	-	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	93	30				
630 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	-	浅褐色	-	漆	漆文	外表面化物付着	93	30				
631 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	-	灰褐色	少	漆	漆文	-	93	30				
632 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	-	灰褐色	少	漆	漆文	-	93	30				
633 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	内外面塗付着、内面化物付着、M接合	93	30				
634 瓦文土器 漆鉢	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	93	30				
635 朱生土器 漆鉢	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	93	30				
636 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	青褐色	-	漆	漆文	摩拭小孔、剥離並行	93	30				
637 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	明褐色	-	漆	漆文	-	93	30				
638 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	褐色	-	漆	漆文	-	93	30				
639 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	SB26M接合、形状に似似	93	30				
640 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	少	漆	漆文	内面化物付着	93	30				
641 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	少	漆	漆文	外表面付着、P15出土	93	30				
642 土脚部?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	少	漆	漆文	内外面塗付着	93	30				
643 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	少	漆	漆文	-	94	-				
644 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	明褐色	-	漆	漆文	-	94	31				
645 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	外表面付着	94	31				
646 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	-	94	31				
647 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	-	94	31				
648 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	-	94	31				
649 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	-	94	31				
650 朱生土器 蝶谷?	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	内外面塗付着	94	31				
651 朱生土器 蝶谷?	不明	-	SBS2	SD-SE	M	1	にい・青褐色	-	漆	漆文	ミガキ	94	31			
652 土脚部 高杯	-	-	SBS2	SD-SE	M	-	褐色	少	漆	漆文	内外面ミガキ	94	-			

第81表 土器及び土製品観察表(11)

閥類番号	種別	基椎	分類	細分類	遺物名	グリッド名	層位	器形	色調	雲母	粘土	地文	備考	神國	写真
653 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	AE	-	-	にい・青褐色	-	漆	-	63と同一、内外面・内面裏面付着、P15出土	94	31
654 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	4D	III	-	褐色	少	漆	-	内外面ミガキ、内外面に接着する、内面裏面付着、朱生土器と同一、4DⅢ出土	94	32
655 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	AE	L	-	にい・青褐色	少	漆	-	月影式に似似	94	31
656 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	SE	III	-	にい・青褐色	少	漆	-	外面部化物付着	94	31
657 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	AE	M	-	にい・青褐色	多	漆	漆文	織籠柄、SK65-66(10C)と同一	94	31
658 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	AE	U	-	灰褐色	少	漆	-	外面部化物付着、窓坏?	94	31
659 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	SE	U	-	灰褐色	少	漆	-	外面部化物付着、窓坏?	94	31
660 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	L	-	にい・青褐色	少	漆	-	外面部化物付着	94	31
661 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	褐色	少	漆	-	外面部化物付着	94	31
662 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	浅褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
663 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
664 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
665 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
666 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
667 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
668 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
669 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
670 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
671 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
672 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
673 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
674 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
675 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
676 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
677 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
678 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
679 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
680 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
681 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
682 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色	少	漆	-	内面裏面付着?	94	31
683 土脚部 薩	-	-	-	-	SBS2	TE-87	U	-	灰褐色						

第82表 土器及び土製品観察表(12)

閲覗番号	種別	器種	分類	細分類	遺物名	グリッド	層位	器形	色調	雷電合	地文	備考	神回	写真		
718 美濃土器	甕?	-	-	-	4E	II	-	に伝い褐色	-	傳	-	外面焼化物?付着	97	33		
719 美濃土器	壺?	-	-	-	4F	II	-	に伝い褐色	少	傳	-	内面部ミガキ	97	33		
720 土器	壺?	-	-	-	4F	II	-	灰白色	-	傳	-	-	97	33		
721 土器	壺	-	-	-	3G	III	-	に伝い褐色	少	傳	-	外面付着物、内面ハケメ、Y合板	97	33		
722 土器	台付盆小壺?	-	-	-	3G	III	-	赤褐色	少	傳	-	内面ミガキ、脚短い、外面付着物	97	33		
723 梨卓器	盒?	-	-	-	TL13	2F	-	オリーブ褐色	-	傳	-	-	97	33		
724 亂卓器	瓶	-	-	-	TL12	3C-3H	-	灰褐色	-	傳	-	-	97	33		
725 桜井陶器	皿	-	-	-	4E	II	-	灰白色	-	傳	-	没け剥け	97	33		
726 桜井陶器	皿	-	-	-	4E	II	-	浅黄褐色	-	傳	-	没け剥け	97	33		
727 桜井陶器	皿	-	-	-	4E	II	-	灰白色	-	傳	-	没け剥け	97	33		
728 桜井陶器	皿	-	-	-	4E	II	-	に伝い褐色	少	傳	-	没け剥け	97	33		
729 桜井陶器	碗	-	-	-	4E	II	-	内面自然釉、重ね焼き底、抜け剥げ	-	傳	-	内面自然釉、重ね焼き底、抜け剥げ	97	33		
730 桜井陶器	碗	-	-	-	4E	II	-	褐褐色	-	傳	-	内面自然釉、重ね焼き底、抜け剥げ	97	33		
731 桜井陶器	深碗	-	-	-	4E	II	-	赤褐色	少	傳	-	内外自然釉、重ね焼き底	97	33		
732 桜井陶器	碗	-	-	-	4E	II	-	に伝い褐色	少	傳	-	内外自然釉、重ね焼き底	97	33		
733 山茶陶器	皿	-	-	-	3G	II	-	に伝い褐色	少	傳	-	内面自然釉	97	33		
734 白磁	碗	-	-	-	SB1	3C-3E	-	灰白色	-	傳	-	全面釉	97	33		
735 土偶	-	-	-	-	SB1	3C-3E	M	明赤褐色	少	傳	-	-	98	34		
736 土偶	-	-	-	-	SB15	7B-8A	M	明赤褐色	少	傳	-	-	98	34		
737 土偶	-	-	-	-	SB15	7B-8A	L	に伝い褐色	少	傳	-	動物形	98	34		
738 土偶	-	-	-	-	SB17	6D-4C	M	赤褐色	少	傳	-	737に文獻類似	98	34		
739 土偶	-	-	-	-	SB17	6D-4C	M	赤褐色	少	傳	-	-	98	34		
740 土偶	-	-	-	-	SB17	6D-4C	M	浅黄褐色	少	傳	-	-	98	34		
741 土偶	-	-	-	-	SB3	3C-5D	RC	明赤褐色	少	傳	-	上半身SB21U、下半身SB17M出土	98	34		
742 土偶	-	-	-	-	SB21	3C-5D	LC	明赤褐色	少	傳	-	头部SB14U、右手手舟SB21U出土	98	34		
743 土偶	-	-	-	-	SB24	SE-5P	RC	明赤褐色	少	傳	-	743と同一個体?	98	34		
744 土偶	-	-	-	-	SB24	SE-5P	RC	に伝い褐色	少	傳	-	743と同一個体?	98	34		
745 土偶	-	-	-	-	TL24	6D-4D	I	明赤褐色	少	傳	-	-	98	34		
746 土偶	-	-	-	-	-	4B	-	に伝い褐色	少	傳	-	-	98	34		
747 鹿島土器	ミニチュア	G	SB13	SF	-	に伝い褐色	少	傳	-	伊藤内出土	-	-	-	99	34	
748 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	L	黑褐色	少	傳	-	内外面剥離有?	-	-	-	99	34	
749 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	L	灰褐色	少	傳	-	内面剥離有、住居跡の四隅から出土	-	-	-	99	34	
750 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	M	明赤褐色	少	傳	-	波状に縦、住居跡の四隅から出土	-	-	-	99	34	
751 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	M	看	少	傳	-	737・752・813: 烧成跡、焼成窓の四隅から出土	-	-	-	99	34	
752 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	M	明赤褐色	少	傳	-	外表面剥離有	-	-	-	99	34	
753 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	M	看	少	傳	-	737・751と一致、焼成類似	-	-	-	99	34	
754 鹿島土器	ミニチュア	G	SB15	7B-8A	U	に伝い褐色	少	傳	-	内面剥離有	-	-	-	99	34	
755 鹿島土器	ミニチュア	G	SB17	6B-4C	L	赤褐色	少	瓶	-	-	-	-	-	99	34	
756 鹿島土器	ミニチュア	G	SB17	6B-4C	U	明赤褐色	-	傳	-	-	-	-	-	99	34	
757 磁気粘土塊	-	-	-	-	SB19	4C-5D	M	明赤褐色	-	傳	-	燒土内出土	-	99	34	
758 加工円錐	-	-	-	-	GB	II	に伝い褐色	少	傳	-	深跡口部一部残存、口縁部内面剥離有	-	-	-	99	34
759 鶴見土器	ミニチュア	G	-	-	GB	II	褐色	少	傳	-	-	-	-	-	99	34
760 有孔土製品	-	-	-	-	SR23	SD	-	褐色	-	傳	-	半分に割れる、PS出土	-	99	34	
761 有孔土製品	-	-	-	-	SR27	7F-8F	-	浅黄褐色	少	傳	-	半分に割れる、SKH出土	-	99	34	
762 土鏡	-	-	-	-	-	4F	II	淡黄褐色	-	傳	-	-	-	99	34	
763 瓦	丸瓦	-	-	-	SK053	5C	M	灰色	-	傳	-	凹面直目、壁面有氣孔、凸面直目有消し	-	99	34	
764 瓦	平瓦	-	-	-	4C	III	-	灰色	-	傳	-	凹面直目、凸面直目有消し	-	99	34	
765 瓦	平瓦	-	-	-	TL7	3D	-	灰色	-	傳	-	凹面直目、凸面直目有消し (鷹日目つき)	-	99	34	
766 瓦	平瓦	-	-	-	-	3E	II	灰色	-	傳	-	凹面自然物付着、凸面直目有消し	-	99	34	
767 瓦	平瓦	-	-	-	-	4E	II	-	灰白色	-	傳	-	凹面自然物付着、凸面直目有消し	-	99	34
768 瓦	平瓦	-	-	-	-	-	-	灰白色	-	傳	-	凹面自然物付着、凸面直目有消し	-	99	34	

第83表 石築計測表

編號番号	種別	器種	出土地	出土地標	層位	法量								
1001	石築	SB1	U	20.7	18.1	4.0	0.9	下円石	1a	A	ウ	100	35	
1002	石築	SB1	U	15.6	16.3	2.6	0.6	ナギヤ	1b	A	イ	100	35	
1003	石築	SB1	U	13.9	13.6	3.8	0.8	ナギヤ	1c	B	イ	100	35	
1004	石築	SB1	U	20.5	12.3	2.7	0.6	下円石	1e	A	イ	100	35	
1005	石築	SB1	U	27.4	16.8	4.1	1.3	下円石	2a	A	イ	100	35	
1006	石築	SB1	U	22.7	17.7	7.3	2.8	下円石	3	B	エ	100	35	
1007	石築	SB2	U	14.9	11.6	2.4	0.4	ナギヤ	1b	A	ア	100	35	
1008	石築	SB2	U	22.9	12.6	2.8	0.5	下円石	1b	A	ア	100	-	
1009	石築	SB4	U	20.3	5.1	1.1	0.3	ナギヤ	1b	C	ア	100	35	
1010	石築	SB4	U	25.5	15.4	4.0	1.1	下円石	1c	A	イ	100	35	
1011	石築	SB4	L	21.3	17.4	2.2	0.6	ナギヤ	1d	A	ア	100	35	
1012	石築	SB6	-	12.9	13.5	4.4	0.7	ナギヤ	1a	B	ア	100	35	
1013	石築	SB8	U	14.3	12.2	3.9	0.5	下円石	1d	A	-	100	35	
1014	石築	SB8	L	18.4	15.9	3.1	0.7	ナギヤ	2	B	ア	100	35	
1015	石築	SB10	M	16.3	15.2	2.2	0.5	下円石	1d	A	ア	100	35	
1016	石築	SB10	M	16.3	15.5	2.0	0.3	下円石	16	C	-	100	35	
1017	石築	SB11	U-M	41.0	17.7	4.6	(2.1)	ナギヤ	1b	B	ア	100	35	
1018	石築	SB11	U	39.3	15.6	4.4	(1.9)	下円石	1d	A	ア	100	35	
1019	石築	SB11PI	U	14.8	12.2	3.0	0.4	下円石	1c	B	エ	100	-	
1020	石築	SB11	M	16.4	15.9	3.8	0.8	ナギヤ	1a	C	ア	100	35	
1021	石築	SB11	M	15.5	14.3	3.4	0.8	ナギヤ	1b	C	ア	100	35	
1022	石築	SB16	U	16.7	14.8	4.4	1.1	下円石	1c	B	ア	100	35	
1023	石築	SB17	M	29.1	16.6	4.8	(1.5)	下円石	1d	B	ア	100	35	
1024	石築	SB17	M-L	26.1	14.3	8.9	1.6	下円石	3	B	-	未製品?	100	35
1025	石築	SB18	M	12.1	10.2	2.5	0.2	下円石	1d	B	-	100	35	
1026	石築	SB18	M	12.0	10.9	2.0	0.2	下円石	1d	B	-	100	35	
1027	石築	SB21	M	17.2	4.9	3.6	0.9	ナギヤ	1b	B	ア	100	35	
1028	石築	SB21	M	22.2	15.5	4.1	(1.1)	ナギヤ	1d	B	イ	100	35	
1029	石築	SB24	U	19.1	16.4	3.5	0.8	ナギヤ	1d	C	ア	100	35	
1030	石築	SB24PI	U	26.8	13.3	4.9	1.2	下円石	1c	B	ア	100	35	
1031	石築	SB24	U	22.5	17.1	5.1	1.4	下円石	1b	B	ア	100	35	
1032	石築	SB25	L	17.2	16.4	4.4	1.7	下円石	1d	C	ア	100	35	
1033	石築	SB25	L	17.1	16.7	4.4	1.8	下円石	1c	B	ア	100	35	
1034	石築	SB29	M	20.1	10.7	2.0	0.4	下円石	1c	B	ア	100	35	
1035	石築	SB29	M	32.0	17.1	4.7	1.6	ナギヤ	1c	C	ア	100	35	
1036	石築	SB29	M	22.4	15.3	5.5	1.5	下円石	1a	B	-	101	35	
1037	石築	SB35	M	15.9	14.8	5.1	1.2	ナギヤ	2	C	ア	101	35	
1038	石築	SB36	L	17.4	15.2	5.3	1.3	ナギヤ	2	C	ア	101	35	
1039	石築	SB36	L	17.3	15.6	5.8	0.8	下円石	4a	A	アオ	101	35	
1040	石築	PB06	L	27.3	14.7	5.2	1.4	下円石	4b	C	オ	101	35	
1041	石築	3D	M	14.5	9.3	2.7	0.7	黒磚	1b	A	ア	101	-	
1042	石築	7A	M	12.6	11.5	3.1	0.4	下円石	1c	B	ア	101	35	
1043	石築	2C	M	18.0	14.2	3.0	0.7	黒磚	1c	B	ア	101	35	
1044	石築	2C	M	25.9	15.0	5.4	1.0	ナギヤ	1b	B	ア	101	35	
1045	石築	7B	M	23.1	14.9	3.1	0.7	下円石	4a	B	ア	101	35	
1046	石築	7B	M	28.1	15.1	3.6	1.2	下円石	1d	B	ア	101	35	
1048	石築	3C	(17.9)	14.1	4.4	0.9	(0.9)	ナギヤ	2	E	ア	101	35	
1049	石築	7D	M	16.0	14.2	3.9	0.9	ナギヤ	2	C	ア	101	-	
1050	石築	4P	M	24.5	15.5	3.4	1.1	下円石	4c	B	ア	101	35	
1051	石築	3P	M	21.6	13.8	4.2	1.0	下円石	4c	C	オ	101	-	
1052	石築	4P	M	27.5	17.7	4.8	1.7	下円石	4d	C	ウ	101	35	
1053	石築	4P	M	37.2	17.3	6.5	(3.1)	下円石	4b	A	イ	101	35	
1054	石築	5F	M	27.3	16.5	4.4	(1.6)	下円石	4b</td					

第85表 異形石器、石匙、スクレイパー、石核、尖頭器、楔形石器、RF、UF、標器計測表

測量番号	種別	出土区 出土地	層位 出土地標	法量				石材	備考	博物館 写真
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)			
1069	異形石器	4D	B	33.3	17.9	6.8	2.5	下流石		102 37
1070	異形石器	4F	B	18.8	9.5	3.4	0.7	下流石		102 37
1071	異形石器	SBD	B	37.7	17.8	5.3	1.0	下流石	縫隙、先端 破損	102 36
1072	石匙	SBD	B	25.8	21.9	7.8	15.1	安山岩	縫隙、交形	102 36
1073	石匙	SB19	20	26.9	13.7	3.9	1.9	黒曜石	縫隙、刃部欠損	102 36
1074	石匙	SB1	(U)	(30.5)	(23.3)	(7.5)	(4.4)	チャート	縫隙、ノコ刃形、つまみ部彎曲	102 36
1075	石匙	SB17	M	20.1	21.6	5.4	1.4	黒曜石	横挫、ほば完形、小形	102 36
1076	石匙	4D	B	44.9	(41.2)	15.2	(24.0)	チャート	横挫、刃部半分欠損	102 36
1077	石匙	SB1	(U)	(48.8)	(36.8)	(10.0)	(3.8)	チャート	横挫	102 36
1078	スクレイパー	SB29	M	50.6	76.5	11.4	57.3	流紋岩		102 36
1079	スクレイパー	SB29	M	50.2	76.6	15.8	54.9	流紋岩		102 36
1080	石核	SBD	U	26.7	25.5	22.3	14.6	下流石	自然面残る	102 37
1081	石核	SB11	U-M	34.3	21.6	18.9	21.4	下流石		102 37
1082	石核	SB1	M	75.2	23.5	9.8	15.4	チャート	自然面残る	102 37
1083	スクレイパー	SB10P2	—	22.5	18.9	6.4	2.6	黒曜石		104 36
1085	スクレイパー	SB29	U-M	24.2	23.6	6.9	4.3	チャート		104 36
1086	スクレイパー	4G	B	39.7	22.4	6.7	6.0	下流石		104 36
1087	スクレイパー	3D	B	79.4	24.1	10.7	20.9	下流石		104 36
1088	スクレイパー	SB1	M	57.1	30.6	11.2	21.5	チャート		104 36
1089	楔形石器	SBD	U-M	28.7	10.7	8.0	2.2	チャート		104 37
1090	楔形石器	SB1	L	29.0	17.9	7.3	4.9	下流石		104 37
1091	楔形石器	SB27P9	—	29.2	20.3	10.7	8.4	下流石		104 37
1092	RF石器	SH2	U	21.5	11.9	6.4	1.8	黒曜石		104 37
1093	RF	SB19	—	37.5	22.9	9.6	8.7	下流石		104 37
1094	RF	SB19	—	32.8	22.9	9.6	8.7	下流石		104 37
1095	UF	SB1	3B	36.1	13.8	7.2	4.8	水晶	先端崩壊	104 37
1096	縫隙	SB17	U	133.2	121.6	39.9	833.0	安山岩	両面刃形、石材より織文	105 37
1097	縫隙	4D	B	160.0	129.0	67.0	1640.0	流紋岩	両面刃形、石材より織文	105 37

第86表 打製斧計測表

測量番号	種別	出土区 出土地	層位 出土地標	法量				石材	形状	断面	備考	博物館 写真
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)					
1098	打製石斧	SB1	B	132.6	56.2	16.3	151.5	泥岩	彎形	中		106 28
1099	打製石斧	SB1	L	81.0	39.1	16.3	79.1	鯨片岩	彎形	小		106 28
1100	打製石斧	SB4	B	78.6	51.2	20.5	100.6	安山岩	彎形	中		105 38
1101	打製石斧	SB4	U	89.8	48.6	18.3	100.0	安山岩	彎形	小		105 38
1102	打製石斧	SB4	M	119.0	43.5	19.5	145.0	安山岩	彎形	中		105 38
1103	打製石斧	SB4	M	119.0	43.5	19.5	145.0	安山岩	彎形	中		105 38
1104	打製石斧	SB4P4	M	92.8	25.1	10.8	37.0	鯨片岩	彎形	小		106 28
1105	打製石斧	SB8	(U)	(76.6)	(53.6)	19.0	(107.0)	泥岩	彎形	中		106 28
1106	打製石斧	SB19	M	(82.3)	50.3	17.0	(101.1)	泥岩	彎形	中	刃部両面磨耗	106 38
1107	打製石斧	SK40	U	121.8	40.3	13.6	89.3	安山岩	彎形	中	刃部両面磨耗	106 38
1108	打製石斧	T10	—	93.0	41.5	14.1	75.0	安山岩	彎形	中		106 38
1109	打製石斧	4F	B	93.2	59.1	13.8	125.4	安山岩	彎形	中		106 38

第87表 磨製斧計測表

測量番号	種別	出土区 出土地	層位 出土地標	法量				石材	形状	大きさ	備考	博物館 写真
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)					
1110	磨製石斧	SB1	L	122.0	22.3	3.5	326.0	流紋岩	直方形	中		106 38
1111	磨製石斧	SB4	L	(104.0)	54.5	14.0	(200.0)	流紋岩	直方形	中		106 38
1112	磨製石斧	SB4	M	(46.0)	30.5	9.3	24.2	流紋岩	直方形	小		106 38
1113	磨製石斧	SB4	M	(110.7)	45.5	20.4	(204.0)	流紋岩	直方形	中		106 38
1114	磨製石斧	SB8	M	35.3	17.0	5.6	7.9	流紋岩	直方形	小		106 38
1115	磨製石斧	SB11	M	(75.2)	(45.0)	19.5	(104.4)	砂岩	直方形	中		アブライド
1116	磨製石斧	SB1	M	(60.0)	18.5	3.0	(25.0)	流紋岩	直方形	中		110 40
1117	磨製石斧	SB17	U	(87.7)	31.1	16.6	(103.5)	砂岩	直方形	中		106 38
1118	磨製石斧	SB17	M	(61.5)	(35.3)	10.2	(24.6)	流紋岩	直方形	小	刃部欠損	107 38
1119	磨製石斧	SB17	U	(30.9)	(28.8)	11.1	(18.4)	流紋岩	直方形	小	茎部欠損	107 38
1120	磨製石斧	SB18	U	(72.6)	(50.5)	20.4	(16.0)	流紋岩	直方形	中	刃部欠損	107 —
1121	磨製石斧	SB19	M	(152.0)	60.7	23.0	(441.0)	流紋岩	直方形	大		107 38
1122	磨製石斧	SB19	M	(152.0)	60.7	23.0	(441.0)	流紋岩	直方形	大		107 38
1123	磨製石斧	SB25	L	65.6	34.8	11.9	35.0	流紋岩	直方形	小		107 38
1124	磨製石斧	SB25	7C	55.6	37.8	10.8	37.7	流紋岩	直方形	小	刃部・基盤摩耗	107 38
1125	磨製石斧	2H	M	(50.9)	(47.1)	27.0	(97.4)	流紋岩	直方形	中	茎部欠損	107 —
1126	磨製石斧	3D	M	(56.0)	(47.9)	19.0	(72.5)	流紋岩	直方形	中	茎部欠損	107 —
1127	磨製石斧	4A	M	(46.0)	35.8	16.8	(17.7)	流紋岩	直方形	中	刃部欠損	107 38
1128	磨製石斧	4C	M	(46.0)	35.8	21.7	(15.0)	流紋岩	直方形	中	刃部欠損	107 38
1129	磨製石斧	SD	M	(106.9)	(50.0)	22.3	(245.0)	流紋岩	直方形	大	刃部欠損	107 38
1130	磨製石斧	SF	M	(137.4)	64.2	29.9	(55.0)	流紋岩	直方形	大	刃部欠損	108 39
1131	磨製石斧	3G	M	124.6	78.8	31.1	489.0	流紋岩	直方形	大	刃部欠損	108 39

第88表 打欠石鍬、防護車輪計測表

測量番号	種別	出土区 出土地	層位 出土地標	法量				石材	備考	博物館 写真
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)			
1132	打欠石鍬	SBMSK1	M	72.4	61.4	18.4	119.5	流紋岩		108 39
1133	打欠石鍬	SB8	M	59.4	47.3	21.7	85.6	流紋岩		108 39
1134	打欠石鍬	SB29	M	61.3	54.0	18.9	91.2	安山岩		108 39
1135	打欠石鍬	P623	U	74.4	52.9	13.8	90.9	安山岩		108 39
1136	打欠石鍬	P623	U	74.4	52.9	13.8	90.9	安山岩		108 39
1137	打欠石鍬	SB	M	36.5	36.4	29.4	76.0	流紋岩		108 39

第89表 磨石・石臼・石棒・石棒計測表

測量番号	種別	出土区 出土地	層位 出土地標	法量				石材	備考	博物館 写真
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)			
1153	砥石	SB19	M	282.0	143.0	118.0	5623.0	流紋岩		110 40
1154	砥石	4F	M	90.7	41.7	24.1	148.9	アブライド		110 40
1155	石臼	SB1	L	(354.0)	(293.0)	(104.0)	(16400.0)	流紋岩		110 40
1156	石臼	SB1	M	(274.0)	(214.0)	(104.0)	(14320.0)	流紋岩	張行者	110 40
1157	石臼	SB1	M	119.0	111.0	11.0	111.0	安山岩	張行者	110 40
1158	石臼	SB8	M	(138.0)	(101.0)	(76.0)	(1481.0)	流紋岩	被熱	111 40
1159	石臼	SB8	M	119.9	66.9	49.1	491.0	流紋岩	被熱、張行者	111 40
1160	石臼	SB8	M	150.0	201.0	155.0	24000.0	流紋岩	被熱	111 40

第5章 自然科学分析

第1節 分析の概要

本節では、次節以降に記載する自然科学分析を実施した経緯と、結果の概要及び考察を述べる。

1 焼失住居出土炭化材の樹種同定（第2節）

実施の経緯 当遺跡の竪穴住居跡から出土した炭化材は、建築部材として使用されていたものと思われる。建築部材の樹種同定は、近年多くの遺跡で行われているが、同定された樹種は、遺跡・時代・植生により違いが認められる。関市砂行遺跡では花粉分析結果と炭化材の樹種から周囲に生育していたものを建築部材として利用しているとされている（財団法人岐阜県文化財保護センター2000a）。さらに当遺跡では、縄文時代・弥生時代・古墳時代の焼失住居を検出しており、時代毎の比較ができる点で、同一遺跡における建築部材用樹種の変化が確認できる。以上のことから、6軒の竪穴住居跡出土炭化材の樹種を同定した。

結果の概要と考察 分析の結果、柱材はほとんどがクリであることが判明した。また、茅状の炭化材はススキ属であることが判明した。時代毎に見ると、縄文時代中期の竪穴住居ではクリのみであったが、弥生中期・古墳初頭の竪穴住居からはクリとともにヒノキまたはヒノキ科の材を確認した。このことから、クリは時代を通して建築部材として利用され、新しい時期にはヒノキを利用するようになったと考えられる。

2 放射性炭素年代測定（第3節）

実施の経緯 当遺跡の竪穴住居の建築部材として用いられていたことが明確な炭化材や、住居跡の床面から出土した土器に付着した炭化物は、竪穴住居が廃棄された（焼失した）年代を知る有効な試料となると考える。さらに当遺跡のSB23・SB26・SB27は、弥生中期から古墳中期の土器が出土しているが、どれもコの字形炉を持つ。この住居跡から出土した炭化材や土器に付着した炭化物の年代を測定することで、飛騨地方におけるコの字形炉の利用年代を知ることができると考えた。

結果の概要と考察 SB4については、BC2820～2660、SB9についてはBC200～50、SB23、SB27は1世紀末から3世紀中頃、SB26は2世紀初めから3世紀中頃という結果となった。それぞれ出土した土器は様式的にもこの時期に比定できる。

3 土器胎土の材料分析（第4節）

実施の経緯 SB8の石囲炉の炉内部に敷き詰められていた土器2個体は、肉眼観察で胎土の違いが確認できた。文様や器形から信州系の土器と思われるが、明らかに胎土が異なることから、搬入品である可能性が考えられる。そこで、土器の胎土を分析、比較することで、在地で製作されたものか、搬入されたものかを知ることができると考えた。

結果の概要と考察 砂粒組成において対照的な結果が出た。239の土器胎土は遺跡周辺地域の砂粒組成に類似することから、在地で製作された可能性が高いと考えられる。

第2節 焼失住居跡出土炭化材の樹種同定

1 始めに

ここでは、SB10・SB15・SB19・SB24（縄文時代中期）、SB12（弥生時代中期）、SB26（古墳時代初頭）の各住居跡から出土した炭化材20点の樹種同定を報告する。これら炭化材は主に柱材で、出土状況は良好であった。飛騨地方において、弥生時代や古墳時代の建築材樹種に関する情報はあまり知られていないうえ、同一遺跡から異なる時期の建築材樹種を知る機会が得られたことは有意義である。分析は、植田弥生（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と分析方法

同定は、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子株式 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

3 結果

同定結果の一覧を、第91表に示した。

縄文時代中期の4軒（SB10・SB15・SB19・SB24）から出土した12点の炭化材は、すべてクリであった。12点のうち11点は柱材で、SB24の遺物番号3923は板材の可能性があるものであった。

弥生時代中期の1軒（SB12）から出土した4点は、3点がクリ、1点がヒノキであった。遺物番号1519と1522は直角に組まれていた同一構造物の可能性があり、1519はクリ、1519の下で壁板材の1522はヒノキであった。なお、後の2点は柱材でクリである。

古墳時代初頭の1軒（SB26）は、柱材はヒノキ科、遺物番号3865の集積している茅状の稈（茎）はススキ属、材はクリであった。壁から床にかけて出土した遺物番号3868はクリである。

以下に、同定根拠とした材組織の観察結果を記し、材組織の走査電子顕微鏡写真を提示する。

(1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 図版41 1a-1c (No14)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、早材から晩材への移行はゆるやかである。輪方向の仮道管と水平方向の放射組織が直する部分の分野壁孔は、早材部分を観察すると、輪郭が円形で孔口はやや斜めに細く開いたヒノキ型であり、1分野に1～2個ある。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれ、建築材・曲物などによく使われる。

(2) ヒノキ科 *Cupressaceae* 図版41 2a-2c (No17)

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部仮道管壁の厚さは目立たない。早材部の分野壁孔は、1分野に1～2個あり、輪郭は丸いことからヒノキ科の材であることが分かる。前述のヒノキより、分野壁孔の数がやや多い部分が目立ち、アスナロやネズコの可能性もある。しかし、分野壁孔の保存が良好な部分が少ないため、分類類を特定することができず、ヒノキ科の同定レベルに留めた。

(3) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版41 3a-3c (No5) 図版42 4a-4c (No20)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は單穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は交互状・柵状に孔口が大きく開いている。

クリは北海道西南部以前の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は狂いが少なく粘りがあり耐朽性に優れている。

(4) ススキ属 *Miscanthus* イネ科 図版42 5a(No18)

直径5~8mmの草本性の桿で、繊筋がある。桿は中空ではなくスponジ状の基本組織で埋まりその中に維管束が散在している。桿の外周には厚い厚壁細胞層にかこまれた維管束が1又は2層並んでいる。内側に散在する維管束の周囲の厚壁細胞層は薄い。

ススキ属は大型になる多年草で一般にはカヤ(茅)と呼ばれ、約7種ある。日本全土の平地から山地の陽地に普通に見られ刈って屋根を覆ぐ材料とされてきたススキ、北海道から九州の湿地に生育するオギ、東北南部から近畿北部の山中の陽地に生育するカリヤス、関東南部以西の堤防の草地に生育するトキワススキなどがある。現時点では桿の組織から種を識別することはできていない。

4 考察

縄文時代中期・弥生時代中期・古墳時代初頭の各時期の焼失住跡すべてから、クリが多く検出され、当遺跡においては長期間に渡りクリが建築材として、特に柱材として利用されていたことが判明した。また、縄文中期ではクリだけが検出されたが、弥生中期と古墳初頭からは、クリと共にヒノキまたはヒノキ科の材も検出され、クリと共にヒノキやヒノキ科の利用が加わるという、利用樹種に変化が見られた。下呂町の上ヶ平跡からは、奈良~平安時代の住跡出土炭化材の樹種が報告されている(財团法人岐阜県文化財保護センター2000d)。この時期になるとクリの利用は少なくなり、主な検出樹種は、針葉樹材のミヅク属が最も多く、ヒノキ科も柱痕から検出され、クヌギ節も多く、イヌシデ節・クスノキ科・トネリコ属など多種類の広葉樹材が使われている。今回の調査において、縄文時代に引き続き弥生時代や古墳時代にもクリは重要な建築材であった可能性が認められた。しかし、弥生時代や古墳時代にはクリ以外の樹種も、建築材として利用が拡大し始めたようである。山田(1993)の集計によると、北陸中部地方では建築材として縄文時代以降もクリは利用され続ける傾向が強い。当遺跡も北陸中部地方に近い立地環境であるためか、クリの利用が弥生中期や古墳初頭でも継続されていたことが確認された。一方、岐阜県南部の低地部では、弥生時代末~古墳時代の建築材は、ヒノキや常緑広葉樹のアカガシ・シラカシ・クヌギ・ヒノキ属が多く、クリの利用は意外と少ない(財团法人岐阜県文化財保護センター1998、財团法人岐阜市教育文化振興事業団2000)。県北部の飛騨地方は森林が豊かで種類数も多く、有用材も多い。しかし、今回の樹種調査において少なくとも、古墳時代初頭までクリにこだわって利用を続けていたとも受け止められる。今後も事例の蓄積を重ね、各時期や地域差も合わせて検討することにより、建築材樹種から見えてくる文化が期待される。

第91表 住居跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

No	遺構名	時期	遺物番号	長さ×幅(cm)	樹種	備考	
1	SB10	中期	1193	42×10	クリ	柱材 中央部出土	
2			1197	31×12	クリ	柱材 西側際出土	
3			1204	30×10	クリ	柱材 東方出土	
4			2110	34×19	クリ	柱材 北方出土	
5			2112	52×22	クリ	柱材 東方出土	
6			2277	58×16	クリ	柱材 西方出土	
7	SB19		2279	110×26	クリ	柱材 南方出土	
8			3174	60×10	クリ	柱材 中央部出土	
9			3923	36×31	クリ	板材の可能性	
10			3924	58×11	クリ	柱材 東方出土	
11	SB24		3925	66×12	クリ	柱材 中央部出土	
12			3927	39×15	クリ	柱材 西方出土	
13			1519	91×9	クリ	1522号同一構造物の可能性	
14			1522	162×34	ヒノキ	横板材 1519号の下	
15	SB12	中期	1530	59×15	クリ	柱材 中央部出土	
16			1544	22×15	クリ	柱材 東方出土	
17			3864	66×10	ヒノキ科	柱材 南方出土	
18	SB26		3865	33×6	ススキ属	茅の根炭化材	
19	古墳初期	3868	28×6	クリ	樹皮の炭化材		
20						櫛から床にかけて出土	

第3節 放射性炭素年代測定

1 始めに

当遺跡から検出された試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。分析は、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ(小林絢一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjiani・瀬谷薫・藤根久)が担当した。

2 試料と分析方法

測定試料の情報、調整データは第92表のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年年代を算出した。

3 結果

第93表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{14}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C年代、¹⁴C年代を曆年年代に較正した年代範囲、曆年較正に用いた年代値を、図1に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差

等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、曆年較正の詳細は以下の通りである。

曆年較正

曆年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40

年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal3.10(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、 1σ 暦年年代範囲は、OxCALの確率法を使用して算出された“C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年年代範囲であり、同様に 2σ 暦年年代範囲は95.4%信頼限界の暦年年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

縄文時代中期後半とされるSB4から出土した深鉢の内面おこげ(PLD-4726)は、 1σ 暦年年代範囲においてCal BC 2810~2740年(40.6%)、 2σ 暦年年代範囲においてCal BC 2820~2660年(75.5%)であった。なお、この時期の校正曲線は、弥生の2400年問題とされる変化の少ない時期に相当するため、示された年代範囲は広い。

弥生時代中期後半とされる横羽状文甕付着煤類(PLD-4725)は、 1σ 暦年年代範囲においてCal BC 170~90年(63.4%)、 2σ 暦年年代範囲においてCal BC 200~50年(95.4%)であった。

SB23及びSB27の土器付着煤類など(PLD-4720・4721、PLD-4722・4723)は、弥生時代末~古墳時代始めとされるが、1世紀末~3世紀中頃の年代範囲が示されたが、PLD-4723の甕付着煤類はやや新しい年代範囲であった。

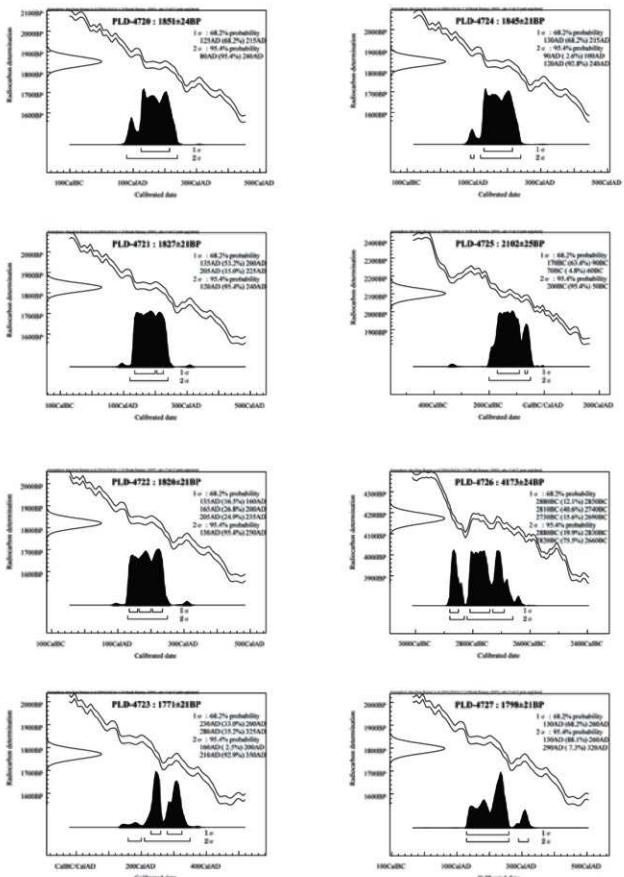
SB26の柵材のヨシ属茎(PLD-4724)と台付甕付着煤類(PLD-4727)は、4世紀~5世紀と想定されているが、2世紀始め~3世紀中頃の年代範囲であった。

第92表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-4726	赤保木遺跡 遺構: SB 4 遺物No.: 677	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 形態: 深鉢 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.5N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4725	赤保木遺跡 遺構: SR 9 遺物No.: 806	試料の種類: 土器付着物・胴部外側(煤類) 形態: 横羽状文甕 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.5N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4720	赤保木遺跡 遺構: SR23 遺物No.: 3795	試料の種類: 土器付着物・外側(煤類) 形態: 幾何 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.1N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4721	赤保木遺跡 遺構: SB23 遺物No.: 3844	試料の種類: 土器付着物・口縁部外側(ふきこぼれ) 形態: 幾何 状態: 幾何 カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.1N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4722	赤保木遺跡 遺構: SR27 遺物No.: 3300	試料の種類: 土器付着物・外側(煤類) 形態: 幾何 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4723	赤保木遺跡 遺構: SB27 遺物No.: 3333	試料の種類: 土器付着物・外側(煤類) 形態: 幾何 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.5N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4724	赤保木遺跡 遺構: SB26 遺物No.: 3865	試料の種類: 土器付着物・複合 形態: 台付甕 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.5N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH
PLD-4727	赤保木遺跡 遺構: SB26 遺物No.: 3713	試料の種類: 土器付着物・外側(煤類) 形態: 台付甕 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸: アルカリ・酸洗浄 (塩酸): 2N, 水酸化ナトリウム 0.5N, 塩酸: 2N	PaleoLabo: NEC業コンパクト AMS -1.SSDH

第93表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1σ 暦年年代範囲	2σ 暦年年代範囲	
PLD-4726	-27.28 \pm 0.14	4175 \pm 25	2880BC (12.1%) 2850BC 2810BC (40.6%) 2740BC 2730BC (15.6%) 2690BC	2880BC (11.9%) 2830BC 2820BC (75.5%) 2660BC	4173 \pm 24
PLD-4725	-26.88 \pm 0.15	2100 \pm 25	170BC (63.4%) 30BC 70BC (4.8%) 60BC	200BC (95.4%) 50BC	2102 \pm 25
PLD-4720	-29.60 \pm 0.14	1850 \pm 25	125AD (68.2%) 215AD 205AD (15.0%) 225AD	80AD (95.4%) 240AD	1851 \pm 24
PLD-4721	-26.78 \pm 0.16	1825 \pm 20	135AD (53.2%) 200AD 165AD (12.8%) 200AD 205AD (24.9%) 235AD	120AD (95.4%) 240AD	1827 \pm 21
PLD-4722	-27.47 \pm 0.14	1820 \pm 20	125AD (19.5%) 160AD 165AD (12.8%) 200AD 205AD (24.9%) 235AD	130AD (95.4%) 250AD	1820 \pm 21
PLD-4723	-27.47 \pm 0.14	1770 \pm 20	230AD (33.0%) 260AD 280AD (35.2%) 325AD	160AD (12.5%) 200AD 210AD (92.9%) 350AD	1771 \pm 21
PLD-4724	-11.84 \pm 0.15	1845 \pm 20	130AD (68.2%) 215AD	96AD (12.6%) 100AD 120AD (92.8%) 240AD	1845 \pm 21
PLD-4727	-26.99 \pm 0.12	1800 \pm 20	130AD (68.2%) 260AD	130AD (98.1%) 260AD 290AD (7.3%) 320AD	1798 \pm 21



第112図 年歴較正結果

第4節 土器胎土の材料分析

1 始めに

縄文時代中期の石窯が19基検出された。このうちSB 8の石窯は、2個体分の土器が丁寧に敷き詰められていた。ここでは、SB 8の石窯内に敷き詰められていた土器について、その胎土の材料を検討した。分析は、藤根久・長友純子（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と分析方法

試料は、SB 8の石窯内に敷き詰められていた深鉢土器2試料である（第94表）。これら試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

(1) 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2) さらに、研磨機及びガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。

(3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について微化石類（珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴について観察・記載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは、以下のとおりである。

第94表 薄片観察した土器試料

No	器種	遺物No	道標	土の色(色相 明度/彩度)	肉眼的特徴
1	深鉢	3568	8号住居跡石窯	明赤褐色 5YR 5/6	白色粒子多い、透明粘土質含む
2	深鉢	3588	8号住居跡石窯	明赤褐色 10YR 7/6	金雲母多い、白色粒子含む

[植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10~50 μm前後である。一般的にプランツ・オーバルとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

[胞子化石]

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10~30 μm程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壤中にも含まれる。

[石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴を持たないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が含まれる石英又は長石類である。

[長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帶構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（バーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すも

のに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。バーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。ミルメカイトあるいは文母岩は火成岩が固結する過程の晚期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

〔雲母類〕

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）に沿って板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質・砂質の変成岩及び堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

〔輝石類〕

主として斜方輝石と単斜輝石がある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色及び淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO₂%が少ない深成岩、SiO₂%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどの高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO₂%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO₂%の最も少ない火成岩や変成岩中に含まれる。

〔角閃石類〕

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細く平たい長柱状である。閃綠岩のようなSiO₂2%が中間的な深成岩を始め火成岩や変成岩などに産する。

〔ガラス質〕

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさん持つガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考へる。なお、湯ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

〔斑晶質・完晶質〕

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものを言う。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

〔凝灰岩質〕

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山碎屑物などから構成され、非晶質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

〔複合鉱物類〕

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

〔複合石英類〕

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分を持たないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.1mm未満のものを微細、0.01～0.05mmのものを小型、0.05～0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）はホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

〔砂岩質・泥岩質〕

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分を持つもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

〔不透明・不明〕

下方ボーラーのみ、直交ボーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

3 結果

微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。なお、第95表の岩石の出現頻度は、○が特徴的に多い、○が多い、△が少ない、空欄は検出されないことを示す。鉱物は、++が特徴的に多い、++が多い、+が少ないが含まれているである。

No 1 (3568) : 150~750 μm、最大粒径1.6mm。石英・長石類・斑晶質の複合石英類（微細）、[複合石英類]、角閃石類、斜長石、砂岩質、ガラス質、ジルコン、複合石英類（大型）、植物珪酸体化石少ない

No 2 (3588) : 80~800 μm、最大粒径3.3mm。石英・長石類の複合石英類（微細）角閃石類多い、雲母類、单斜輝石、[ガラス質]、ジルコン、複合石英類（大型）、植物珪酸体化石多い

4 考察

(1) 微化石類による材料粘土の分類

検討した土器胎土中には、珪藻化石などの微化石類は検出されなかった。このことから、土器胎土の粘土材料は水成粘土でない可能性が考えられる。植物珪酸体化石が検出されているが、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、珪藻化石のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

(2) 試料中の砂粒組成による分類

ここで使用した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第95表）。岩石の推定は、砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類が深成岩類、ガラス質がテフラ（火山噴出物）、斑晶質が火山岩類、凝灰岩質が凝灰岩類である。推定した起源岩石は、第96表の組み合わせに従って分類した。土器胎土中の砂粒組成は、試料No 1の土器が火山岩類を主体として堆積岩類などを伴う組成（C群）、試料No 2の土器が堆積岩類を主体とした組成（C群）であった。

第95表 土器胎土中の粘土及び砂粒の特徴

No	器種	遺物名	粘土の特徴		砂粒の特徴		鉱物の特徴		植物珪藻 化石化		その他の特徴					
			分類	種類	分類	種類	深成岩類	堆積岩類	火成岩類	テフラ	凝灰岩類	ジルコン	角閃石類	輝石類	葉母類	出現頻度
1	縄 鉢	3568	—	その他の C	Dc	O	△	○	△	△	+	+	+	+	△	凝灰岩質胎土
2	縄 鉢	3586	—	その他の C	O	△	△	△	△	△	+++	+	+	+	○	凝灰岩質胎土

遺跡周辺域の西側では、激飛流紋岩類として彦谷溶結凝灰岩が広く分布している。また、角閃石黒雲母花崗斑岩も帶状に分布している。遺跡自体は、崖錐堆積物が堆積する緩斜面に立地するが、西側山地とは隣接して走る東北東～西南西方向の活断層(牧ヶ洞断層)により区画されている(河田1982)。一方、東側地域には、乗鞍火山が位置するため、火山岩類が多く見られる地域である。

こうした遺跡周辺の地質学的状況から、火山岩類や凝灰岩類あるいはテフラなどが、土器胎土中の砂粒物として混入する可能性が高い。試料No.1の土器胎土は、こうした本地域の砂粒組成を示していると言える。実際的に土器材料となる粘土は、赤保木遺跡の基盤に相当する部分には軟質で良質な粘土が分布していることが、現地において確認できることから、本地域で製作された土器である可能性が高い。一方、試料No.2の土器は、堆積岩類を主体として深成岩類を伴う組成であるが、前述したような火山岩類や凝灰岩類を全く含んでいないことから、本地域とは言えない。

第96表 胎土中の岩石片の分類と組み合わせ

岩石の分類群	第1出現群						
	A	B	C	D	E	F	G
第2出現群	片岩類	片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類
	a	Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	Ab	Bb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	Ac	Bc	Dc	Ec	Fc	Gc
	d	Ad	Bd	Cd	Ed	Fd	Gd
	e	Ae	Be	Ce	De	Fe	Ge
	f	Af	Bf	Cf	Df	Ef	Gf
g	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg	

(3)まとめ

ここでは、SB8の石器炉内に敷き詰められていた土器2試料について、その胎土の材料を検討した。その結果、粘土は水成粘土を示す珪藻化石は含まれていなかったが、砂粒組成において対照的な砂粒組成であることが理解された。少なくとも試料No.1の土器は、遺跡周辺地域の材料を用いて製作された可能性が高い。

第6章 考察

第1節 縄文時代の竪穴住居跡と集落の変遷

今回の調査で検出した縄文時代の竪穴住居跡は切り合いが少なく、石開炉の炉石が残っているものが多い。また、出土土器の時期がまとまっており、当時の住居の構造を明らかにする指標となる可能性を秘めた資料である。そこで、竪穴住居跡を、規模や付属施設、形状、炉跡、出土遺物などの属性によって分類し、集落内における変遷や周辺地域との関わりについて考えることとする。

1 竪穴住居跡の属性

今回の調査では、縄文時代中期中葉から後葉にかけての竪穴住居跡を25軒検出した。これらから以下のような属性を抽出し、第97表に示した。

規模

上端の長軸が3.8m未溝のものをa、3.8m以上6m未溝のものをb、6m以上のものをcとした。切り合いで正確な法量が不明な場合も、可能な限り推定して分類した。なお、この分類は、法量の散布状況から想定した(第113図)。

主柱穴配置

主柱穴の本数及び入口施設と考えられる対になるピットを含めた配置を、第114図のように分類した。

入口土坑の有無

入口と考えられる方向の床面上にある土坑の有無を抽出した。埋葬が埋設されていた可能性があるが、今回の調査では見つかっていない。

周溝若しくはピット間の溝の有無

竪穴床面にある溝を以下のように分類した。なお、複合する場合は、「+」を間に入れて「A+B」のように記述した。

A 周壁溝

B 柱穴間を結ぶ溝 2基の主柱穴を結ぶもの
1、以下3基を2、4基を3とした

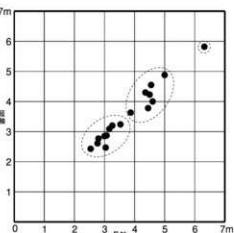
C 入口周辺の溝

炉跡の種類

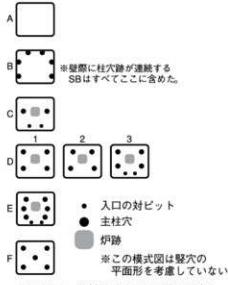
今回検出した竪穴住居跡に炉跡には、地床炉と石開炉がある。また、炉跡がないものも見られる。

石開炉の分類

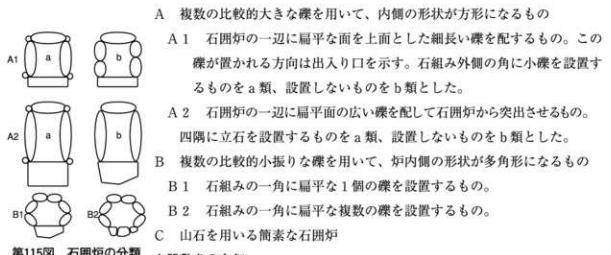
石組みの様やその配置などの属性を検討し、分類を行った(第115図)。



第113図 竪穴住居跡規模の散布状況



第114図 主柱穴と炉跡配置の分類



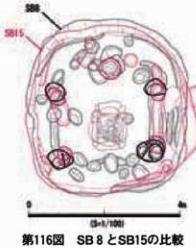
第115図 石围炉の分類

土器數きの有無

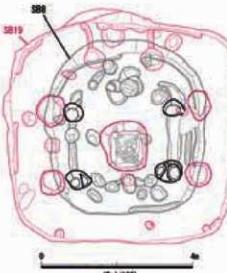
炉内に土器を敷いたものを抽出した。

炉石の抜き取りの有無

石围炉のあるものについて、環の抜き取りの有無を抽出した。



第116図 SB8 と SB15 の比較



第117図 SB8 と SB19 の比較

A: 复数の比較的大きな環を用いて、内側の形状が方形になるもの

A 1 石围炉の一辺に扁平な面を上面とした細長い環を配するもの。この環が置かれる方向は出入り口を示す。石組み外側の角に小環を設置するものを a 類、設置しないものを b 類とした。

A 2 石围炉の一辺に扁平な面を配して石围炉から突出させるもの。四隅に立石を設置するものを a 類、設置しないものを b 類とした。

B: 多数の比較的小振りな環を用いて、炉内側の形状が多角形になるもの

B 1 石組みの一角に扁平な1個の環を設置するもの。

B 2 石組みの一角に扁平な複数の環を設置するもの。

C: 山石を用いる簡素な石围炉

土器數きの有無

炉内に土器を敷いたものを抽出した。

炉石の抜き取りの有無

石围炉のあるものについて、環の抜き取りの有無を抽出した。

2 属性の分析

規模と炉跡・柱配置

a 類の規模に含まれる竪穴住居跡には、炉跡を持つものと持たないものがある。炉を持たないものはF類のSB31を除いて柱穴が不規則、あるいは柱穴が無いため、上屋構造があつたかどうかの明確な判断ができない。これらは居住する施設としての機能を備えていなかった可能性がある。また、3Cグリッド付近に固まっていることや、SB28やSB31のように他の住居跡から離れた位置にある点も注目される。地床炉のあるSB16やB類の柱配置としたが、実際に床面のピットが主柱穴として使われていたかは不明である。石围炉のあるa類の竪穴住居跡には、A 2 b類のSB10・SB20、C類のSB25といった特徴的なものが見られる。石围炉のある竪穴住居跡の柱配置はD 1類であり、SB20のみが2本の主柱穴を持つC類である。

b・c 類の規模に含まれる竪穴住居跡には、すべて炉跡が存在する。炉跡は、SB18の地床炉を除いて石围炉であり、その形状は様々である。柱配置は、石围炉を持つ竪穴住居跡の内、6本の主柱穴があるSB04を除いてD 1類・D 3類が占める。中でも特徴的なのがD 3類とした、入口に対応するピットを持つ一群である。D 3類竪穴住居跡は平面規模を含めて規格性が高く、炉跡の位置を合わせて図を重ねると、主柱穴や入口土坑の位置がほぼ同じ位置に来る(第116図)。またc類

の規模があるSB19もD 3類の柱配置を持つが、SB 8と炉跡の位置を合わせて重ねる(第117図)と、柱穴の南北方向の間隔がほぼ同じになる。そのため、規模が異なる場合でも、炉の位置を基準にして竪穴住居跡が建てられた可能性が高い。なお、SB 8とSB19はともに他の住居跡とは異なり、斜面の上方に入口が設けられていることや、SB19の炉石が抜き取られた掘場がSB 8の石围炉の規模とはほぼ一致する(第117図)ことから、SB19からSB 8へ建て替えが行われた可能性が考えられる。

付属施設

ここでは、竪穴住居跡の入口に設けられた土坑と床面上の溝について述べる。入口の土坑は、11軒で見られる。すべて石围炉のある竪穴住居跡内に設置されており、D 1類・D 3類の柱配置を持つ竪穴住居跡にも限定される。分類で埋甕があった可能性を述べたが、中期中葉から後葉にかけて入口附近に埋甕を設置する例は、飛騨地域においては頻繁に見られる⁽¹⁾。この土坑が埋甕に代わるものなのか、埋甕をすべて抜き取ったのかは不明である⁽²⁾。なおこの土坑は、入口で対になるピットのあるD 3類の住居跡に必ず伴うことが確認でき、関連性が考えられる⁽³⁾。

床面の溝は、SB31を除いて石围炉のあるものに限られる。A類の周壁溝が確認されたのは5軒のみで、半周以上しているSB20を除いてすべて部分的である。B類の主柱穴をつなぐ溝跡は11軒で見られる。2本の主柱穴をつないだものが多く、中には3本・4本をつないだものもある。C類の入口周辺の溝は対になるピットに連結するように掘られている。周壁溝・主柱穴間を結ぶ溝のある竪穴住居跡のみで見られ、単独では存在しない。

第97表 赤木保遺跡縄文時代竪穴住居跡の属性

遺構名	竪穴住居跡属性				石围炉属性				備考
	平面形	柱穴	入口・土坑	溝	炉跡別	石围炉分類	後毛刺	内部状況	
SB01 a	両丸方形	D1 ○	B1	石围炉	A1a	-	長方形	b2 e1 ○	-
SB02 a	(両丸方形)	B -	-	不明	-	-	-	-	-
SB03 a	両丸方形	B -	-	-	-	-	-	-	-
SB04 b	両丸方形	E -	B1+C	石围炉	B1 -	不定形	a e2 -	-	-
SB05 a	両丸方形	D1 -	-	石围炉	A1a -	方形状	b1 e1 ○ (2所)	-	-
SB06 b	両丸方形	D1 ○	B3+C	石围炉	A1b -	方形状	b2 e1 -	-	-
SB07 a	両丸方形	A -	-	-	-	-	-	-	-
SB08 b	両丸方形	D1 ○ A+B3+C	石围炉	A2a -	長方形	b1 e2 ○ (立石)	-	○ (隣接)	-
SB10 a	両丸方形	D1 ○	-	石围炉	A2b -	長方形	b1 e2 -	-	-
SB11 b	不明	不明 -	-	石围炉	-	-	-	-	-
SB13 不明	不明	不明 -	-	石围炉	-	-	-	-	-
SB14 b	両丸方形	D2 ○	B1	石围炉	A ○	不定形	a -	-	建てる備えあり
SB15 b	両丸方形	D3 ○	A+B1	石围炉	A1a -	長方形	b1 e1 ○ (3所)	-	-
SB16 a	円形	B -	-	地床炉	-	-	-	-	-
SB17 b	両丸方形	D1 ○	B2	石围炉	A1a -	方形状	b2 e1 ○	-	-
SB18 b	(円形)	D2 -	-	地床炉	-	-	-	-	-
SB19 c	両丸方形	D2 ○	A+C	石围炉	-	○ 長方形	-	-	-
SB20 a	方形	C -	A	石围炉	A2b -	長方形	b1 e2 -	-	-
SB21 b	両丸方形	D3 ○	B1	石围炉	A ○	長方形	b2 e2 -	-	建てる備えあり
SB24 b	楕円形	D1 ○	B3	石围炉	B2 -	不定形	a e3 -	-	並列か
SB25 a	円形	D1 ○	B1	石围炉	C -	長方形	a e3 -	-	山石を使用
SB28 a	不定形	A -	-	-	-	-	-	-	-
SB29 b	両丸方形	D1 -	A	石围炉	A1a -	長方形	b1 e1 ○	-	-
SB31 a	方形	F -	B1	-	-	-	-	-	-
SB32 b	不明	Bb -	-	不明	-	-	-	-	-

入口の土坑、床面上の溝がどのような機能を持っていたかは分からぬが、当遺跡において石開炉の導入に伴って採用された施設と考えられる。

3 入口方向と竪穴住居跡の分布

第118図は、竪穴住居跡の入口の方向を矢印で図示し、竪穴住居跡の位置関係や遺構の様相によってグループ分けした図である。グループ分けした群ごとに見られる竪穴住居跡の特徴を述べる。

地床炉を持つSB16・SB18が属するA群は、入口の方向は明確でない。炉を持たないB群は、SB2を除いて遺物が少ない。C群はSB1・SB5が西に、SB4・SB6が南向きに入口を設けている。SB1・SB5は規模が比較的小さく、D1類の柱配置とA1a類の石開炉を持つ。SB6は、SB8などとは同一規模でD3類の柱配置を持つ。SB4はB1類の石開炉を持つ比較的の規模の大きい竪穴住居跡である。SB6をSB4が切っていることから、SB6とSB4は共存していない。D群及びE群は西向きに入口を設けている。SB14・SB15ともにSB8とはほぼ同規模で柱配置とともにD3類である。SB14はA類と考えられる炉跡を持つが、炉石が抜き取られている。E群はそれぞれの竪穴住居跡の個性が強い。SB17はSB8とは同じ柱配置であるが、平面形が長方形で入口の対になるピットがない。SB25は円形に近い平面形で、D1類の柱配置としたが、奥側の主柱穴が壁に近い位置に寄ることやC類の簡素な石開炉を持つことなど、他の竪穴住居跡との違いが見られる。SB21は石が抜き取られたA類の石開炉があり、この群では唯一D3類の柱配置になる。F群のSB20はEに近接するが、入口が南で



第118図 グループ分けと入口の方向

あるため同一群とはしなかった。B類の主柱穴配置、A2a類の石開炉、周壁溝の形状など他の住居跡とはかなり異なる特徴を持つ。G群は先述したように北向きに入口を設けている。SB19は赤保木遺跡の調査で見つかった竪穴住居跡の中では最大規模である。SB8はA2a類の特徴的な石開炉を備え、魔絶儀式と考えられる土器敷きを伴う。いずれも集落の中で特別な性格を持つ建物であった可能性が高い。H群は他の住居跡とは南側に若干離れた位置にある。西向きに入口を設けており、ともにD1類の柱配置である。SB29はA1a類、SB24はB2類の石開炉を持つ。I群は他の群から離れていることやA2b類の石開炉を持つことから、SB10のみの単独の群とした。西向きに入口を設けておりD1類の柱配置を持つ。J群・K群・L群は離れた位置にあり、炉跡を伴わない。I群のSB31は5本の主柱穴がある。JのSB32は切り合いで造られたため、詳細は不明である。LのSB28は炉跡・主柱穴がない。SB13はA類と考えられる石開炉のみを検出しているが、詳細は不明である。

以上のように、異なる属性を備えた竪穴住居跡が群をなすという特徴が見られる。このことは、各群を単位にして集落が変遷した可能性を示唆している。

4 出土遺物と縄文時代の遺構の変遷

緩やかな斜面に立地する当遺跡においては、自然の土砂の供給によって竪穴住居が埋没することは考えにくい。耕作による削平を受けているとはいえ、表土の直下から縄文時代の遺構を検出できる状況は、縄文時代から土の移動がほとんどなかったことを示している。繰り返して集落が営まれていた場合、前に使っていた竪穴は埋め戻すのが自然である。このことは、竪穴住居における埋土の出土遺物が時期決定の決め手にならないことを意味している。従って、竪穴住居床面上から出土した土器や炉跡内から出土した土器が、竪穴住居の使われていた時期を決める最も有効な手段となる。また、床面上の遺構から出土した遺物も、時期の上限を決める参考にことができる。

各遺構から出土した遺物の時期の判断については土器観察表に記したが、ここでは各住居跡出土遺物を比較して先後関係を考えることに主眼をおく⁽⁴⁾。

竪穴住居跡A群

SB16には床面上や遺構から出土した遺物はないが、動物意匠文土器337（第76図）がほぼ完形で見つかっており、これは、上山田・天神山土器様式第II様式（以下「上山田式」という。）と推定することができる。333・334はSB11の167（第67図）に先行する段階の勝坂式土器様式V・VI様式（以下「井戸尻式」という。）である可能性が高い。SB18はピット内から341・342が出土している。342は新保・新崎式土器様式第IV～VII様式（以下「新崎式」という。）と考えられる。

竪穴住居跡B群

SB2の床面上から出土した48（第60図）は、おそらく45のような土器の一部と考えられる。出土土器全体では、曾利式土器様式第II～III様式（以下「曾利II～III式」という。）、唐草文系土器様式（以下「唐草文系」という。）第II段階のものが多い。SB3は床面上から出土した遺物はない。埋土中の土器では、新崎式が目立つ。SB7は76（第61図）が床面上から出土した遺物であるが、細部であるため判断できない。ただし、遺構の切り合いでからSB5より新しいことが分かる。

竪穴住居跡C群

SB1は、出土遺物の数が多いものの、床面上や遺構から出土した遺物が細部であるため時期の判断

が困難である。7(第58図)はSB20から出土した470(第86図)と似た紋様構成であるが、口縁部が無文になるため時期が古くなる可能性がある。曾利Ⅱ式段階⁽⁴⁾が考えられる。なお、SB20出土の470は上岩野遺跡SB51出土の「加曾利E3式」併行例とされた土器と地紋を除いた紋様構成が似ている。SB4では、床面上から出土した85(第62図)は唐草文系第Ⅱ段階の古いタイプと考えられる⁽⁵⁾。123がP124と同様のモチーフならば、北陸の串田新・大杉谷土器様式(以下「串田新式」という)I式に影響を受けた土器と考えられ、85とはほぼ同じ時期で良いと考えられる。なお、125は垣内遺跡第31号住居址から出土した脚台と類似しており、前述の85・124に似た土器と併存している。SB5は床面出土遺物がなく、炉内から出土した74は細片であることから、時期の特定が難しい。埋土出土遺物を見る限りではSB1と大きな時期差は無いと思われる。SB11の床面上から出土した167(第67図)は井戸尻式末期に併存すると考えられ、上岩野遺跡SB44からは同じモチーフの土器が出土していることは第4章第1節で先述した。上岩野遺跡では、船元・里木土器様式第4様式(以下「船元Ⅲ式」という)や上山田・天神山土器様式第Ⅲ・Ⅳ様式(以下「古府式」という)に併存すると考えられる土器と併存している。SB6床面上(137・139)や石開炉内(136)からも同様の櫛形文と考えられる土器片が出土しており、SB6とSB11に大きな時期差は無いと思われる。SB6P3から出土した160は、岡前遺跡や中野山越遺跡に類例があり、先述の124と同じタイプの土器と考えられる。併存例から考えると井戸尻式期まで時期を古くすることはできないため、時期的な矛盾が生じる。P3とSB11のSK1、SB11との切り合いを検証する必要がある。

以上の検討から堅穴住居跡C群では、SB6(SB11)が最も古い。出土した土器の内容からSB4はSB1より古いと考えられる。SB5はSB1とほぼ同時期の可能性がある。

堅穴住居跡D群

SB14は、床面上出土遺物として3点図示したが、いずれも細片で時期を判別することが難しい。P2からは261(第72図)が出土している。口縁部が無文になる曾利Ⅰ～Ⅱ式あるいは唐草文系第Ⅰ段階のものと考えられる。新しい土器も目立つが、柱を建て替えた痕跡があることと、何らかの関係があるものと思われる。SB15の床面出土土器は、321(第75図)やミニチュア土器748・749などがあるが、矢羽根状弦線を施す土器であり、SB14より新しくなると考える。

堅穴住居跡E群

SB17は、床面上や構造から出土した土器に時期を判別することができるものがない。ミニチュア土器755(第99図)や埋土中から見つかった土偶740(第98図)はSB15と共通点が多く、ほぼ同時期に廃絶したと考える。SB21の床面上から出土した土器はいずれも上岩野遺跡で「より在地色の強い櫛形器形の土器」とされたものである。土偶742(第98図)も床面から出土しており、右脚部がSB14の上層から出土しているが、このことがSB14とSB21の先後関係を定める決め手にはなり得ない⁽⁷⁾。SB25は559が(第91図)床面出土遺物である。井戸尻式のものと考えられる。埋土出土遺物もほぼ同時期である。

堅穴住居跡F群

SB20の床面から出土した470とSB1の7についても先述した。唐草文系第Ⅱ段階でも新しい時期に属すると考える⁽⁸⁾。

堅穴住居跡G群

SB8の石開炉に廃絶儀礼として入れられたと考えられる238(第71図)は、中野山越遺跡SB12の台

付鉢や深鉢に類似するものがあり、曾利Ⅱ～曾利Ⅲ式の古い段階とされていることを第4章第1節で先述した。この住居跡ではSB1の122～124と似た串田新式⁽⁹⁾の影響を受けたとされる土器が併存している。また、SB1出土土器と土器敷に使われた土器に接合が見られた⁽¹⁰⁾。SB19は床面一括出土遺物が多い。398(第80図)はSB1の7やSB20の470と口縁部区画や懸垂文に類似性を感じさせるが、腹部文様が大きく異なる。463(第85図)は区画内の繩文充填や突起の大きさを除けば、上岩野遺跡SB6出土浅鉢に似る。466(第85図)は咲咲式の土器で、前述した上岩野遺跡SB6にも見られる。P2から出土した451(第84図)は古府式の台付鉢である。満巻文の下が無文になり、半隆起線が使われていない点などかなり新しい様相が見られる。SB8とSB19は、SB19が若干古いものの、大きな差はないと考える。

堅穴住居跡H群

SB29の床面上から出土した612(第92図)は里木Ⅱ式の口縁部である。また石開炉内から出土した606は唐草文系土器の破片である。SB24は、井戸尻式末の土器がまとめて床面上から出土している。

堅穴住居跡I群

SB10は床面出土遺物が無く、埋土出土遺物も時期的な混在があるため時期を決めることができない。

堅穴住居跡J群

SB31から床面上から出土した580(第91図)は上山田～古府式期のものであろう。埋土出土の577は、SB11から出土した167のような井戸尻式末の土器と考えられ、床面出土遺物の時期とも矛盾しない。

堅穴住居跡K群

SB32のP1から出土した583を基準とすれば、上山田式期の住居跡と言える。埋土中にも同時期のものがある。SB28は床面出土遺物がなく、埋土出土遺物も時期的な混在があるため時期を決めることができない。SB13は炉跡のみであるが、出土した遺物はSB4の125やSB19の451のような脚台の接合部である可能性が考えられる。詳細な時期は分からぬ。

以上のことから、堅穴住居跡の先後関係を整理した(第98表)。

遺跡内の相対的な変遷案ではある

第98表 各堅穴住居跡の時期

群	I期	II期	III期	IV期	V期
A	SB18	SB16			
B (SB3)			(SB2)		(SB7)
C		SB6→SB11	SB4		(SB1) (SB8)
D			SB14	SB15	
E		SB25	SB21	SB17	
F				SB20	
G			SB19→SB8		
H		SB24	SB29		
I					(SB10)
J		SB31			
K		(SB32)			
L					(SB13)

える⁽¹¹⁾。

5 堅穴住居跡と縄文時代集落の変遷

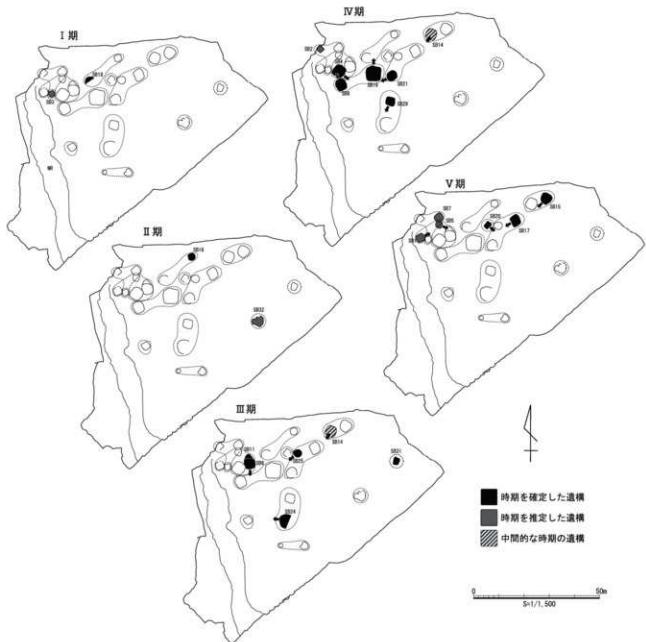
ここでは、今まで述べてきた堅穴住居跡の属性と集落内の配置について、時期ごとに整理する。

I期 SB18は地床炉である。4本の主柱穴を持つが、堅穴内の柱穴の配置に規格性がない。柱穴の

掘形がⅢ期以降より小さい。

Ⅱ期 SB16は地床炉である。主柱穴の位置が明確でない。

Ⅲ期 堅穴住居跡の増加とともに、石囲炉・規格的な4本の主柱穴が導入される。石囲炉はSB6がA1a類、SB24がB2類、SB25はC類である。SB6は、方形石囲炉を志向しているが、長辺円礫をわざわざ削って並べている点など、炉の構造や大きさ自体にこだわりが見られる。柱配置はD3類であり、IV期以降継続する規格的な柱配置の初現と言える。SB24は唯一B2類の石囲炉を持つ。SB25はかなり雑な印象を受ける炉跡であり、ゆがんだ柱配置と考え合わせてもⅡ期以前の様相を引き継いでいるように見える。以上のようにⅢ期はIV期以降の規格的な堅穴住居跡の導入期といえる。なお、上記3軒の入口の向きがSB8・南側の空間に向かっている。馬蹄形状の配置が意識されたと考えることもできる。



第119図 繩文時代集落の変遷

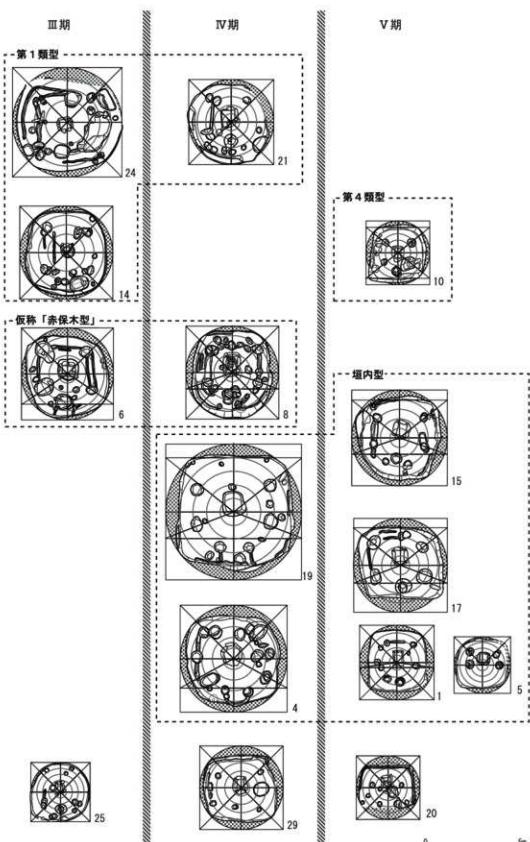
Ⅳ期 SB6と同タイプの堅穴住居跡が増加する。石囲炉はSB4のB1類を除いて長方形を意識したA1a類になる。SB8のA2a類の石囲炉もこの時期に属する。SB4・SB19と同タイプの脚台が出土したSB13もこの時期と考えられる。その後、専用に見られた馬蹄形状の配置が継続していると言える。ただし、斜面のはば同じ等高線上に並び西向きに入口があるSB14・SB21・SB29に対し、北向きに入口があるSB8とSB19は異なる。現段階では、特殊な役割を持つ建物であるとし、類例集成を含めて今後の課題としたい。なお、建物の位置関係から考えるとSB4とSB19、SB21とSB8の組合せが想定され、時期細分できる可能性がある。

Ⅴ期 SB6から続くD3類の柱配置を持つSB15とD3類の要素を一部省略したものに分かれる。後者ではSB17を除いて小規模である。石囲炉跡はA1a類とA2b類になる。V期の堅穴住居跡はすべてSB17より北側に集まっている。ただし、SB20と同じ形の炉を持つSB10をこの時期に含めると、その限りではない。この時期はA1a類の石囲炉が定着するものの、柱配置がD3類になる規格的な堅穴住居跡が減少する傾向にあると言える。

第2節 繩文時代中期後葉における堅穴住居跡の系譜

飛騨地方の縄文時代中期後葉において、堅穴住居跡の形状、柱穴、石囲炉の配置に「共通の基準にしたがって割り付けた一群」が見られることが、長谷川豊氏によって指摘されている（長谷川豊1995）。長谷川氏は飛騨地方における縄文時代中期後葉の堅穴住居跡を、同じ唐草文系土器の分布圏である伊那谷の例をもとに分類を試みている。割付の基準として、石囲炉の入口側の一辺を中心にして、堅穴の上端に接する円を描く。従ってこの円周の直径は、円形の堅穴ならばその直径、方形ならば対角線の長さとなる。この長さを5aとし、これを1/5にしたaが堅穴住居跡の割付基準となる。長谷川氏は、この基準を用いて第1類型から第4類型の分類を行っている。ここでは、その手法を参考にして、赤保木遺跡の堅穴住居跡の規格性について考える（第120図）。

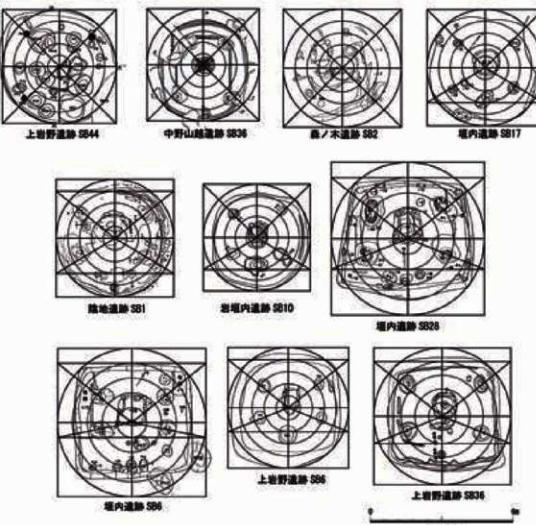
第1類型は、基本的に円形の平面形とされる。5aが1辺とした正方形の対角線と4aの直径を持つ同心円の交わる位置に主柱穴が配される。赤保木遺跡では柱配置D1類のSB24・SB21・SB14がこれに該当する。SB24は炉跡の位置がずれること、柱の位置が必ずしも4aの同心円状にないことなど規格性が低いが、こうしたずれが飛騨地方の堅穴住居跡に見られることについても指摘がある⁽¹²⁾。また、この堅穴住居跡が拡張されている可能性が高いこともそれが生じる原因の一つと考えられる⁽¹³⁾。SB21は、入口反対側の円周部分をaの幅で掘り残す第3類型「辻沢南型堅穴住居跡⁽¹⁴⁾」の可能性があるが、プランの一部が不明瞭なこともあります。第1類型に含めた。第2類型は第1類型とはほぼ同じで、主柱穴が6本あるものである。赤保木遺跡のSB4は6本の主柱穴を持つが、方形プランであることや柱穴の配置が大きく異なるため第2類型としなかった。第4類型は第1類型と同じ柱配置であり、平面形が方形になるものである。一方4aの方形と5aの円周を重ね、円周からはみ出した4aの方形の四隅を掘り残した隅丸方型として説明される。この中で、3aの同心円と5aの方形の対角線が交わる位置に主柱穴を配し、入口側の主柱穴2本が奥壁側に「セットバック」した堅穴住居跡が、「垣内型堅穴住居跡⁽¹⁵⁾」（以下垣内型と表記）とされた一群である。



第120図 竪穴住居跡の変遷

今回分類した13類の柱配置を持つ竪穴住居跡の多くはここに分類される。SB10は、本来の第4類型に該当する。なお、第1類型から第4類型、垣内型に含まれない一群も見られる（SB25、SB29、SB20）。

次に、類型ごとによる時期変遷を検証する。III期とIV期以降の大きな違いは、住居跡の竪穴の平面形が丸みを帯びたものから方形へ変化することにある。SB24・SB14・SB6などは方形を意識した形状と考えられるが、IV期以降の竪穴住居と比較するとかなり丸みが強い。また、SB24やSB14に見られるように、形状や柱配置の基準となる5aの円周の中心が、石圍炉の入口側の辺付近を中心としたものではない場合が見られる。第121図の上岩野遺跡SB44はIII期に併行する時期であるが、明らかに石围炉のコーナーに中心があり、SB24と同じ様相である。同図の中野山越遺跡SB36や森ノ木遺跡SB2では、炉跡の真ん中が円周の中心になる。また、方形に近い形状の石围炉を伴うことも共通点の一つである。その中で、SB6は異質である。形状はSB14・中野山越遺跡SB36、森ノ木遺跡SB2と共に見られ、炉も方形を志向したものである。しかし、奥壁側に寄る柱配置や入口の対になるピット⁽ⁱⁱⁱ⁾はIV期以降の特徴であり、過渡的な特徴と言えるだろう。SB8は、垣内型に移行する最終段階と言える。

第121図 飛騨地方における井戸尻式末～曾利Ⅲ式期の竪穴住居跡
(各遺跡の報告書から転載、一部改変)

特徴をまとめると、入口側の主柱穴が奥壁側に寄ること、入口に1基ないし2基のピットが見られること、方形を志向しつつや不定型な平面形を持つことが上げられる。このような様相を持つ一群を仮に「赤保木型堅穴住居跡」(以下赤保木型)とする。垣内遺跡では、SB17・SB15・SB67⁽¹⁾などが同類型になるであろう。垣内遺跡SB10は入口の対になるピットはないものの、SB8と共通する平面形を持つ。入口の対になるピットのある例としては、長谷川氏によって陰地遺跡SB1⁽²⁾の例が紹介されている。この堅穴住居跡について長谷川氏は、第3類型の一種としながらも第2類型にその祖型をもとめ、入口側の主柱穴が対になるピットに変化したという説を述べている。また、信州方面に垣内型が見られないことや類似性の高い先行事例があることから、富山方面からの伝播した可能性を示唆している。SB14や中野山越遺跡SB36のように、Ⅲ期段階で赤保木型に通じる第1類型存在していることを考えると、外的影響を受けつつも、赤保木型を経て垣内型に変化した可能性が考えられる。なお、Ⅳ期段階における垣内型のSB4・SB19は、V期と比較すると入口部分の平面形がやや膨らむ特徴がある。入口部分が緩やかな円周の形状を持つ、赤保木型との関係を考えると興味深い。このような特徴は、垣内遺跡の曾利Ⅱ式併行期の垣内型堅穴住居跡にも見られる(第121図)。V期になるとⅣ期における垣内型に見られた統一感が無くなる。入口ピットが省略され、極端に入口側の主柱穴が奥壁側に寄る事例が増える。これも他の遺跡でも見られる現象と言える(第121図)。

垣内型は、Ⅳ期～V期にかけて最盛期を迎え、それ以降徐々に衰退していくと考える。赤保木遺跡は、垣内型の発生から最盛期にかけて営まれた集落であり、その変遷が見られる貴重な事例と言える。

第3節 立石を伴う石囲炉と赤保木遺跡の意義

SB8の堅穴住居跡は、入口側に扁平な大型礫を設置し四隅に立石を立てる特徴的な形状を持つ。石囲炉の分類を行う際、堅穴住居跡の入口方向の礫に変化を付けることや、大型礫の間に小礫を置くことに着目したが、SB8の石囲炉はその属性を強調した類例と言える。

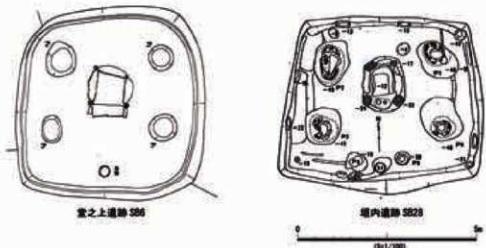
Ⅲ期からⅣ期にかけて石囲炉は、複数の石を使った方形(又はそれに近い多角形)から細長い石を厳選して使用する長方形への変化が、これまでの検証で明らかとなった。飛騨地方においては中期前葉から石囲炉が導入される⁽³⁾が、少なくとも中葉の段階では石囲炉における入口方向の強調は見られる。後葉になると飛騨地方では「舟形」と呼ばれている大型の扁平礫を入口側に設置する事例⁽⁴⁾が見られるようになる。この入口側の扁平礫を「作業台」とする説⁽⁵⁾もあるが、入口側に設置されるという状況には代わりがない。富山県の新崎式段階以降の石囲炉には、極端に入口方向を強調したものは少ない⁽⁶⁾ようで、東黒牧上野遺跡や直坂遺跡の垣内型に見られる入口を意識した炉は、飛騨地方の影響を受けている可能性がある。長野県の類例については、時間の都合上多くにあたることはできなかつたが、一般的に見られる現象と考えられる。この系譜については、今後の課題としたい。

一方大型礫の間に小礫を置く石囲炉が、飛騨地方の中期後葉の石囲炉では一般的に見られる。扁平な亜円礫や亜角礫などの川原石を石囲炉に使用する際、その隙間を充填するために入れられていたと考えられる。逆に、角礫を使用する場合や多角形の炉を作る場合など隙間ができるににくい場合は、小礫

を設置する例は少ない。森ノ木遺跡SB5では、複数の川原石の隙間すべてに小礫が設置されていた。このことは、火のある場所を隙間無く取り閉むという、機能面以外の意識を感じさせる。SB8に見られる四隅の立石や廃絶時の土器敷きも、こうした意識から生まれたのではないだろうか。

飛騨地方において、SB8の石囲炉の類例は、管見の及ぶ限りで2例見られる。堂之上遺跡のSB6と垣内遺跡SB28(第122図)である。堂之上遺跡SB6では立石の一柱に彰列石棒が使われている。入口側の扁平な角礫の設置状況などSB8と共通点が多い。垣内遺跡SB28では、石が抜き取られていたものの堀形が立石の存在を示している。入口側に扁平礫が置かれていたのも間違いないところである。ともに垣内型で、曾利Ⅱ～Ⅲ式である。SB8を含めた最大の共通点は埋土中から多数の炭化材が検出された点である。SB8以外は焼失家屋と推定されている。「火」を焚くための特殊な石囲炉を持ち、「火」によって上屋が焼失していることは、何らかの関係があると思われる。ただし、当遺跡については、SB8の他に炭化材が出土した焼失家屋があり、今後慎重な検討が必要である。

今回の調査によって、遺跡全般の様相をほぼ把握することができた。遺跡の中央に広場や土坑群を配する、大規模な環状集落ではないことを確定出来たことは、当時の集落を考える上で非常に重要な成果である。ほぼ同時期の堂之上遺跡、垣内遺跡、上岩野遺跡といった大規模な環状集落と赤保木遺跡のような集落との関係を考えていくことは、飛騨地方の縄文時代を考える上で今後の大きな課題であろう。また、残存状況の良い赤保木遺跡の石囲炉は、これまで述べてきたような貴重な成果を明らかにした。大規模集落では、炉石を使い回すため、抜き取られることが多い。このことも当遺跡のような中規模集落でも行われていたことを明らかにした。同様に石囲炉の残りが良い森ノ木遺跡や門端遺跡も、当遺跡と同じような中規模集落である可能性を示唆している。一方、この時期の堅穴住居跡に見られるはずの埋甕が、当遺跡に全く残存していないことは、他の遺跡との最大の違いである。その理由が何であるかは、今後明らかにしなければいけない重要な課題と言える。



第122図 四隅に立石を持つ石囲炉(各遺跡の報告書から転載、一部改変)

(1) 2003年段階の集成によると、飛騨地域において時期的に該当する151軒の内、58軒で埋甕が確認されている(岩田嵩・大石嵩史2003)。

(2) SB8から出土した土器である227や238は底部を欠損しており、もともとは埋甕だった可能性がある(泉拓良氏の御教示による)。

- (3) 高山市清見町の門遁遺跡では、蓋石をした土基の埋甕の横に石棒と石棒状柱礎が立てられた事例が見つかっている。(清見町教育委員会 1983) なお、入口の対になるビットについては、境内遺跡の焼失住居で確認された対になるビット内の焼失した柱材から支柱であったとする説もある。(高山市教育委員会 1991)
- (4) 参考にした他遺跡の壺穴住居跡の名称は、「SB○」のように省略して記載した。
- (5) 泉拓良氏の御教示による。
- (6) 「日本土器事典」(福島邦男 1996)などで「唐草文系Ⅲ期」とされる時期と考える。
- (7) 例えSB21で使用された土偶がSB1のあつたくぼ地に入り込んだ場合と、SB1が埋没する際にSB21で使われていた土偶がまたくぼれ込んだ場合は先後関係が逆になってしまう。両者が床面出土遺物である場合や吹上パターによる出土状況を示す場合には判断材料として有効であろう。
- (8) 「日本土器事典」(福島邦男 1996)などで「唐草文系Ⅳ期」とされる時期と考える。
- (9) 潜伏文多用することからプレ串田新式の可能性もある。
- (10) 注7と同じ。
- (11) 正確な位置を表示できないため簡化しているが、平成3年度に高山市教育委員会によって行われた調査では、今回の調査区の南側から唐草文系の土器が出土した壺穴住居跡1軒が検出された。県史跡「赤保木石器時代火葬」や方形土器が持つ壺穴住居跡に隣接した位置に、今回提示した「群」がここでも見られる可能性が高い。
- (12) 長谷川1995、P148、「半径3mの同心円上、又は4段×3mの同心円に埋められた位置に配置される…壺穴プランは正円に対して歪む…伊位置の割り付け基準が円周の中心からはずれ…」といった状況が、第1類型に見られる場合があるとしている。
- (13) 押張前は、炉の位置は同じで入口が図の左方向に向いていた可能性がある。
- (14) 長野県朝日根市辻町遺跡の壺穴住居跡を指標としている(長谷川豊 1994)。
- (15) 高山市境内遺跡の壺穴住居跡を指標としている(長谷川豊1995)。
- (16) 同遺跡5号住居跡と同じ時期の好例である。
- (17) 入口のビットについては、SB14やSB25、中野山越遺跡36号住居跡のように1基設置するのがこの時期の特徴とされる(長谷川1995)。
- (18) 17号住居址が曾利Ⅰ式、15号住居址が曾利Ⅱ式、67号住居址が中期後半とされる(高山市教育委員会1991)。
- (19) 曾利Ⅰ式併行期とされる。2号住居跡も同時期であり、ほぼ同じ形状を示す(財团法人岐阜県文化財保護センター 1994a)。
- (20) 赤保木遺跡に近い高山市中切上野遺跡では、前期前葉までさかのばるとされる石圓炉も見つかっている(高山市教育委員会 1999a)。
- (21) 県史跡「赤保木石器時代火葬」が「舟形」石圓炉の典型例である。
- (22) 岩田氏・大石氏は、飛驒市宮村堂ノ前遺跡SB20や飛驒市古川町中野山越遺跡SB12、高山市清見町門遁遺跡SB5などを上げ、「作業台」として使用されたと推定している(岩田崇・大石崇史 2003)。
- (23) 西野氏は富山県内11遺跡の石圓炉を集成し、石圓炉の変化と複式炉の発生について検証を行っている。小型→大型→複式炉のプロセスは見られるが、図面を見る限り一端を強調した事例は少ない(西川麻野 2006)。

参考文献

- 安孫子昭二 1989「勝坂式土器様式」「縄文土器大観」2 中期Ⅰ 小学館
 泉拓良 1989a「咲細・醍醐式土器様式」「縄文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
 泉拓良 1989b「船元・里木土器様式」「縄文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
 岩田崇 1997「宮川水系上流域における縄文時代遺跡の分布と地形環境」「美濃の考古学」第2号
 岩田崇・大石崇史 2003「飛驒の縄文住居」「関西縄文時代の集落・墓地と生業」関西縄文論集1 六一書房
 大山町教育委員会 1995「東黒牧上野遺跡A地区」
 大山町教育委員会 2000「東黒牧上野遺跡G地区発掘調査概要」
 春田井恒・長谷川幸志 2003「岐阜県美濃地方における縄文時代建物遺構の変遷」「関西縄文時代の集落・墓地と生業」関西縄文論集1 六一書房
 加藤三千雄 1989「新保・新崎式土器様式」「縄文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
 狩野龍 1989「中田新・大杉谷式土器様式」「縄文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
 河田清雄 1982「三日町地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1図幅)」地質調査所
 岐阜県教育委員会 1990「改版岐阜県遺跡地図」
 岐阜県教育委員会・財团法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター 2006『岐阜県新発見考古速報』
 清見村教育委員会 1983「門彌彌文時代遺跡発掘調査報告書」
 清見村教育委員会 1986「はつや遺跡」
 清見村誌編纂委員会 1976「清見村誌」上巻
 久々野町教育委員会 1997「堂之上遺跡—縄文時代集落跡の調査記録—」
 国府町教育委員会 1988「宮ノ下遺跡発掘報告書」
 国府町教育委員会 1998「桜木遺跡発掘報告書」
 国府町教育委員会 1999「森ノ木遺跡発掘報告書」
 小島俊彦 1989「上山田・天神山式土器様式」「縄文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
 財团法人岐阜県文化財保護センター 1994a「陰地遺跡」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 1994b「荒城神社遺跡」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 1995「岡前遺跡」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 1997「与島古墳群」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 1998「今宿遺跡」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 2000a「砂行遺跡」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 2000b「入平村遺跡Ⅱ 小谷戸遺跡」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 2000c「冬頭城跡、冬頭山崎1・2号古墳、冬頭山崎1号横穴」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 2000d「上ヶ平遺跡Ⅰ」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 2002a「保別戸古墳群」
 財团法人岐阜県文化財保護センター 2002b「岩垣内遺跡」
 財团法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター 2003「尾元遺跡」
 財团法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター 2004「上岩野遺跡」
 財团法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター 2007「東野遺跡」
 財团法人岐阜市市教育文化振興事業団 2000「下西郷一本松遺跡」
 下中弘 1989「岐阜県の地名」日本歴史地名体系第21卷
 末松健 1989「曾利式土器様式」「縄文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
 鈴木道之介 1991「図録・石器・門扇事典<縄文>」柏書房
 鈴木保彦・山本暉久 1989「加曾利E式土器様式」「縄文土器大観」2 中期Ⅰ 小学館
 高山市教育委員会 1971「冬頭山塚発掘調査報告書」

- 高山市教育委員会 1975 「飛騨国分寺瓦窯発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1986 「高山城跡発掘調査報告書Ⅰ」
- 高山市教育委員会 1988a 「高山城跡発掘調査報告書Ⅱ」
- 高山市教育委員会 1988b 「飛騨国分寺発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1990 「飛騨国分尼寺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1991 「垣内遺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1993 「前平山後遺跡・赤保木遺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1995a 「高山の文化史」
- 高山市教育委員会 1995b 「岐阜県高山市遺跡地図遺跡台帳編」
- 高山市教育委員会 1995c 「高山市内遺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1996a 「高山城跡発掘調査報告書Ⅲ」
- 高山市教育委員会 1996b 「高山市内遺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1999a 「中切上野遺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 1999b 「三枝城跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 2001 「高山市内遺跡発掘調査報告書」
- 高山市教育委員会 2003 「三仏寺・魔寺発掘調査報告書」
- 竹内理三 1991 「角川日本地名大辞典21岐阜県」
- 戸沢光則編 1994 「繩文時代研究事典」 東京堂出版
- 富山县教育委員会 1973 「直坂遺跡発掘調査概要」
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」「日本先史時代の14C年代」
- 西野麻野 2006 「富山县における石組炉に関する一考察」「富山县考古学研究第9号」
- 野沢保・河合清雄 1975・1988 5万点の1圖幅「飛騨古川、三日町地域の地質」地質調査書
- 八賀晋編 2001 「美濃・飛騨の古墳とその社会」
- 長谷川豊 1994 「唐草文土器文化圏における堅穴住居跡の一類型」「地域と考古学」向坂鋼二先生還暦記念論集刊行会
- 長谷川豊 1995 「飛騨における繩文中期後葉の堅穴住居址について」「飛騨と考古学」1995飛騨考古学会
- 福島邦男 1996 「曾利式土器」「唐草文系土器群」「日本土器事典」 雄山閣
- 古川町教育委員会 1989 「上町遺跡C地点発掘調査報告書」
- 古川町教育委員会 1991 「上町遺跡D地点発掘調査報告書」
- 古川町教育委員会 1993 「中野山遺跡発掘調査報告書」
- 古川町教育委員会 1994 「上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査報告書」
- 古川町教育委員会 2001 「上町遺跡金子地点・水見地点発掘調査報告書」
- 上枝村史編纂委員会 2000 「上枝村史」
- 三上徹也 1989 「唐草文系土器様式」「繩文土器大観」3 中期Ⅱ 小学館
- 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土追跡文献集成 -用材から見た人間・植物関係史」「40植生史研究」
- Brona Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program
Radiocarbon, 37 (2), 425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), 355-363.
- Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmehle, JR Southon, M Stuiver, S Talmao, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, 1029-1058.

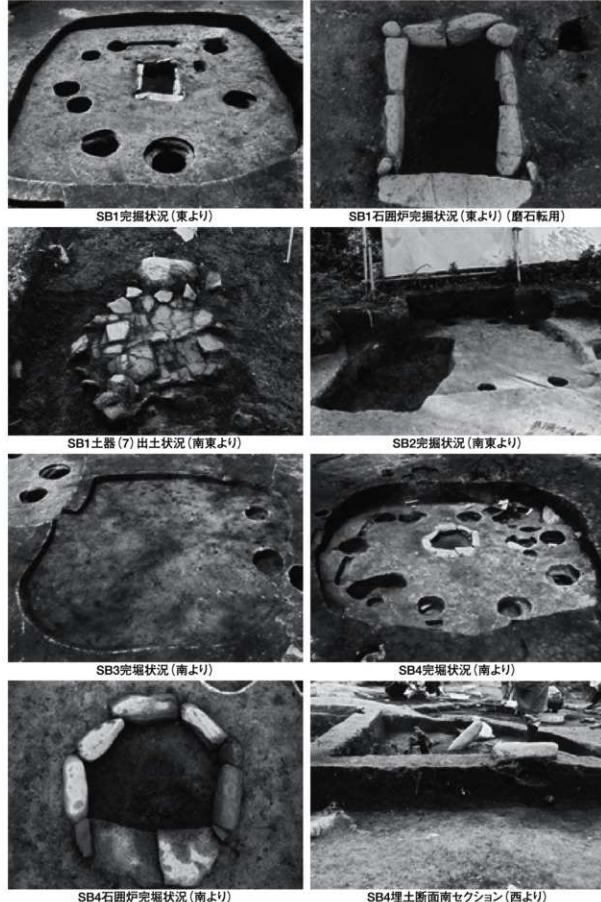


調査区西部全景(右が北)

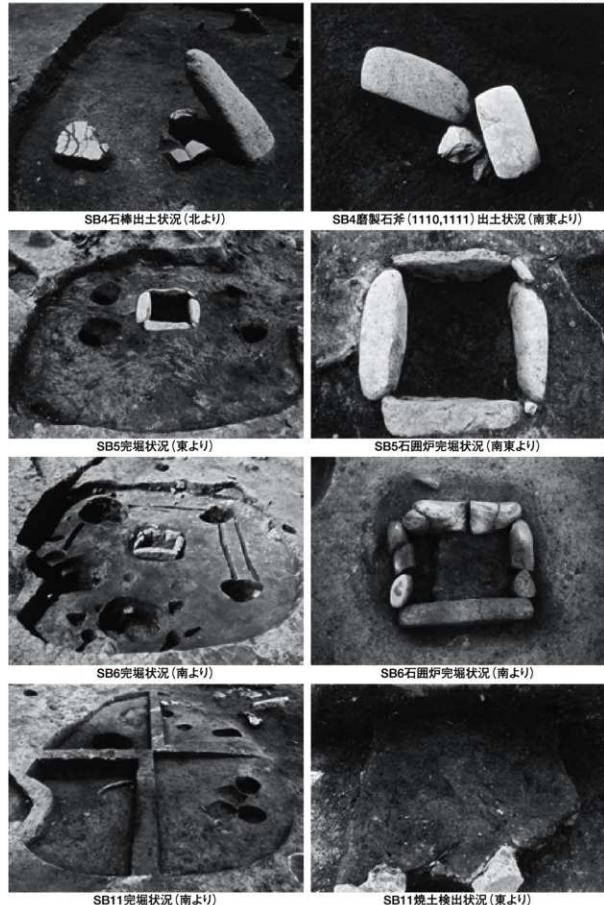


調査区東部全景(上が北)

写真図版2



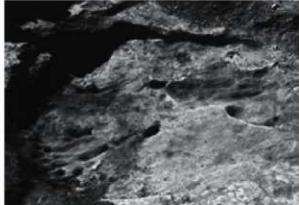
写真図版3



写真図版4



SB11,SK2土器(165)出土状況(東より)



SB7完堀状況(南東より)



SB8完堀状況(南より)



SB8土器敷炉土器出土状況(南より)



SB8土器(226)出土状況(東より)



SB8土器敷炉完堀状況(南より)



SB8土器(227)出土状況(南より)



SB10完堀状況(西南より)

写真図版5



SB10石圓炉完堀状況(西南より)



SB10床面炭化材出土状況(南より)



SB13完堀状況(南西より)



SB14完堀状況(南より)



SB14石圓炉完堀状況(南西より)



SB14土器(271)出土状況(東より)

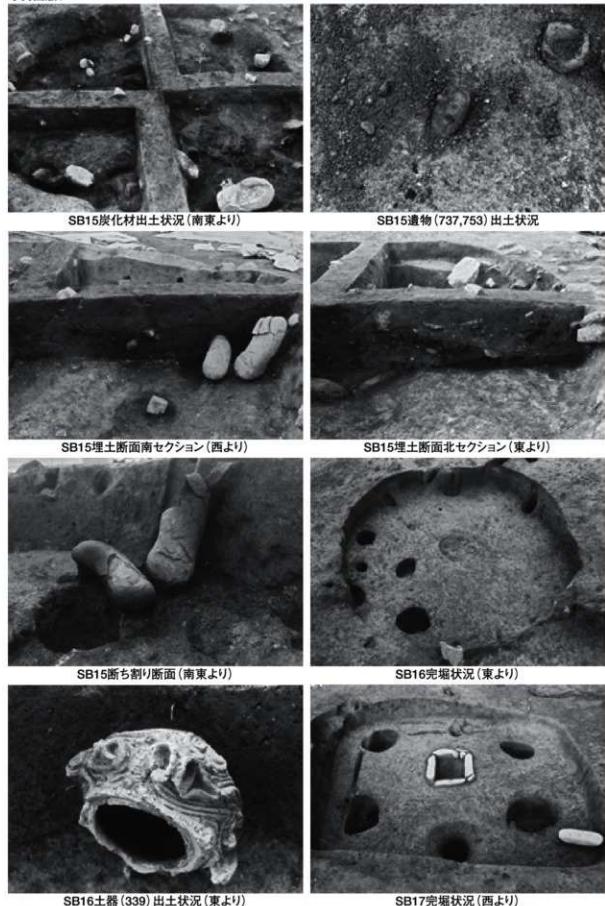


SB15完堀状況(西より)

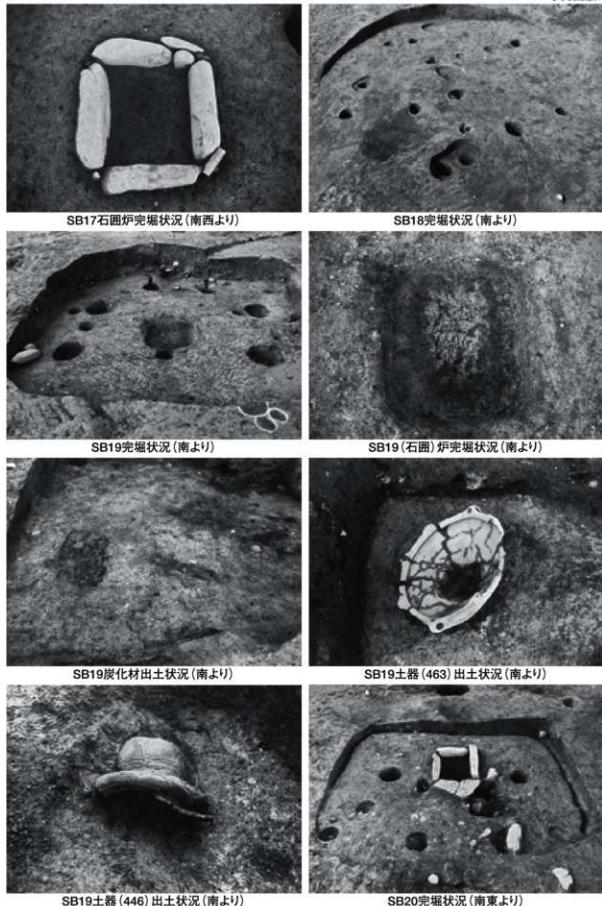


SB15石圓炉完堀状況(南西より)

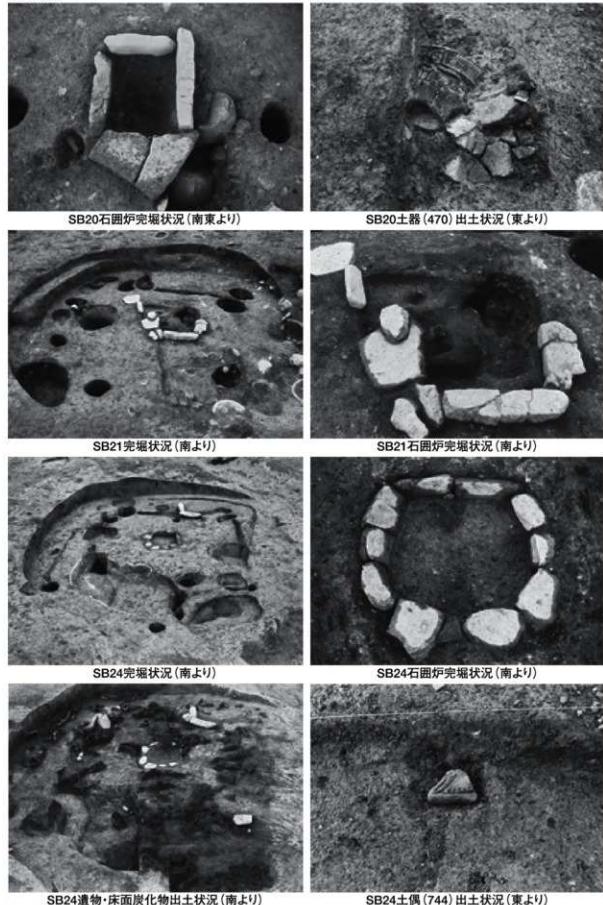
写真図版6



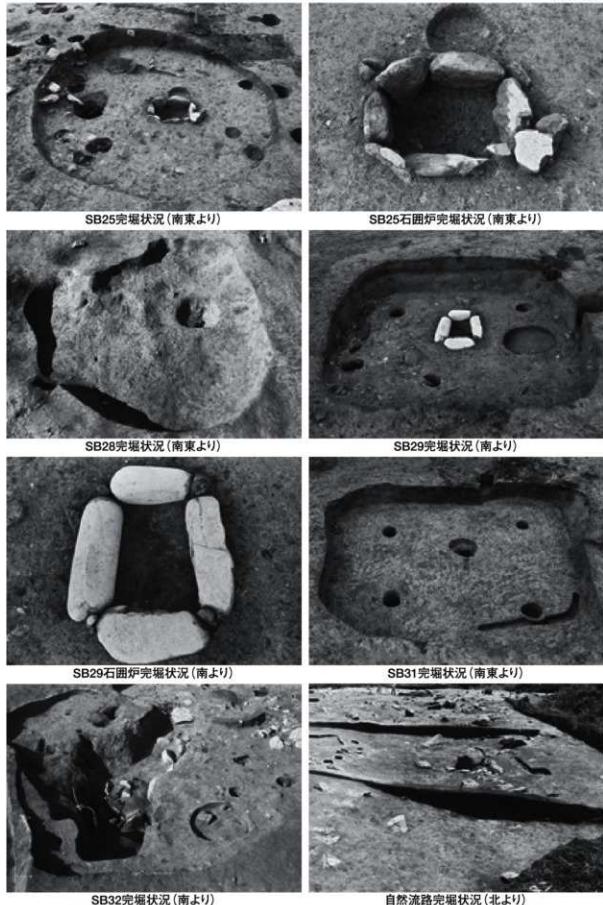
写真図版7



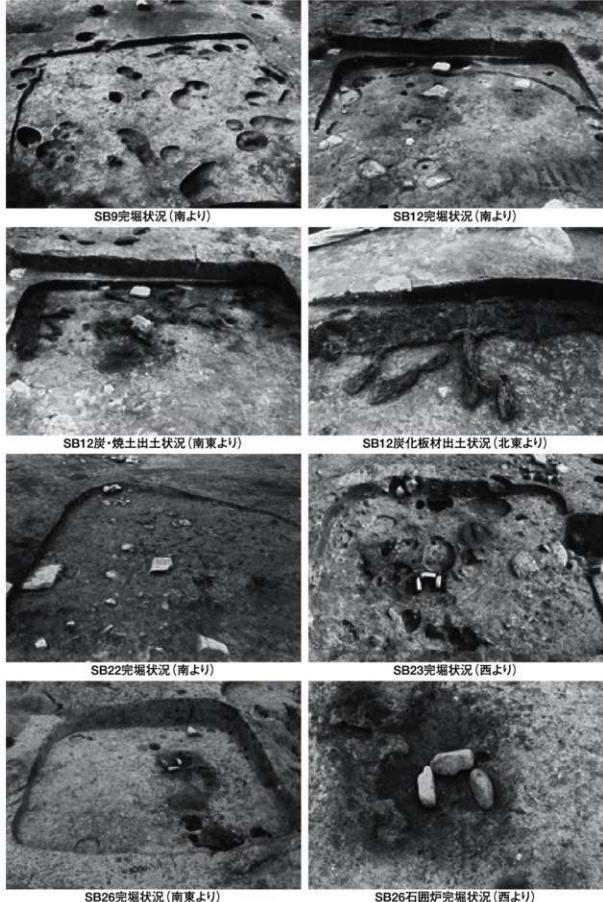
写真図版8



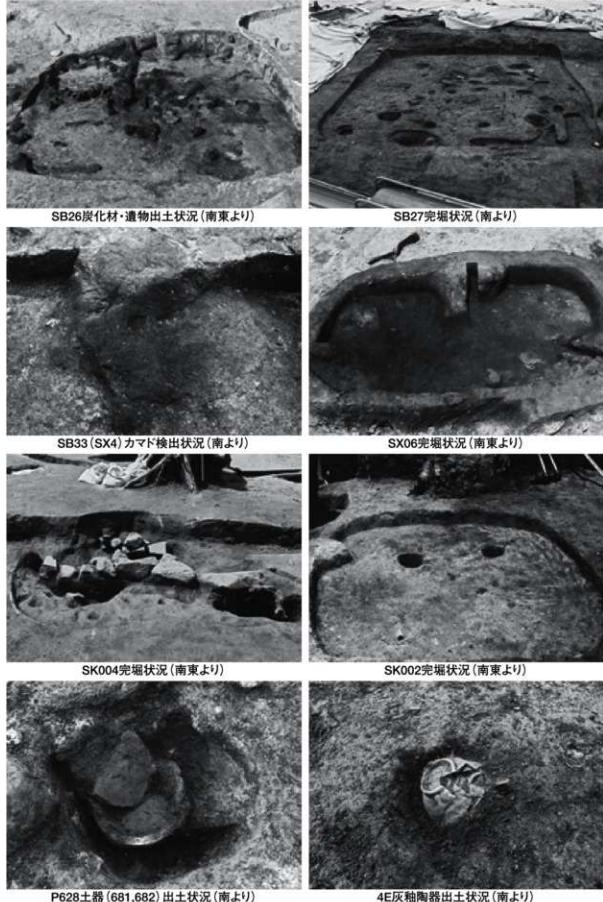
写真図版9



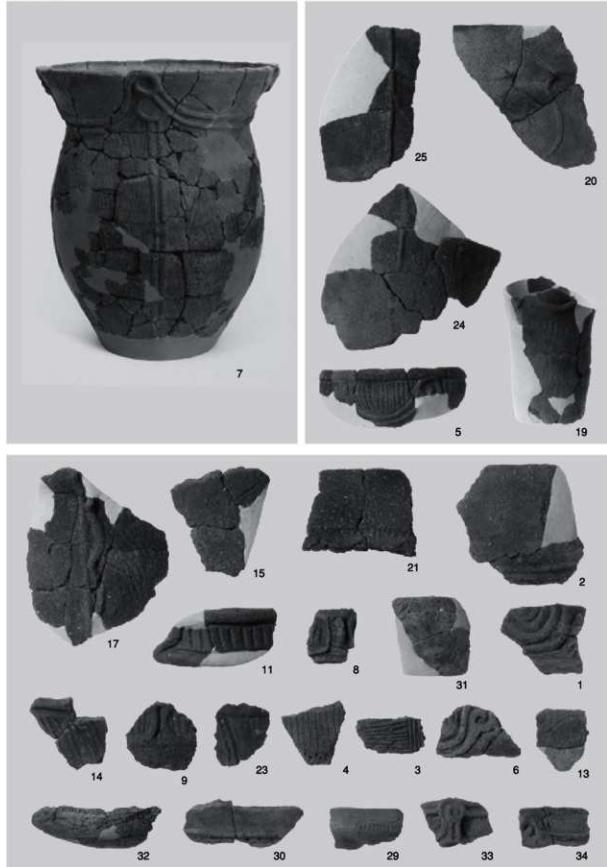
写真図版10



写真図版11

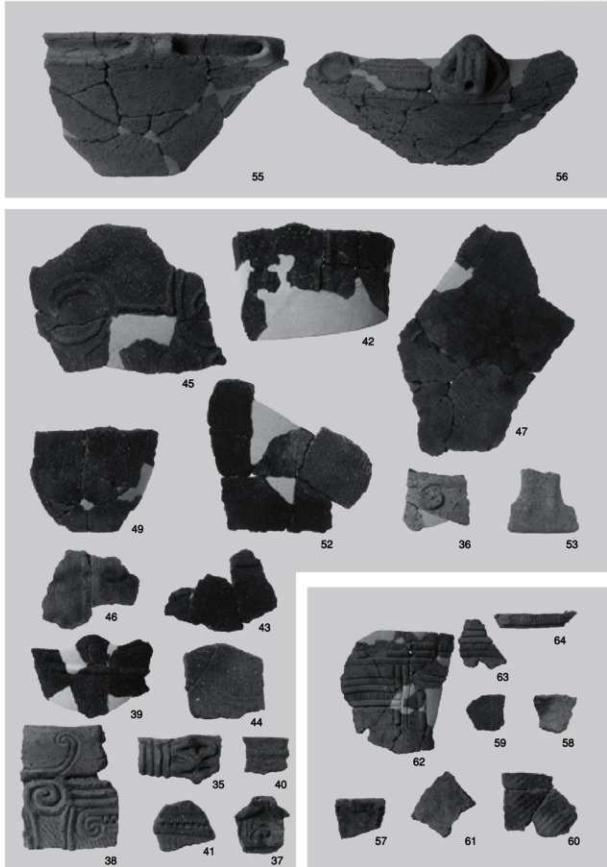


写真図版12



SB1出土土器

写真図版13



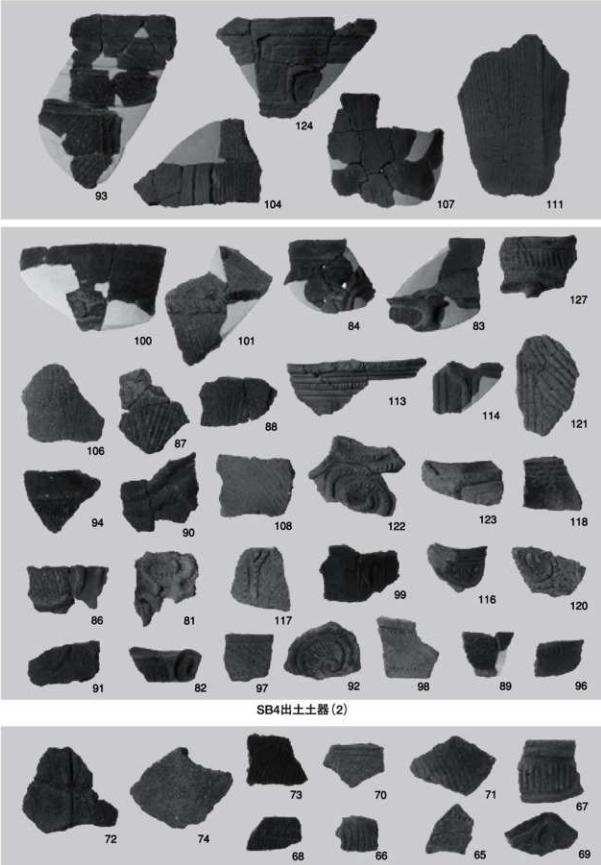
SB2出土土器
SB3出土土器

写真図版14



SB4出土土器(1)

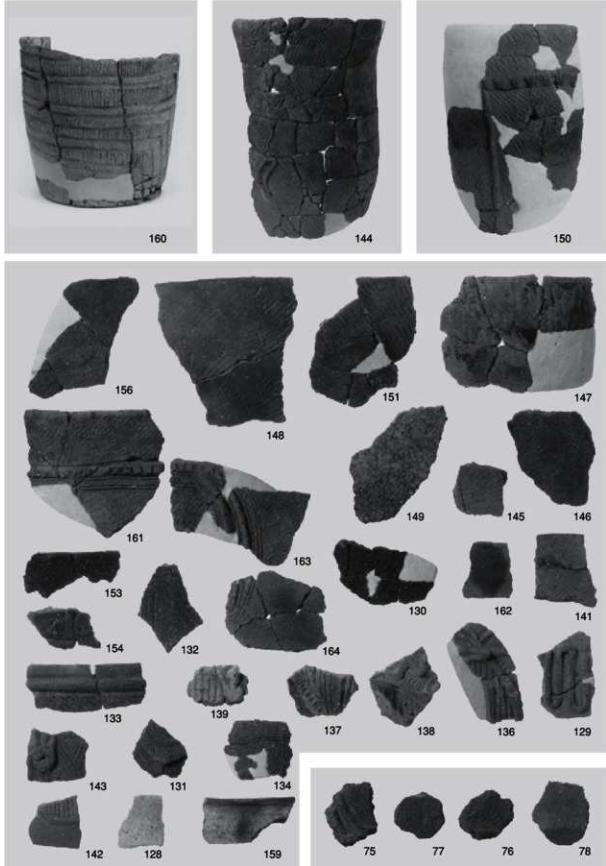
写真図版15



SB4出土土器(2)

SB5出土土器

写真図版16



SB6出土土器

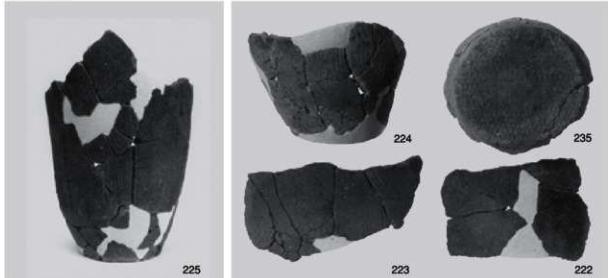
SB7出土土器

写真図版17

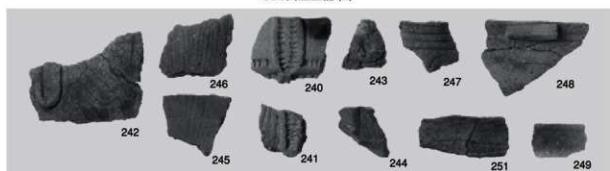


SB8出土土器(1)

写真図版18

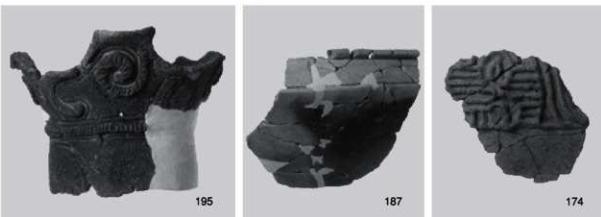
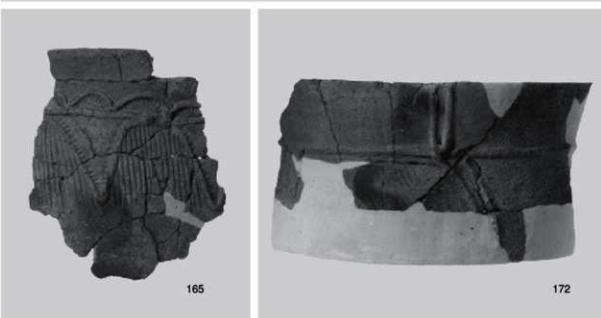
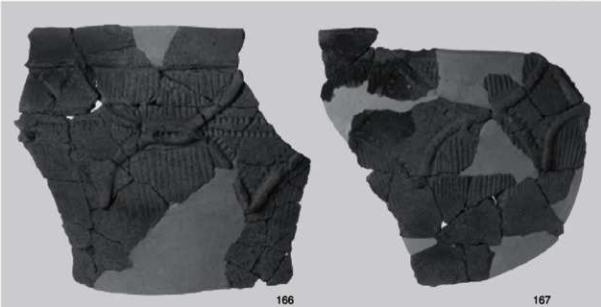


SB8出土土器(2)



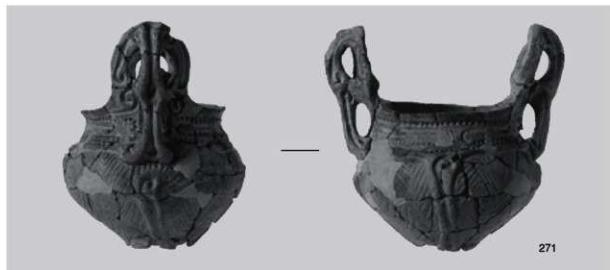
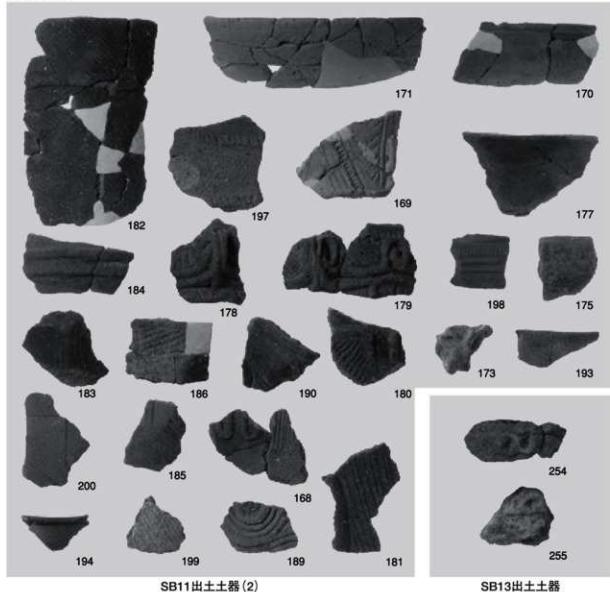
SB10出土土器

写真図版19

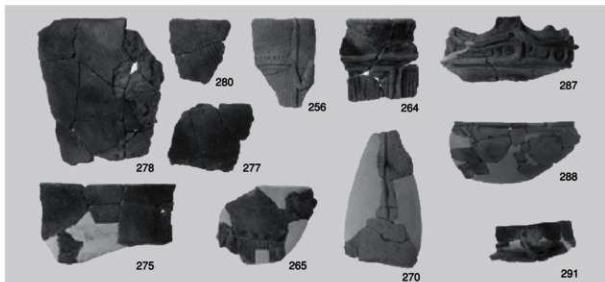
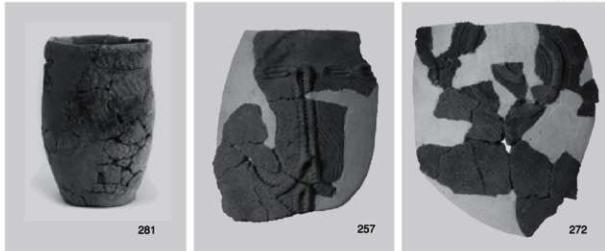


SB11出土土器(1)

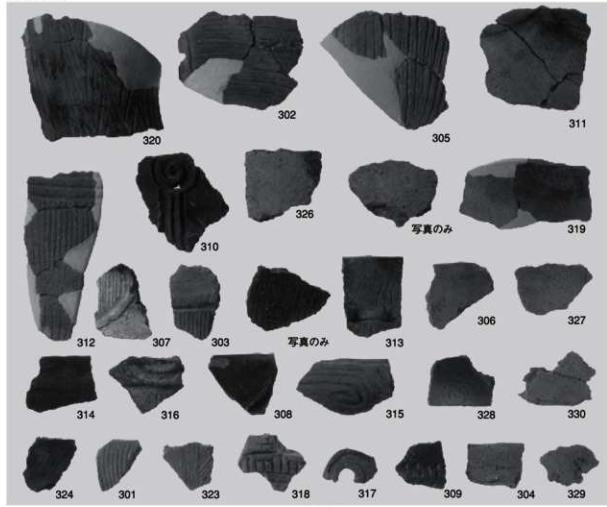
写真図版20



写真図版21



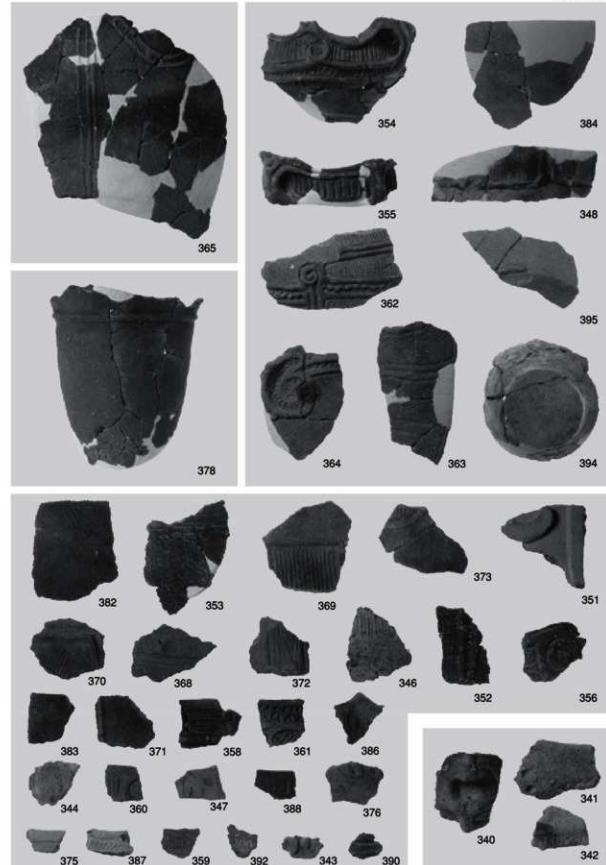
写真図版22



SB15出土土器



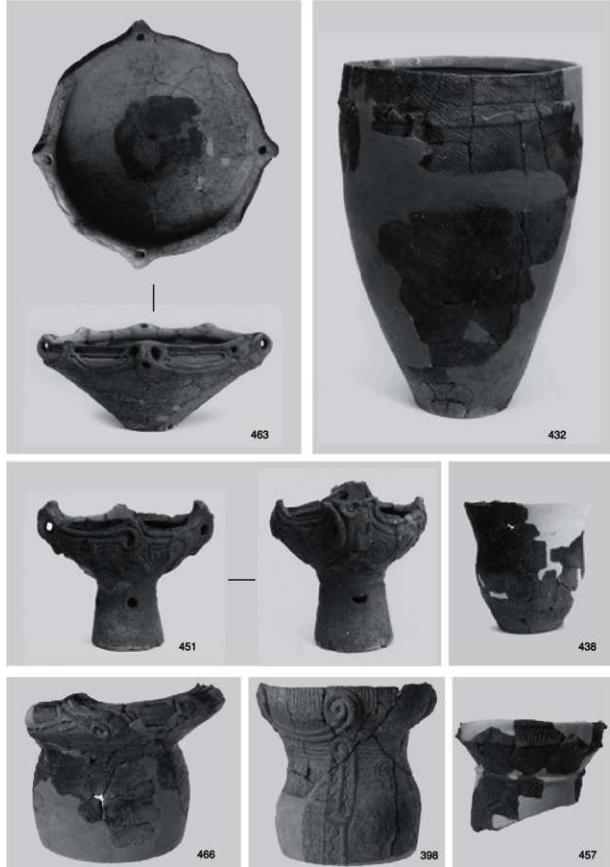
SB16出土土器



SB17出土土器

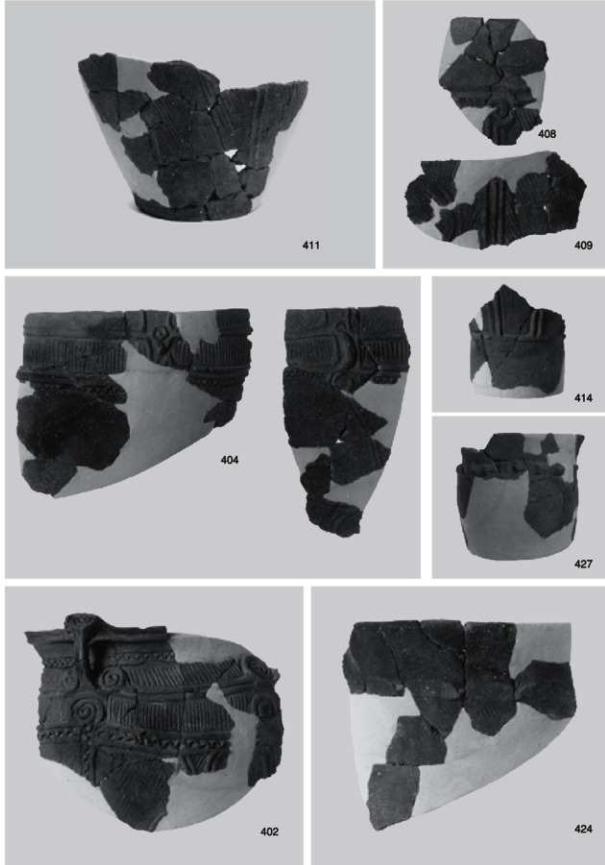
SB18出土土器

写真図版24



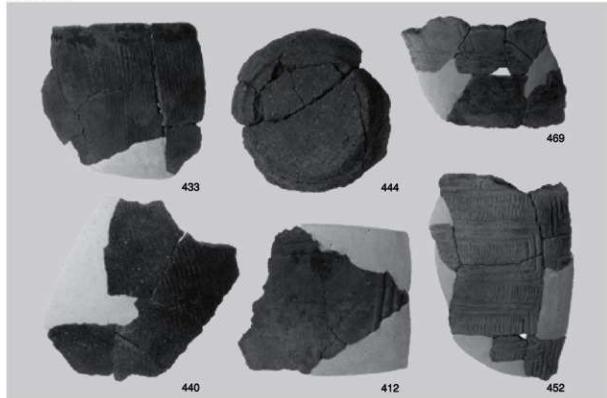
SB19出土土器(1)

写真図版25

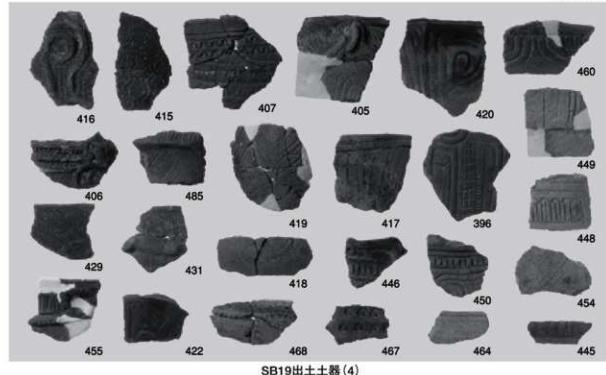


SB19出土土器(2)

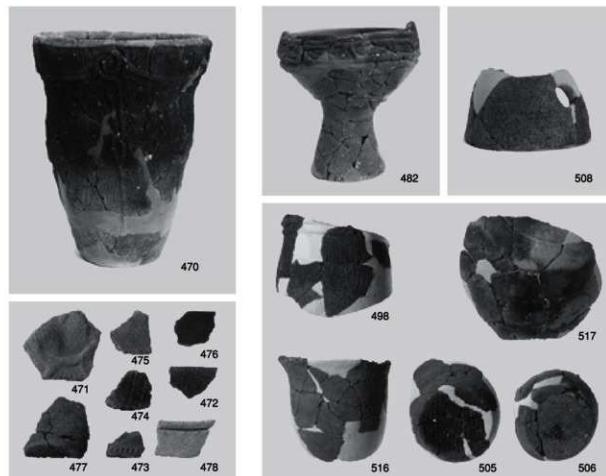
写真図版26



SB19出土土器(3)



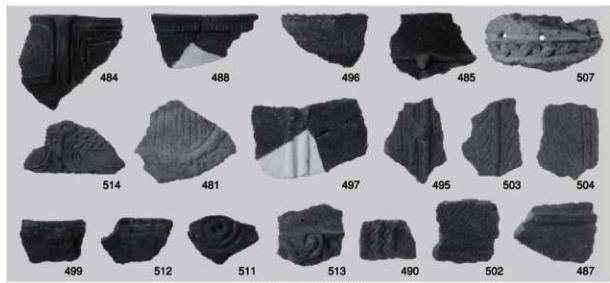
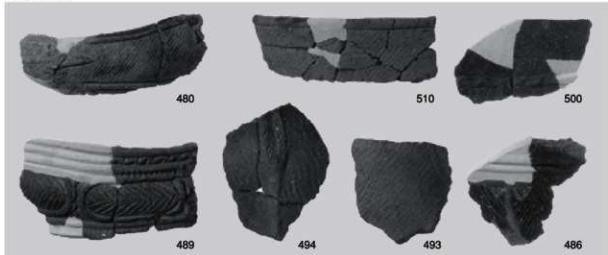
SB19出土土器(4)



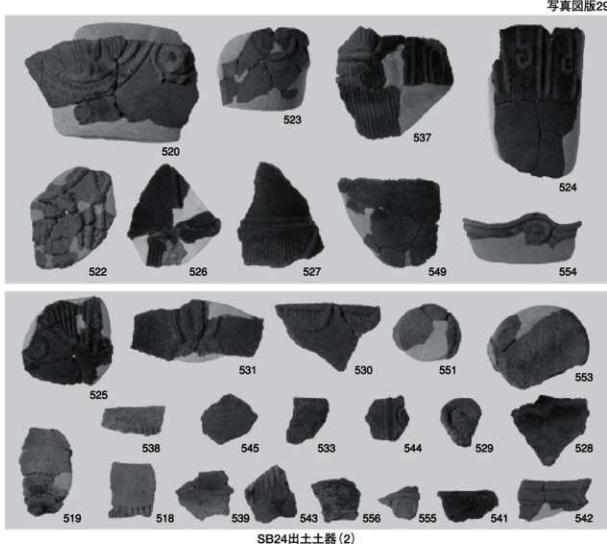
SB20出土土器

SB21出土土器(1)

写真図版28



SB24出土土器(1)

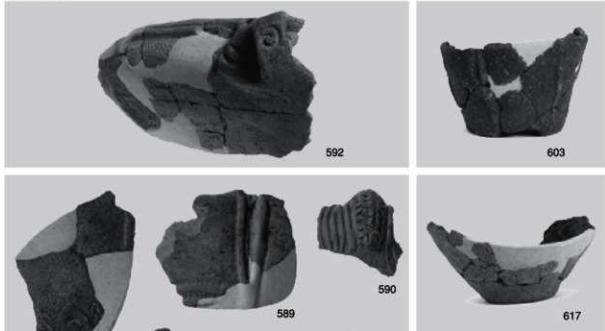


SB25出土土器

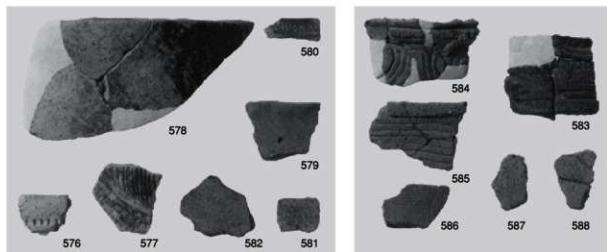


SB25出土土器

写真図版30

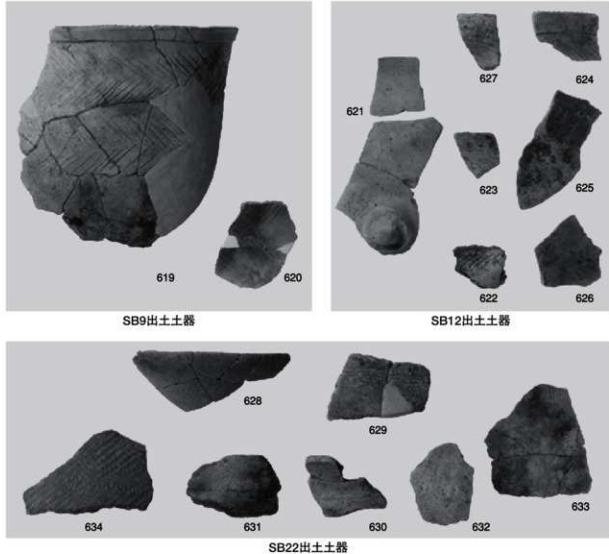


SB29出土土器

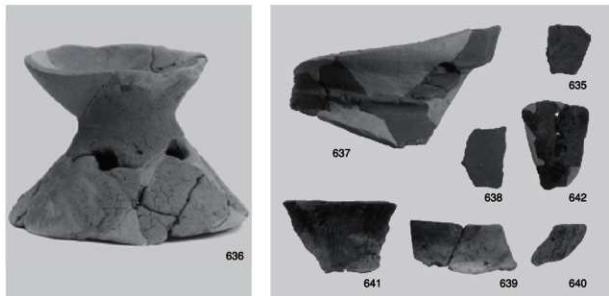


SB32出土土器

写真図版31

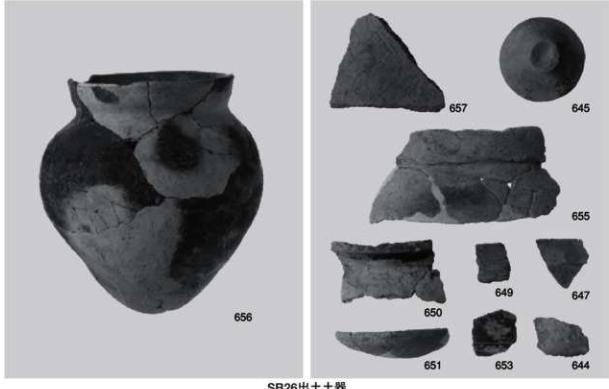


SB22出土土器

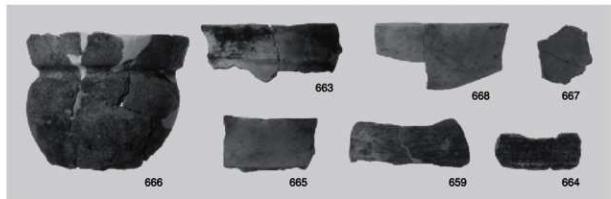


SB23出土土器

写真図版32

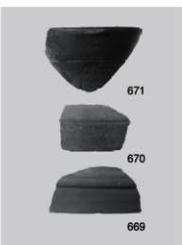


SB26出土土器



666

665



SB33出土土器

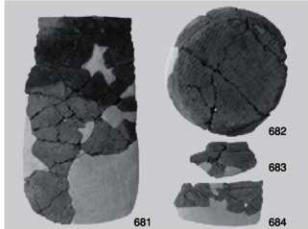


SB27出土土器

写真図版33



P478出土土器



P628出土土器



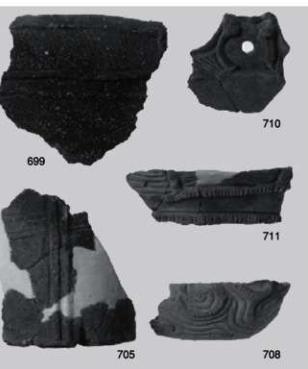
P-SK-SX-NR出土土器



697



SB26出土土器



遺物包含層出土土器(1)

710

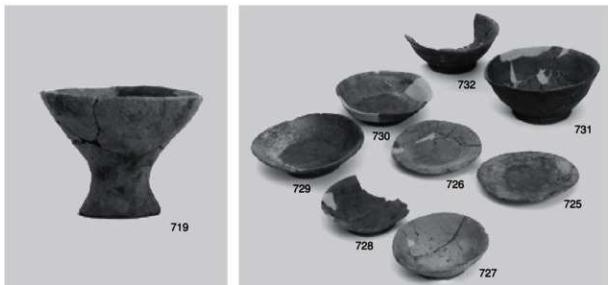
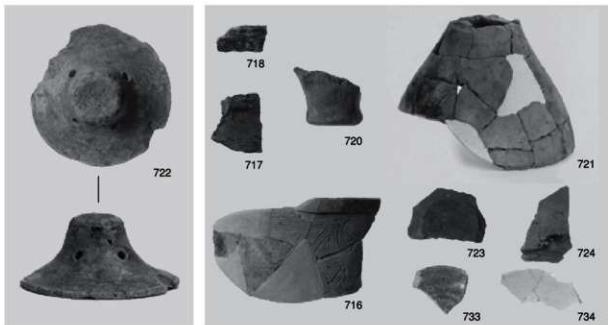
699

711

705

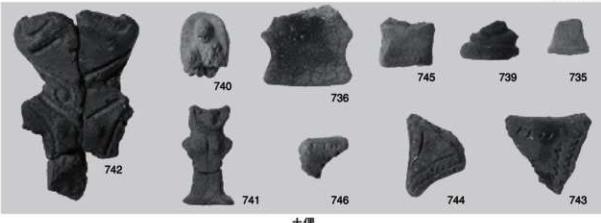
708

写真図版34

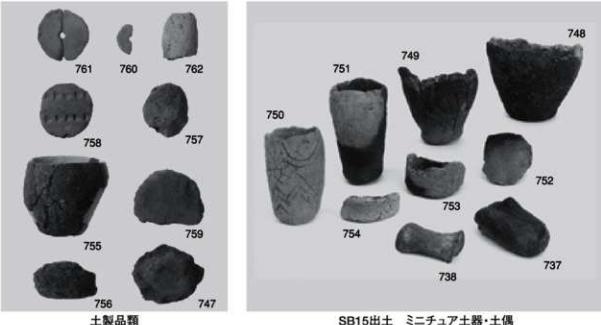


遺物包含層出土土器(2)

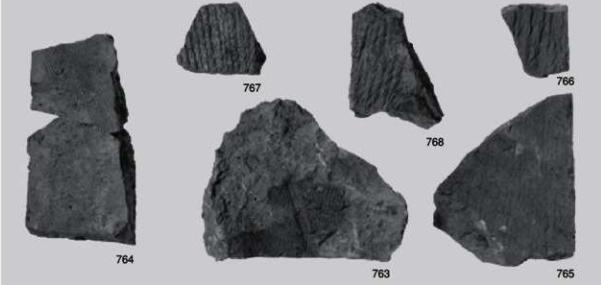
写真図版35



土偶

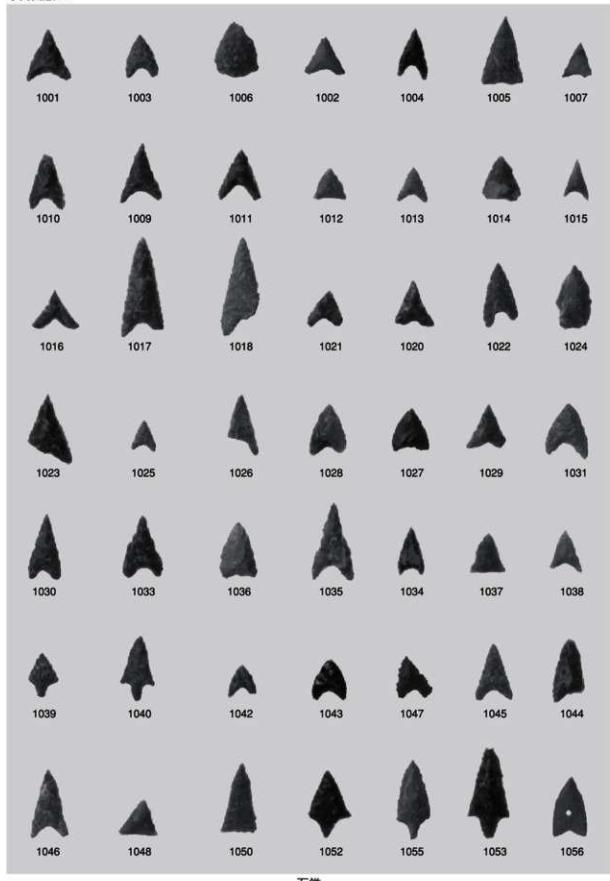


SB15出土 ミニチュア土器・土偶

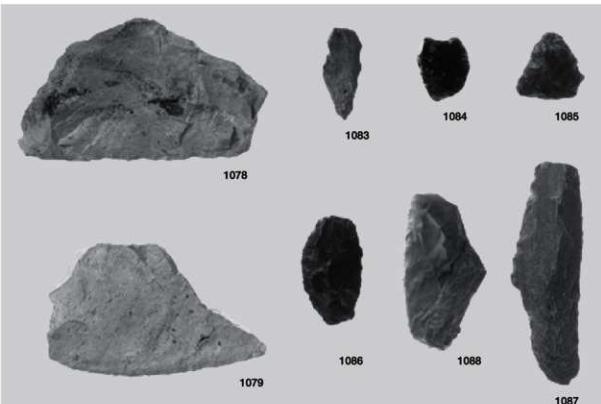


瓦

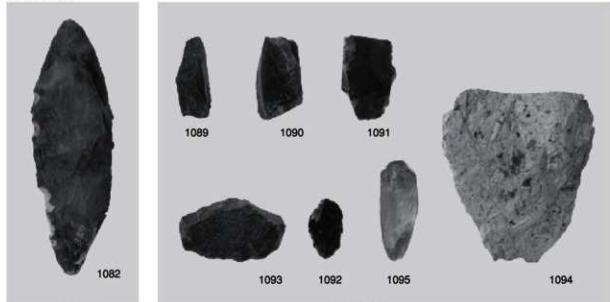
写真図版36



写真図版37



写真図版38

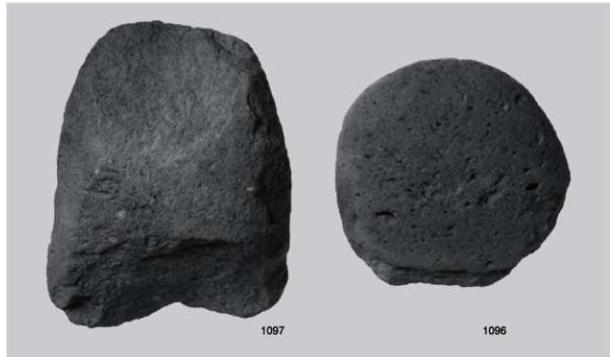


尖頭器



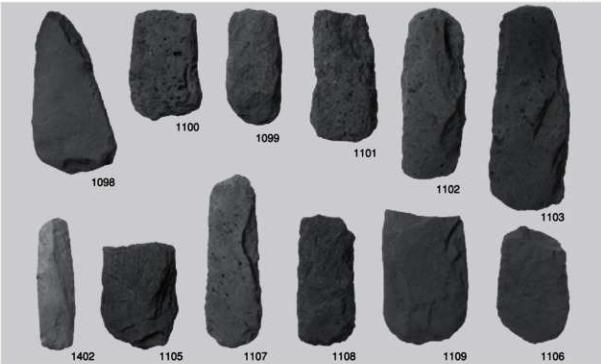
異形石器

石核

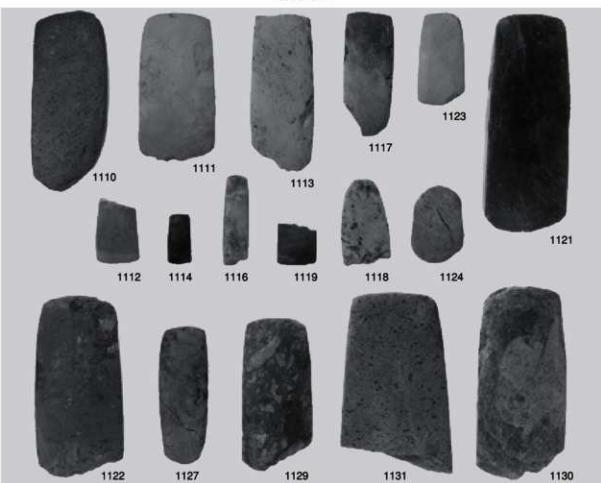


礫器

写真図版39

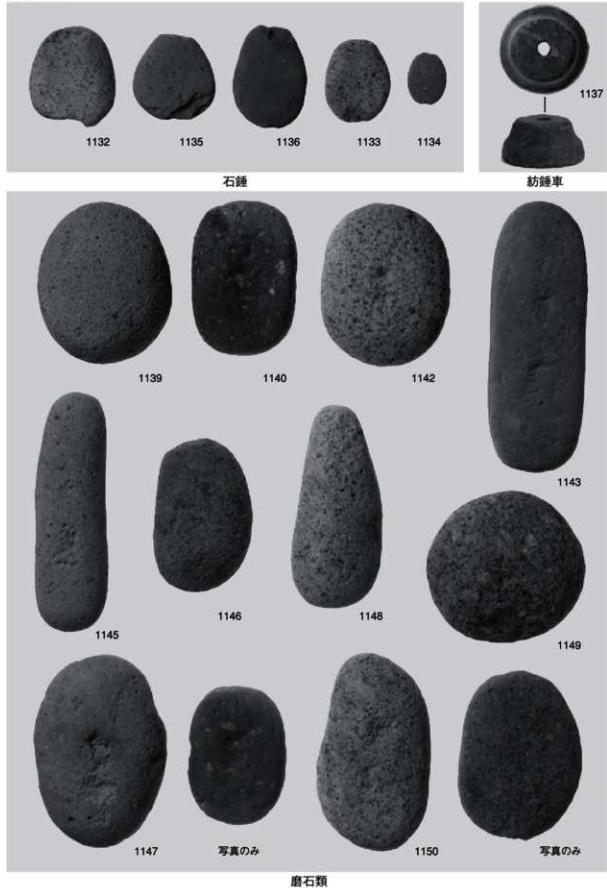


打製石斧



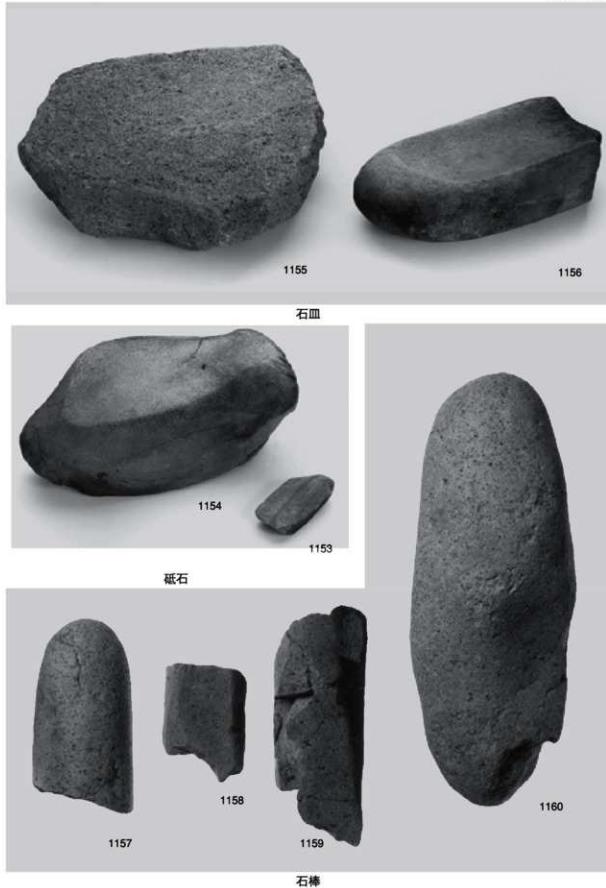
磨製石斧

写真図版40



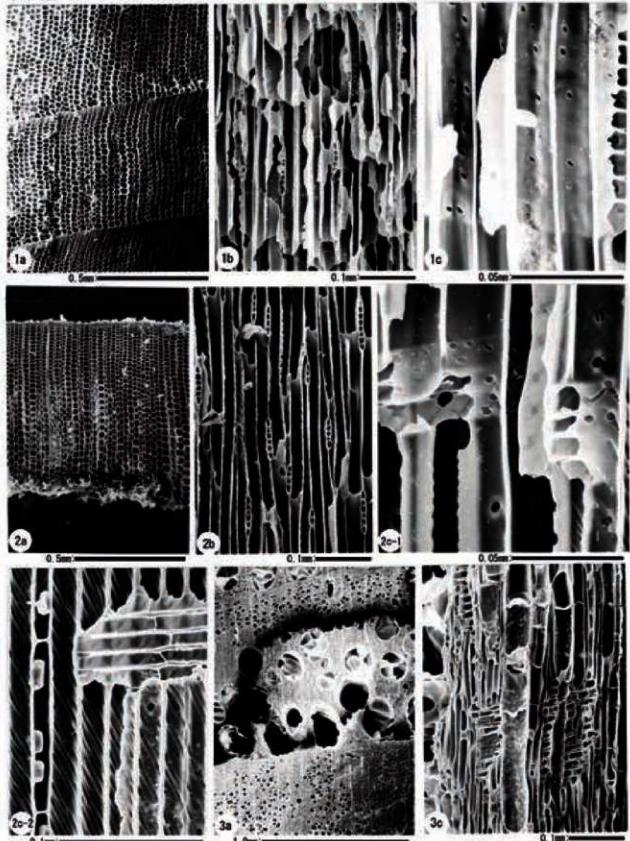
磨石類

写真図版41



石棒

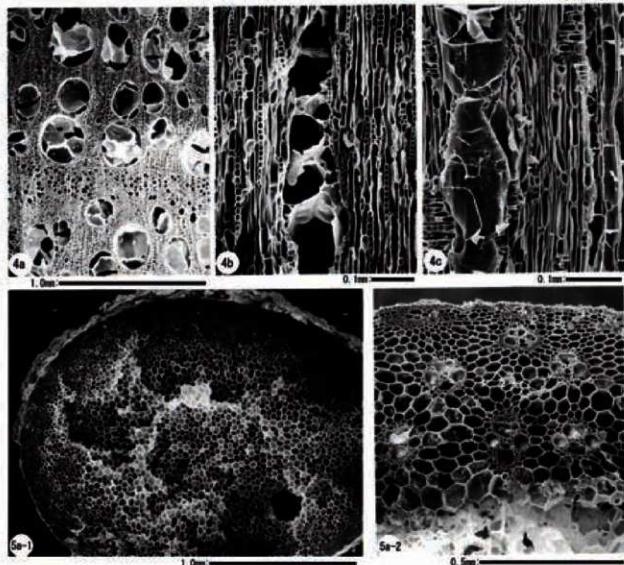
写真図版42



出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真（1）

1a-1c: ヒノキ (Na14) 2a-2c: ヒノキ科 (Na17) 3a-3c: クリ (Na5)
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面

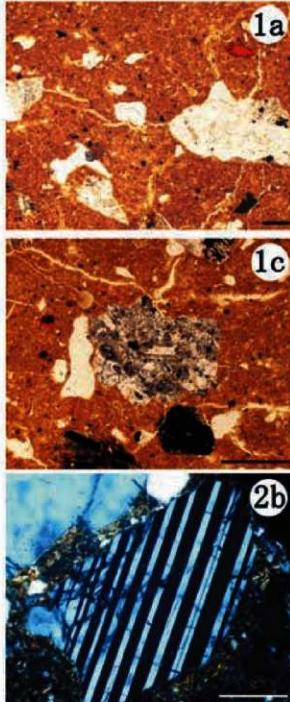
写真図版43



出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真（2）

4a-4c: クリ (Na20) 5a-1-5a-2: ススキ属 (Na18)

a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



土器胎土と粒子顯微鏡写真

1a. No.1 胎土 (スケール:200 μm) 1b. No.1 胎土中の完晶質 (スケール:100 μm)

1c. No.1 胎土中の班品質 (スケール:100 μ m) 2a. No.2 胎土 (スケール:200 μ m)

2b. Na2 脱土中の斜長石(双晶) (スケール: 100 μm) 2c. Na2 脱土中の雲母類 (スケール: 100 μm)

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 第105集

赤保木遺跡

2007年3月20日

編集・発行 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

岐阜市三田洞1-26-1

印 刷 安藤印刷株式会社